

WIRELESS BROADBAND
VoIP ROUTER
SR-7100VN

IEEE802.11ac規格準拠
IEEE802.11n規格準拠
IEEE802.11a(W52/W53/W56)/g/b規格準拠

はじめに

1 ご使用になる前に

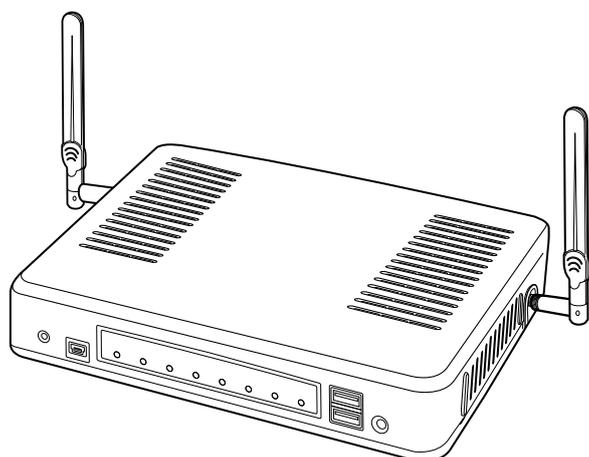
2 導入ガイド

3 そのほかの機能について

4 設定画面について

5 保守について

6 ご参考に



Icom Inc.

- ◎5.2GHz帯無線LANの使用は、電波法により、5.2GHz帯高出力データ通信システムの基地局、または陸上移動中継局と通信する場合を除き、屋内に限定されます。
- ◎5.3GHz帯無線LANの使用は、電波法により、屋内に限定されます。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、IEEE802.11ac規格*、IEEE802.11n規格に準拠し、2.4GHz帯と5GHz帯の2波同時通信ができる無線LANを内蔵するIP電話対応のVoIPルーターです。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

★IEEE802.11ac規格を使用できるのは、5GHz帯だけです。

不正アクセス対策についての重要なお知らせ

下記のような環境でご使用になる場合、容易に推測できるパスワードを本製品に設定すると、正規利用者になりすまして本製品にアクセスし、パソコンやIP電話回線などが不正に利用される危険性があります。

- ◎本製品をインターネット(サービスプロバイダー)に接続して利用している
- ◎本製品のVoIPルーター機能により、本製品が対応するIP電話機を利用している

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにされることをおすすめします。

本書の表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

[]表記 : 本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「」)で囲んで表記します。

[]表記 : キー、ランプ、ポート、各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。

< >表記 : 設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(<>)で囲んで表記します。

※ 本書は、Ver. 1.36(N)のファームウェアを使用して説明しています。

※ 本書では、Windows 10の画面を例に説明しています。

※ 本書では、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N、KX-HDV130N、KX-HDV230N)を「KXシリーズ」、弊社製IP200H、IP200PGを「IP電話機」と表記しています。

※ 本書では、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社を「NTT」と表記しています。

※ 本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

※ 本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windowsは、マイクロソフト企業グループの商標です。

Wi-Fi、WPA、WMMは、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。

Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

本製品の概要について

- ◎本製品の子機として、IP電話機や対応端末を最大100台*1まで登録できます。
 - ※2021年10月現在、IP200H、IP200PG、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。
 - ★1 本製品の[TEL](1~4)ポートに接続するアナログ電話機を含めると、最大104台まで使用できます。
- ◎本製品に接続されたアナログ電話機、IP電話機や対応端末同士で内線通話や内線転送ができ、IP電話回線を使用して外線通話*2ができます。
 - ★2 外線番号を最大100件、同時通話数を50チャンネルまで対応しています。
- ◎本製品が対応するIP電話回線は、NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する「ひかり電話サービス」*3、NTTコミュニケーションズが提供する「Arcstar IP Voice」*4です。
 - ★3 ひかり電話サービスは、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタイプ、ひかり電話オフィスエースの3種類があり、それぞれ、網直取とゲートウェイ(GW)接続に対応しています。
 - ★4 Arcstar IP Voiceは、IP電話専用のUNO接続とインターネットアクセスもできるインターネット併用に対応しています。
- ◎IP電話機用に登録する共通電話帳(最大900件)とグループ電話帳(最大100件)は、IP電話機起動時に、IP電話機本体の電話帳に自動転送されます。
- ◎Peer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1の通話)の発信で使用するVoIP電話帳には、相手先電話番号を最大2000件まで登録できます。
- ◎留守番電話機能を搭載していますので、不在時に応答メッセージ*5を流し、相手の用件を録音できます。
 - ※録音できるのは、最大30件で、1件あたりでは最大120秒まで録音できます。
 - ★5 応答専用モードでは3種類の応答専用メッセージ、またはオリジナル応答メッセージから選択し、自動応答後、切断します。
- ◎市販のUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに接続することで、留守番電話メッセージの保存、オリジナル保留音やオリジナルおまたせメッセージの本製品への読み込み、ファームウェアの更新、設定の保存/復元ができます。
- ◎10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tの自動切り替えに対応しています。
- ◎ポートの極性について、MDI(ストレート)/MDI-X(クロス)を自動判別します。
- ◎IEEE802.11ac規格、IEEE802.11n規格に準拠し、最大867Mbps(理論値)の速度で通信できます。
 - ※IEEE802.11ac規格を使用できるのは、5GHz帯だけです。
 - ※IEEE802.11ac規格、IEEE802.11n規格での通信は、暗号化方式を「なし」、または「AES」に設定している場合に有効です。
- ◎IEEE802.11a(W52/W53/W56)規格、IEEE802.11b/g規格に準拠し、5GHz帯と2.4GHz帯の2波同時通信に対応しています。
 - ※IEEE802.11a(J52)規格の無線LAN製品とは通信できません。
- ◎無線LANのネットワーク認証は、「共有キー」、「オープンシステム」、「IEEE802.1X」、「WPA」、「WPA2」、「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」に対応しています。
- ◎「IEEE802.1X」、「WPA」、「WPA2」を設定すると、認証にRADIUSサーバーを使用できます。
- ◎IEEE802.1QのVLAN規格に準拠した仮想AP機能を搭載していますので、本製品1台で最大16グループ(2.4GHz帯、5GHz帯ごとに最大8グループ)の無線ネットワークを構築できます。
- ◎ネットワーク管理機能として、SNMPに対応しています。
- ◎IPフィルター機能を搭載していますので、アクセス制限ができます。
- ◎本製品は、免許不要・資格不要です。

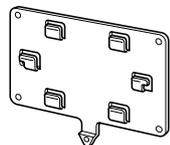
はじめに

別売品について

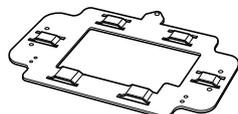
(2021年10月現在)

MB-99A

壁面取付プレート(タッピングネジ付属)

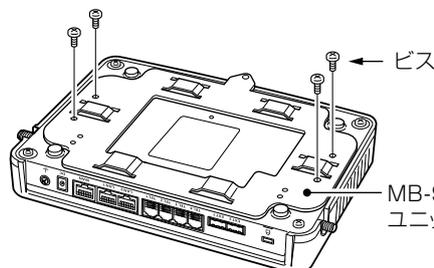


壁面プレート



ユニットプレート

※ユニットプレートを固定するためのビス(4本)は、SR-7100VNIに付属しています。



MB-99Aの
ユニットプレート

別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じるネットワーク機器の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

出荷時のおもな設定値

設定メニュー	設定画面	設定項目	設定名称	設定値
ネットワーク設定	IPアドレス	IPアドレス	IPアドレス	192.168.0.1
			サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定	DHCPサーバー	有効
			開始IPアドレス	192.168.0.10
無線LAN設定	無線LAN(無線1/2)	無線LAN設定	無線UNIT	無効
電話回線設定	IP回線	SIPサーバー接続共通設定	接続先の選択	ひかり電話(網直収)
PBX設定	基本	基本設定	留守番電話機能	無効
管理	管理者	管理者パスワードの変更	管理者ID	admin(変更不可)
			現在のパスワード	admin(半角小文字)
	管理ツール	USB	USBメモリー	有効

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにされることをおすすめします。

はじめに

無線LAN規格について

本製品が準拠する無線LAN規格と最大通信速度

周波数帯	無線LAN規格	帯域幅	最大通信速度(理論値)
5.2/5.3/5.6GHz	IEEE802.11ac (W52/W53/W56)	80MHz	867Mbps
		40MHz	400Mbps
		20MHz	173Mbps
	IEEE802.11n (W52/W53/W56)	40MHz	300Mbps
		20MHz	144Mbps
	IEEE802.11a (W52/W53/W56)		54Mbps
2.4GHz	IEEE802.11n	40MHz	300Mbps
			144Mbps
	IEEE802.11g	20MHz	54Mbps
			11Mbps

【無線LANの性能表示等の記載について】

◎本製品の通信速度についての記載は、IEEE802.11の無線LAN規格による理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度(実効値)を示すものではありません。

◎実際のデータ転送速度は、周囲の環境条件(通信距離、障害物、電子レンジ等の電波環境要素、使用するパソコンの性能、通信する相手側の性能や設定、ネットワークの使用状況など)に影響されます。

本製品が準拠する無線LAN規格と通信距離

無線通信距離は、設置場所や通信周波数によって異なります。

以下の表は目安としてご覧ください。

周波数帯	無線LAN規格	室内見通し	オープンスペース*
5.2/5.3/5.6GHz	IEEE802.11ac (W52/W53/W56)	約30m	約100m
	IEEE802.11n (W52/W53/W56)		
	IEEE802.11a (W52/W53/W56)		
2.4GHz	IEEE802.11n	約30m	約100m
	IEEE802.11g		
	IEEE802.11b		

※本書では、弊社製SE-90Mと通信した場合の距離を参考として記載しています。

★5.2/5.3GHz帯無線LANの使用は、電波法により、屋内に限定されます。

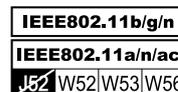
はじめに

無線通信チャンネルについて

IEEE802.11a(W52/W53/W56)規格の無線通信チャンネルについて

右に記載する表示がある製品は、IEEE802.11a(W52/W53/W56)規格で採用された無線通信チャンネルに対応した製品を意味します。

無線LAN端末についても、右に記載する表示がある製品でご使用いただくことをおすすめします。



帯域幅と無線通信チャンネルについて

本製品には、2.4GHz帯用(無線1)、5GHz帯用(無線2)の無線LANユニットが内蔵されています。必要に応じて、チャンネルや帯域幅を変更してください。

周波数帯	帯域幅	使用できるチャンネル
5GHz	80MHz	36、40、44、48、52、56、60、64、100、104、108、112、116、120、124、128
	40MHz	36、40、44、48、52、56、60、64、100、104、108、112、116、120、124、128、132、136
	20MHz	36、40、44、48、52、56、60、64、100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140
2.4GHz	40MHz	1、2、3、4、5、6、7、8、9
	20MHz	1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13

※帯域幅を80MHzに設定できるのは、無線2(5GHz帯)だけです。

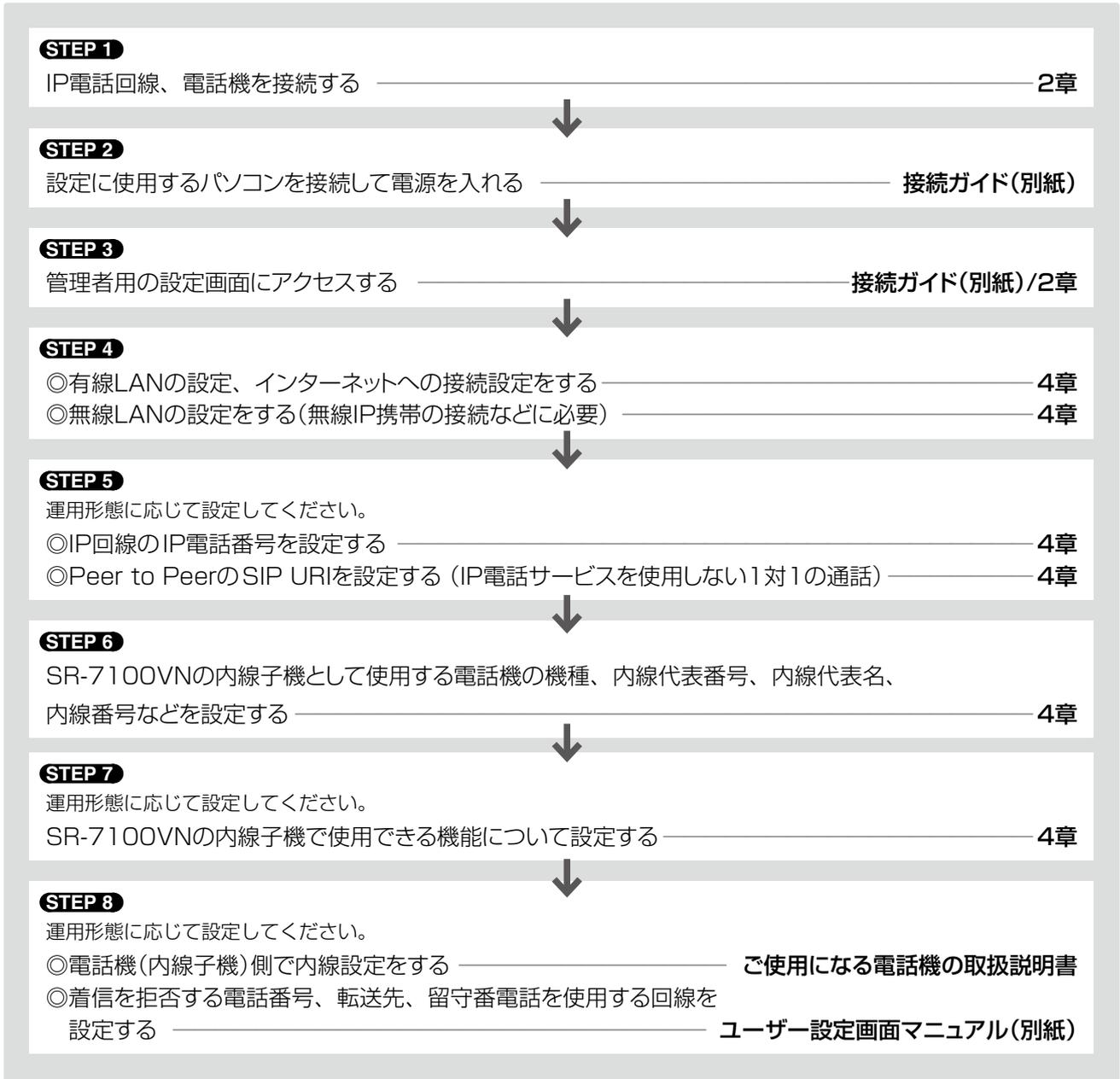
はじめに

管理者用設定画面での設定の流れ

本書で説明する管理者用の設定画面を使用して設定する場合は、次の順にお読みください。

※各STEPの右端に記載する数字は、本書の参照箇所です。

※運用形態やご契約の回線によっては設定不要のSTEPもありますので、その場合は次のSTEPに進んでください。



はじめに

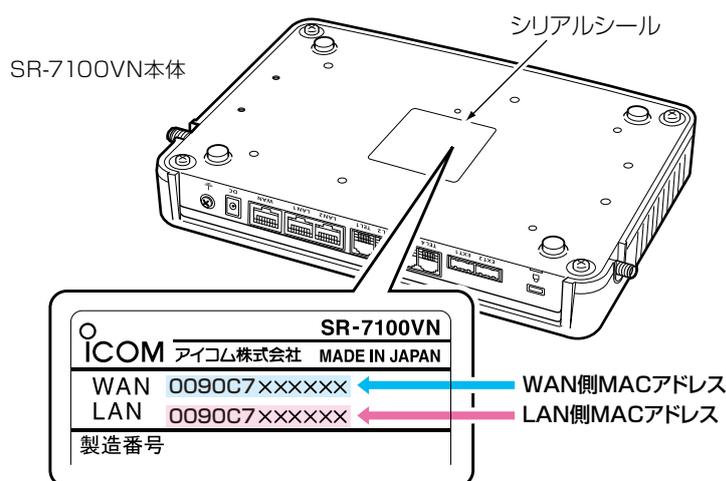
本体MACアドレスが必要なときは

本体MACアドレス(機器固有の番号)は、本製品のシリアルシール(下図)に12桁で記載されています。

本製品をインターネットに接続してご使用になる場合、ご契約の接続業者、またはプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、モデムに直接接続するネットワーク機器(本製品)がそれぞれ独自に持っているWAN側MACアドレス(機器固有の番号)を、ご契約の接続業者、またはプロバイダーに対して事前申請を必要とする場合があります。

そのような場合、申請、および登録が完了するまで、本製品を利用してインターネットに接続できません。

※無線LANやLAN側のMACアドレスではありませんのでご注意ください。



※MACアドレスの記載位置は、お買い上げの製品によって若干異なる場合があります。

ご参考

上記のMACアドレスは、管理者用の設定画面でも確認できます。(P.4-7)

この章では、
本製品の基本操作やおもな機能などを説明しています。

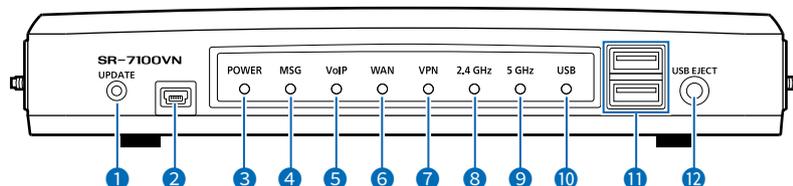
1. 各部の名称と機能	1-2
■ 前面部	1-2
■ 後面部	1-5
■ 底面部	1-6
■ アンテナの取り付け	1-7
2. おもな機能について	1-8
■ IP電話 (VoIP) 機能について	1-8
■ PBX機能について	1-8
■ 留守番電話機能について	1-8
■ ルーター機能について	1-8
■ VPN機能について	1-8
■ アクセスポイント機能について	1-9
■ 無線ネットワーク名 (SSID) について	1-9
■ 接続端末制限機能について	1-9
■ IEEE802.11ac規格について	1-9
■ IEEE802.11n規格について	1-9
■ DFS機能とチャンネルの自動設定について	1-10

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部

ランプの動作、接続部やボタンについて説明します。



- ① <UPDATE>ボタン …………… 最新ファームウェアがあるとき、[MSG]ランプ(④)が点灯(緑)から点滅(緑)に切り替わるまでボタンを押して、ファームウェアを更新します。
※ファームウェアの更新や確認には、インターネットへの接続環境が必要です。
- ② [CONSOLE]ポート …………… 本製品の設定にターミナルソフトウェアを使用するとき、USBケーブル(市販品)を接続します。
※本製品とパソコンをUSBケーブルで接続し、ご使用していただくために必要なUSBドライバーおよびインストールガイドについては、弊社ホームページからダウンロードできます。(下記参照)
※USBケーブル(miniBタイプ)、ターミナルソフトウェアは、別途ご用意ください。
- ③ [POWER]ランプ ……………
- 緑点灯：動作中
 - 緑点滅：起動中
 - 赤点滅：起動中
 - 赤点灯：起動中
 - 消 灯：電源OFF時
- ※電源投入時、すべてのランプが点滅(青→赤→緑)します。
※起動中、[POWER]ランプは赤点滅→赤点灯→緑点滅→緑点灯の順で遷移します。
- ④ [MSG]ランプ ……………
- 緑点灯：オンライン更新(ファームウェア更新あり)
 - 緑点滅：オンライン更新(ファームウェアダウンロード中)/<MODE>ボタン押下中
 - 消 灯：オンライン更新なし

USBドライバーのダウンロードについて

本製品の[CONSOLE]ポートは、弊社ネットワーク機器用のUSBドライバーで動作します。弊社ホームページのサポート情報(サポート情報→法人のお客様→ダウンロード)から、USBドライバーをダウンロードできます。

アイコム株式会社 サポート情報

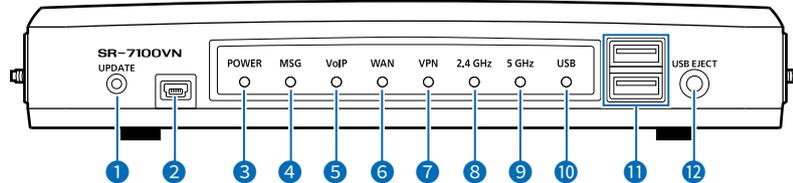
<https://www.icom.co.jp/support/business/>

※弊社ホームページからのダウンロード手順については、予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部



- 5 [VoIP]ランプ
 - 緑点灯 : IP回線接続成功時(全エントリー)
 - ☀ 緑点滅 : 通話中(1通話以上)※接続失敗中の通話は緑点滅
 - ☀ 赤点滅 : IP回線接続失敗時(1エントリー以上)
※接続失敗中の通話は緑点滅
 - 消 灯 : 未登録時/接続試行中

- 6 [WAN]ランプ
 - 緑点灯 : WAN接続完了
PPPoE : PPP確立時(1セッション以上)
DHCPクライアント : IPアドレス取得成功時
 - ☀ 赤点滅 : PPPoE : 認証エラー(1セッション以上)
DHCPクライアント : IPアドレス取得失敗時
 - 消 灯 : PPPoE切断時/未登録(回線種別「使用しない」)

- 7 [VPN]ランプ
 - 緑点灯 : IPsecトンネル接続確立時※1つ以上
 - 消 灯 : 接続未確立時/VPN未設定時/設定無効時

- 8 [2.4GHz]ランプ
 - 緑点灯 : 端末が1台以上帰属時
 - 橙点灯 : 2.4GHz帯有効時時(帰属端末なし)
 - 消 灯 : 2.4GHz帯無効時

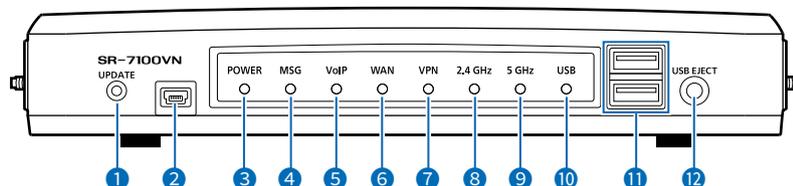
- 9 [5GHz]ランプ
 - 緑点灯 : 端末が1台以上帰属時
 - 橙点灯 : 5GHz帯有効時時(帰属端末なし)
 - ☀ 橙点滅 : DFS動作/レーダーの電波検出中
 - 消 灯 : 5GHz帯無効時

- 10 [USB]ランプ
 - 緑点灯 : USBメモリー接続時(1つ以上)
 - 消 灯 : USBメモリー未接続時/USBメモリー取りはずし準備完了

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部



11 [USB]ポート …………… (USB3.0)

USBメモリー(市販品)を接続すると、自動設定機能、各種オリジナルメッセージの利用、留守番電話機能での録音をUSBメモリーに保存することができます。

ご使用になるときは、USBメモリーを[USB]ポートの奥まで挿入してください。

※本製品に接続できるUSBメモリーは、1つだけです。

※使用方法や注意事項については、5-10ページをご覧ください。

※あらかじめ、USBメモリー内のデータをバックアップしてから、ご使用ください。

※指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。

※すべてのUSBメモリーでの動作を保証するものではありません。

12 <USB EJECT>ボタン ……………

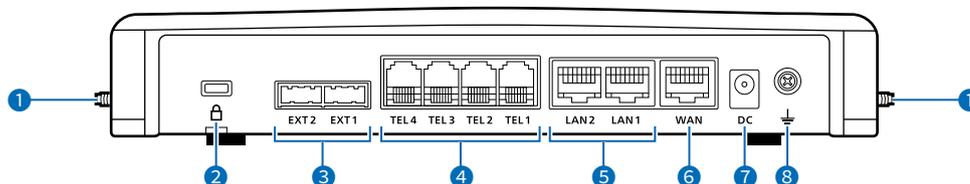
USBメモリー接続時、[USB]ランプ(10)が点灯(緑)から消灯に切り替わるまでボタンを押すと、USBメモリーを取りはずせます。

1 ご使用になる前に

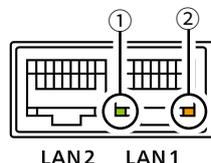
1. 各部の名称と機能

■ 後面部

接続部やランプの動作について説明します。



- ① アンテナコネクタ 付属のアンテナを接続します。(P.1-7)
※無線アクセスポイント機能をご利用になる場合、十分な性能でご使用いただくため、アンテナは、必ず2本とも接続してください。
- ② セキュリティスロット 市販のセキュリティーワイヤーで本製品を固定するときを使用します。
机の脚や支柱などにセキュリティーワイヤーを固定してから、本製品のセキュリティースロットに取り付けてください。
※取り付け方法については、ご使用になるセキュリティーワイヤーの取扱説明書をご覧ください。
※セキュリティーワイヤーには、シリンダーヘッド部の横からワイヤーが出るものと、上から出るものがあります。
ご利用の環境に応じたセキュリティーワイヤーをご用意ください。
- ③ [EXT](1/2)ポート 外部機器のON/OFF制御に使用します。
ご使用になるときは、6-28ページを参考に配線した接続ケーブルをご用意いただき、本製品と外部機器を接続してください。
- ④ [TEL](1~4)ポート..... アナログ電話機やG3ファクシミリを接続します。
(RJ-11型×4)
- ⑤ [LAN](1/2)ポート HUBなどのネットワーク機器と接続します。
(RJ-45型×2)

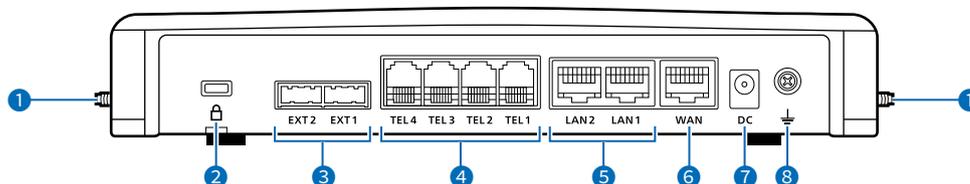


- 点灯：LAN接続時
- 点滅：LANデータ通信中
- ①緑色：1000BASE-T時
- ②橙色：10BASE-T/100BASE-TX時

1 ご使用になる前に

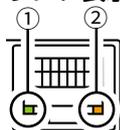
1. 各部の名称と機能

■ 後面部



- ⑥ [WAN]ポート ADSL、VDSL、CATVでお使いのブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置と接続します。
(RJ-45型×1)

ランプ表示

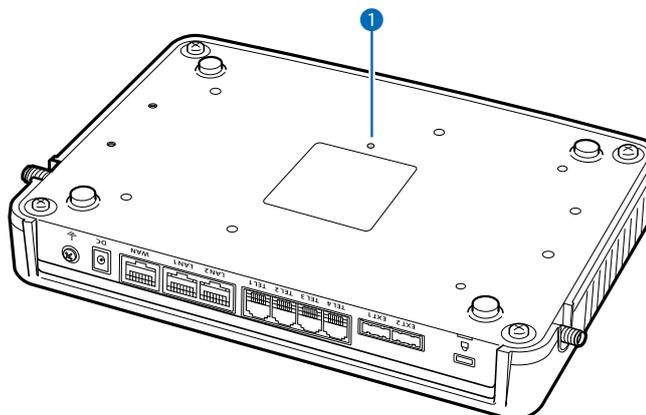


- 点灯：WAN接続時
点滅：WANデータ通信中
①緑色：1000BASE-T時
②橙色：10BASE-T/100BASE-TX時

- ⑦ DCジャック 本製品に付属のACアダプターを接続します。
⑧ アース端子 市販のアース線を接続します。

■ 底面部

ボタンについて説明します。



- ① <MODE>ボタン 設定を初期化するときに使用します。(P.5-4)
※ペン先などを利用して押してください。

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ アンテナの取り付け

2本のアンテナは、ダイバーシティーやMIMOとして機能します。

マルチパスに強く、安定した電波状態で通信できます。

取り付けるときは、アンテナの根元を右方向に手で締まる程度まで回します。

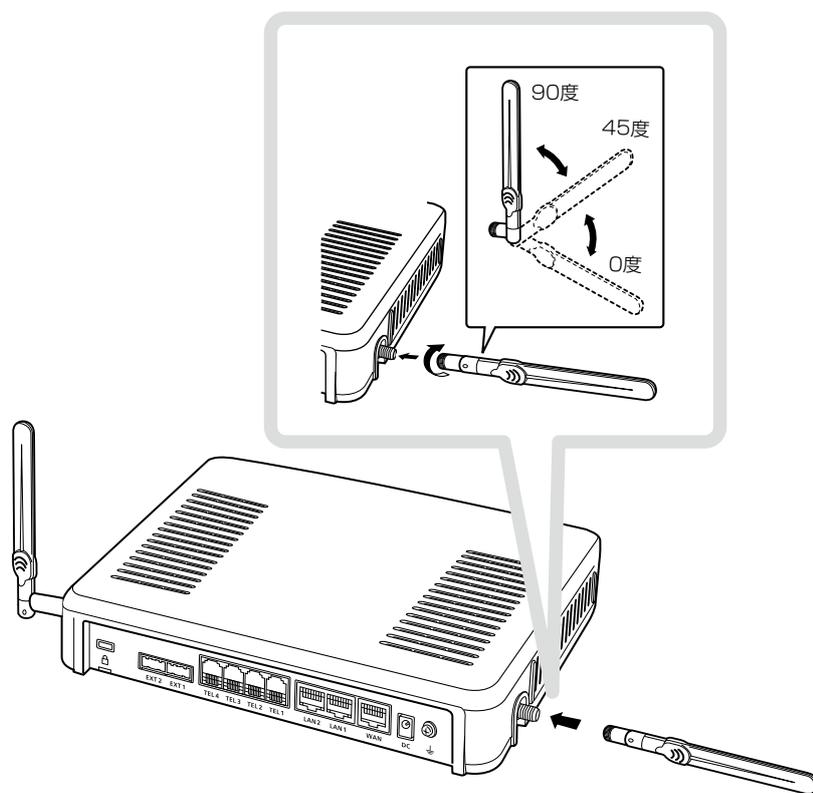
アンテナは、3段階の角度(0/45/90度)に折り曲げて使用できます。

また、折り曲げた状態で、左右に回転できます。

取りはずすときは、アンテナの根元を持って左方向に回します。

※十分な性能でご使用いただくため、アンテナは、2本とも取り付けてください。

※電波状況が悪いと感じられたときは、アンテナの向き、または本製品の設置場所を変更してください。



△警告

本製品に取り付けたアンテナを持って本製品を振り回さないでください。

本人やほかの人に当たるなどして、けがや破損、および故障の原因になります。

ご注意

技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていますので、付属のアンテナ以外は使用できません。

1 ご使用になる前に

2. おもな機能について

■ IP電話(VoIP)機能について

本製品に接続したアナログ電話機、IP電話機や対応端末からIP電話回線を使用して、外線通話^{★1}ができる機能です。本製品が対応するIP電話回線は、NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する「ひかり電話サービス」^{★2}、NTTコミュニケーションズが提供する「Arcstar IP Voice」^{★3}です。

★1 外線番号を最大100件、同時通話数を50チャンネルまで対応しています。

★2 ひかり電話サービスには、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタ입、ひかり電話オフィスエースの3種類があり、それぞれ、網直取とゲートウェイ(GW)接続に対応しています。

★3 Arcstar IP Voiceには、IP電話専用のUNO接続とインターネットアクセスもできるインターネット併用に対応しています。

■ PBX機能について

本製品の子機として、[TEL](1~4)ポートに接続するアナログ電話機とは別に、IP電話機や対応端末を最大100台まで登録できます。

※ 2021年10月現在、IP200H、IP200PG、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。

■ 留守番電話機能について

不在時に指定した応答メッセージを流し、相手の用件を録音できます。

内部メモリーに録音できるのは、最大30件(留守電ボックスの合計)、USBメモリーに録音できるのは、最大1000件(各留守電ボックス100件)で、1件あたり最大120秒まで録音できます。

※ 応答専用モードでは、3種類の応答専用メッセージ、またはオリジナル応答メッセージから選択し、自動応答後、切断します。

※ 出荷時や全設定初期化時、本製品の留守番電話機能は「無効」に設定されています。(P.4-124)

■ ルーター機能について

本製品のルーター機能を使用すると、本製品に接続したパソコンや機器からインターネットに接続できます。

※ お使いのブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置を本製品の[WAN]ポートに接続します。

※ 出荷時や全設定初期化時、本製品のルーター機能(回線種別)は、「使用しない」に設定されています。

ご契約の回線接続業者との契約内容にしたがって、回線種別(DHCPクライアント/PPPoE/固定IP)を設定してください。

■ VPN機能について

VPN(Virtual Private Network)機能を使用すると、インターネット上の2地点を暗号化通信で接続して、仮想的なネットワークを構成できます。

※ VPN機能を使用する場合は、本製品の[WAN]ポートにWAN回線を接続し、ルーター機能(回線種別)の設定が必要です。

※ 接続先に合わせて、IPsecトンネルを登録してください。(P.4-52)

1 ご使用になる前に

2. おもな機能について

■ アクセスポイント機能について

本製品は、IEEE802.11ac規格、IEEE802.11n規格に準拠し、5.2/5.3/5.6GHz帯と2.4GHz帯の2波同時通信ができる無線アクセスポイントです。

※ IEEE802.11規格(14CH)の無線LAN端末とは通信できません。

※ 出荷時や全設定初期化時、本製品の無線ユニットは「無効」に設定されています。(P.4-56)

■ 無線ネットワーク名(SSID)について

本製品と無線LAN端末には、接続先を識別するための無線ネットワーク名として、SSID(またはESS ID)が設定されています。(P.4-59)

※ 異なるSSIDを設定している無線LAN端末は接続できません。

※ 本製品には2.4GHz帯用と5GHz帯用の無線LANユニットが内蔵されています。

複数の仮想AP機能を使用する場合、1つのユニットに対して、同じSSIDを設定できません。

■ 接続端末制限機能について

本製品の仮想APごとに同時接続できる無線LAN端末の台数を制限して、接続が集中するときに起こる通信速度の低下を防止する機能です。

出荷時、仮想APごとに最大63台に設定されていますが、無線1(ath0～ath7)、無線2(ath8～ath15)それぞれで10台を超えないように運用されることをおすすめします。

※ 仮想APごとに最大128台まで設定できますが、実際に通信できるのは、1つの無線ユニットで最大128台までです。

■ IEEE802.11ac規格について

最大4倍の周波数帯域幅(チャンネル)と複数のアンテナを使用してデータを送受信することで、最大867Mbps*(理論値)の速度で通信できます。

★ IEEE802.11ac規格での通信は、暗号化方式を「なし」、または「AES」に設定している場合に有効です。

IEEE802.11ac規格を利用できるのは、無線2(5GHz帯)だけです。

さらに、最大867Mbps(理論値)で使用するには、帯域幅を「80MHz」に設定してください。(P.3-3、P.4-56)

※ IEEE802.11n/a規格と互換性があります。

■ IEEE802.11n規格について

最大2倍の周波数帯域幅(チャンネル)と複数のアンテナを使用してデータを送受信することで、最大300Mbps*(理論値)の速度で通信できます。

★ IEEE802.11n規格での通信は、暗号化方式を「なし」、または「AES」に設定している場合に有効です。

さらに、最大300Mbps(理論値)で使用するには、帯域幅を「40MHz」に設定してください。

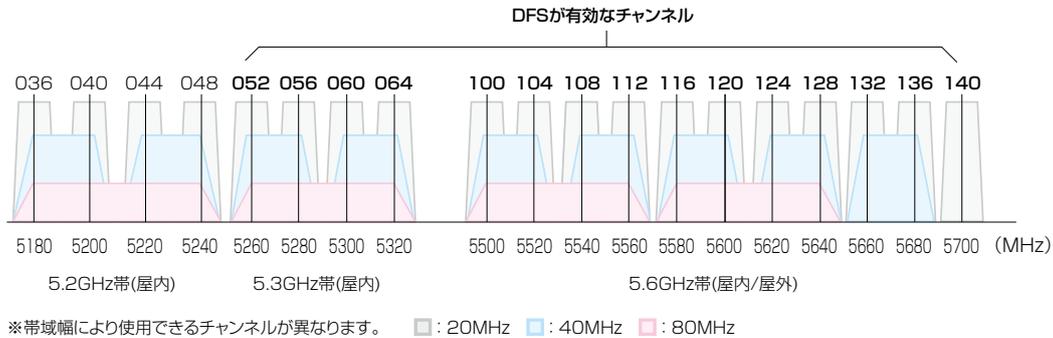
※ IEEE802.11a/b/g規格と互換性があります。

1 ご使用になる前に

2. おもな機能について

■ DFS機能とチャンネルの自動設定について

DFS機能は、5.3/5.6GHz帯のチャンネルを設定したときだけ有効になり、気象レーダーなどへの電波干渉を自動で回避します。



- ◎ 本製品の設定画面で5.3/5.6GHz帯(052～140)のチャンネルを選択して登録すると、気象レーダーなどへの電波干渉を回避するため、1分間レーダー波を検出します。
レーダー波検出中は、本製品の[5GHz]ランプが橙点滅して、無線通信できなくなります。
本製品の起動中、または運用中にレーダー波を検出したときは、自動的に電波干渉しないチャンネルに変更されます。
※レーダー波を検出したチャンネルは、検出してから30分間利用できません。
- ◎ 5.3GHz帯(052～064)のチャンネルでレーダー波を検出して、DFS機能が無効なチャンネルが選択された場合は、別のチャンネルに変更されることはありません。
- ◎ 5.6GHz帯の全チャンネル(100～140)でレーダー波を検出した場合は、[5GHz]ランプが橙点滅すると同時に、本製品の「無線LAN」画面に「使用中チャンネル：スキャン中」が表示され、無線通信できなくなります。
このような場合は、30分間放置することで、検出チャンネルリストが初期化され、再度使用できます。
※無線通信できなくなってから30分経過しない状態で、電源を再投入する、または設定内容の変更などで再起動すると、その時点から30分間無線通信できませんのでご注意ください。
その場合、5.6GHz帯以外のチャンネルを使用できます。
- ◎ 40/80MHz帯域幅を設定した場合、上図のように、40MHz帯域幅では2つ、80MHz帯域幅では4つのチャンネルを束ねて使用します。
※本製品で設定した帯域幅に通信相手側が対応していない場合は、通信相手の帯域幅にしたがい、本製品で選択したチャンネルで通信します。
※レーダー波を検出した場合、40MHz帯域幅では2つ、80MHz帯域幅では4つのチャンネルが30分間利用できなくなります。
- ◎ 本製品の起動時に、DFS機能が無効なチャンネルが選択された場合は、そのあと、運用中に別のチャンネルに変更されることはありません。
ただし、DFS機能が有効な5.3/5.6GHz帯のチャンネル(052～140)が選択された場合は、運用中でもレーダー波を検出すると、さらにチャンネルが変更されることがあります。

この章では、

本製品を無線LANでご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ	2-2
■ 接続/設定準備について	2-2
■ 設定の流れについて	2-3
2. 光通信回線と接続するには	2-5
■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合 [ひかり電話(網直収)]	2-5
■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合 [ひかり電話(GW配下)]	2-5
3. 内線電話の構築について	2-6
■ アナログ電話機などの接続について	2-6
4. KXシリーズの電話機について	2-7
■ ご使用になるまでの流れ	2-7
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-UTシリーズ)	2-8
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ)	2-9
■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-UTシリーズ)	2-10
■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ)	2-11
■ 電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには	2-12
■ 電話機のボタン機能について(KX-UTシリーズ)	2-13
■ 発信操作について(KX-UTシリーズ)	2-15
■ 着信操作について(KX-UTシリーズ)	2-15
■ 保留/転送操作について(KX-UTシリーズ)	2-15
■ 電話機のボタン機能について(KX-HDVシリーズ)	2-16
■ 発信操作について(KX-HDVシリーズ)	2-18
■ 着信操作について(KX-HDVシリーズ)	2-18
■ 保留/転送操作について(KX-HDVシリーズ)	2-18
5. 管理者用の設定画面について	2-19
■ 管理者用の設定画面にアクセスするときは	2-19
■ 設定画面の名称と機能について	2-20
■ 設定画面の表示について	2-21

IP200H/IP200PGの初期設定について

IP200H、IP200PGをパソコンから設定するためのソフトウェアとして、CS-IP200H、CS-IP200PG(弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア)があります。本製品に内線子機として登録したあと、内線番号、保守サーバー接続設定(本製品)などを端末ごとに設定してください。

※弊社ホームページに掲載している各ソフトウェアの取扱説明書をよくお読みいただき、手順にしたがってUSBケーブルを接続してください。

2 導入ガイド

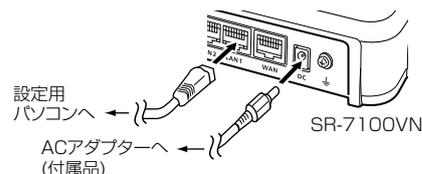
1. ご使用になるまでの流れ

■ 接続/設定準備について

本製品に機器を接続して、管理者用の設定画面にアクセスするまでの流れです。

1. 設定用パソコンの接続(詳細は、別紙の「接続ガイド」をご覧ください。)

設定用パソコンを本製品の [LAN] ポートに接続し、電源を接続します。



2. 管理者用の設定画面へアクセス(2章)

- 1 WWWブラウザを起動し、WWWブラウザのアドレスバーに「<http://本製品のLAN側IPアドレス/admin/>」を入力します。
入力例) <http://192.168.0.1/admin/>
- 2 [Enter]キーを押します。
- 3 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、〈OK〉をクリックします。

SR-7100VNの設定画面について

SR-7100VNの設定画面には、管理者用とユーザー用があります。

※管理者用の設定画面で電話回線やPBXなどを設定していない場合や本製品を出荷時の状態に戻した場合は、ご使用になる端末を内線電話として利用できませんのでご注意ください。

管理者用の設定画面(4章)

管理者用の設定画面で電話回線やPBXなどの設定が完了すると、ご使用になる端末を内線電話として利用できます。

- 情報表示
- 無線LAN設定
- PBX設定
- ネットワーク設定
- 電話回線設定
- PBX拡張設定
- ルーター設定
- Peer to Peer設定
- 管理

ユーザー用の設定画面(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

本製品の「ユーザー設定」画面^{★1}を利用して、下記の項目を設定できます。

- 主装置の現在時刻を修正
- 迷惑電話お断り設定
- 留守番電話設定
- 電話帳の編集
- 非通知着信拒否設定
- 外線着信転送設定
- 昼夜切替設定
- 保留音設定
- 内線着信転送設定(端末ごとの転送設定)^{★2}
- パスワード変更^{★2}
- 着信おませ設定

★1 パソコンから、本製品の「ユーザー設定」画面にアクセスするときは、<http://本製品のLAN側IPアドレス/>をWWWブラウザのアドレスバーに入力して、[Enter]キーを押します。

入力例 <http://192.168.0.1/>

★2 端末ごとの転送設定やパスワード変更(初期設定:内線番号)をするときは、端末に設定された内線番号(ユーザーID)とパスワードを入力して、〈ログイン〉をクリックします。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

管理者用の設定画面を使用して設定する場合の流れです。

1. ルーター機能設定(4章)

ご利用の環境に合わせて、管理者用の「IPアドレス」画面でLAN側のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)を設定します。

※出荷時、本製品のルーター機能のWAN動作モードは、「使用しない」に設定されています。

ひかり電話(網直収)に加えてインターネットをご利用になる場合は、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN接続先」画面の「回線種別設定」項目で「PPPoE」を選択します。(P.4-32)
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、「登録」をクリックします。(P.4-35)
- ③「回線状態表示」項目で「接続」をクリックします。(P.4-31)

ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は、「電話回線設定」メニューの「IP回線」画面で「ひかり電話(GW配下)」を選択して、「登録」をクリックしてから、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN接続先」画面の「回線種別設定」項目で「DHCPクライアント」を選択します。(P.4-32)
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、「登録」をクリックします。(P.4-33)
- ③「回線状態表示」項目に接続状況が表示されます。(P.4-29)

※ひかり電話(GW配下)に加えてインターネットをご利用になる場合は、本製品と接続されたNTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイのインターネット接続設定が必要です。

2. 電話回線設定(4章)

本製品に接続するIP回線のIP電話番号を設定します。

3. PBX設定(4章)

次の手順で内線番号などを設定して、ご使用になる端末を本製品の内線子機として登録します。

「基本」画面/「特番」画面

保留音、留守番電話機能、TELポートの通信中転送、特別番号を設定します。

※出荷時、本製品の留守番電話機能、TELポートの通信中転送は、「無効」に設定されていますので、必要に応じて設定してください。

「内線個別」画面/「内線代表」画面/「着信」画面

本製品に内線子機として登録する端末の内線番号、プリセット発信時の外線選択設定、本製品に接続する端末の機種と留守電ボックス、外線を着信させる端末の内線代表、または内線番号、鳴り分け判別の選択、内線代表内にある端末の鳴動設定(スライド着信)などを設定します。

「電話機」画面/「電話帳」画面(KXシリーズ/IP200H/IP200PG)

IP電話機の機能(外線ボタン、機能ボタン)の割り当て、電話帳など、必要に応じて設定します。

(次ページにつづく)

設定の更新について

本製品で変更した設定を端末に反映させるためには、端末の再起動が必要な場合がありますので、ご注意ください。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

管理者用の設定画面を使用して設定する場合の流れです。

4. 電話機の登録(4章)

PBX設定完了後、内線子機としてご使用になる端末側の内線設定をします。

※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

5. 着信拒否/転送先/留守番電話設定

必要に応じて、ユーザー用の設定画面で、着信を拒否する電話番号、転送先、留守番電話を使用する回線などを設定します。(詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。)

ご参考：ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は

2021年10月現在、NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの出荷時のIPアドレスは、192.168.1.1に設定されていますので、本製品のLAN側IPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)との重複はありませんが、将来的に、これらのゲートウェイ製品の仕様が変更されることもありますので、ご使用になる前に、ゲートウェイ装置の取扱説明書で、設定をご確認ください。ゲートウェイ装置のIPアドレスが本製品のLAN側IPアドレスと重複する場合は、ご使用になる前に、IPアドレス(サブネット)が異なるように、IPアドレス「aaa.bbb.ccc.ddd」の「ccc」部分を変更する必要があります。(ddd部分の変更では同一サブネットとなりLAN-WAN間の通信となりません。)

本製品側を変更する場合

「IPアドレス」画面(4章)で、本製品の「IPアドレス」、「DHCPサーバー」画面(4章)で自動割り当ての「割り当て開始IPアドレス」を変更します。

変更例：

LAN側IPアドレス : 192.168.24.1
DHCP開始IPアドレス : 192.168.24.2

ゲートウェイ側を変更する場合

ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続したパソコンより、設定画面にアクセスして、「詳細設定」メニュー→「DHCPv4サーバ設定」画面で、下記のように変更します。

LAN側IPアドレス : 192.168.24.1/24
開始IPアドレス : 192.168.24.2

※操作方法については、ご使用になるホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの「機能詳細ガイド」をご覧ください。

ホームゲートウェイ配下で転送をご利用の場合

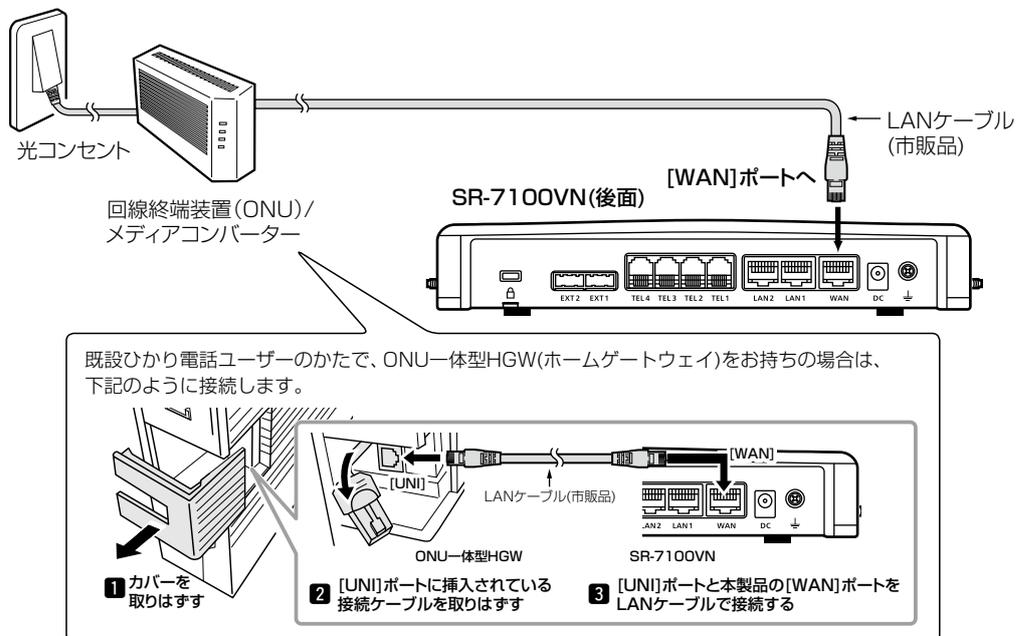
転送先によっては転送発信に失敗する場合があります。

2 導入ガイド

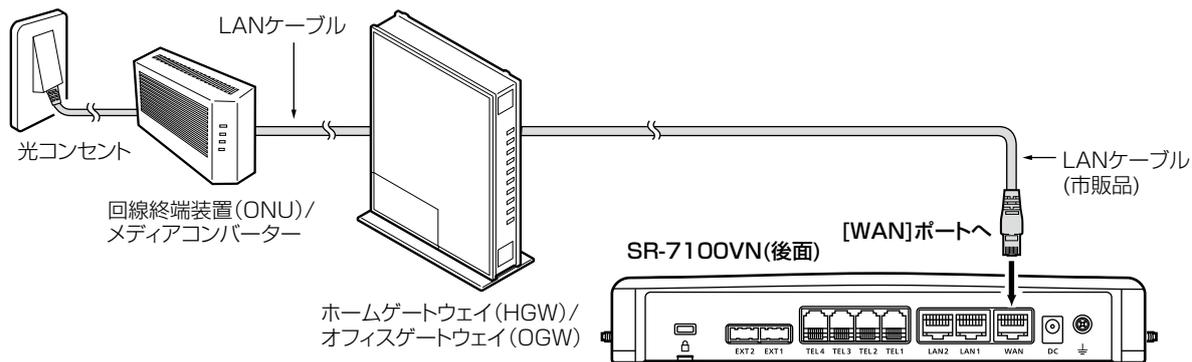
2. 光通信回線と接続するには

ご使用になる機器と本製品の[WAN]ポートをLANケーブルで接続します。

■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合 [ひかり電話(網直収)]



■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合 [ひかり電話(GW配下)]



※HGW(ホームゲートウェイ)は、ONU一体型の場合もあります。

2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

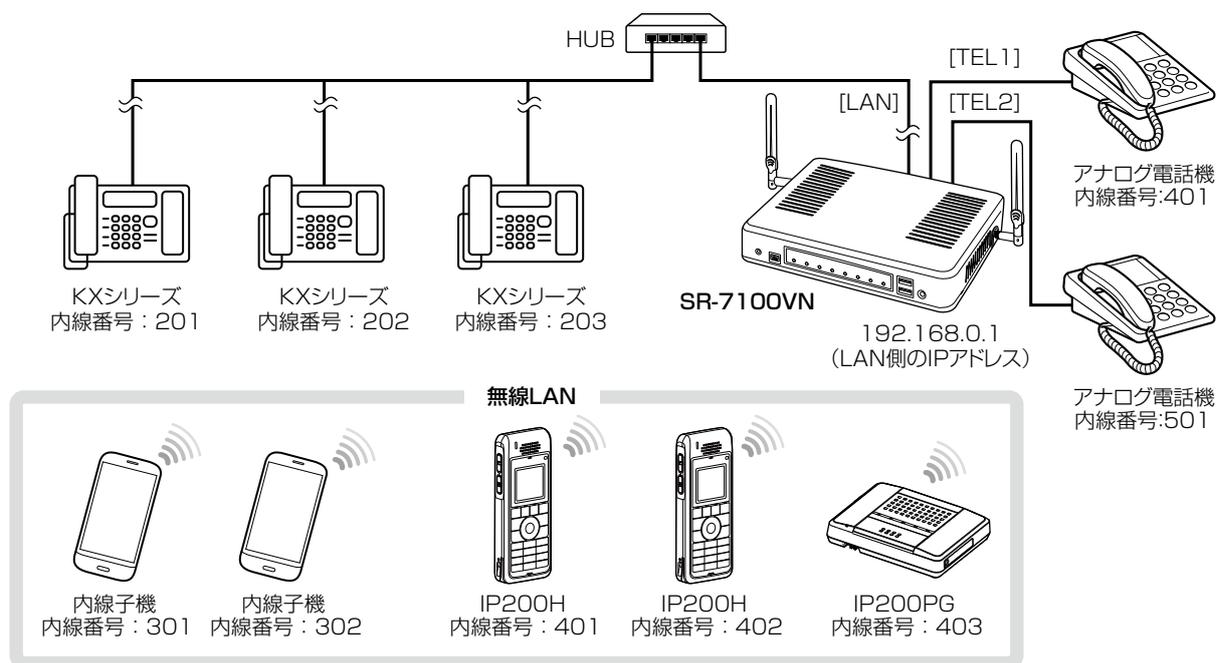
■ アナログ電話機などの接続について

本製品の子機として、[TEL] (1～4) ポートに接続するアナログ電話機(4台)とは別に、IP電話機や対応端末を最大100台まで登録できます。

※2021年10月現在、IP200H、IP200PG、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。

※内線子機としてご使用になる端末ごとに、「内線番号」の設定が必要です。

内線代表番号やプレフィクスなど、番号が重複しないように構築してください。



内線子機として使用する端末に内線番号を設定するときは

◎半角数字で2桁～7桁の番号にしてください。

◎緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。

◎「0」ではじまる番号は、使用しないでください。

※本製品の設定完了後、電話機本体側の設定をすると、内線電話としてご利用になります。

※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

2 導入ガイド

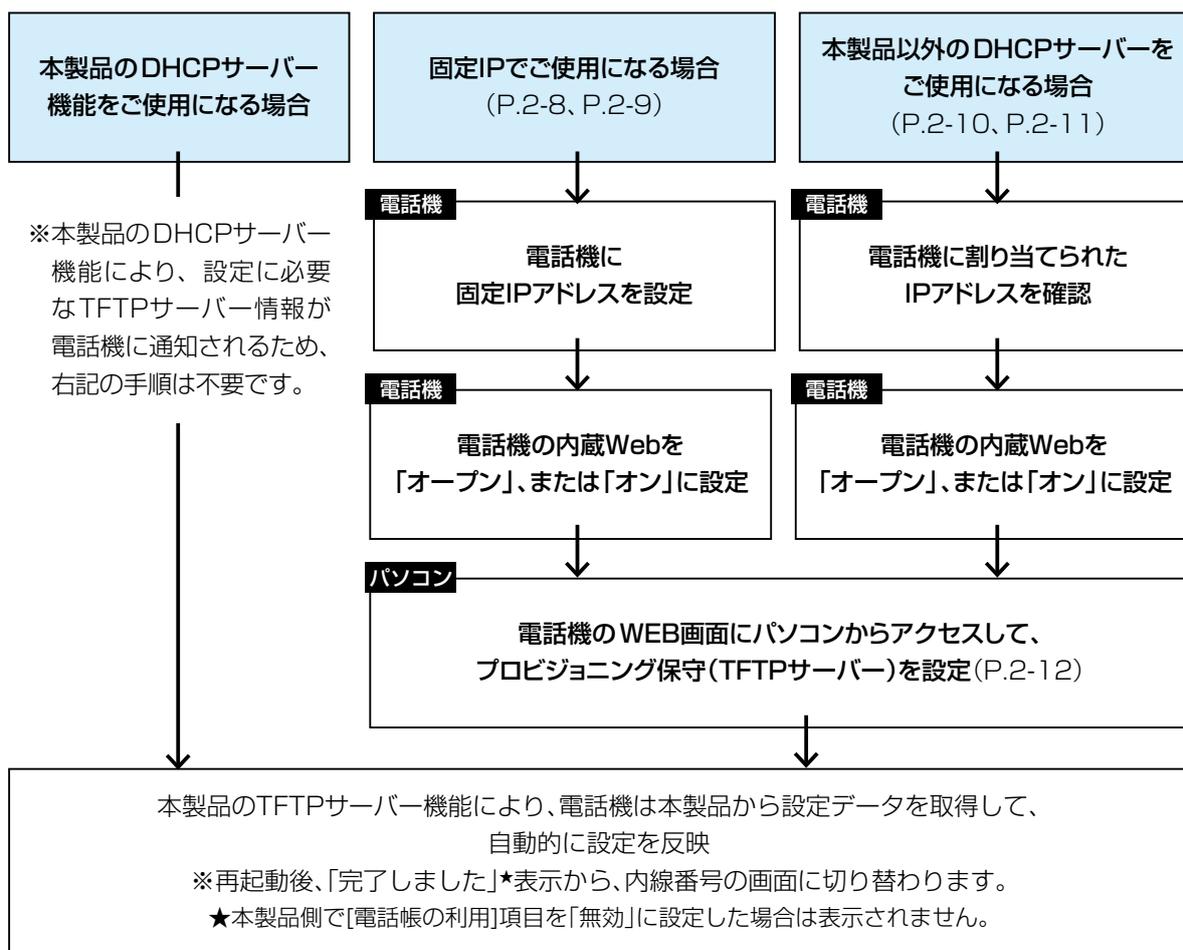
4. KXシリーズの電話機について

■ ご使用になるまでの流れ

本製品にKXシリーズの電話機を登録してご使用になる場合、下記のように接続するネットワーク環境により、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要になることがあります。

※本製品側で、ご使用になる電話機ごとのMACアドレス登録や内線番号などの設定が完了しているものとして説明しています。(P.4-132)

※電話機の操作や設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。



ご注意

◎初期導入時以外は、電話機のWEB画面で設定を変更しないでください。

※電話機のWEB画面で設定を変更した項目は、本製品から設定が適用されなくなります。

◎電話機のWEB画面にアクセスして「403 Forbidden エラー」が表示された場合は、内蔵Webで「クローズ」、または「オフ」を設定し、再度「オープン」、または「オン」にしてください。(P.2-8、P.2-10)

◎電話機のWEB画面にアクセスしたあとは、本製品からアクセスできるように電話機を再起動してください。

◎ファームウェア Ver. 01.167より前のKX-UTシリーズでは、一部の機能が動作しませんので、電話機本体や電話機のWEB画面でファームウェアバージョンをご確認ください。

初期導入時に設定データを取得できないときは

◎電話機のMACアドレスが正しく登録されているか、本製品の設定画面で確認してください。(P.4-133)

◎KXシリーズの電話機を固定IPアドレスでご使用になる場合、または本製品以外のDHCPサーバーを使用する場合、ネットワーク環境によっては、設定データを取得できないことがあります。

同一ネットワーク上にあるDHCPサーバーと切りはなすか、電話機を初期化(P.2-12)してから、設定をやり直してください。

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

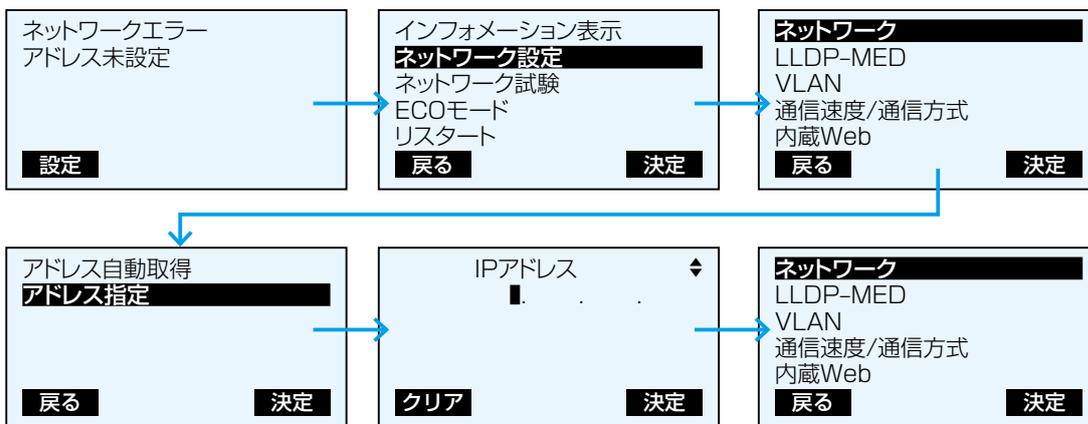
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-UTシリーズ)

固定IPアドレスでご使用になる場合は、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

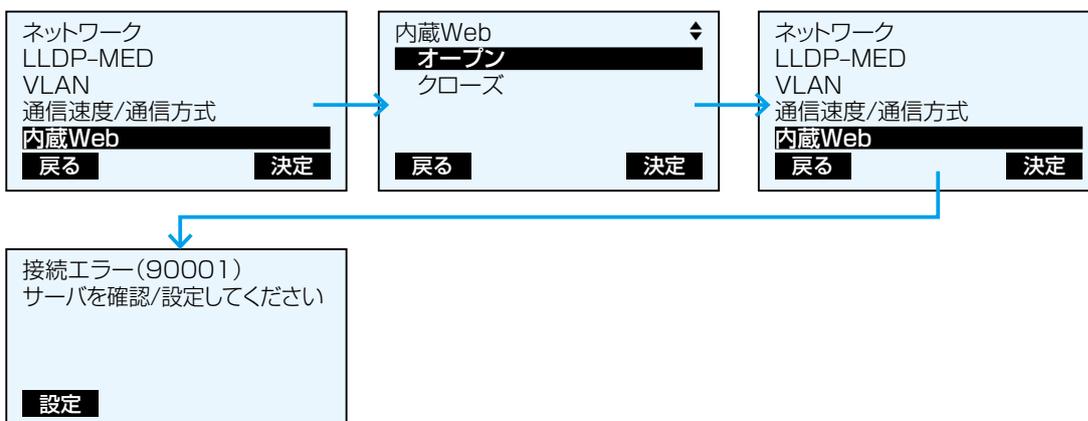
- 1 設定する電話機の電源を入れます。
※DHCPサーバーや既存のネットワークは、切りはなした状態にしてください。

- 2 電話機に固定IPアドレスを設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- 2 「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「ネットワーク」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「アドレス指定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 5 IPアドレス、サブネットマスク*などを設定して、〈決定〉を押します。
★各設定項目は、カーソルキー(上下)で変更できます。

- 3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

(P.2-12の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

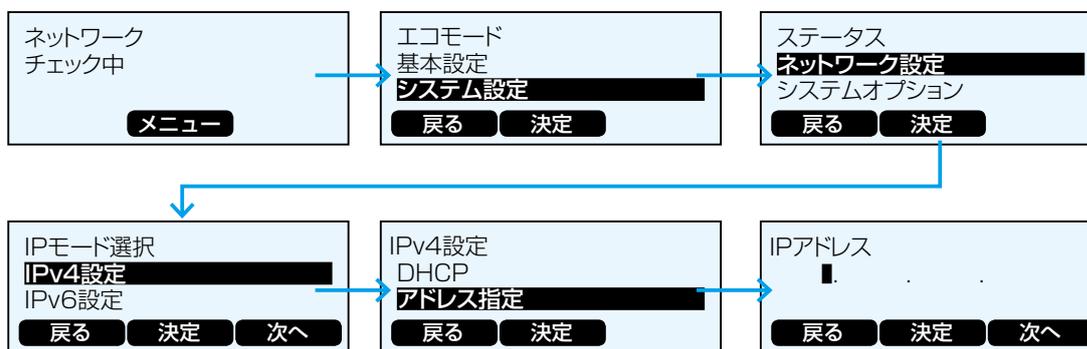
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ)

固定IPアドレスでご使用になる場合は、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

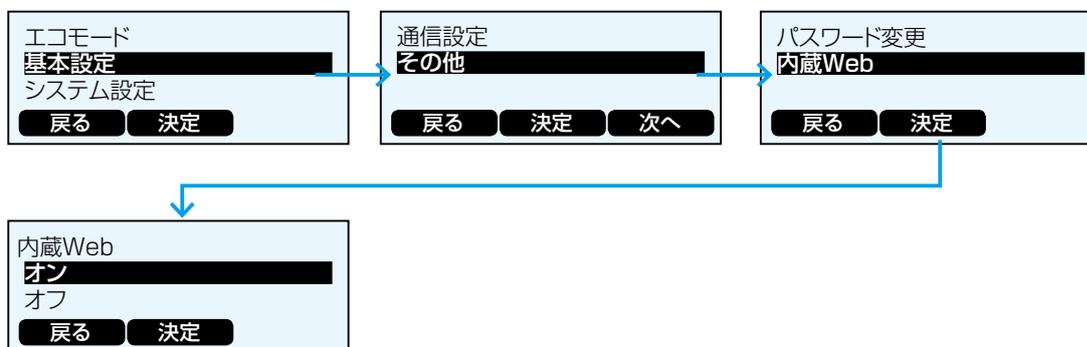
- 1 設定する電話機の電源を入れます。
※DHCPサーバーや既存のネットワークは、切りはなした状態にしてください。

- 2 電話機に固定IPアドレスを設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- ①電話機が起動したら、〈メニュー〉を押します。
- ②「システム設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- ③「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- ⑤「IPv4設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- ⑤「アドレス指定」を選択して、〈決定〉を押します。
- ⑥IPアドレス、サブネットマスク★などを設定して、〈決定〉を押します。
★各設定項目は、カーソルキー(上下)で変更できます。

- 3 電話機の内蔵Webを「オン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- ①「基本設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- ②「その他」を選択して、〈決定〉を押します。
- ③「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- ④「オン」を選択して、〈決定〉を押します。

(P.2-12の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-UTシリーズ)

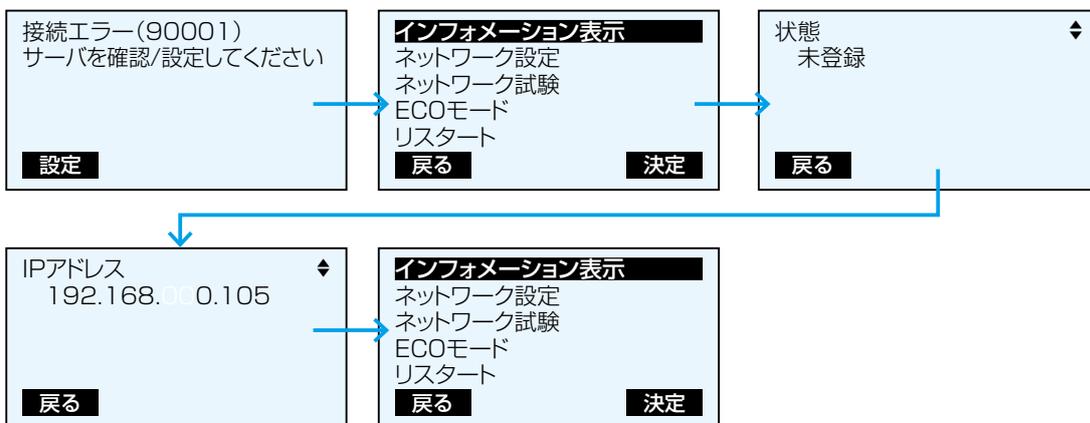
本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は、初期導入時に電話機本体(KX-UTシリーズ)側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機本体(KX-UTシリーズ)の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

1 使用するDHCPサーバーからIPアドレスを自動取得できる状態で、設定する電話機の電源を入れます。

2 電話機に割り当てられたIPアドレスを確認します。

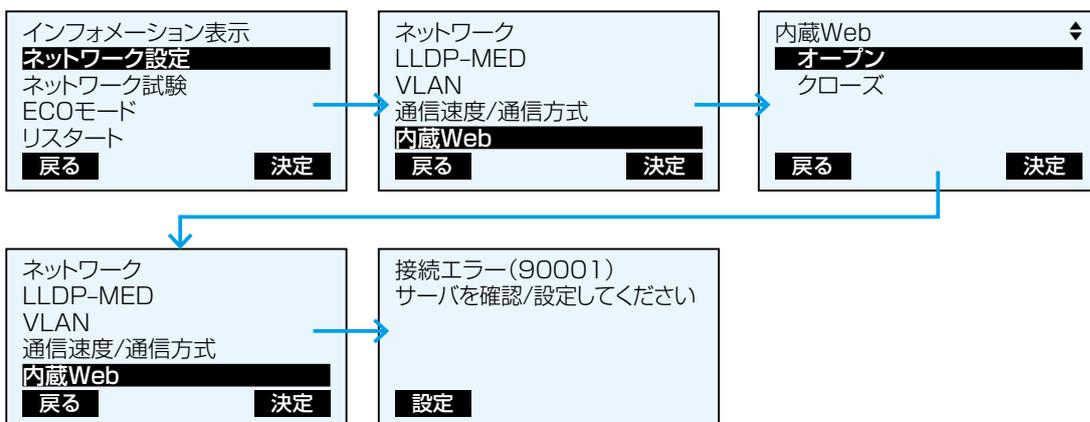
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- 2 「インフォメーション表示」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 カーソルキー(下)を押します。
- 4 IPアドレスを確認して、〈戻る〉を押します。

3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。

※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

(P.2-12の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ)

本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は、初期導入時に電話機本体(KX-HDVシリーズ)側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機本体(KX-HDVシリーズ)の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

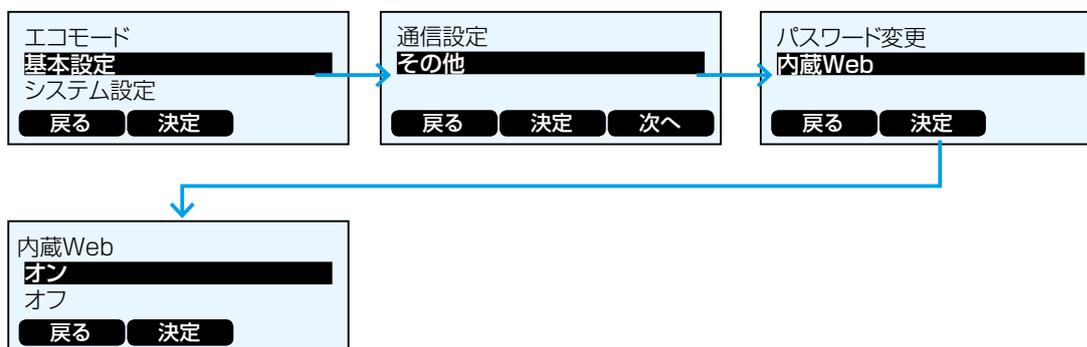
1 使用するDHCPサーバーからIPアドレスを自動取得できる状態で、設定する電話機の電源を入れます。

2 電話機に割り当てられたIPアドレスを確認します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- 2 「システム設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「ステータス」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「IPv4設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 5 「IPアドレス」を選択して、〈決定〉を押します。
- 6 IPアドレスを確認して、〈戻る〉を押します。

3 電話機の内蔵Webを「オン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「基本設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「その他」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「オン」を選択して、〈決定〉を押します。

(P.2-12の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

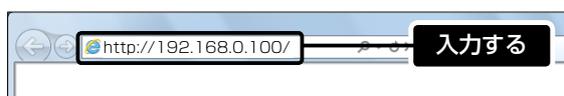
4. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには

同じネットワーク上のパソコンから、電話機のWEB画面にアクセスして、プロビジョニング保守(TFTPサーバー)を設定します。

※電話機のWEB画面にアクセスするためには、電話機に設定されたIPアドレス(P.2-8～P.2-11)が必要です。

- 1 WWWブラウザを起動します。
- 2 WWWブラウザのアドレスバーに「http://[電話機のIPアドレス]/」の形式で、電話機に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.100)を入力します。



- 3 [Enter]キーを押します。
[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されます。
- 4 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「adminpass」を入力し、〈OK〉をクリックします。
電話機のWEB画面が表示されます。
- 5 WEB画面上部の[保守]タブをクリックします。
- 6 WEB画面左側の「プロビジョニング保守」をクリックします。
- 7 [スタンダードファイルURL]欄に、「tftp://[本製品(TFTPサーバー)のIPアドレス]/{MODEL}_{MAC}.cfg」の形式で、本製品に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.1)を入力し、〈登録〉をクリックします。
本製品から設定を自動的に取得するため、電話機本体が再起動します。

入力例 `tftp://192.168.0.1/{MODEL}_{MAC}.cfg`
 ↓
 本製品のIPアドレス

電話機を工場出荷時の状態に戻す場合は

エラーが表示され、登録に失敗した場合は、下記の手順で電話機を初期化してください。

KX-UTシリーズ

- ① 〈設定〉を押します。
- ② 「#136」をダイヤルして、〈決定〉を押します。
- ③ 「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
- ④ 「実行しますか?」が表示されたら「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
確認音が鳴り、初期化するために電話機が再起動します。

KX-HDVシリーズ

- ① 〈決定〉を押します。
- ② 「システム設定」を選択して〈決定〉を押します。
- ③ 「#136」をダイヤルしてます。
- ④ 「実行しますか?」が表示されたら「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
確認音が鳴り、初期化するために電話機が再起動します。

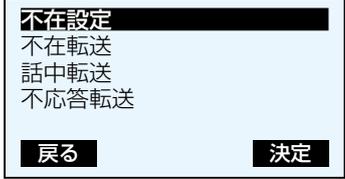
2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-UTシリーズ)

本製品に接続して内線子機として使用する場合のボタン機能について説明します。

※電話機の操作など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

不在 <input type="checkbox"/>	電話に応答できないときなど、あらかじめ不在設定しておく、着信を拒否できます。 ※「不在転送」、「話中転送」、「不応答転送」(右図)は使用できない機能です。 これらの機能を使用するときは、本製品で設定したフレキシブルボタンや特番を操作してください。(P.2-14)	
会議 <input type="checkbox"/>	3者会議通話をするときに使用します。 通話中に ^{会議} <input type="checkbox"/> 、または ^{保留} <input type="checkbox"/> を押します。 会議に参加させたい相手へ発信し、応答確認後、 ^{会議} <input type="checkbox"/> を押します。	
フック <input type="checkbox"/>	通話中に押すと、通話を切断します。 ※転送操作中に ^{フック} <input type="checkbox"/> 、 ^{転送} <input type="checkbox"/> の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	
再ダイヤル <input type="checkbox"/>	直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。	
メッセージ <input type="checkbox"/>	留守番電話を確認するときに使用します。 待受画面で操作すると、留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインします。	
保留 <input type="checkbox"/>	通話中の相手にしばらく待ってもらうときに押します。 ※ほかの電話機からは応答できません。	
転送 <input type="checkbox"/>	通話を保留して転送するときに押します。 ※転送操作中に ^{フック} <input type="checkbox"/> 、 ^{転送} <input type="checkbox"/> の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	
ミュート <input type="checkbox"/> 自動応答	ミュート： 通話中に押すと、マイクがミュート状態になり、こちらの声が相手に聞こえなくなります。 もう一度押すとミュートを解除します。 ※ミュート中は ^{スピーカー/ヘッドセット} <input type="checkbox"/> が赤色に点滅します。 自動応答： あらかじめ設定しておく、着信時、数回鳴動したあと、自動的に応答します。	
戻る <input type="checkbox"/>	操作などを取り消すときに使用します。	
スピーカー/ ヘッドセット <input type="checkbox"/>	受話器を置いたまま通話するとき、または電話にヘッドセットを接続して通話するときに使用します。	

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-UTシリーズ)

フレキシブルボタン(1～24)と特番操作

KX-UT136Nに割り当てられたフレキシブルボタン機能は、下記のように、ほかの内線子機(KX-UT123Nなど)でも特番をダイヤルすると使用できます。

ボタン割当	ほかの内線子機	備考(ダイヤル操作)	参照
ワンタッチ	×	あらかじめ本製品側で登録した電話番号にワンタッチで発信できる機能	P.4-155
DNキー	×	※KX-UT123Nでは内部で2つ固定割り当て	P.4-155
外線状態通知キー	×		P.4-156
外線発信キー	○	(外線発信特番プレフィクス + 相手先の電話番号)	P.4-157
外線着信キー	×		P.4-158
パーク	○	(パーク保留・応答するための特番+パーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24))	P.4-159
留守電開始/停止	○	(留守電の開始と停止特番)	P.4-160
着信おまたせ開始/停止★	○	(着信おまたせの開始と停止特番)	P.4-160
不在転送切替	○	(不在転送特番)	P.4-161
不応答転送切替	○	(不応答転送特番)	P.4-161
話中転送切替	○	(話中転送特番)	P.4-162
昼夜切替	○	(昼夜切替特番)	P.4-162
外線着信転送切替	○	(外線着信転送の切替特番)	P.4-163
ヘッドセット	△	※KX-UT123Nではヘッドセット接続時有効	P.4-163
音声呼出	○	(音声呼出特番)	P.4-163

★回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉が割り当てられたKX-UT136Nのフレキシブルボタンで確認できます。

DNキーについて

- ◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
- ◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
- ◎フレキシブルボタンがないKX-UT123Nでは、DNキーは本体内部に2つ固定割り当され、追加設定はできません。
外線通話中に新たな外線着信を受けると、先の通話を保留したり転送したりできません。(DNキー不足状態のため)
このような場合は、先の通話を終了するか、ほかの電話機であとの着信に応答する必要があります。

パーク保留/応答について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。
電話機ごとの操作については、本書6-29ページ～6-34ページでご確認ください。

KX-UT136Nで外線を捕捉するときは

KX-UT136Nに割り当てられた〈外線発信キー〉につづけて、電話番号をダイヤルするか、あらかじめ電話番号を登録した〈ワンタッチ〉を押すと、回線を捕捉して外線発信できます。

※外線発信時は、回線捕捉の設定が必要です。

ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、回線を設定してください。

※KX-UT136Nで、電話帳から発信する場合は、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 発信操作について(KX-UTシリーズ)

1. ダイヤル発信する(P.6-29)

- 受話器を上げ、電話番号をダイヤルする
- 電話番号をダイヤルして受話器を上げる

※ダイヤルした電話番号に応じて、内線/外線に発信します。

2. ワンタッチで発信する(P.6-29)

- 受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す
- 〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる

※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。

3. 外線発信キーで発信する(P.6-29)

- 受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする
- 〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる

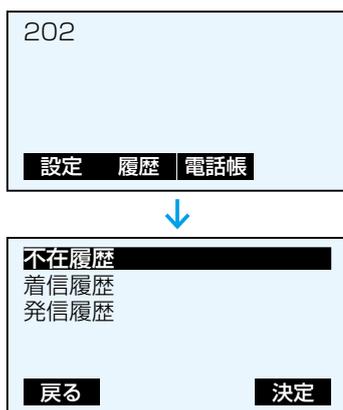
4. 電話帳から発信する(P.6-29)

電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる



5. 履歴から発信する

- ① 履歴 を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する
- ② 相手先を選択してから受話器を上げる



■ 着信操作について(KX-UTシリーズ)

1. 内線着信に回答する(P.6-31)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に回答する場合)
- 高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2. 外線着信に回答する(P.6-31)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に回答する場合)
- 〈外線着信キー〉を押す
- 高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す
※〈外線着信キー〉が割り当てられている場合は、〈DNキー〉は点滅しません。

3. 回答を拒否する

着信中に、拒否 を押す

※一斉着信時など、ほかの内線子機が鳴動している場合を除き、発信元には話中音が聞こえます。

※アナログ回線から発信された着信の場合、発信元には呼出音が聞こえつづけます。

4. 代理で回答する(P.6-33)

自分以外の電話機が着信中に、代理回答の特番を押して、受話器を上げる

※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理回答できます。

※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理回答の特番を登録しておくと、同様に代理回答できます。

■ 保留/転送操作について(KX-UTシリーズ)

1. 自己保留する(保留/解除)(P.6-31)

- 通話中に、保留 を押す
- 解除するときには、低速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2. 転送する(P.6-33)

- ① 通話中に、転送 を押す
- ② 転送先の電話番号をダイヤルする
- ③ 応答確認後、実行 を押す、または受話器を置く
※転送操作中にフック、転送 の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。

3. パーク保留/応答する(P.6-33)

- ① 通話中に、〈パーク〉を押す
- ② 低速点滅(緑■)のキー番号を確認する
- ③ 転送先に、口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
- ④ 転送先は、伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-HDVシリーズ)

本製品に接続して内線子機として使用する場合のボタン機能について説明します。

※電話機の操作など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

キャンセル □	操作などを取り消すときに使用します。 ※通話中に押すと、その通話を切断します。
会議 □	3者会議通話をするときに使用します。 通話中に ^{会議} □、または ^{保留} □を押します。 会議に参加させたい相手へ発信し、応答確認後、 ^{会議} □を押します。
再ダイヤル □	直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。
ミュート/ 自動応答 □	ミュート： 通話中に押すと、マイクがミュート状態になり、こちらの声が相手に聞こえなくなります。 もう一度押すとミュートを解除します。 ※ミュート中は、画面に〈ミュート〉が点滅します。 自動応答： あらかじめ設定しておく、着信時、数回鳴動したあと、自動的に応答します。
ヘッドセット □	電話にヘッドセットを接続して通話するときに使用します。
メッセージ □	留守番電話を確認するときに使用します。 待受画面で操作すると、留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインします。
転送 □	通話を保留して転送するときに押します。 ※転送先と通話中に ^{キャンセル} □を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度 ^{キャンセル} □を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
保留 □	通話中の相手にしばらく待ってもらうときに押します。 ※ほかの電話機からは応答できません。
スピーカーホン □	受話器を置いたまま通話するときに使用します。
- 音量 + □	着信音量、ハンドセット音量、ヘッドセット音量、スピーカー音量を調整するときに使用します。
ライン1/P1 □	機能を割り当てて使用します。 電話機(KX-HDVシリーズ)の設定画面で、フレキシブルボタン1に割り当てた機能が反映されます。 ※KX-HDV130Nにあるボタンです。
ライン2/P2 □	機能を割り当てて使用します。 電話機(KX-HDVシリーズ)の設定画面で、フレキシブルボタン2に割り当てた機能が反映されます。 ※KX-HDV130Nにあるボタンです。

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-HDVシリーズ)

フレキシブルボタン(1～24)と特番操作

KX-HDV230Nに割り当てられたフレキシブルボタン機能は、下記のように、ほかの内線子機(KX-HDV130Nなど)でも特番をダイヤルすると使用できます。

ボタン割当	ほかの内線子機	備考(ダイヤル操作)	参照
ワンタッチ	×	あらかじめ本製品側で登録した電話番号にワンタッチで発信できる機能	P.4-176
DNキー	×	※KX-HDV130Nでは、 <small>ライン1/P1</small> 、 <small>ライン2/P2</small> に「DNキー」、「通話転送」、「ブラインド転送」、「会議通話」、「未使用」設定時	P.4-177
外線状態通知キー	×		P.4-177
外線発信キー	○	(外線発信特番プレフィクス + 相手先の電話番号)	P.4-178
外線着信キー	×		P.4-179
パーク	○	(パーク保留・応答するための特番+パーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24))	P.4-180
留守電開始/停止	○	(留守電の開始と停止特番)	P.4-181
着信おまかせ開始/停止★	○	(着信おまかせの開始と停止特番)	P.4-181
不在転送切替	○	(不在転送特番)	P.4-182
不応答転送切替	○	(不応答転送特番)	P.4-182
話中転送切替	○	(話中転送特番)	P.4-183
昼夜切替	○	(昼夜切替特番)	P.4-183
外線着信転送切替	○	(外線着信転送の切替特番)	P.4-184
通話転送	×		P.4-185
ブラインド転送	×		P.4-185
会議通話	×		P.4-185
音声呼出	○	(音声呼出特番)	P.4-185

★回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉が割り当てられたKX-HDV230Nのフレキシブルボタンで確認できます。

DNキーについて

- ◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
- ◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
- ◎KX-HDV130Nでは、ライン1/P1、ライン2/P2 にDNキー以外を割り当てた場合、内部にDNキーが2つ動作します。
また上記とは別に、内部にDNキー(保留/転送用)が1つ動作します。
※ ライン1/P1、ライン2/P2 にDNキーを割り当てても、DNキーは2つしか動作しません。

パーク保留/応答について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。電話機ごとの操作については、本書6-29ページ～6-34ページでご確認ください。

増設ユニット(1～5)

- ◎増設ユニットを取り付けることで、使用するフレキシブルボタンを増やすことができます。(最大5台)
- ◎2台目以降は、フレキシブルボタンに割り当てられる機能は制限されています。(P.4-188)

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 発信操作について(KX-HDVシリーズ)

1. ダイヤル発信する (P.6-30)

- 受話器を上げ、電話番号をダイヤルする
 - 電話番号をダイヤルして受話器を上げる
- ※ダイヤルした電話番号に応じて、内線/外線に発信します。

2. ワンタッチで発信する (P.6-30)

- 受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す
 - 〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる
- ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。

3. 外線発信キーで発信する (P.6-30)

- 受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする
- 〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる

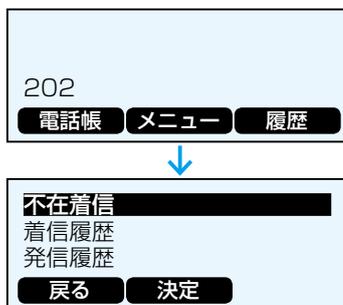
4. 電話帳から発信する (P.6-30)

電話帳、**検索**の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる



5. 履歴から発信する

- 履歴** を押し、履歴 (不在/着信/発信) を選択する
- 相手先を選択してから受話器を上げる



■ 着信操作について(KX-HDVシリーズ)

1. 内線着信に应答する (P.6-32)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に应答する場合)
- 高速点滅(青■)している〈DNキー〉を押す

2. 外線着信に应答する (P.6-32)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に应答する場合)
- 〈外線着信キー〉を押す
- 高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅(青■)している〈DNキー〉を押す
※〈外線着信キー〉が割り当てられている場合は、〈DNキー〉は点滅しません。

3. 应答を拒否する

着信中に、**拒否** を押す
※一斉着信時など、ほかの内線子機が鳴動している場合を除き、発信元には話中音が聞こえます。
※アナログ回線から発信された着信の場合、発信元には呼出音が聞こえつづけます。

4. 代理で应答する (P.6-34)

自分以外の電話機が着信中に、代理应答の特番を押して、受話器を上げる
※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理应答できます。
※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理应答の特番を登録しておくと、同様に代理应答できます。

■ 保留/転送操作について(KX-HDVシリーズ)

1. 自己保留する(保留/解除) (P.6-32)

- 通話中に、**保留** を押す
- 解除するときは、低速点滅(青■)している〈DNキー〉、または〈外線着信キー〉を押す

2. 転送する (P.6-34)

- 通話中に、**転送** を押す
- 転送先の電話番号をダイヤルする
- 応答確認後、**実行** を押す、または受話器を置く

3. パーク保留/应答する (P.6-34)

- 通話中に、〈パーク〉を押す
- 低速点滅(青■)のキー番号を確認する
- 転送先に、口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
- 転送先は、伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、应答する

2 導入ガイド

5. 管理者用の設定画面について

■ 管理者用の設定画面にアクセスするときは

本製品に接続したパソコンのWWWブラウザから、管理者用の設定画面にアクセスする手順を説明します。

- 1 WWWブラウザを起動し、WWWブラウザのアドレスバーに「http://本製品に設定されたLAN側IPアドレス/admin/」を入力します。



※上図は、出荷時のLAN側IPアドレス(192.168.0.1)を入力した場合です。

- 2 [Enter]キーを押します。
[ユーザー名]と[パスワード]を求め画面が表示されます。

- 3 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、〈OK〉をクリックすると、管理者用の設定画面が表示されます。



不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものに変更されることをおすすめします。

WWWブラウザについて

Microsoft Internet Explorer 11で動作確認しています。

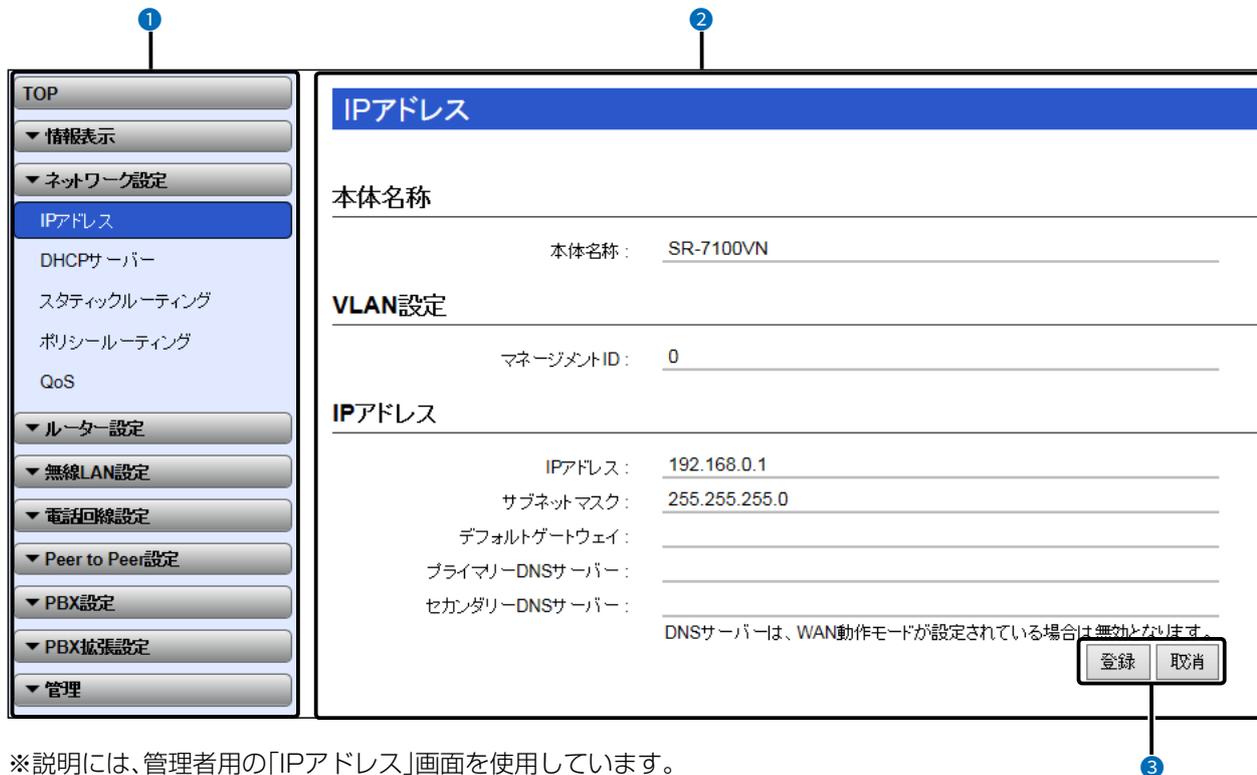
設定画面が正しく表示できるように、WWWブラウザのJavaScript機能、およびCookieは有効にしてください。

2 導入ガイド

5. 管理者用の設定画面について

■ 設定画面の名称と機能について

管理者用の設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。
設定画面の構成について詳しくは、6-6ページをご覧ください。



※説明には、管理者用の「IPアドレス」画面を使用しています。

- ① 設定画面選択メニュー …………… 各メニューのタイトル上にマウスポインターを合わせてクリックすると、そのメニューに含まれる画面名を表示します。
- ② 設定画面表示エリア …………… [設定画面選択メニュー]で選択したメニューに含まれる画面名(例：ネットワーク設定/IPアドレス)をクリックしたとき、その内容を表示します。
- ③ 設定ボタン …………… 設定した内容の登録や取り消しをします。
※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

2 導入ガイド

5. 管理者用の設定画面について

■ 設定画面の表示について

WWWブラウザのウィンドウサイズによって表示方法が異なります。
ウィンドウの幅を狭くすると、メニューが折りたたまれ「≡」が表示されます。
さらに狭くすると項目がすべて縦に表示されます。
ご使用になるパソコンの画面サイズに合わせて調整してください。

設定画面：大

ICOM SR-7100VN WIRELESS BROADBAND VoIP ROUTER

TOP

▼ 情報表示

▼ ネットワーク設定

IPアドレス

DHCPサーバー

スタティックルーティング

ポリシールーティング

QoS

IPアドレス

本体名称

本体名称: SR-7100VN

VLAN設定

マネージメントID: 0

設定画面：中

ICOM SR-7100VN WIRELESS BROADBAND VoIP ROUTER

≡

IPアドレス

本体名称

本体名称: SR-7100VN

VLAN設定

マネージメントID: 0

設定画面：小

ICOM SR-7100VN WIRELESS BROADBAND VoIP ROUTER

≡

IPアドレス

本体名称

本体名称:
SR-7100VN

VLAN設定

マネージメントID:
0

2 導入ガイド

5. 管理者用の設定画面について

■ 設定画面の表示について

「≡」をクリックすると、折りたたまれたメニューが表示されます。



この章では、
設定の追加や変更が必要と思われる項目などについて説明します。

1. 無線LAN接続について	3-2
■ 無線通信機能を有効にするには	3-2
■ 80MHz帯域幅通信をするときは	3-3
■ [WEP RC4]暗号化を設定するには	3-4
■ 仮想APを設定するには	3-7
■ MACアドレスフィルタリングを設定するには	3-8
2. 設定画面へのアクセスを制限するには	3-9
3. 内部時計を設定するには	3-10

3 そのほかの機能について

1. 無線LAN接続について

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 無線LAN

■ 無線通信機能を有効にするには

無線2(5GHz帯)を例に無線通信機能を有効にする手順を説明します。

※出荷時や全設定初期化時、本製品の無線LANユニットは「無効」に設定されています。

1 「無線LAN設定」メニューの「無線2」、「無線LAN」の順にクリックします。

2 [無線UNIT] 欄で「有効」を選択します。

(出荷時の設定：無効)

無線LAN設定	
無線UNIT:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
帯域幅:	20MHz <input type="button" value="▼"/>
チャンネル:	036 CH (5180 MHz) <input type="button" value="▼"/>
パワーレベル:	高 <input type="button" value="▼"/>
DTIM間隔:	1
プロテクション:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>	

選択する

3 <登録>をクリックします。

3 そのほかの機能について

1. 無線LAN接続について

無線LAN設定 > 無線2 > 無線LAN

■ 80MHz帯域幅通信をするときは

次の手順で無線2(5GHz帯)の帯域幅を変更してください。

※IEEE802.11ac規格を使用できるのは、5GHz帯だけです。

※IEEE802.11ac規格での通信は、暗号化設定を「なし」、または「AES」を設定したときだけです。

暗号化設定が「WEP RC4」、または「TKIP」の場合は、IEEE802.11a規格で通信します。

1 「無線LAN設定」メニューの「無線2」、「無線LAN」の順にクリックします。

2 [帯域幅] 欄で「80MHz」を選択して、〈登録〉をクリックします。

無線LAN設定

無線UNIT: 無効 有効

帯域幅: 80MHz

チャンネル: 036 CH (5180 MHz)

パワーレベル: 高

DTIM間隔: 1

プロテクション: 無効 有効

登録 取消

① 選択する

② クリック

40/80MHz帯域幅通信をするときの手引き

◎無線LAN通信で40MHz、または80MHz帯域幅をご使用になる場合、周囲の電波環境を事前に確認して、ほかの無線局に電波干渉を与えないようにしてください。

◎万一、ほかの無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、本製品および無線アクセスポイントの帯域幅を「20MHz」でご使用ください。

3 そのほかの機能について

1. 無線LAN接続について

■ [WEP RC4]暗号化を設定するには

[WEP RC4]暗号化設定は、次の2とおりです。

- ◎16進数で暗号鍵(キー)を直接入力する(P.3-5)
- ◎ASCII文字で暗号鍵(キー)を直接入力する(P.3-6)

※初期値では、暗号化は設定されていません。

暗号鍵(キー)の入力について

[暗号化方式]の設定によって、入力する暗号鍵(キー)の文字数や桁数が異なります。

また、入力された文字数、および桁数によって、入力モード(16進数/ASCII文字)を自動判別します。

ネットワーク認証		暗号化方式	入力モード	
オープンシステム	共有キー		16進数(HEX)	ASCII文字
○	×	なし(初期値)	—	—
○	○	WEP RC4 64(40)ビット	10桁	5文字(半角)
○	○	WEP RC4 128(104)ビット	26桁	13文字(半角)
○	○	WEP RC4 152(128)ビット	32桁	16文字(半角)

※入力できる桁数、および文字数は、()内のビット数に対する値です。

ASCII文字→16進数変換表

相手が指定する[入力モード]で暗号鍵(キー)を設定できない場合は、下記の変換表を参考に指示された暗号鍵(キー)に対応する記号や英数字で入力してください。

たとえば、16進数入力で「4153434949」(10桁)を設定している場合、ASCII文字では、「ASCII」(5文字)になります。

ASCII文字	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	,	-	.	/		
16進数	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2a	2b	2c	2d	2e	2f
ASCII文字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
16進数	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	3a	3b	3c	3d	3e	3f
ASCII文字	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
16進数	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	4a	4b	4c	4d	4e	4f
ASCII文字	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[¥]	^	_
16進数	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	5a	5b	5c	5d	5e	5f
ASCII文字	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
16進数	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	6a	6b	6c	6d	6e	6f
ASCII文字	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	
16進数	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7a	7b	7c	7d	7e	

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定する暗号鍵(WEPキー)は、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものに変更されることをおすすめします。

3 そのほかの機能について

1. 無線LAN接続について

無線LAN設定 > 仮想AP > 暗号化設定

■ [WEP RC4]暗号化を設定するには

16進数で暗号鍵(キー)を入力するには

無線1 (2.4GHz帯)の「ath0」を設定する場合を例に説明します。

ネットワーク認証 : 「オープンシステム/共有キー」(出荷時の設定)

暗号化方式 : 「WEP RC4 128(104)」ビット

WEPキー : 「0~9」、および「a~f(またはA~F)」を使用して26桁を入力

1 「無線LAN設定」メニューの「無線1」、「仮想AP」の順にクリックします。

2 「暗号化方式」欄で「WEP RC4 128(104)」を選択し、26桁の暗号鍵(キー)を[WEPキー]欄に入力します。

仮想AP設定

インターフェース: ath0

仮想AP: 無効 有効

SSID: WIRELESSLAN-0

VLAN ID: 0

ANY接続拒否: 無効 有効

接続端末制限: 63

アカウントिंग: 無効 有効

暗号化設定

ネットワーク認証: オープンシステム/共有キー

暗号化方式: WEP RC4 128 (104)

WEPキー: 424153522d37313030564e4241

登録 取消

出荷時の設定であることを確認します。

① 選択する

② 入力する

3 「登録」をクリックします。

3 そのほかの機能について

1. 無線LAN接続について

無線LAN設定 > 仮想AP > 暗号化設定

■ [WEP RC4]暗号化を設定するには

ASCII文字で暗号鍵(キー)を入力するには

無線1 (2.4GHz帯)の「ath0」を設定する場合を例に説明します。

ネットワーク認証：「オープンシステム/共有キー」(出荷時の設定)

暗号化方式：「WEP RC4 128(104)」ビット

WEPキー：13文字を入力(例:RETSAMEVAWNAL)

1 「無線LAN設定」メニューの「無線1」、「仮想AP」の順にクリックします。

2 「暗号化方式」欄で「WEP RC4 128(104)」を選択し、13文字の暗号鍵(キー)を[WEPキー]欄に入力します。

仮想AP設定

インターフェース: ath0

仮想AP: 無効 有効

SSID: WIRELESSLAN-0

VLAN ID: 0

ANY接続拒否: 無効 有効

接続端末制限: 63

アカウントिंग: 無効 有効

暗号化設定

ネットワーク認証: オープンシステム/共有キー

暗号化方式: WEP RC4 128 (104)

WEPキー: RETSAMEVAWNAL

登録 取消

出荷時の設定であることを確認します。

① 選択する

② 入力する

3 「登録」をクリックします。

3 そのほかの機能について

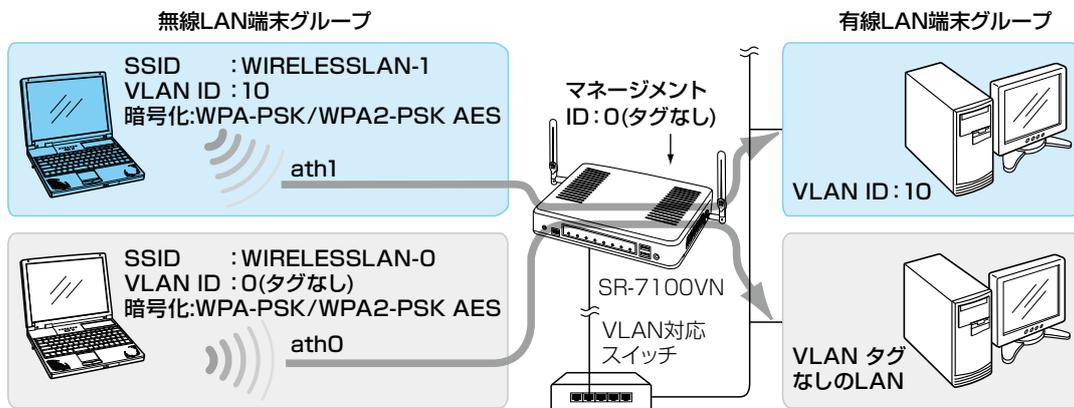
1. 無線LAN接続について

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 仮想APを設定するには

次の条件で、図の ■ 色で示す仮想AP(ath1)を設定する場合を例に説明します。

[仮想AP設定]項目	インターフェース	:「ath1」
	仮想AP	:「有効」
	SSID	:「WIRELESSLAN-1」(出荷時の設定)
	VLAN ID	:「10」
[暗号化設定]項目	ネットワーク認証	:「WPA-PSK/WPA2-PSK」
	暗号化方式	:「AES」
	PSK(Pre-Shared Key)	:「RETSAMEVAWNAL」



※仮想AP「ath0」は、設定されているものとします。

- 1 「無線LAN設定」メニューの「無線1」、「仮想AP」の順にクリックします。
- 2 [インターフェース]欄で「ath1」を選択し、上記の設定例にしたがって設定します。

3 そのほかの機能について

1. 無線LAN接続について

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > MACアドレスフィルタリング

■ MACアドレスフィルタリングを設定するには

仮想AP(ath0～ath15)ごとに、本製品への接続を許可する、または拒否する無線LAN端末を登録できます。
※仮想APごとに、最大1024台分のMACアドレスを登録できます。
※無線1(2.4GHz帯)の仮想AP(例:ath0)を例に、接続を許可する無線LAN端末の登録を説明します。

- 1 「無線LAN設定」メニューの「無線1」、「MACアドレスフィルタリング」の順にクリックします。
- 2 [MACアドレスフィルタリング]欄で「有効」を選択し、「登録」をクリックします。

MACアドレスフィルタリング設定

インターフェース: ath0

MACアドレスフィルタリング: 無効 有効

フィルタリングポリシー: 許可リスト 拒否リスト

登録

- 3 接続を許可する無線LAN端末のMACアドレスを入力し、「追加」をクリックします。

端末MACアドレスリスト

MACアドレス: 00-90-C7-00-00-10

追加

MACアドレスフィルタリング設定一覧

登録済みの端末	受信中の端末	① 通信状況	②
		通信不許可	追加
		通信中	削除
00-90-C7-00-00-10		登録済	削除

- ① 通信状況 本製品との無線通信状況を表示します。
「通信中」 : 本製品と無線通信中の表示です。
「通信不許可」: 本製品により無線通信が拒否されているときの表示です。
「登録済」 : MACアドレスが登録済みで、無線通信をしていないときの表示です。
- ② 〈追加〉 / 〈削除〉 表示されている無線LAN端末のMACアドレスをリストに追加、またはリストから削除するボタンです。

3 そのほかの機能について

2. 設定画面へのアクセスを制限するには

出荷時、本製品の設定画面には、[管理者ID(admin)]と[パスワード(admin)]でアクセスできます。
パスワードを設定することで、管理者以外がWWWブラウザから本製品の設定を変更できないようにします。

管理 > 管理者

- 1 「管理」メニュー、「管理者」の順にクリックします。
「管理者」画面が表示されます。
- 2 [現在のパスワード]、[新しいパスワード]、[新しいパスワード再入力]欄に、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号(半角31文字以内)で入力します。
[新しいパスワード]、[新しいパスワード再入力]欄に入力した文字は、すべて*(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示されます。

管理者パスワードの変更

管理者ID: admin

現在のパスワード: ●●●●

新しいパスワード: ●●●●●●●●

新しいパスワード再入力: ●●●●●●●●

ユーザー画面 管理設定

共通設定の認証: 無効 有効

管理者ID(ユーザー画面): _____

パスワード(ユーザー画面): _____

登録 取消

入力する

「ユーザー設定」画面へのアクセス制限を設定するときは、「有効」を選択します。

- 3 <登録>をクリックします。
※[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されたときに、変更した新しい管理者パスワードを入力します。

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものに変更されることをおすすめします。

ご注意

管理者パスワードを忘れた場合、設定画面にアクセスするには、工場出荷時(初期値)の状態に戻す必要があります。

※初期化するときは、5-4ページにしたがって、本製品の<MODE>ボタンを操作してください。

3 そのほかの機能について

3. 内部時計を設定するには

本製品の内部時計を正確に表示させるため、設定されることをおすすめします。

※本製品の自動時計設定機能を使用する場合についても記載していますので、併せてご覧ください。

管理 > 時計

1 「管理」メニュー、「時計」の順にクリックします。

「時計」画面が表示されます。

2 パソコンから自動取得した時刻が、[時計]項目に表示されていることを確認して、〈設定〉をクリックします。

内部時計に設定された時刻が、[本体の現在時刻]欄に表示されます。

※[設定する時刻]欄に表示されている時刻がパソコンと異なるときは、はじめからやりなおすと正確な時刻を取得できません。

※「時計」画面の〈登録〉では、時刻を設定できません。

時計

本体の現在時刻: 2015年 01月 01日 08時 21分 (Asia/Tokyo)

設定する時刻: 2016年 11月 30日 15時 24分 設定

自動時計設定

自動時計設定: 無効 有効

NTPサーバー1: 210.173.160.27

NTPサーバー2: 210.173.160.57

アクセス時間間隔: 1 日

前回アクセス日時: -

次回アクセス日時: 2015-01-01 08:24

登録 取消

① 確認する

② クリック

「有効」に設定されているときは、インターネットに接続すると、下記のNTPサーバーにアクセスして、自動で時刻を設定できます。

※初期に参照しているNTPサーバーは、インターネットマルチフィード株式会社のもので

<http://www.jst.mfeed.ad.jp/>

自動時計設定機能について

自動時計設定機能で「有効」を選択して〈登録〉を押した直後、NTPサーバーに日時問い合わせをして、内部時計を自動設定します。

また、自動時計設定機能を「有効」に設定すると、本体起動時にNTPサーバーに日時問い合わせをします。

それ以降は、設定されたアクセス時間間隔で、内部時計を自動設定します。

ご注意

自動時計設定機能は、NTPサーバーへの問い合わせ先(経路)を設定する必要があります。

経路を設定しないときは、問い合わせできませんので、自動時計設定機能をお使いいただけません。

「ネットワーク設定」メニュー→「IPアドレス」画面→「IPアドレス設定」項目にある「デフォルトゲートウェイ」欄、または「スタティックルーティング」画面の「スタティックルーティング設定」項目で、ルーティングテーブルを設定するか、「WAN接続先」画面の「回線種別設定」項目を設定してください。

この章では、
各メニューで表示される設定画面について説明します。

「TOP」画面	4-7
■ 製品情報	4-7
■ ネットワーク情報	4-7
■ IP回線情報	4-7

情報表示

「SYSLOG」画面	4-8
■ SYSLOG	4-8
「無線LAN情報」画面	4-9
■ アクセスポイント情報	4-9
■ 仮想AP一覧	4-9
■ 端末情報	4-10
■ 通信端末詳細情報	4-10
「PBX情報」画面	4-11
■ 内線代表一覧	4-11
■ 内線一覧	4-12
「電話通信記録」画面	4-13
■ 電話通信記録	4-13
「内線子機情報」画面	4-14
■ 内線子機情報	4-14
「留守電情報」画面	4-15
■ 留守電ボックス情報	4-15
■ 内部メモリー録音メッセージ	4-16

ネットワーク設定

「IPアドレス」画面	4-18
■ 本体名称	4-18
■ VLAN設定	4-18
■ IPアドレス	4-19
「DHCPサーバー」画面	4-20
■ DHCPサーバー設定	4-20
■ 静的DHCPサーバー設定	4-23
■ 静的DHCPサーバー設定一覧	4-23
「スタティックルーティング」画面	4-24
■ IP経路情報	4-24
■ スタティックルーティング設定	4-25
■ スタティックルーティング設定一覧	4-25
「ポリシールーティング」画面	4-26
■ 送信元ルーティング設定	4-26
■ 送信元ルーティング設定一覧	4-26
「QoS」画面	4-27
■ QoS設定	4-27
■ QoSルール設定	4-28
■ QoSルール設定一覧	4-28

4 設定画面について

下記は、前ページからの「つづき」です。

ルーター設定

「WAN接続先」画面	4-29
■ 回線状態表示 [DHCPクライアント設定時]	4-29
■ 回線状態表示 [固定IP設定時]	4-30
■ 回線状態表示 [PPPoE設定時]	4-31
■ 回線種別設定	4-32
■ 回線設定 [DHCPクライアント設定時]	4-33
■ 回線設定 [固定IP設定時]	4-34
■ 回線設定 [PPPoE設定時]	4-35
■ 回線設定一覧 [PPPoE設定時]	4-37
「VoIP用WAN」画面	4-38
■ 回線状態表示	4-38
■ 回線種別設定	4-39
■ 回線設定 [DHCPクライアント(DNS手動)設定時]	4-39
■ 回線設定 [固定IP設定時]	4-40
「アドレス変換」画面	4-41
■ アドレス変換設定	4-41
■ DMZホスト設定	4-41
■ 静的マスカレードテーブル設定	4-42
■ 静的マスカレードテーブル設定一覧	4-42
「IPフィルター」画面	4-43
■ IPフィルター	4-43
■ IPフィルター設定一覧	4-49
「簡易DNS」画面	4-50
■ DNSサーバーの代理応答	4-50
■ 簡易DNSサーバー設定	4-50
■ 簡易DNSサーバー設定一覧	4-50
「VPN」画面	4-51
■ IPsec設定	4-51
■ IPsecトンネル設定	4-52
■ IPsecトンネル設定一覧	4-54
「不正アクセス対策」画面	4-55
■ ICMPステルス	4-55

無線LAN設定

「無線LAN設定」画面	4-56
■ 無線LAN設定	4-56
「仮想AP」画面	4-58
■ 仮想AP設定	4-58
■ 暗号化設定	4-61
■ RADIUS設定	4-67
■ アカウンティング設定	4-68
「MACアドレスフィルタリング」画面	4-69
■ MACアドレスフィルタリング設定	4-69
■ 端末MACアドレスリスト	4-70
■ MACアドレスフィルタリング設定一覧	4-71
「WMM詳細」画面	4-72
■ WMM詳細設定	4-72
■ WMMパワーセーブ設定	4-77
「レート」画面	4-78
■ レート設定	4-78
■ プリセットされた各レート設定	4-79

4 設定画面について

下記は、前ページからの「つづき」です。

■ 通信レートの各設定について	4-81
■ MCS値ごとの通信レートについて	4-82
■ 仮想AP共通設定	4-83
「ARP代理応答」画面	4-84
■ ARP代理応答設定	4-84
■ ARPキャッシュ情報	4-85

電話回線設定

「IP回線」画面	4-86
■ SIPサーバー接続共通設定	4-86
■ SIPサーバー設定 [ひかり電話(網直収)]	4-89
■ SIPサーバー設定 [ひかり電話(GW配下)]	4-91
■ SIPサーバー設定 [IP Voice(インターネット併用)]	4-93
■ SIPサーバー設定 [IP Voice(UNO接続)]	4-95
■ SIPサーバー設定 [サーバー接続]	4-97
■ SIPサーバー設定一覧(契約者番号) [ひかり電話(網直収)]	4-99
■ SIPサーバー設定一覧(追加番号) [ひかり電話(網直収)]	4-100
■ SIPサーバー設定一覧 [ひかり電話(GW配下)]	4-101
■ SIPサーバー設定一覧(契約者番号) [IP Voice(インターネット併用)]	4-103
■ SIPサーバー設定一覧(追加番号) [IP Voice(インターネット併用)]	4-104
■ SIPサーバー設定一覧(契約者番号) [IP Voice(UNO接続)]	4-105
■ SIPサーバー設定一覧(追加番号) [IP Voice(UNO接続)]	4-106
■ SIPサーバー設定一覧 [サーバー接続]	4-107
■ SIPサーバー一括設定 [ひかり電話(網直収)]	4-109
■ SIPサーバー一括設定 [ひかり電話(GW配下)]	4-110
■ SIPサーバー一括設定 [IP Voice(インターネット併用)]	4-111
■ SIPサーバー一括設定 [IP Voice(UNO接続)]	4-112
■ SIPサーバー一括設定 [サーバー接続]	4-113
「回線グループ」画面	4-114
■ 回線スライド設定	4-114
■ 回線グループ設定	4-115
■ 回線グループ設定一覧	4-115

Peer to Peer設定

「Peer to Peer」画面	4-116
■ Peer to Peer共通設定	4-116
■ Peer to Peer設定	4-117
■ Peer to Peer設定一覧	4-118
「VoIP電話帳」画面	4-119
■ VoIP電話帳の保存と書き込み	4-119
■ VoIP電話帳への登録	4-121
■ VoIP電話帳登録一覧	4-122

PBX設定

「基本」画面	4-123
■ 基本設定	4-123
「特番」画面	4-125
■ 特番設定	4-125
■ 外線発信特番設定	4-131
「内線個別」画面	4-132
■ 内線個別設定	4-132
■ 内線設定一覧	4-134

4 設定画面について

下記は、前ページからの「つづき」です。

■ 内線一括設定	4-135
「TEL」画面	4-136
■ TEL設定	4-136
「内線代表」画面	4-138
■ 内線代表設定	4-138
■ 内線代表設定一覧	4-141
「着信」画面	4-142
■ 着信設定	4-142
「電話機(KX-UTシリーズ)」画面	4-143
■ 電話機のメンテナンス	4-143
■ 電話機設定	4-144
■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ)[共通設定]	4-144
■ 発信音 [共通設定]	4-145
■ 話中音 [共通設定]	4-146
■ 規制音 [共通設定]	4-147
■ 呼出音 [共通設定]	4-148
■ 保留アラーム音 [共通設定]	4-149
■ 着信音パターン [共通設定]	4-150
■ 着信音パターン割り当て [共通設定]	4-151
■ 機種共通設定 [設定グループ]	4-152
■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ)[設定グループ]	4-153
「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面	4-164
■ 電話機のメンテナンス	4-164
■ 電話機設定	4-165
■ 発信音 [共通設定]	4-166
■ 話中音 [共通設定]	4-167
■ 規制音 [共通設定]	4-168
■ 呼出音 [共通設定]	4-169
■ 保留アラーム音 [共通設定]	4-170
■ 着信音パターン [共通設定]	4-171
■ 着信音パターン割り当て [共通設定]	4-172
■ 機種共通設定 [設定グループ]	4-173
■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)[設定グループ]	4-174
「増設ユニット(KX-HDV230)」画面	4-186
■ 電話機のメンテナンス	4-186
■ 電話機設定	4-187
■ 機種個別設定(KX-HDV230)[増設ユニット]	4-188
「電話機(IP200H)」画面	4-189
■ 電話機のメンテナンス	4-189
■ 電話機詳細設定	4-191
■ 電話機詳細設定コピー	4-208
■ 電話機設定	4-209
■ 内線発信音 [共通設定]	4-210
■ 外線発信音 [共通設定]	4-211
■ 第2発信音 [共通設定]	4-212
■ 話中音 [共通設定]	4-213
■ 規制音 [共通設定]	4-214
■ 呼出音 [共通設定]	4-215
■ 保留アラーム音 [共通設定]	4-216
■ 通話中着信表示音 [共通設定]	4-217
■ 機種共通設定 [設定グループ]	4-218
■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]	4-219

4 設定画面について

下記は、前ページからの「つづき」です。

■ 着信音 [設定グループ]	4-230
■ 着信音パターン [設定グループ]	4-231
■ 着信音パターン割り当て [設定グループ]	4-232
「電話機 (IP200PG)」画面	4-233
■ 電話機のメンテナンス	4-233
■ 電話機詳細設定	4-235
■ 電話機詳細設定コピー	4-256
■ 電話機設定	4-257
■ 話中音 [共通設定]	4-258
■ 規制音 [共通設定]	4-259
■ 呼出音 [共通設定]	4-260
■ 機種共通設定 [設定グループ]	4-261
■ 機種個別設定 (IP200PG) [設定グループ]	4-262
■ 着信音 [設定グループ]	4-263
■ 着信音パターン [設定グループ]	4-264
■ 着信音パターン割り当て [設定グループ]	4-265
「電話帳」画面	4-266
■ 設定グループ選択	4-266
■ 電話帳の保存と書き込み	4-267
■ 電話帳への登録	4-269
■ 電話帳登録一覧	4-271
PBX拡張設定	
「拡張」画面	4-272
■ SIP拡張設定	4-272
■ VoIP設定	4-274
「番号計画」画面	4-277
■ 電話番号ルーティング設定	4-277
■ 電話番号ルーティング設定一覧	4-278
■ 番号計画例外ルール	4-279
■ 発信先番号ルール設定	4-280
■ 発信先番号ルール一覧	4-281
■ 発信規制ルール設定	4-282
■ 発信規制ルール一覧	4-283
「外線サービスグループ」画面	4-284
■ 外線サービスグループ設定	4-284
「昼夜切替」画面	4-285
■ 昼夜切替曜日設定	4-285
■ 昼夜切替日付設定	4-286
「夜間転送先」画面	4-287
■ 夜間転送先	4-287
「通話数制限」画面	4-288
■ 通話数制限設定 (システム全体)	4-288
■ 通話数制限設定	4-289
「ゲートウェイ接続」画面	4-290
■ ゲートウェイ接続設定	4-290
■ ゲートウェイ接続設定一覧	4-291
「番号表示変換」画面	4-292
■ 発信元回線設定	4-292
■ 番号表示変換ルール設定	4-293
■ 番号表示変換ルール一覧	4-294

4 設定画面について

下記は、前ページからの「つづき」です。

管理

「管理者」画面	4-295
■ 管理者パスワードの変更	4-295
■ ユーザー画面 管理設定	4-296
「時計」画面	4-297
■ 時刻設定	4-297
■ 自動時計設定	4-298
■ SNTPサーバー設定	4-300
「SYSLOG」画面	4-301
■ SYSLOG設定	4-301
「SNMP」画面	4-302
■ SNMP設定	4-302
「管理ツール」画面	4-303
■ USB設定	4-303
■ HTTP/HTTPS設定	4-306
■ HTTP/HTTPS設定後、設定画面にアクセスできなくなったときは	4-307
■ Telnet/SSH設定	4-308
■ SSH公開鍵管理	4-310
「ネットワークテスト」画面	4-311
■ PINGテスト	4-311
■ 経路テスト	4-312
「EXTポート」画面	4-313
■ 異常監視	4-313
「再起動」画面	4-314
■ 再起動	4-314
「設定の保存/復元」画面	4-315
■ 設定の保存	4-315
■ 設定の復元	4-315
■ 設定内容一覧	4-316
「初期化」画面	4-317
■ 初期化	4-317
「ファームウェアの更新」画面	4-318
■ ファームウェア情報	4-318
■ オンライン更新	4-319
■ 自動更新	4-320
■ 手動更新	4-321

4 設定画面について

「TOP」画面

TOP

■ 製品情報

ファームウェアのバージョン情報、本製品のMACアドレス(LAN/WAN/無線)を表示します。

製品情報	
本体名称	SR-7100VN
IPL	Rev
バージョン	Ver. (N) Copyright Icom Inc.
内蔵ファームウェアバージョン (IP200H)	
内蔵ファームウェアバージョン (IP200PG)	
LAN MACアドレス	
WAN MACアドレス	
無線1 MACアドレス	
無線2 MACアドレス	

※MACアドレスは、本製品のようなネットワーク機器がそれぞれ独自に持っている機器固有の番号で、12桁(0090C7×××××)で表示されています。

TOP

■ ネットワーク情報

本製品のIPアドレスなど、ネットワーク情報を表示します。

ネットワーク情報	
WAN動作モード	PPPoE
WAN情報	-
LAN IPアドレス	192.168.0.1
DHCPサーバー	有効

TOP

■ IP回線情報

本製品に設定したIP回線の電話番号を表示します。

IP回線情報	
IP回線	

4 設定画面について

「SYSLOG」画面

情報表示 > SYSLOG

■ SYSLOG

本製品のログ情報は、「情報表示」メニューの「SYSLOG」画面で確認できます。

日付・時間	表示するレベル	内容
01-01 00:07:59	NOTICE	system: SR-7100VN Ver. Copyright Icom Inc.

- ① 表示するレベル ……………

非表示に設定するときは、非表示にするレベルのチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✓]をはずします。
※「SYSLOG」画面のチェックボックス状態は、保存されません。設定画面へのアクセスごとに、元の状態に戻ります。
- ② <最新の情報に更新> ……………

[表示するレベル](①)欄でチェックマーク[✓]のあるレベルについてのSYSLOG情報を最新の状態にするボタンです。
※最大1000件のログ情報を記憶できます。
1000件を超えると、古いログ情報から削除されます。
- ③ <保存> ……………

本製品の内部に蓄積されている最新のログ情報を保存するボタンです。
※クリックして、表示された画面にしたがって操作すると、ログ情報をテキスト形式(拡張子:txt)で保存できます。
- ④ <クリア> ……………

表示されたログ情報を削除するボタンです。

4 設定画面について

「無線LAN情報」画面

情報表示 > 無線LAN情報 > 無線1/無線2

■ アクセスポイント情報

本製品の無線LAN機能で使用しているチャンネルと帯域幅を表示します。

◎無線1：2.4GHz帯

◎無線2：5GHz帯

※本書では、「無線1」の画面で説明しています。



情報表示 > 無線LAN情報 > 無線1/無線2

■ 仮想AP一覧

仮想APごとに、設定状況を一覧で表示します。

◎無線1：2.4GHz帯

◎無線2：5GHz帯

※本書では、「無線1」の画面で説明しています。

※使用していない仮想APの一覧は、[インターフェース]欄以外が空白になります。

仮想AP一覧

インターフェース	BSSID	SSID	VLAN ID	暗号化
ath0		WIRELESSLAN-0	0	なし
ath1				
ath2				
ath3				
ath4				
ath5				
ath6				
ath7				

4 設定画面について

「無線LAN情報」画面

情報表示 > 無線LAN情報 > 端末情報

■ 端末情報

本製品の仮想APと通信する無線LAN端末があるとき、その無線LAN端末との通信情報を表示します。

端末情報				
現在時刻: 2022/01/01 00:00:00				最新の情報に更新
帰属AP	MACアドレス	IPアドレス	通信モード	
ath0	08:00:27:00:00:00	192.168.1.100	IEEE 802.11ng	詳細

※「最新の情報に更新」をクリックすると、表示内容を最新の状態にします。

※帰属AP(無線LAN端末が接続している仮想AP)のARP代理応答機能(P.4-84)が「有効」に設定された状態で通信し、本製品が学習した場合に無線LAN端末のIPアドレスが表示されます。
ARP代理応答機能が「無効」の場合は、「-」が表示されます。

※「詳細」をクリックすると、通信中の無線LAN端末について別画面(下図)で表示します。

情報表示 > 無線LAN情報 > 端末情報

■ 通信端末詳細情報

無線LAN端末と通信中、「無線LAN情報」画面の「端末情報」項目に表示された「詳細」をクリックすると表示されます。

通信端末詳細情報	
通信状況:	通信中
インターフェース:	ath0
MACアドレス:	08:00:27:00:00:00
IPアドレス:	192.168.1.100
通信モード:	IEEE 802.11ng
SSID:	WIRELESSLAN-0
暗号化:	WPA2-PSK (AES)
チャンネル:	005 CH (2432MHz)
信号レベル:	 56
レート:	送信 72 Mbps / 受信 144 Mbps
WMM:	有効
WMMのPowerSave:	無効
接続時間:	0 days 00:01:40

※帰属AP(無線LAN端末が接続している仮想AP)のARP代理応答機能(P.4-84)が「有効」に設定された状態で通信し、本製品が学習した場合に無線LAN端末のIPアドレスが表示されます。
ARP代理応答機能が「無効」の場合は、「-」が表示されます。

※「信号レベル」欄に、無線LAN端末から受信した電波信号の強さを、メーターと数値で表示します。

表示	[赤]	[黄]	[緑]	[青]
レベル	0~4	5~14	15~29	30以上

安定した通信の目安は、「緑(15)」以上のレベルです。(単位はありません)

ただし、信号レベルが高くても、同じ周波数帯域を使用する無線LAN機器が近くで稼働している場合や無線LAN機器の稼働状況などにより、通信が安定しないことがあります。

したがって、あくまでも通信の目安としてご利用ください。

4 設定画面について

「PBX情報」画面

情報表示 > PBX情報

■ 内線代表一覧

登録された内線子機に対する各内線代表番号と、内線代表の設定内容を表示します。

※画面の内容は、各内線子機の登録例です。

内線代表に属さない内線 ①		501
② 200 (営業部)	内線一覧 ③	201 202 203
	1次着信	201
	2次着信 ④	202 203
	3次着信	なし
300 (購買部)	内線一覧	301 302
	1次着信	301 302
	2次着信	なし
	3次着信	なし
400 (資材部)	内線一覧	401 402
	順次着信	401 402

- ① 内線代表に属さない内線 …………… 内線代表に所属しない内線子機の内線番号を表示します
- ② 内線代表番号 …………… 内線子機が所属する内線代表の内線番号と内線代表名を表示します。
- ③ 内線一覧 …………… 内線代表に所属する内線子機の内線番号を表示します。
- ④ 内線代表着信設定 …………… 内線代表番号(②)に着信したとき、鳴動させる内線子機の内線番号を表示します。

4 設定画面について

「PBX情報」画面

情報表示 > PBX情報

■ 内線一覧

登録された内線代表に所属する各内線子機の設定内容を表示します。

※画面の内容は、各内線子機の登録例です。

内線一覧			
① 501 (営業)	② 内線代表番号	内線代表なし	
	③ 機種	自動	
	④ ダイヤルイン番号	なし	
	⑤ 自動捕捉回線番号	IP回線	03
		Peer to Peer	なし
	⑥ 留守電ボックス	ボックス1	
	⑦ WAN側からの接続	禁止	
	⑧ MACアドレス	--	
	⑨ IPアドレス	--	
201	内線代表番号	200	

- ① 内線番号 登録された内線子機の内線番号を表示します。
※名前が登録されている場合は、名前も表示されます。
- ② 内線代表番号 登録された内線子機が所属している内線代表の内線代表番号を表示します。
※内線代表に所属しない内線子機の場合は、「内線代表なし」を表示します。
- ③ 機種 登録された内線子機の機種(自動、KX-UTシリーズ、KX-HDVシリーズ、IP200H、IP200PG、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2、TEL3、TEL4)を表示します。
- ④ ダイヤルイン番号 登録された内線子機に着信するダイヤルイン番号を表示します。
※ダイヤルイン(着信内線番号)が設定されていない場合は、「なし」を表示します。
- ⑤ 自動捕捉回線番号 登録された内線子機で発信するときの回線捕捉を表示します。
- ⑥ 留守電ボックス 登録された内線子機で使用するボックス番号(ボックス1～ボックス10)を表示します。
- ⑦ WAN側からの接続 登録された内線子機へのWAN側回線からの登録(レジスト)状態(禁止/許可)を表示します。
- ⑧ MACアドレス 登録された内線子機(KXシリーズ)のMACアドレスを表示します。
- ⑨ IPアドレス 登録された内線子機が使用しているIPアドレスを表示します。
※内線子機が本製品に接続していない(電源が入っていない)場合は、「--」を表示します。

4 設定画面について

「電話通信記録」画面

情報表示 > 電話通信記録

■ 電話通信記録

IP電話の発信と着信履歴、および電話機能に関する履歴を表示します。

日付・時間	内容
11/10 14:45:12	終了: <通話終了> (ID=6)
11/10 14:44:57	通話開始: *8401〔留守電ボックス1〕 (ID=6)
11/10 14:44:56	内線発信: 33〔事務1〕 → *8401〔留守電ボックス1〕 (ID=6)
11/10 14:44:49	終了: <通話終了> (ID=5)
11/10 14:44:44	留守番電話の切替: 33〔事務1〕 <開始> (ID=5)
11/10 14:44:32	終了: <通話終了> (ID=4)
11/10 14:44:32	終了: <通話終了> (ID=3)
11/10 14:44:24	通話開始: 06-■■■■■■ (ID=3)
11/10 14:44:24	通話開始: 33〔事務1〕 (ID=4)
11/10 14:44:19	SIPサーバ(3)着信: 06-■■■■■■ → 33〔事務1〕 (ID=4)
11/10 14:44:19	SIPサーバ(1)発信: 41〔TEL1〕 → 06-■■■■■■ (ID=3)
11/10 14:44:06	終了: <通話終了> (ID=2)
11/10 14:43:55	SIPサーバ(1)発信: 41〔TEL1〕 → ■■■■■■ (ID=2)
11/10 14:43:27	終了: <通話終了> (ID=1)
11/10 14:43:21	通話開始: 34〔営業1〕 (ID=1)
11/10 14:43:17	内線発信: 41〔TEL1〕 → 34〔営業1〕 (ID=1)
11/10 14:43:09	[REGISTER]端末登録: 33〔事務1〕
11/10 14:42:02	[REGISTER]端末登録: 34〔営業1〕
11/10 14:37:49	[REGISTER]端末登録: 34〔営業1〕
11/10 14:24:54	[REGISTER]端末登録: 33〔子機No.3〕

- ① <最新の情報に更新> …………… 履歴を最新の状態にするボタンです。
※最大1000件の履歴を記憶できます。
1000件を超えると、古い履歴から削除されます。
- ② <保存> …………… 表示された履歴を保存するボタンです。
<保存>をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、履歴をテキスト形式(拡張子:txt)で保存できます。
- ③ <クリア> …………… 表示された履歴を削除するボタンです。

4 設定画面について

「内線子機情報」画面

情報表示 > 内線子機情報

■ 内線子機情報

本製品に登録した内線子機の情報を表示します。

内線子機情報						
						1 最新の情報に更新
	2 名前	3 内線番号	4 機種	5 バージョン	6 IPアドレス	7 プレゼンス
1	受付 1	31	自動 (KX-HDVシリーズ)	02.502		オンライン
2	受付 2	32	自動 (KX-HDVシリーズ)	02.502		離席
3	事務 1	33	自動 (IP200H)			電話中
4	営業 1	34	自動			電話中

- 1 **最新の情報に更新** …………… 本製品に登録した内線子機の情報を更新するとき、クリックします。
- 2 **名前** …………… 「PBX設定」メニュー→「内線個別」画面の [内線個別設定]項目に登録された名前を表示します。
- 3 **内線番号** …………… 「PBX設定」メニュー→「内線個別」画面の [内線個別設定]項目に登録された内線番号を表示します。
- 4 **機種** …………… 「PBX設定」メニュー→「内線個別」画面の [内線個別設定]項目に登録された機種を表示します。
※「自動」に設定された内線子機を本製品に接続した(電源が入っている)場合は、取得した機種情報を上図のように表示します。
- 5 **バージョン** …………… 本製品に登録した内線子機のファームウェア情報を表示します。
※内線子機(KXシリーズ、IP200H、IP200PG)を本製品に接続していない(電源が入っていない)場合は、空欄になります。
- 6 **IPアドレス** …………… 本製品に登録した内線子機が使用しているIPアドレスを表示します。
※内線子機を本製品に接続していない(電源が入っていない)場合は、空欄になります。
- 7 **プレゼンス** …………… 本製品に登録した内線子機の使用状況を表示します。
オフライン : 電話機未登録
オンライン★ : 電話機登録成功
電話中★ : 通話中(保留中)
離席★ : 不在転送設定中(無線系端末を除く)
★は登録成功時

4 設定画面について

「留守電情報」画面

情報表示 > 留守電情報

■ 留守電ボックス情報

留守電ボックスごとの使用状態を表示します。

ボックス1	状態	動作中	
	保存件数	内部メモリー	新着：2件 再生済み：1件
ボックス2	状態	動作中	
	保存件数	内部メモリー	新着：1件 再生済み：0件
ボックス3	状態	停止中	
	保存件数	内部メモリー	新着：0件 再生済み：0件
ボックス4	状態	停止中	
	保存件数	内部メモリー	新着：0件 再生済み：0件
ボックス5	状態	停止中	
	保存件数	内部メモリー	新着：0件 再生済み：0件
ボックス6	状態	停止中	
	保存件数	内部メモリー	新着：0件 再生済み：0件
ボックス7	状態	停止中	
	保存件数	内部メモリー	新着：0件 再生済み：0件
ボックス8	状態	停止中	
	保存件数	内部メモリー	新着：0件 再生済み：0件
ボックス9	状態	停止中	
	保存件数	内部メモリー	新着：0件 再生済み：0件
ボックス10	状態	停止中	
	保存件数	内部メモリー	新着：0件 再生済み：0件

ボックス1～ボックス10 ………

留守番電話のボックスごとに、新着や再生済みの件数など使用状態を表示します。

※「PBX設定」メニュー→「基本」画面→[留守番電話機能]欄を「無効」に設定しているときは、赤文字で「留守番電話機能は無効です。」と表示されます。留守番電話機能を使用する場合は、「有効」に設定してください。

※留守番電話機能を使用する回線(電話番号)ごとのボックス番号、保存できる録音件数などは、ユーザー用の設定画面で設定できます。

詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。

4 設定画面について

「留守電情報」画面

情報表示 > 留守電情報

■ 内部メモリー録音メッセージ

録音された留守番電話ごとに、相手先の電話番号や状態などを表示します。

※「PBX設定」メニュー→「基本」画面→「留守番電話の保存先」欄を「USBメモリー」に設定しているときは、「USBメモリー録音メッセージ」項目を表示します。

※録音メッセージの削除については、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」(留守番電話操作一覧)をご覧ください。

内部メモリー 録音メッセージ					
ボックス番号 ①	録音日時 ②	相手先番号 ③	着信先番号 ④	状態 ⑤	音声データ ⑥
1	2016/11/10 15:02	06 [非通知]	06 [非通知]	再生済み	FB01M001.wav
1	2016/11/10 15:03	06 [非通知]	06 [非通知]	新着	FB01M002.wav
1	2016/11/10 15:03	06 [非通知]	06 [非通知]	新着	FB01M003.wav
2	2016/11/10 15:04	06 [非通知]	06 [非通知]	新着	FB02M001.wav

- ① **ボックス番号** メッセージが録音されたボックス番号(1～10)を表示します。
- ② **録音日時** メッセージが録音された日時を表示します。
- ③ **相手先番号** ナンバーディスプレイサービスをご契約の場合、メッセージを録音した相手先から通知された発信者番号を表示します。
発信者番号を表示できないときは、非通知理由を下記の記号で表示します。
◎P：ユーザー非通知(相手が非通知発信(184発信など)したことによる非通知)
◎C：公衆電話発信による非通知
◎O：サービス提供不可(一部の国際電話などで非通知理由が取得できない場合)
◎S：サービス競合のため通知不可能(相手から発信者番号が通知されているが、サービスの契約条件などにより発信番号を通知しない)
※ナンバーディスプレイサービスをご契約でない場合は、非通知理由として、O(サービス提供不可)を表示します。
- ④ **着信先番号** 不在時などにメッセージが録音された電話番号を表示します。
※留守番電話を使用する電話番号(本製品に登録した回線)とボックス番号の設定は、ユーザー用の設定画面で設定できます。
詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。
- ⑤ **状態** メッセージの確認状態を「再生済み」/「新着」で表示します。
- ⑥ **音声データ** ファイル名を右クリックして、表示された画面にしたがって操作すると、音声データ(拡張子:wav)を保存できます。
※ファイル名をクリックすると、再生用ソフトウェア(Windows Media Playerなど)が起動して、音声データ(拡張子:wav)を再生できます。
※操作方法は、ご使用のソフトウェアによって異なりますので、ソフトウェアの取扱説明書などでご確認ください。

4 設定画面について

「IPアドレス」画面

ネットワーク設定 > IPアドレス

■ 本体名称

本製品の名称を設定します。

本体名称
本体名称: <input type="text" value="SR-7100VN"/>

本体名称…………… 「Telnet」で本製品に接続したとき、ここで設定した本体名称を表示します。
(出荷時の設定：SR-7100VN)
※半角英数字(a～z、A～Z、0～9、-)を、任意の31文字以内で設定します。
なお、半角英数字以外の文字は、使用しないでください。
※「- (ハイフン)」を本体名称の先頭、または末尾に使用すると、登録できません。

ネットワーク設定 > IPアドレス

■ VLAN設定

VLAN機能についての設定です。

VLAN設定
マネージメントID: <input type="text" value="0"/>

マネージメントID …………… 本製品に設定された同じID番号を持つネットワーク上の機器からのアクセスだけを許可できます。(出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「0～4094」です。
※VLAN IDを使用しないネットワークから本製品にアクセスするときは、「0」を設定します。
※不用意に設定すると、本製品の設定画面にアクセスできなくなりますのでご注意ください。

4 設定画面について

「IPアドレス」画面

ネットワーク設定 > IPアドレス

■ IPアドレス

本製品のIPアドレスを設定します。

- ① IPアドレス** 本製品のIPアドレスを入力します。 (出荷時の設定：192.168.0.1)
本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークアドレスに変更してください。
※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合は、[割り当て開始IPアドレス]欄(P.4-20)についてもネットワーク部を同じに設定してください。
- ② サブネットマスク** 本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。 (出荷時の設定：255.255.255.0)
※本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。
- ③ デフォルトゲートウェイ** 本製品のIPアドレスとネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器のIPアドレスを入力します。
※本製品と同じIPアドレスは登録できません。
※WAN側などのデフォルトゲートウェイが有効になった場合、この欄で設定した経路は無効になります。
- ④ プライマリーDNSサーバー** 本製品がアクセスするDNSサーバーのアドレスを入力します。
※使い分けたいアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力してください。
- ⑤ セカンダリーDNSサーバー** [プライマリーDNSサーバー](④)欄と同様に、本製品がアクセスするDNSサーバーのアドレスを入力します。
※必要に応じて、使い分けたいDNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。
- ⑥ <登録>** 「IPアドレス」画面で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑦ <取消>** 「IPアドレス」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「DHCPサーバー」画面

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ DHCPサーバー設定

本製品のDHCPサーバー機能を設定します。

※7、8は「簡易DNS」画面の「DNSサーバーの代理応答」項目にある「DNS代理応答」欄(P.4-50)を「無効」に設定した場合に表示されます。

- ① DHCPサーバー 本製品のDHCPサーバー機能を設定します。(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、「割り当て開始IPアドレス」(②)欄と「割り当て個数」(③)欄に設定された内容にしたがって、DHCPサーバーとして動作します。
- ② 割り当て開始IPアドレス 本製品に接続する端末へ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。(出荷時の設定：192.168.0.10)
- ③ 割り当て個数 本製品が自動割り当てできるIPアドレスの個数を設定します。(出荷時の設定：128)
「割り当て開始IPアドレス」(②)欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当てできるIPアドレスの最大個数は、「0～250」(個)までです。
※250個を超える分については設定できませんので、手動でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てをしません。
- ④ リース期間 DHCPサーバーが割り当てるIPアドレスの有効期間を時間で指定します。設定できる範囲は、「1～720」(時間)です。(初期値：72)
- ⑤ ドメイン名 指定のドメイン名を設定する必要があるときは、DHCPサーバーが有線で接続する端末に通知するネットワークアドレスのドメイン名を253文字(半角英数字)以内で入力します。

4 設定画面について

「DHCPサーバー」画面

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ DHCPサーバー設定

※⑦、⑧は「簡易DNS」画面の「DNSサーバーの代理応答」項目にある「DNS代理応答」欄(P.4-50)を「無効」に設定した場合に表示されます。

DHCPサーバー設定

DHCPサーバー：① 無効 有効

割り当て開始IPアドレス：② 192.168.0.10

割り当て個数：③ 128 個

リース期間：④ 72 時間

ドメイン名：⑤ _____

デフォルトゲートウェイ：⑥ _____

プライマリーDNSサーバー：⑦ _____

セカンダリーDNSサーバー：⑧ _____

プライマリーWINSサーバー：⑨ _____

セカンダリーWINSサーバー：⑩ _____

TFTPサーバーの配布：⑪ 無効 有効

TFTPサーバー：⑫ _____

登録 取消

- ⑥ デフォルトゲートウェイ …… 本製品のDHCPサーバー機能を使用するときに、[割り当て開始IPアドレス] (②) 欄のIPアドレスとネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器のIPアドレスを入力します。
空白にした場合は、本製品をデフォルトゲートウェイとして通知します。
※本製品のIPアドレスと重複しないように設定してください。
- ⑦ プライマリーDNSサーバー …… DNSサーバーを利用する場合は、DNSサーバーアドレスを入力します。
DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
※[DNS代理応答]欄(P.4-50)を「有効」に設定している場合は、この欄と[セカンダリーDNSサーバー](⑧)欄は表示されず、本製品がプライマリーDNSサーバーとして通知されます。
- ⑧ セカンダリーDNSサーバー …… [プライマリーDNSサーバー](⑦)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。
- ⑨ プライマリーWINSサーバー …… WINSサーバーを利用する場合は、WINSサーバーアドレスを入力します。
WINSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
- ⑩ セカンダリーWINSサーバー …… [プライマリーWINSサーバー](⑨)欄と同様、WINSサーバーのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

4 設定画面について

「DHCPサーバー」画面

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ DHCPサーバー設定

※⑦、⑧は「簡易DNS」画面の「DNSサーバーの代理応答」項目にある「DNS代理応答」欄(P.4-50)を「無効」に設定した場合に表示されます。

- ⑪ TFTPサーバーの配布…………… KXシリーズの電話機を設定(プロビジョニング)するために、本製品のTFTPサーバー機能を設定します。(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、電話機は本製品から設定データを取得して、自動的に設定を反映します。
※ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面でMACアドレスの登録が必要です。
※電話機は、DHCPサーバーからTFTPサーバー(⑫)のアドレスを取得しますので、固定IPアドレスで運用される場合は、本書2-8ページの設定方法をご覧ください。
- ⑫ TFTPサーバー…………… KXシリーズの電話機が設定(プロビジョニング)を取得するために、接続するTFTPサーバーのアドレスを入力します。(出荷時の設定：空白)
※空白の場合は、本製品の「IPアドレス」項目にある「IPアドレス」欄(P.4-19)の設定が、TFTPサーバーのアドレスになります。
- ⑬ <登録> …………… [DHCPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑭ <取消> …………… [DHCPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「DHCPサーバー」画面

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ 静的DHCPサーバー設定

固定IPアドレスを特定の端末に割り当てる設定です。

静的DHCPサーバー設定		
MACアドレス	IPアドレス	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>

端末のMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録します。

※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合に有効です。(P.4-20)

※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。

※最大32個の組み合わせまで登録できます。

※DHCPサーバー機能により自動で割り当てられるIPアドレスの範囲外でIPアドレスを設定してください。

例：[DHCPサーバー設定]項目(P.4-20)で、[割り当て開始IPアドレス]欄と[割り当て個数]欄が初期値の場合は、192.168.0.138以降のIPアドレスを設定してください。

※本製品のIPアドレスと重複しないように設定してください。

ネットワーク設定 > DHCPサーバー

■ 静的DHCPサーバー設定一覧

[静的DHCPサーバー設定]項目で登録した内容を表示します。

静的DHCPサーバー設定一覧		
MACアドレス	IPアドレス	
XXXXXXXXXX	192.168.0.140	<input type="button" value="削除"/>
XXXXXXXXXX	192.168.0.200	<input type="button" value="削除"/>

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

4 設定画面について

「スタティックルーティング」画面

ネットワーク設定 > スタティックルーティング

■ IP経路情報

パケットの送信において、そのパケットをどのルーター、またはどの端末に配送すべきかの情報を表示します。
※この項目には、現在有効な経路だけを表示します。

IP経路情報			
宛先 ①	サブネットマスク ②	ゲートウェイ ③	経路 ④
192.168.0.0	255.255.255.0		lan
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254	lan

- ① 宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ② サブネットマスク 宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。
- ③ ゲートウェイ... 宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ 経路 宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースを表示します。
- ◎lan : インターフェースがLANの場合
 - ◎eth1 : インターフェースがWAN側固定IP、またはWAN側DHCPクライアントの場合
 - ◎ppp0～ppp7 : インターフェースがWAN側PPPoEの場合
 - ◎vti0～vti31 : インターフェースがIPsecの場合

4 設定画面について

「スタティックルーティング」画面

ネットワーク設定 > スタティックルーティング

■ スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を最大256件まで登録できます。

スタティックルーティング設定				
宛先 ①	サブネットマスク ②	ゲートウェイ ③	経路 ④	
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254	ゲートウェイを設定	追加 ⑤

- ① 宛先 対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
- ② サブネットマスク 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。
- ③ ゲートウェイ... パケット転送先ルーターのIPアドレスを入力します。
- ④ 経路 宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースを、「ゲートウェイを選択」、「ppp0(WAN01)～ppp7(WAN08)」、「vti0～vti31」から選択します。
- ⑤ 〈追加〉 クリックすると、入力内容が登録されます。
[スタティックルーティング設定一覧]項目で登録した内容を確認できます。

ネットワーク設定 > スタティックルーティング

■ スタティックルーティング設定一覧

[スタティックルーティング設定]項目で登録した内容を表示します。

※画面の値は、入力例です。

スタティックルーティング設定一覧					
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	経路	①	②
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254		編集	削除
127.0.0.0	255.0.0.0	127.0.0.1		編集	削除

- ① 〈編集〉 登録した内容を編集するときは、該当する欄の〈編集〉をクリックします。
- ② 〈削除〉 登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

4 設定画面について

「ポリシールーティング」画面

ネットワーク設定 > ポリシールーティング

■ 送信元ルーティング設定

送信元の端末(パソコンなど)を特定して、パケットの中継経路を最大32件まで登録できます。

送信元ルーティング設定				
送信元 ①	サブネットマスク ②	ゲートウェイ ③	経路 ④	⑤
192.168.0.20	255.255.255.255		ppp1 (WAN02)	追加

- ① 送信元 送信元のIPアドレスを入力します。
- ② サブネットマスク 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。
- ③ ゲートウェイ... パケット転送先ルーターのIPアドレスを入力します。
- ④ 経路 宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースを、「ゲートウェイを選択」、「ppp0(WAN01)～ppp7(WAN08)」、「vti0～vti31」から選択します。
- ⑤ <追加> クリックすると、入力内容が登録されます。
[送信元ルーティング設定一覧]項目で登録した内容を確認できます。

ネットワーク設定 > ポリシールーティング

■ 送信元ルーティング設定一覧

[送信元ルーティング設定]項目で登録した内容を表示します。

※画面の値は、入力例です。

送信元ルーティング設定一覧				
送信元	サブネットマスク	ゲートウェイ	経路	① ②
192.168.0.20	255.255.255.255		ppp1 (WAN02)	編集 削除

- ① <編集> 登録した内容を編集するときは、該当する欄の<編集>をクリックします。
- ② <削除> 登録した内容を取り消すときは、該当する欄の<削除>をクリックします。

4 設定画面について

「QoS」画面

ネットワーク設定 > QoS

■ QoS設定

IP電話機による通話中、および[TEL] (1～4)ポートに接続された電話機の通話中(オフフックの状態を含む)のとき、WANとLAN間のデータ通信を設定した帯域で制限するための設定をします。

QoS設定

QoS: 有効 無効

送信帯域制限

WAN: 30 Mbps

LAN: 30 Mbps

登録 取消

- ① QoS パケット処理の優先制御機能について設定します。(出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、[QoSルール設定]項目(P.4-28)から登録したQoSルールが有効になり、パケットを優先して送信し、それ以外の送信帯域を制限できます。
※「PBX拡張設定」メニュー→「拡張」画面→[VoIP設定]項目(P.4-274)で、「TOS」、または「Diffserv」を設定すると、VoIPのパケットのTOSを設定します。
- ② 送信帯域制限 優先処理されないデータを送信できる帯域をインターフェースごとに、1Mbps単位で設定します。(出荷時の設定: 30)
設定された帯域を超えるパケットは抑止されますが、優先設定されたパケットは、設定された帯域に関係なく送信されます。
設定できる範囲は、「0～1000」(Mbps)です。
※0を設定しても、通信は完全に遮断できません。
※本製品には、各種ログ機能が搭載されていますが、大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。
動作確認や試験運用以外は、電話の通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。
- ③ <登録> [QoS設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ④ <取消> [QoS設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「QoS」画面

ネットワーク設定 > QoS

■ QoSルール設定

優先するパケットの条件を、DSCP値で指定します。

QoSルール設定

番号: ① 1

DSCP値: ②

③ 追加 ④ 取消

- ① 番号 QoSルールを登録するために、「1～8」の番号を選択します。
最大8件まで登録できます。
登録すると、本製品がパケットを送信するごとに、[QoSルール設定一覧]項目に表示されたルールと比較します。
- ② DSCP値 対象となるDSCP値を入力します。
設定できる範囲は、「0～63」です。
- ③ 〈追加〉 新規作成、または編集した内容をQoSルールとして登録するとき、クリックします。
※[QoSルール設定一覧]項目で登録内容をご確認ください。
※QoSのルールは、1つ以上指定してください。
- ④ 〈取消〉 [QoSルール設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

ネットワーク設定 > QoS

■ QoSルール設定一覧

[QoSルール設定]項目から登録した内容を表示します。

QoSルール設定一覧			
番号	DSCP値	16進表示	① ②
1	46	B8	編集 削除
2	32	80	編集 削除

出荷時の状態では、VoIP関連のパケットを優先できるように、番号「1」にDSCP値「46」、「2」にDSCP値「32」が登録されています。

- ① 〈編集〉 ボタンの左側に表示されたQoSルールを編集するボタンです。
〈編集〉をクリックすると、表示された内容を[QoSルール設定]項目の各欄に表示します。
- ② 〈削除〉 ボタンの左側に表示されたQoSルール設定を削除するボタンです。

4 設定画面について

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線状態表示 [DHCPクライアント設定時]

[回線種別設定]項目(P.4-32)、[回線設定]項目(P.4-33)で設定したWAN側回線への接続状態を表示します。

※下図は、表示例です。

回線状態表示	
① 接続状態	ケーブル未接続 <input type="button" value="最新の状態に更新"/>
② 回線種別	DHCPクライアント
③ DNSサーバー	
④ 本体側のIPアドレス	
⑤ 相手先のIPアドレス	

- ① **接続状態** WAN側回線への接続状態を「ケーブル未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。
〈最新の状態に更新〉
現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
※クリックしても [接続状態]欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ② **回線種別** 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ③ **DNSサーバー** 手動設定、またはDHCPで自動取得したDNSサーバーアドレスを表示します。
- ④ **本体側のIPアドレス** 本製品のWAN側に自動取得したIPアドレスを表示します。
- ⑤ **相手先のIPアドレス** DHCPで自動取得したデフォルトゲートウェイを表示します。

4 設定画面について

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線状態表示 [固定IP設定時]

[回線種別設定]項目(P.4-32)、[回線設定]項目(P.4-34)で設定したWAN側回線への接続状態を表示します。

※下図は、表示例です。

回線状態表示	
① 接続状態	ケーブル未接続 最新の状態に更新
② 回線種別	固定IP
③ DNSサーバー	
④ 本体側のIPアドレス	
⑤ 相手先のIPアドレス	

- ① **接続状態** WAN側回線への接続状態を「ケーブル未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。
〈最新の状態に更新〉
現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
※クリックしても [接続状態] 欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ② **回線種別** 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ③ **DNSサーバー** 手動設定したDNSサーバーアドレスを表示します。
- ④ **本体側のIPアドレス** 本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。
- ⑤ **相手先のIPアドレス** 手動設定したデフォルトゲートウェイを表示します。

4 設定画面について

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線状態表示 [PPPoE設定時]

[回線種別設定]項目(P.4-32)、[回線設定]項目(P.4-35)で設定したWAN側回線への接続状態を表示します。
※下図は、表示例です。

回線状態表示		
PPPoEセッション	第1セッション	第2セッション
① 接続先の選択 <input type="button" value="最新の状態に更新"/>	WAN01 <input type="button" value="切断"/>	なし <input type="button" value="接続"/>
② 接続状態	接続試行中	未接続
③ 回線種別	PPPoE	PPPoE
④ DNSサーバー		
⑤ 本体側のIPアドレス		
⑥ 相手先のIPアドレス		
⑦ 接続時間		

- ① 接続先の選択 [回線設定]項目(P.4-35)で登録したWAN側回線への接続先から選択します。
※回線接続中は、選択できません。
〈最新の状態に更新〉
現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状態]②欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- 〈接続〉**
「未接続」のセッションに接続するとき、クリックします。
※現在接続しているセッションは切断します。
- 〈切断〉**
現在接続しているセッションを切断するとき、クリックします。
- ② 接続状態 WAN側回線への接続状態を「ケーブル未接続」/「未接続」/「接続試行中」/「接続中」/「切断試行中」で表示します。
- ③ 回線種別 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ④ DNSサーバー ご契約の回線接続業者のDNSサーバーアドレスを表示します。
- ⑤ 本体側のIPアドレス 本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。
- ⑥ 相手先のIPアドレス ご契約の回線接続業者のIPアドレスを表示します。
- ⑦ 接続時間 ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。

4 設定画面について

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線種別設定

本製品の回線種別についての設定です。

回線種別.....

ご契約の回線接続業者から指定された回線種別を選択します。

(出荷時の設定：使用しない)

「DHCPクライアント」、「固定IP」、「PPPoE」を設定したときは、ルーター機能が有効になり、本製品のWAN側ポートが使用できます。

◎回線を本製品のWAN側ポートに接続しない場合

使用しない

回線を本製品のWAN側ポートに接続しても通信できません。

◎回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合

ブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置と接続できます。

DHCPクライアント★

ルーター機能を使用する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から「DHCP」方式で取得します。

固定IP★

ルーター機能を使用する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から指定された固定のIPアドレスを割り当てて使用します。

PPPoE

本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から「PPPoE」方式で取得します。

★「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄を「ひかり電話(網直収)」に設定したときは、「DHCPクライアント」、「固定IP」を選択できません。

4 設定画面について

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定 [DHCPクライアント設定時]

[回線種別設定]項目(P.4-32)で選択した本製品のWAN側回線について設定します。

回線設定	
接続先名 : ①	<input type="text"/>
プライマリDNSサーバー : ②	<input type="text"/>
セカンダリDNSサーバー : ③	<input type="text"/>
	④ 登録 ⑤ 取消

- ① 接続先名 ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ② プライマリDNSサーバー ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
- ③ セカンダリDNSサーバー [プライマリDNSサーバー] (②) 欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。
- ④ <登録> 「回線設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑤ <取消> 「回線設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

DHCPによる自動取得について

DHCPクライアント設定時、[プライマリDNSサーバー]欄、[セカンダリDNSサーバー]欄が共に空白の場合、DHCPによる自動取得を開始します。

自動取得に成功すると、[回線状態表示]項目の[DNSサーバー]欄にIPアドレスが表示されます。(P.4-29)

4 設定画面について

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定 [固定IP設定時]

[回線種別設定]項目(P.4-32)で選択した本製品のWAN側回線について設定します。

回線設定

接続先名：① _____

IPアドレス：② _____

サブネットマスク：③ _____

デフォルトゲートウェイ：④ _____

プライマリーDNSサーバー：⑤ _____

セカンダリーDNSサーバー：⑥ _____

⑦ 登録 ⑧ 取消

- | | |
|-----------------|---|
| ① 接続先名 | ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 |
| ② IPアドレス | ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側IPアドレスを入力します。 |
| ③ サブネットマスク | ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。 |
| ④ デフォルトゲートウェイ | ご契約の回線接続業者から指定された本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。 |
| ⑤ プライマリーDNSサーバー | ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。 |
| ⑥ セカンダリーDNSサーバー | [プライマリーDNSサーバー](⑤)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。 |
| ⑦ <登録> | 「回線設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。 |
| ⑧ <取消> | 「回線設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

4 設定画面について

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定 [PPPoE設定時]

[回線種別設定]項目(P.4-32)で選択した本製品のWAN側回線について設定します。

回線設定	
接続先の選択	① WAN01 <input type="button" value="▼"/>
接続先名	② WAN01
ユーザーID	③ [マスク]
パスワード	④ [マスク]
接続方法	⑤ 常時 <input type="button" value="▼"/>
IPアドレス	⑥
プライマリーDNSサーバー	⑦
セカンダリーDNSサーバー	⑧
認証プロトコル	⑨ 自動 <input type="button" value="▼"/>
MSS制限値	⑩ 1322
⑪ 登録 ⑫ 取消	

- ① 接続先の選択 接続先を追加するときは、「WAN01」～「WAN08」(最大8件まで設定可能)から選択します。 (出荷時の設定：WAN01)
登録されている接続先の内容を変更するときは、編集する接続先名を選択します。
- ② 接続先名 ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ ユーザーID ご契約の回線接続業者から指定されたログインユーザー名、またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して入力します。
- ④ パスワード ご契約の回線接続業者から指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して入力します。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ⑤ 接続方法 「PPPoE」回線への接続方法を選択します。 (出荷時の設定：常時)
- 手動
[回線状態表示]項目(P.4-31)の〈接続〉/〈切断〉をクリックして、回線を手動で接続、または切断できます。
※本製品を起動したときは、切断された状態です。
- 常時
常時接続します。
[接続先の選択](①)欄で指定した接続先と常に接続状態を保持します。
※本製品を起動したときは、接続された状態です。
※[回線状態表示]項目の〈接続〉/〈切断〉(P.4-31)をクリックすると、手動で操作できます。
- ⑥ IPアドレス ご契約の回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。

4 設定画面について

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定 [PPPoE設定時]

回線設定	
接続先の選択	① WAN01 <input type="button" value="▼"/>
接続先名	② WAN01
ユーザーID	③ <input type="text" value="XXXXXXXX"/>
パスワード	④ <input type="password" value="●●●●"/>
接続方法	⑤ 常時 <input type="button" value="▼"/>
IPアドレス	⑥ <input type="text" value=""/>
プライマリーDNSサーバー	⑦ <input type="text" value=""/>
セカンダリーDNSサーバー	⑧ <input type="text" value=""/>
認証プロトコル	⑨ 自動 <input type="button" value="▼"/>
MSS制限値	⑩ 1322 <input type="button" value="11"/> <input type="button" value="12"/>
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>	

- ⑦ **プライマリーDNSサーバー** …… ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
- ⑧ **セカンダリーDNSサーバー** …… [プライマリーDNSサーバー] (⑦) 欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。
- ⑨ **認証プロトコル** ……………… ご契約の回線接続業者から指定された、認証プロトコルを設定します。
(出荷時の設定：自動)
指定のない場合は、「自動」でご使用ください。
◎PAP
パスワードによってユーザーを識別します。
パスワードが暗号化されないなどの弱点があります。
◎CHAP
認証情報のやり取りが暗号化されるため、PAPよりも安全性が高い認証プロトコルです。
- ⑩ **MSS制限値** ……………… ご契約の回線接続業者から指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。
(出荷時の設定：1322)
設定できる範囲は、「536～1452(バイト)」です。
MSS値とは、受信できるTCP最大セグメントサイズのことです。
一般に、MSS値は、フラグメントが発生しない範囲で大きいほどよいとされています。
しかし、[PPPoE]回線のMTUは、通常のEthernetのMTU(1500バイト)より小さいためMSS値が大きくなりすぎると、パケットがインターネット上を通過しないことがありますのでご注意ください。

4 設定画面について

「WAN接続先」画面

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定 [PPPoE設定時]

回線設定

接続先の選択: ① WAN01

接続先名: ② WAN01

ユーザーID: ③

パスワード: ④

接続方法: ⑤ 常時

IPアドレス: ⑥

プライマリーDNSサーバー: ⑦

セカンダリーDNSサーバー: ⑧

認証プロトコル: ⑨ 自動

MSS制限値: ⑩ 1322

⑪ <登録> 「回線設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。

⑫ <取消> 「回線設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

ルーター設定 > WAN接続先

■ 回線設定一覧 [PPPoE設定時]

[回線設定] 項目(P.4-35)で登録した接続先の一覧です。

回線設定一覧			
接続先名	ユーザーID	接続方法	
WAN01	XXXXXXXX	常時	<input type="button" value="削除"/>

<削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

4 設定画面について

「VoIP用WAN」画面

ルーター設定 > VoIP用WAN

「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄(P.4-86)を「ひかり電話(網直取)」,または「IP Voice(インターネット併用)」に設定したときだけ表示され、設定できる画面です。

■ 回線状態表示

ご契約の回線接続業者との接続状態を表示します。

回線状態表示	
① 接続状態	ケーブル未接続 最新の状態に更新
② 回線種別	DHCPクライアント
③ DNSサーバー	
④ 本体側のIPアドレス	
⑤ 相手先のIPアドレス	

① 接続状態 本製品に設定されている回線への接続状態を「ケーブル未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。

〈最新の状態に更新〉

現在の接続状態を更新するとき、クリックします。

※クリックしても[接続状態]欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

② 回線種別 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。

③ DNSサーバー VoIP用WAN回線で利用するDNSサーバーアドレスを表示します。
[回線種別設定]項目(P.4-39)を「DHCPクライアント(DNS手動)」,または「固定IP」に設定した場合、そのDNSサーバーアドレスを表示します。

④ 本体側のIPアドレス 本製品のVoIP用WAN側に取得したIPアドレスを表示します。

⑤ 相手先のIPアドレス ご契約の回線接続業者のIPアドレスを表示します。

4 設定画面について

「VoIP用WAN」画面

ルーター設定 > VoIP用WAN

■ 回線種別設定

本製品をひかり電話(網直取)、またはIP Voice(インターネット併用)でお使いになる場合に有効な設定です。

- 回線種別…………… 回線事業者より割り当てられるIPアドレスの設定です。
回線事業者からの指定のない限り、出荷時の設定で使用します。
(出荷時の設定：DHCPクライアント)
- 本製品のWAN側ポートにブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置を接続します。
- ◎DHCPクライアント
ひかり電話用WAN側IPアドレスをDHCP方式で自動取得します。
 - ◎DHCPクライアント(DNS手動)
ひかり電話用WAN側IPアドレスをDHCP方式で自動取得、DNSサーバーアドレスを[回線設定]項目に手動で設定します。
 - ◎固定IP
本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から指定された固定のIPアドレスを割り当てて使用します。
※「IP回線」画面の[接続先の選択]欄(P.4-87)を「IP Voice(インターネット併用)」に設定したときだけ表示されます。

ルーター設定 > VoIP用WAN

■ 回線設定 [DHCPクライアント(DNS手動)設定時]

ご契約の回線接続業者から指定されたWAN側のDNSサーバーアドレスについての設定です。

※[回線種別設定]項目の[回線種別]欄を「DHCPクライアント(DNS手動)」に設定したときだけ表示される画面です。

- ① プライマリーDNSサーバー …… ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
- ② セカンダリーDNSサーバー …… [プライマリーDNSサーバー] (①) 欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。
- ③ <登録> …… [回線設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ④ <取消> …… [回線設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「VoIP用WAN」画面

ルーター設定 > VoIP用WAN

■ 回線設定 [固定IP設定時]

ご契約の回線接続業者から指定されたWAN側のDNSサーバーアドレスについての設定です。

※[回線種別設定]項目の[回線種別]欄を「固定IP」に設定したときだけ表示される画面です。

回線設定

IPアドレス : ① _____

サブネットマスク : ② _____

デフォルトゲートウェイ : ③ _____

プライマリーDNSサーバー : ④ _____

セカンダリーDNSサーバー : ⑤ _____

⑥ 登録 取消 ⑦

- | | |
|-----------------------|---|
| ① IPアドレス | ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側IPアドレスを入力します。 |
| ② サブネットマスク | ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。 |
| ③ デフォルトゲートウェイ | ご契約の回線接続業者から指定された本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。 |
| ④ プライマリーDNSサーバー | ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。 |
| ⑤ セカンダリーDNSサーバー | [プライマリーDNSサーバー] (④) 欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。 |
| ⑥ <登録> | 「回線設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。 |
| ⑦ <取消> | 「回線設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

4 設定画面について

「アドレス変換」画面

ルーター設定 > アドレス変換

■ アドレス変換設定

本製品のアドレス変換機能を設定します。

アドレス変換設定
アドレス変換: <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

アドレス変換…………… 本製品のアドレス変換機能を設定します。 (出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、本製品のIPマスカレード機能を使用して、WAN側グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換します。

ルーター設定 > アドレス変換

■ DMZホスト設定

本製品のDMZホスト機能を設定します。

DMZホスト設定
DMZホストIPアドレス: _____ <input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>

DMZホスト IPアドレス …………… DMZホスト機能(非武装セグメント)の対象となるパソコン(ホスト)のIPアドレスを入力します。
DMZホスト機能を使用すると、WAN(インターネット)側から受信した転送先不明のIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。これにより、本製品のLAN側に存在する端末で各種サーバーを運用したり、ネットワーク対戦ゲームをしたりできますが、転送先に設定した端末のIPアドレスに対してセキュリティが低下しますので、ご使用には十分ご注意ください。
※DMZホスト機能と静的マスカレードテーブルを同時に使用した場合は、静的マスカレードテーブルの設定が優先されます。
※セキュリティの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

4 設定画面について

「アドレス変換」画面

ルーター設定 > アドレス変換

■ 静的マスカレードテーブル設定

静的にIPマスカレード変換をするための設定です。

テーブルに追加すると、マスカレードIP(ルーターグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルとポート番号により判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へ転送します。

LAN IPアドレス ①	プロトコル ②	ポート番号 ③	
<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加 ④"/>

- ① LAN IPアドレス 該当するパケットを転送するLAN側プライベートIPアドレスを入力します。
- ② プロトコル TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
- ③ ポート番号 [プロトコル] (②) 欄で選択したプロトコルに対する宛先ポートを番号を数字で指定します。
- ④ <追加> 静的マスカレードテーブルを本製品に登録するとき、クリックします。
※最大32個のマスカレードテーブルを登録できます。

ルーター設定 > アドレス変更

■ 静的マスカレードテーブル設定一覧

[静的マスカレードテーブル設定]項目で登録した内容を表示します。

LAN IPアドレス	プロトコル	ポート番号	①	②
192.168.0.2	TCP	12380	<input type="button" value="編集"/>	<input type="button" value="削除"/>
192.168.0.3	TCP	21381	<input type="button" value="編集"/>	<input type="button" value="削除"/>
192.168.0.4	UDP	21500	<input type="button" value="編集"/>	<input type="button" value="削除"/>

- ① <編集> 登録した内容を編集するときは、該当する欄の<編集>をクリックします。
※登録されている内容は、[静的マスカレードテーブル設定]項目に表示します。
- ② <削除> 登録した内容を削除するときは、該当する欄の<削除>をクリックします。

4 設定画面について

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター

登録した条件に該当するパケットの通過と阻止についての設定です。

※IPフィルターの変更によるセキュリティの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

※説明のため、[プロトコル] (7) 欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

1 番号 IPフィルターが比較する順位を指定します。
 選択できる範囲は、「1」～「64」です。
 IPフィルター機能を使用時、本製品が受信、または送信するパケットと[IPフィルター設定一覧]項目の内容を比較します。

2 エントリー 登録するフィルターの使用について設定します。
 (出荷時の設定：有効)
 登録しても使用しないときは、「無効」を選択します。
 「無効」で登録すると、下記の画面のように、[IPフィルター設定一覧]項目の[番号]欄に「3(off)」を表示します。

3 (off)	透過	TCP (フラグ指定なし)	* (*)	無効	編集	削除
	IN		* (*)			

3 フィルター方法 フィルタリングの方法は、次の2とおりから選択します。
 (出荷時の設定：透過)
 ◎**遮断**：フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
 ◎**透過**：フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。

4 設定画面について

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター

※説明のため、[プロトコル] (7) 欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

IPフィルター

番号: ①

エントリー: ② 無効 有効

フィルター方法: ③ 遮断 透過

フィルター方向: ④ IN OUT

送信元IPアドレス: ⑤ マスク: 32

宛先IPアドレス: ⑥ マスク: 32

プロトコル: ⑦ TCP 指定時:

送信元ポート番号: ⑧ すべて 指定時: -

宛先ポート番号: ⑨ すべて 指定時: -

TCPフラグ: ⑩ URG ACK PSH RST SYN FIN

SYSLOGに出力: ⑪ 無効 有効

⑫ 登録 ⑬ 取消

- ④ **フィルター方向** フィルターの対象となるパケットの通信方向を設定します。
(出荷時の設定：IN)
◎IN : WAN側から受信するパケットに対してフィルタリング処理をします。
◎OUT: WAN側へ送信するパケットに対してフィルタリング処理をします。
- ⑤ **送信元IPアドレス** 送信元ホストのIPアドレス、サブネットマスク(ビット数)を設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリング処理します。
何も設定しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
マスク(ビット数)の選択できる範囲は、「1」～「32」です。
- ⑥ **宛先IPアドレス** 宛先ホストのIPアドレス、サブネットマスク(ビット数)を設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリング処理します。
何も設定しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
マスク(ビット数)の選択できる範囲は、「1」～「32」です。
- ⑦ **プロトコル** フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選択する項目です。(出荷時の設定：すべて)
◎すべて : すべてのプロトコルに一致します。
◎TCP : TCPだけに一致します。
「TCP」を選択すると、[送信元ポート番号] (8) 欄、[宛先ポート番号] (9) 欄、[TCPフラグ] (10) 欄が表示されます。
◎UDP : UDPだけに一致します。
「UDP」を選択すると、[送信元ポート番号] (8) 欄、[宛先ポート番号] (9) 欄が表示されます。

4 設定画面について

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター

※説明のため、[プロトコル] (7) 欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

7 プロトコル(つづき) …………… ◎TCP/UDP : TCPとUDPに一致します。
「TCP/UDP」を選択すると、[送信元ポート番号](8)欄、[宛先ポート番号](9)欄が表示されます。

◎ICMP : ICMPだけに一致します。
「ICMP」を選択すると、[タイプ]欄、[コード]欄(下図)が表示されます。

[タイプ]
フィルタリングの対象となるICMPヘッダー内のタイプを番号(0～255)で指定します。

※指定しないときは、すべてがフィルタリングの対象になります。

[コード]
フィルタリングの対象となるICMPヘッダー内のコードを番号(0～255)で指定します。

※指定しないときは、すべてがフィルタリングの対象になります。

◎IGMP : IGMPだけに一致します。
◎指定 : 右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル番号は、「0～255」までの半角数字を入力します。

4 設定画面について

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター

※説明のため、[プロトコル] (7) 欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

IPフィルター

番号: 1

エントリー: 2 無効 有効

フィルター方法: 3 遮断 透過

フィルター方向: 4 IN OUT

送信元IPアドレス: 5 マスク: 32

宛先IPアドレス: 6 マスク: 32

プロトコル: 7 TCP 指定時:

送信元ポート番号: 8 すべて 指定時: -

宛先ポート番号: 9 すべて 指定時: -

TCPフラグ: 10 URG ACK PSH RST SYN FIN

SYSLOGに出力: 11 無効 有効

登録 取消

8 送信元ポート番号 …………… フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。 (出荷時の設定: すべて)

指定には、2とおりの方法があります。

◎数字で指定するとき

1. 「指定」を選択します。
2. 「指定時: (始点)～(終点)」欄のテキストボックスに番号を入力します。
特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できる範囲は、「1～65535」までの半角数字です。

◎ニーモニックで指定するとき

「すべて」、「指定」以外の項目を選択します。
本製品で指定できるニーモニックは、「DNS」、「Finger」、「FTP」、「Gopher」、「NEWS」、「POP3」、「SMTP」、「Telnet」、「Web」、「Whois」です。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

4 設定画面について

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター

※説明のため、[プロトコル] (7) 欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

IPフィルター

番号: 1

エントリー: 2 無効 有効

フィルター方法: 3 遮断 透過

フィルター方向: 4 IN OUT

送信元IPアドレス: 5 マスク: 32 6

宛先IPアドレス: 6 マスク: 32 7

プロトコル: 7 TCP 指定時:

送信元ポート番号: 8 すべて 指定時: -

宛先ポート番号: 9 すべて 指定時: -

TCPフラグ: 10 URG ACK PSH RST SYN FIN

SYSLOGIに出力: 11 無効 有効

12 登録 13 取消

9 宛先ポート番号 フィルタリングの対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
(出荷時の設定: すべて)

指定には、2とおりの方法があります。

◎数字で指定するとき

1. 「指定」を選択します。
2. 「指定時: (始点)~(終点)」欄のテキストボックスに番号を入力します。
特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できる範囲は、「1~65535」までの半角数字です。

◎ニーモニックで指定するとき

「すべて」、「指定」以外の項目を選択します。
本製品で指定できるニーモニックは、「DNS」、「Finger」、「FTP」、「Gopher」、「NEWS」、「POP3」、「SMTP」、「Telnet」、「Web」、「Whois」です。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

4 設定画面について

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター

※説明のため、[プロトコル] (7) 欄を「TCP」に設定したときに表示される画面を使用しています。

- 10 TCPフラグ [プロトコル] (7) 欄で「TCP」を選択したとき、フィルタリングの対象となるTCPの通信フラグを選択する項目です。 (出荷時の設定：指定なし)
本製品で指定できるTCPフラグは、URG、ACK、PSH、RST、SYN、FINです。
※選択したTCPフラグは、[現在の登録] 項目の[プロトコル(TCPフラグ)] 欄で、下記の画面のように表示(例：RST)します。

3	透過	TCP (R)	* (*)	無効	編集	削除
	IN		* (*)			

※「指定なし」を選択した場合は、TCPのフラグオプションをフィルターの条件にしません。

- 11 SYSLOGに出力 IPフィルター登録時、このオプションを「有効」に設定すると、フィルタリング処理をしたとき、SYSLOGを出力します。 (出荷時の設定：無効)
※大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。
動作確認や試験運用以外は、電話の通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。

- 12 <登録> 「IPフィルター」項目で設定した内容を登録するボタンです。

- 13 <取消> 「IPフィルター」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IPフィルター」画面

ルーター設定 > IPフィルター

■ IPフィルター設定一覧

[IPフィルター設定]項目(P.4-43～P.4-48)から登録した現在の各エントリーの内容を表示します。

番号	フィルター方法	プロトコル (TCPフラグ)	送信元IPアドレス (送信元ポート番号)	SYSLOGに出力	① ②	
	フィルター方向		宛先IPアドレス (宛先ポート番号)			
59	遮断	TCP/UDP	* (135)	無効	編集	削除
	OUT		* (*)			
60	遮断	TCP/UDP	* (*)	無効	編集	削除
	OUT		* (135)			
61	遮断	TCP/UDP	* (445)	無効	編集	削除
	OUT		* (*)			
62	遮断	TCP/UDP	* (*)	無効	編集	削除
	OUT		* (445)			
63	遮断	TCP (フラグ指定なし)	* (*)	無効	編集	削除
	OUT		* (137-139)			
64	遮断	UDP	* (137-139)	無効	編集	削除
	OUT		* (137-139)			

出荷時、または全設定を初期化したときから登録されているIPフィルターについて

◎59～64番 : Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性、およびファイル共有機能による外部への情報漏えいを防止する

※「*」は、各欄で設定できる「すべて」を対象としています。

- ① <編集> ボタンの左側に表示されたIPフィルターを編集するボタンです。
<編集>をクリックすると、表示された内容を[IPフィルター設定]項目の各欄に表示します。
- ② <削除> ボタンの左側に表示されたIPフィルターを削除するボタンです。

4 設定画面について

「簡易DNS」画面

ルーター設定 > 簡易DNS

■ DNSサーバーの代理応答

本製品の代理DNSサーバー機能について設定します。

DNSサーバーの代理応答	
DNS代理応答:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>	

DNS代理応答 本製品のDNS代理応答機能を設定します。 (出荷時の設定：有効)
DNS代理応答機能とは、端末からのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバーへ転送する機能です。
「有効」に設定すると、本製品のアドレスをネットワーク上の端末にDNSサーバーとして設定している場合、本製品が接続する先のDNSサーバーのアドレスが変更になったときでも、端末側の設定を変更する必要がありません。

ルーター設定 > 簡易DNS

■ 簡易DNSサーバー設定

本製品を簡易DNSサーバーとして使用するとき設定します。

簡易DNSサーバー設定		
IPアドレス	ホスト名	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>

端末のホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを入力して、〈追加〉をクリックします。
登録すると、ドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に
応答します。
※最大32個の組み合わせまで登録できます。
※本製品のDNS代理応答機能を使用する場合に有効です。
※ローカルIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバーを利用してMACアドレスとIPアドレス
の組み合わせを固定しておくことをおすすめします。
※ホスト名として「ホスト名.ドメイン名」を登録しておくこと、ホスト名のみ一致する場合でも応答します。

ルーター設定 > 簡易DNS

■ 簡易DNSサーバー設定一覧

[簡易DNSサーバー設定]項目で登録した内容を表示します。

簡易DNSサーバー設定一覧		
IPアドレス	ホスト名	
192.168.1.50	example.com	<input type="button" value="削除"/>

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

4 設定画面について

「VPN」画面

ルーター設定 > VPN

■ IPsec設定

IPsecによる仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を使用するための設定です。

IPsec設定

IPsec : ① 無効 有効

トンネル間転送 : ② 無効 有効

トンネル間転送の変更には再起動が必要です。

- ① IPsec 本製品のIPsec機能を設定します。 (出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、IPsecトンネルを使用したVPN接続を利用できます。
※VPN接続できるのは、SR-7100VN同士だけです。

- ② トンネル間転送 2つのIPsecトンネル間のパケットを転送するかを設定します。
※この欄を変更した場合は、再起動が必要です。 (出荷時の設定：無効)

4 設定画面について

「VPN」画面

ルーター設定 > VPN

■ IPsecトンネル設定

IPsecによる仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を使用するための設定です。

- ① **トンネルインターフェース** …… IPsecトンネルを登録するインターフェースを指定します。
選択できる範囲は「vti0～vti31」です。
- ② **トンネル** …… 登録するIPsecトンネルの使用について設定します。(出荷時の設定：有効)
登録しても使用しないときは、「無効」を選択します。
「無効」で登録すると、「IPsecトンネル設定一覧」項目(P.4-54)の[状態]欄に「IPsec無効」を表示します。
- ③ **トンネル名** …… IPsecトンネルを識別する名称を半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ④ **インターフェース** …… 登録するインターフェースを選択します。(出荷時の設定：eth1)
◎eth1
「WAN接続先」画面(P.4-32)の回線種別を「固定IP」または「DHCPクライアント」に設定しているときに選択します。
◎ppp0(WAN1)～ppp7(WAN8)
「WAN接続先」画面(P.4-32)の回線種別を「PPPoE(WAN1～WAN8)」に設定しているときに選択します。
- ⑤ **認証鍵(Pre-Shared Key)** …… 接続先との認証に使用します。
接続先の機器と同じ文字列を半角128文字以内の英数字で入力します。
- ⑥ **リモートアドレス** …… 接続先のWAN側IPアドレス、またはホスト名を入力します。

4 設定画面について

「VPN」画面

ルーター設定 > VPN

■ IPsecトンネル設定

IPsecトンネル設定

トンネルインターフェース: ① vti0

トンネル: ② 無効 有効

トンネル名: ③

インターフェース: ④ eth1

認証鍵(Pre-Shared Key): ⑤

リモートアドレス: ⑥

リモートID: ⑦ IPアドレス

ローカルID: ⑧ IPアドレス

⑨ 登録 ⑩ 取消

⑦ リモートID 接続先の機器を識別するIDを設定します。
IDは、「IPアドレス」、「KEYID」、「FQDN」、「USER-FQDN」からタイプを選択
します。(出荷時の設定：IPアドレス)

IPアドレス : IPアドレス形式

KEYID : 半角256文字以内の英数字

FQDN : 半角253文字以内のドメイン名

USER-FQDN : 半角254文字以内のメールアドレス形式

入力例: user@xxxx.yyyy.zzzz
① ②

① 64文字以内

② 「xxxx」、「yyyy」、「zzzz」は、それぞれ63文字以内

⑧ ローカルID 接続先の機器に提示するIDを設定します。
IDは、「IPアドレス」、「KEYID」、「FQDN」、「USER-FQDN」からタイプを選択
します。(出荷時の設定：IPアドレス)

IPアドレス : IPアドレス形式

KEYID : 半角256文字以内の英数字

FQDN : 半角253文字以内のドメイン名

USER-FQDN : 半角254文字以内のメールアドレス形式

入力例: user@xxxx.yyyy.zzzz
① ②

① 64文字以内

② 「xxxx」、「yyyy」、「zzzz」は、それぞれ63文字以内

⑨ <登録> 「IPsecトンネル設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。

⑩ <取消> 「IPsecトンネル設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボ
タンです。

なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「VPN」画面

ルーター設定 > VPN

■ IPsecトンネル設定一覧

IPsecによる仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を使用するための設定です。

IPsecトンネル設定一覧							7 最新の情報に更新	
1	2	3	4	5	6	8	9	
トンネルインターフェース	インターフェース	状態	リモートアドレス	リモートID	ローカルID			
vti0 (営業)	eth1	接続試行中		IPアドレス	IPアドレス			
						編集	削除	

- 1 トンネルインターフェース …… インターフェース名(トンネル名)を表示します。
- 2 インターフェース …………… トンネル送信元のインターフェース名を表示します。
- 3 状態 …………… IPsec接続の状態を表示します。
 - 接続中
IPsecトンネルが接続されている状態です。
 - 接続待機中
トンネルの接続先からのIPsec接続試行を待っている状態です。
 - 接続試行中
トンネルの接続先に対してIPsec接続試行を実行中です。
 - IPsec無効
IPsec設定のIPsecが無効化されている状態です。
 - 無効
IPsecトンネルが無効化されている状態です。
- 4 リモートアドレス …………… 接続先に設定されている相手先IPアドレス、またはホスト名を表示します。
設定されていない場合は「-」を表示します。
接続中は相手先IPアドレスを表示します。
- 5 リモートID …………… IPsec接続に使用するID(相手側)を表示します。
- 6 ローカルID …………… IPsec接続に使用するID(自分側)を表示します。
- 7 <最新の情報に更新> …………… クリックすると、[IPsecトンネル設定一覧]項目に表示される内容を更新します。
- 8 <編集> …………… ボタンの左側に表示されたIPsecトンネルを編集するボタンです。
<編集>をクリックすると、表示された内容を含むIPsecトンネルの設定を、[IPsecトンネル設定]項目の各欄に表示します。
- 9 <削除> …………… ボタンの左側に表示されたIPsecトンネルを削除するボタンです。

4 設定画面について

「不正アクセス対策」画面

ルーター設定 > 不正アクセス対策

■ ICMPステルス

本製品のICMPステルスモード機能を設定します。

- ① **ICMPステルス** …………… 本製品のWAN側からのアクセスに対するステルス動作を設定します。
(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定した場合、遮断系の動作をすると、発信元に対して不許可(RST)や送達不能(Unreachable)の応答をしません。
- ② **SYSLOGに出力** …………… [ICMPステルス] (①)有効時に、この欄を「有効」にすると、WAN側ポートがICMP Echo要求(Ping)を受信したとき、「INFO」レベルでSYSLOGを出力します。
(出荷時の設定：無効)
[IPフィルター]画面でICMP(Ping)に関する設定(P.4-45)をした場合、「IPフィルター」画面の[SYSLOGに出力]欄(P.4-48)を優先します。
※大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。
動作確認や試験運用以外は、電話の通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。
- ③ **〈登録〉** …………… [ICMPステルス]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ④ **〈取消〉** …………… [ICMPステルス]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「無線LAN設定」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 無線LAN

■ 無線LAN設定

本製品に内蔵された無線LANユニットに対する設定です。

◎無線1：2.4GHz帯

◎無線2：5GHz帯

※本書では、「無線1」の画面で説明しています。

無線LAN設定

無線UNIT: ① 無効 有効

帯域幅: ② 20MHz

チャンネル: ③ 001 CH (2412 MHz)

パワーレベル: ④ 高

DTIM間隔: ⑤ 1

プロテクション: ⑥ 無効 有効

⑦ ⑧

① 無線UNIT 無線LANユニットの使用を設定します。 (出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、本製品の無線LAN機能を使用できます。

② 帯域幅 本製品の無線LAN機能で使用する周波数帯域幅を設定します。
(出荷時の設定：20MHz)
◎無線1：「20MHz」、「40MHz」から選択できます。
◎無線2：「20MHz」、「40MHz」、「80MHz」から選択できます。
※無線LAN通信で40MHz、または80MHz帯域幅をご使用になる場合、周囲の電波環境を事前に確認して、ほかの無線局に電波干渉を与えないようにしてください。
※万一、本製品から、ほかの無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、[帯域幅]欄を「20MHz」でご使用ください。
※本製品で設定した帯域幅に通信相手側が対応していない場合は、通信相手の帯域幅にしたがい、本製品で選択したチャンネル(③)で通信します。

③ チャンネル 本製品の無線LAN機能で使用するチャンネルを設定します。
(出荷時の設定：無線1→001CH (2412MHz)
無線2→036CH (5180MHz))
※設定した帯域幅(②)により、選択できるチャンネルが異なります。(P.v)
※2.4GHz帯使用時の電波干渉については、6-4ページをご覧ください。
※5.2GHz帯無線LANの使用は、電波法により、5.2GHz帯高出力データ通信システムの基地局、または陸上移動中継局と通信する場合を除き、屋内に限定されます。5.3GHz帯無線LANの使用は、電波法により、屋内に限定されます。
※5.3/5.6GHz帯のチャンネル選択時のDFS機能については、1-10ページをご覧ください。

4 設定画面について

「無線LAN設定」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 無線LAN

■ 無線LAN設定

※本書では、「無線1」の画面で説明しています。

- 4 パワーレベル** 本製品に内蔵する無線LANユニットの送信出力を、高/中/低/最低(4段階)の中から選択します。 (出荷時の設定：高)
本製品の最大伝送距離は、パワーレベルが「高」の場合です。
パワーレベルを低くすると、伝送距離も短くなります。
パワーレベルを低くする目的について
◎本製品から送信される電波が広範囲に届くのを軽減したいとき
◎通信エリアを制限してセキュリティーを高めたいとき
◎比較的狭いエリアに複数台の無線アクセスポイントが設置された環境で、近くの無線LAN機器との電波干渉をなくして、通信速度の低下などを軽減したいとき
- 5 DTIM間隔**..... DTIM(Delivery Traffic Indication Message)をビーコンに挿入する間隔を設定します。 (出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「1～50」です。
DTIMとは、パワーセーブしている端末に対して、ブロードキャスト・マルチキャストパケット配送を伝えるメッセージのことです。
※設定を変更すると、正常に通信できないことがありますので、特に必要がない場合は、初期値でご使用ください。
- 6 プロテクション** 異なる無線LAN規格の混在による無線LANの通信速度低下を軽減したいとき有効な設定です。 (出荷時の設定：有効)
- 7 <登録>** 「無線LAN」画面で設定した内容を登録するボタンです。
- 8 <取消>** 「無線LAN」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 仮想AP設定

本製品1台で複数の仮想無線アクセスポイントとして使用するための設定です。

◎無線1：2.4GHz帯

◎無線2：5GHz帯

※本書では、「無線1」の画面で説明しています。

仮想AP設定	
インターフェース：①	ath0 <input type="button" value="▼"/>
仮想AP：②	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
SSID：③	WIRELESSLAN-0
VLAN ID：④	0
ANY接続拒否：⑤	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
接続端末制限：⑥	63
アカウンティング：⑦	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

- ① インターフェース …………… 設定する仮想APを選択します。 (出荷時の設定：無線1→ath0
無線2→ath8)
仮想APごとに、[仮想AP設定]項目(②～⑦)と[暗号化設定]項目の設定内容を変更できます。
※「ath1～ath7」、「ath9～ath15」を使用するときは、[仮想AP](②)欄を「有効」にしてください。
※ご使用のWWWブラウザでJavaScriptが「無効」に設定されていると、仮想APを選択したとき、[仮想AP設定]項目と[暗号化設定]項目の設定内容が更新されません。
更新されないときは、ご使用のWWWブラウザでJavaScriptの設定が「有効」に設定されていることを確認してください。
- ② 仮想AP …………… [インターフェース](①)欄で選択した仮想APの使用について設定します。
(出荷時の設定：無線1→有効(ath0)、無効(ath1～ath7)
無線2→有効(ath8)、無効(ath9～ath15))
※「ath0」、「ath8」は「無効」にできません。
※通信速度低下を防止するため、使用する無線インターフェースだけを「有効」に設定してください。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 仮想AP設定

※本書では、「無線1」の画面で説明しています。

仮想AP設定

インターフェース: ① ath0 ▼

仮想AP: ② 無効 有効

SSID: ③ WIRELESSLAN-0

VLAN ID: ④ 0

ANY接続拒否: ⑤ 無効 有効

接続端末制限: ⑥ 63

アカウントティング: ⑦ 無効 有効

③ SSID..... [インターフェース] (①) 欄で選択した仮想APのSSIDを設定します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字32文字以内で入力します。
(出荷時の設定: WIRELESSLAN-0(ath0, ath8)

WIRELESSLAN-1(ath1, ath9)
WIRELESSLAN-2(ath2, ath10)
WIRELESSLAN-3(ath3, ath11)
WIRELESSLAN-4(ath4, ath12)
WIRELESSLAN-5(ath5, ath13)
WIRELESSLAN-6(ath6, ath14)
WIRELESSLAN-7(ath7, ath15))

※ [SSID] は、無線ネットワークのグループ分けをするために使用します。

[SSID] の異なる無線LAN端末とは接続できません。

※ 無線アクセスポイントが無線伝送エリア内に複数存在しているような場合、個々のネットワークグループを [SSID (無線ネットワーク名)] で識別できます。

※ 複数の仮想APを使用する場合、同じSSIDを設定できません。

※ [SSID] と [ESSID] は、同じ意味で使用しています。

本製品以外の機器では、[ESSID] と表記されている場合があります。

④ VLAN ID..... [インターフェース] (①) 欄で選択した仮想APが所属する無線グループのID番号を設定します。
(出荷時の設定: 0)

設定できる範囲は、「0～4094」です。

※ [VLAN ID] を付けないときは、「0」に設定します。

※ 異なるID番号のネットワークとは通信できません。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 仮想AP設定

※本書では、「無線1」の画面で説明しています。

仮想AP設定

インターフェース: ① ath0 ▼

仮想AP: ② 無効 有効

SSID: ③ WIRELESSLAN-0

VLAN ID: ④ 0

ANY接続拒否: ⑤ 無効 有効

接続端末制限: ⑥ 63

アカウントिंग: ⑦ 無効 有効

- ⑤ ANY接続拒否 [インターフェース] (①) 欄で選択した仮想APとANYモード(アクセスポイント自動検索接続機能)で通信する無線LAN端末からの検索や接続の拒否について設定をします。 (出荷時の設定: 無効)
※一部の無線LAN端末と接続できないことや動作が不安定になることがありますので、特に必要がない場合は、出荷時の設定で使用されることをおすすめします。
- ⑥ 接続端末制限 [インターフェース] (①) 欄で選択した仮想APに同時接続可能な無線LAN端末の台数を設定します。 (出荷時の設定: 63)
設定できる範囲は、「1 ~ 128」です。
接続できる台数を制限すると、接続が集中するのを防止(本製品の負荷を分散)できますので、接続集中による通信速度低下を防止できます。
※仮想APごとに最大128台まで設定できますが、実際に通信できるのは、全仮想APの合計(無線LANユニット全体)で最大128台までになります。
- ⑦ アカウンティング [インターフェース] (①) 欄で選択した仮想APと通信する無線LAN端末のネットワーク利用状況(接続、切断、MACアドレスなど)を収集してアカウントिंगサーバーに送信するときに設定します。 (出荷時の設定: 無効)
「有効」を選択したときは、アカウントिंगサーバーの設定が必要です。(P.4-68)

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 暗号化設定

無線LANの通信データを保護するために暗号化を設定します。

※選択する設定内容(①、②)に応じて、下記以外の設定(③～⑥)を表示します。(P.4-64～P.4-66)

暗号化設定	
ネットワーク認証: ①	オープンシステム/共有キー
暗号化方式: ②	なし

① ネットワーク認証 ……………

無線LAN端末からのアクセスに対する認証方式を選択します。

(出荷時の設定：オープンシステム/共有キー)

※異なる認証方式の相手とは互換性がないため、通信をする相手間でも同じ設定にしてください。

※「IEEE802.1X」、「WPA」、「WPA2」、「WPA/WPA2」を選択したときは、RADIUSサーバーによる認証設定が必要です。

認証方式について

◎オープンシステム/共有キー

「WEP RC4」暗号化方式によるアクセスに対して、認証方式(オープンシステム/共有キー)を自動認識します。

◎オープンシステム

「WEP RC4」暗号化方式によるアクセスに対して、暗号鍵(キー)の認証をしません。

◎共有キー

「WEP RC4」暗号化方式によるアクセスに対して、本製品と同じ暗号鍵(キー)かどうかを認証します。

◎IEEE802.1X

「WEP RC4」暗号化方式を使用し、RADIUSサーバーによるIEEE802.1X認証するときの設定です。

※RADIUSサーバーによる認証設定が必要です。

◎WPA(Wi-Fi Protected Access)

「TKIP/AES」暗号化方式を使用し、RADIUSサーバー認証するときの設定です。

※「IEEE802.1X」認証より強力な「TKIP」暗号化方式の使用を標準規格とする認証方式です。

※RADIUSサーバーによる認証設定が必要です。

◎WPA2

ネットワーク認証方式にWPA2を使用します。

※「WPA」認証より強力な「AES」暗号化方式の使用を標準規格とする認証方式で、「PMKIDキャッシュ」により、再接続による認証が不要です。

※「WPA2」認証に対応したクライアントが必要です。

※RADIUSサーバーによる認証設定が必要です。

◎WPA/WPA2

「WPA」認証と「WPA2」認証を自動認識します。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 暗号化設定

※選択する設定内容(①、②)に応じて、下記以外の設定(③～⑥)を表示します。(P.4-64～P.4-66)

暗号化設定	
ネットワーク認証: ①	オープンシステム/共有キー <input type="button" value="▼"/>
暗号化方式: ②	なし <input type="button" value="▼"/>

- ① ネットワーク認証(つづき) ……
- ◎WPA-PSK(Pre-Shared Key)
共有鍵(キー)で認証します。
RADIUSサーバーを利用しない簡易的な「TKIP/AES」暗号化の認証方式で、通信相手と共通の鍵を持っているかどうかの認証をします。
 - ◎WPA2-PSK
共有鍵(キー)で認証します。
RADIUSサーバーを利用しない簡易的な「TKIP/AES」暗号化の認証方式で、通信相手と共通の鍵を持っているかどうかの認証をします。
 - ◎WPA-PSK/WPA2-PSK
ネットワーク認証(WPA-PSK/WPA2-PSK)を自動認識します。
- ② 暗号化方式 ……………
- 無線伝送データを暗号化する方式を選択します。(出荷時の設定: なし)
対応する暗号化方式は、[WEP RC4]/[TKIP]/[AES]です。
異なる暗号化方式とは互換性がないので、暗号化方式とビット数は、通信をする相手間で同じ設定にしてください。
※IEEE802.11ac規格、IEEE802.11n規格での通信は、暗号化方式を「なし」、または「AES」に設定している場合に有効です。

暗号化方式について

- ◎なし
データを暗号化しないで通信します。
※[ネットワーク認証](①)欄で、「オープンシステム/共有キー」、または「オープンシステム」を選択したとき使用できます。
※暗号化を設定されることをおすすめします。
- ◎WEP RC4
暗号鍵(キー)が一致した場合に、通信できる暗号化方式です。
※暗号鍵(キー)の長さは、64(40)/128(104)/152(128)ビットの中から選択できます。
※[ネットワーク認証](①)欄で、「オープンシステム/共有キー」、または「オープンシステム」、「共有キー」、「IEEE802.1X」を選択したとき使用できます。
- ◎TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)
暗号鍵(キー)を一定間隔で自動更新しますので、「WEP RC4」より強力です。
※[ネットワーク認証](①)欄で、「WPA」や「WPA2」、または「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」を選択したとき使用できます。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 暗号化設定

※選択する設定内容(①、②)に応じて、下記以外の設定(③～⑥)を表示します。(P.4-64～P.4-66)

暗号化設定	
ネットワーク認証: ①	オープンシステム/共有キー <input type="button" value="▼"/>
暗号化方式: ②	なし <input type="button" value="▼"/>

② 暗号化方式(つづき) ……………

◎AES(Advanced Encryption Standard)

暗号化の強化、および暗号鍵(キー)を一定間隔で自動更新しますので、「TKIP」より強力な暗号化方式です。

※[ネットワーク認証](①)欄で、「WPA」や「WPA2」、または「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」を選択したとき使用できます。

◎TKIP/AES

無線LAN端末からのアクセスに対して暗号化方式(TKIP/AES)を自動認識します。

※「AES」が認識されたときだけ、54Mbps(理論値)を超える速度で通信できます。

※[ネットワーク認証](①)欄で、「WPA」や「WPA2」、または「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」を選択したとき使用できます。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 暗号化設定

※選択する設定内容(①、②)に応じて、下記以外の設定(④、⑤、⑥)を表示します。(P.4-65～P.4-66)

暗号化設定	
ネットワーク認証: ①	オープンシステム/共有キー <input type="button" value="▼"/>
暗号化方式: ②	WEP RC4 64 (40) <input type="button" value="▼"/>
WEPキー: ③	0000000000

③ WEPキー

暗号鍵(キー)を直接入力します。

※16進数で設定するときは、「0～9」および「a～f(またはA～F)」の半角文字を入力してください。

※ASCII文字で設定するときは、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字を入力してください。

※入力する暗号鍵(キー)の桁数は、[暗号化方式](②)欄を設定したとき表示される桁数(10桁の表示例: 0000000000)と同じに設定してください。ASCII文字で入力する場合は、16進数の半分(例: 5文字)で入力してください。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 暗号化設定

※選択する設定内容(①、②)に応じて、下記以外の設定(③、⑥)を表示します。(P.4-64、P.4-66)

暗号化設定	
ネットワーク認証: ①	WPA-PSK/WPA2-PSK <input type="button" value="▼"/>
暗号化方式: ②	AES <input type="button" value="▼"/>
PSK (Pre-Shared Key): ④	00000000
WPAキー更新間隔: ⑤	120 分

- ④ PSK (Pre-Shared Key) …………… 共通鍵(キー)を半角英数字で入力します。
※[ネットワーク認証] (①)欄で、「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」、「WPA-PSK/WPA2-PSK」を選択したとき、設定できます。
※同じ暗号化方式を使用する無線LAN端末と、同じ共有鍵(キー)を設定してください。
※16進数で設定するときは、64桁を入力してください。
※ASCII文字で設定するときは、大文字/小文字の区別に注意して、8～63文字を入力してください。
- ⑤ WPAキー更新間隔 …………… [ネットワーク認証] (①)欄で、「WPA」、「WPA2」、「WPA/WPA2」、「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」、「WPA-PSK/WPA2-PSK」を選択したとき、暗号鍵(キー)の更新間隔を分で設定します。(出荷時の設定: 120)
設定できる範囲は、「0～1440」(分)です。
※「0」を設定すると、更新しません。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ 暗号化設定

※選択する設定内容(①、②)に応じて、下記以外の設定(③～⑤)を表示します。(P.4-64～P.4-65)

暗号化設定	
ネットワーク認証: ①	IEEE 802.1X <input type="checkbox"/>
暗号化方式: ②	WEP RC4 64 (40) <input type="checkbox"/>
再認証間隔: ⑥	120 分

- ⑥ 再認証間隔 [ネットワーク認証] (①) 欄で、「IEEE802.1X」を選択したとき、RADIUSサーバーに再度認証を要求する間隔を分で設定します。
設定できる範囲は、「0～9999」(分)です。 (出荷時の設定：120)
※「0」を設定したときは、再認証しません。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ RADIUS設定

RADIUSサーバーを使用して、WPA認証、WPA2認証、IEEE802.1X認証するときの設定です。

[暗号化設定]項目の[ネットワーク認証]欄で「IEEE802.1X」、「WPA」、「WPA2」、「WPA/WPA2」を選択したときに、下記の画面が表示されます。

※EAP認証の対応については、ご使用になるRADIUSサーバーや無線LAN端末の説明書をご覧ください。

RADIUS設定		
	プライマリー	セカンダリー
アドレス:	② _____	_____
ポート:	③ 1812	1812
シークレット:	④ secret	secret

- ① **プライマリー/セカンダリー** …… [プライマリー]列に設定したRADIUSサーバーから応答がない場合、その次に[セカンダリー]列に設定したRADIUSサーバーでアクセスを試みます。
- ② **アドレス** …………… 対象となるRADIUSサーバーのIPアドレスを入力します。
- ③ **ポート** …………… 対象となるRADIUSサーバーの認証ポートを設定します。
設定できる範囲は、「1～65535」です。 (出荷時の設定：1812)
※ご使用のシステムによっては、出荷時の設定と異なることがありますのでご確認ください。
- ④ **シークレット** …………… 本製品とRADIUSサーバーの通信に使用するキーを設定します。
(出荷時の設定：secret)
RADIUSサーバーに設定された値と同じ設定にします。
半角64文字以内の英数字で入力します。

4 設定画面について

「仮想AP」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > 仮想AP

■ アカウンティング設定

セッション中に使用されたリソースの量(接続、切断、MACアドレスなど)をアカウンティングサーバーに送信する設定です。

[仮想AP設定]項目の[アカウンティング]欄で「有効」を選択したときに、下記の画面が表示されます。

アカウンティング設定	
① プライマリー	セカンダリー
アドレス: ② _____	_____
ポート: ③ 1813	1813
シークレット: ④ secret	secret

- ① **プライマリー/セカンダリー** …… [プライマリー]列に設定したアカウンティングサーバーから応答がない場合、その次に[セカンダリー]列に設定したアカウンティングサーバーでアクセスを試みます。
- ② **アドレス** …………… 対象となるアカウンティングサーバーのIPアドレスを入力します。
- ③ **ポート** …………… 対象となるアカウンティングサーバーのポートを設定します。
設定できる範囲は、「1 ~ 65535」です。 (出荷時の設定: 1813)
※ご使用のシステムによっては、出荷時の設定と異なることがありますのでご確認ください。
- ④ **シークレット** …………… 本製品とアカウンティングサーバーの通信に使用するキーを設定します。
(出荷時の設定: secret)
アカウンティングサーバーに設定された値と同じ設定にします。
半角64文字以内の英数字で入力します。

4 設定画面について

「MACアドレスフィルタリング」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > MACアドレスフィルタリング

■ MACアドレスフィルタリング設定

各仮想APに接続できる無線LAN端末を制限する設定です。

※仮想APごとに、最大1024台分のMACアドレスを登録できます。

- ① インターフェース** …………… 設定する仮想APを選択します。 (出荷時の設定：ath0(無線1)
ath8(無線2))
選択するインターフェースごとに、本製品への接続を許可する、または拒否する無線LAN端末を登録できます。
※ご使用のWWWブラウザでJavaScript®が「無効」に設定されていると、仮想APを選択したとき[MACアドレスフィルタリング設定]項目と[MACアドレスフィルタリング設定一覧]項目に登録された内容が更新されません。
更新されないときは、ご使用のWWWブラウザでJavaScript®の設定が「有効」に設定されていることを確認してください。
- ② MACアドレスフィルタリング** …… [インターフェース] (①)欄で選択した仮想APについて、MACアドレスフィルタリング機能の使用を設定します。 (出荷時の設定：無効)
※「有効」に設定すると、[フィルタリングポリシー] (③)欄の設定、および[MACアドレスフィルタリング設定一覧]項目に登録された内容が有効になります。
※使用するときは、「仮想AP」画面で該当するインターフェースを選択し、[仮想AP]欄を「有効」に設定しておきます。
- ③ フィルタリングポリシー** ……… [MACアドレスフィルタリング設定一覧]項目に登録された無線LAN端末との無線通信を許可するか拒否するかを設定します。
(出荷時の設定：許可リスト)
許可リスト : MACアドレスが登録された無線LAN端末だけが、本製品と無線通信できます。
※MACアドレスを登録していない無線LAN端末は、本製品と無線通信できません。
拒否リスト : MACアドレスが登録された無線LAN端末だけが、本製品と無線通信できません。
※MACアドレスを登録していない無線LAN端末は、本製品と無線通信できます。
- ④ <登録>** …………… [MACアドレスフィルタリング設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑤ <取消>** …………… [MACアドレスフィルタリング設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「MACアドレスフィルタリング」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > MACアドレスフィルタリング

■ 端末MACアドレスリスト

各仮想APについて、MACアドレスフィルタリングの対象となる無線LAN端末のMACアドレスを登録します。

端末MACアドレスリスト	
MACアドレス : _____	<input type="button" value="追加"/>

MACアドレス

MACアドレスフィルタリングの対象となる無線LAN端末のMACアドレスを入力します。入力後、〈追加〉をクリックすると、[MACアドレスフィルタリング設定一覧]項目に表示します。

※対象となる無線LAN端末のMACアドレスが[MACアドレスフィルタリング設定一覧]項目から登録できないときに使用します。

※1つの仮想APにつき、最大1024台分のMACアドレスを登録できます。

※入力は半角英数字で12桁(16進数)を入力します。

※2つの入力例は、同じMACアドレスになります。

(入力例：00-90-c7-00-00-10、0090c7000010)

※[MACアドレスフィルタリング設定]項目の[インターフェース]欄で選択した仮想APについて、MACアドレスフィルタリングが有効なとき、[MACアドレスフィルタリング設定一覧]項目に登録された無線LAN端末との通信を[フィルタリングポリシー]欄の設定にしたがって制御します。

4 設定画面について

「MACアドレスフィルタリング」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > MACアドレスフィルタリング

■ MACアドレスフィルタリング設定一覧

各仮想APについて、MACアドレスフィルタリングの対象となる無線LAN端末の登録と通信状態を表示する画面です。

[フィルタリングポリシー]を「許可リスト」で使用した場合

MACアドレスフィルタリング設定一覧			
登録済みの端末 ①	受信中の端末 ②	通信状況 ③	④
	00-90-C7-00-00-14	通信不許可	追加
	00-90-C7-00-00-14	通信中	追加
00-90-C7-00-00-14		登録済	削除

[フィルタリングポリシー]を「拒否リスト」で使用した場合

MACアドレスフィルタリング設定一覧			
登録済みの端末 ①	受信中の端末 ②	通信状況 ③	④
	00-90-C7-00-00-14	通信中	追加
	00-90-C7-00-00-14	通信不許可	追加
00-90-C7-00-00-14		登録済	削除

- ① 登録済みの端末 登録されている無線LAN端末のMACアドレスを表示します。
- ② 受信中の端末 本製品の無線伝送領域内で通信している無線LAN端末のMACアドレスを表示します。
- ③ 通信状況 本製品との無線通信状況を表示します。
通信中 : 本製品と無線通信中のとき、「通信中」を表示します。
通信不許可 : MACアドレスフィルタリング設定により無線通信が拒否されているときの表示です。
登録済 : MACアドレスが登録済みで、無線通信をしていないときの表示です。
- ④ <追加>/<削除> 表示されている無線LAN端末のMACアドレスをリストに追加、またはリストから削除するボタンです。

4 設定画面について

「WMM詳細」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > WMM詳細

■ WMM詳細設定

本製品のWMM機能を使用した無線LAN通信において、[To Station]は、本製品から各無線LAN端末へのデータに対する優先度を設定するEDCA(Enhanced Distributed Channel Access)パラメーターの設定です。

[From Station]は、各無線LAN端末から本製品へのデータに対する優先度を設定するEDCA(Enhanced Distributed Channel Access)パラメーターの設定です。

WMM詳細設定					
周波数帯: 2.4 GHz					
To Station					
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (1-15) ③	TXOP (0-255) ⑤	No Ack ⑥
AC_BK	15	1023	7	0	<input type="checkbox"/>
AC_BE	15	63	3	0	<input type="checkbox"/>
AC_VI	7	15	1	94	<input type="checkbox"/>
AC_VO	3	7	1	47	<input type="checkbox"/>
From Station					
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (2-15) ④	TXOP (0-255) ⑤	ACM ⑦
AC_BK	15	1023	7	0	
AC_BE	15	1023	3	0	
AC_VI	7	15	2	94	<input type="checkbox"/>
AC_VO	3	7	2	47	<input type="checkbox"/>

- ① AC Name WMM(Wi-Fi Multimedia)で規定されるAC(Access Category)の名称で、アクセスカテゴリー(AC_BK、AC_BE、AC_VI、AC_VO)ごとに、EDCAパラメーター(②～⑤)を設定できます。
- EDCAパラメーター(②～⑤)の各値は、Wi-Fiアライアンスで定められたアクセスカテゴリーの優先順位[AC_BK(低い)]、[AC_BE(通常)]、[AC_VI(優先)]、[AC_VO(最優先)]となるよう設定されています。

ご注意

EDCAパラメーター(②～⑤)の各値は、一般的な使用で変更する必要はありません。

なお、変更が必要な場合でも、原則としてWi-Fiアライアンスで定められたアクセスカテゴリーの優先順位を保つように設定してください。

優先順位を変更した場合、ACM(⑦)などの制御が正しく動作しない場合があります。

4 設定画面について

「WMM詳細」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > WMM詳細

■ WMM詳細設定

WMM詳細設定					
周波数帯: 2.4 GHz					
To Station					
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (1-15) ③	TXOP (0-255) ⑤	No Ack ⑥
AC_BK	15	1023	7	0	<input type="checkbox"/>
AC_BE	15	63	3	0	<input type="checkbox"/>
AC_VI	7	15	1	94	<input type="checkbox"/>
AC_VO	3	7	1	47	<input type="checkbox"/>
From Station					
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (2-15) ④	TXOP (0-255) ⑤	ACM ⑦
AC_BK	15	1023	7	0	
AC_BE	15	1023	3	0	
AC_VI	7	15	2	94	<input type="checkbox"/>
AC_VO	3	7	2	47	<input type="checkbox"/>

② CWin min/CWin max ……………

CWin(Contention Window)の最小値(min)/最大値(max)を設定します。チャンネルが一定期間未使用になったあとの送信タイミングをContention Windowからランダムに選択することで、IEEE802.11規格でのフレーム衝突を回避します。

設定値が小さいほど優先順位が上がり、設定値が大きいほど優先順位が下がります。
(出荷時の設定：[To Station] / [From Station])

CWin min→ AC_BK(15)
AC_BE(15)
AC_VI(7)
AC_VO(3)

[To Station]

CWin max→ AC_BK(1023)
AC_BE(63)
AC_VI(15)
AC_VO(7)

[From Station]

CWin max→ AC_BK(1023)
AC_BE(1023)
AC_VI(15)
AC_VO(7))

4 設定画面について

「WMM詳細」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > WMM詳細

■ WMM詳細設定

WMM詳細設定						
周波数帯: 2.4 GHz						
To Station						
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (1-15) ③	TXOP (0-255) ⑤	No Ack ⑥	
AC_BK	15	1023	7	0	<input type="checkbox"/>	
AC_BE	15	63	3	0	<input type="checkbox"/>	
AC_VI	7	15	1	94	<input type="checkbox"/>	
AC_VO	3	7	1	47	<input type="checkbox"/>	
From Station						
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (2-15) ④	TXOP (0-255) ⑤	ACM ⑦	
AC_BK	15	1023	7	0		
AC_BE	15	1023	3	0		
AC_VI	7	15	2	94	<input type="checkbox"/>	
AC_VO	3	7	2	47	<input type="checkbox"/>	

- ③ AIFSN(1-15) Arbitration Interframe Space Number(フレーム送信間隔)を設定します。設定値が小さいほど、バックオフ制御を開始する時間が早くなるため優先度が高くなります。設定できる範囲は、「1～15」です。

(出荷時の設定：[To Station]→ AC_BK(7)
AC_BE(3)
AC_VI(1)
AC_VO(1))

- ④ AIFSN(2-15) Arbitration Interframe Space Number(フレーム送信間隔)を設定します。設定値が小さいほど、バックオフ制御を開始する時間が早くなるため優先度が高くなります。設定できる範囲は、「2～15」です。

(出荷時の設定：[From Station]→ AC_BK(7)
AC_BE(3)
AC_VI(2)
AC_VO(2))

4 設定画面について

「WMM詳細」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > WMM詳細

■ WMM詳細設定

WMM詳細設定						
周波数帯: 2.4 GHz						
To Station						
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (1-15) ③	TXOP (0-255) ⑤	No Ack ⑥	
AC_BK	15	1023	7	0	<input type="checkbox"/>	
AC_BE	15	63	3	0	<input type="checkbox"/>	
AC_VI	7	15	1	94	<input type="checkbox"/>	
AC_VO	3	7	1	47	<input type="checkbox"/>	
From Station						
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (2-15) ④	TXOP (0-255) ⑤	ACM ⑦	
AC_BK	15	1023	7	0		
AC_BE	15	1023	3	0		
AC_VI	7	15	2	94	<input type="checkbox"/>	
AC_VO	3	7	2	47	<input type="checkbox"/>	

- ⑤ TXOP(0-255) チャンネルアクセス権を獲得したあと、排他的にチャンネルの使用を認める期間(Transmission Opportunity Limit)を設定します。
「0」が設定されている場合は、アクセス権獲得後に送信できるフレームは1つになります。

(出荷時の設定: [To Station] → AC_BK(0)
AC_BE(0)
AC_VI(94)
AC_VO(47)
[From Station] → AC_BK(0)
AC_BE(0)
AC_VI(94)
AC_VO(47))

- ⑥ No Ack ACK(受信完了通知)による再送信制御についての設定です。
再送信制御をしないときは、チェックボックスにチェックマーク[✓]を入れます。

(出荷時の設定: [To Station] → AC_BK
AC_BE
AC_VI
AC_VO)

4 設定画面について

「WMM詳細」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > WMM詳細

■ WMM詳細設定

WMM詳細設定					
周波数帯: 2.4 GHz					
To Station					
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (1-15) ③	TXOP (0-255) ⑤	No Ack ⑥
AC_BK	15	1023	7	0	<input type="checkbox"/>
AC_BE	15	63	3	0	<input type="checkbox"/>
AC_VI	7	15	1	94	<input type="checkbox"/>
AC_VO	3	7	1	47	<input type="checkbox"/>
From Station					
AC Name ①	CWin min ②	CWin max ②	AIFSN (2-15) ④	TXOP (0-255) ⑤	ACM ⑦
AC_BK	15	1023	7	0	
AC_BE	15	1023	3	0	
AC_VI	7	15	2	94	<input type="checkbox"/>
AC_VO	3	7	2	47	<input type="checkbox"/>

⑦ ACM

ACM(Admission Control Mandatory)を設定します。

ACMで保護されたカテゴリーで通信するときは、チェックボックスにチェックマーク[✓]を入れます。

(出荷時の設定：[From Station]→ AC_VI
AC_VO)

※ACMで保護されたカテゴリーで通信するには、この機能に対応した無線LAN端末の設定が必要です。

4 設定画面について

「WMM詳細」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > WMM詳細

■ WMMパワーセーブ設定

IEEE802.11e U-APSD(Unscheduled Automatic Power Save Delivery)機能対応の端末を省電力制御するときの設定です。

WMMパワーセーブ設定

WMMパワーセーブ: 無効 有効

WMMパワーセーブ WMMパワーセーブ機能を設定します。 (出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、WMMパワーセーブ機能が設定された無線LAN端末側で、省電力制御が必要と判断したときに動作します。

4 設定画面について

「レート」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > レート

■ レート設定

本製品と接続できる無線LAN端末を制限するとき、またはマルチキャストパケット伝送時の速度を指定するときに、「レート」画面で仮想APごとにレートを設定できます。

レート設定	
インターフェース: ①	ath0 <input type="button" value="▼"/>
プリセット: ②	初期値 <input type="button" value="▼"/>

① **インターフェース** …………… 設定する仮想APを選択します。 (出荷時の設定: ath0)
仮想APごとに、[レガシー] 欄と [HT-MCS] 欄の設定内容を変更できます。

② **プリセット** …………… プリセットされた設定を使用する場合に、「初期値」、「IEEE 802.11b端末を拒否★」、「IEEE 802.11b無効★」、「音声端末向け」、「安定重視1」、「安定重視2」から選択します。 (出荷時の設定: 初期値)

★無線2では表示されない項目です。

※設定したレートにより、接続が不安定になることがありますので、特に問題がない場合は、出荷時の設定でご使用ください。

「初期値」で通信が安定しない場合は、ほかのプリセットを試してください。
切り替えた方がよいときは、そのプリセットでご使用ください。

※プリセットされた設定内容を変更したときは、[プリセット] 欄に「-」が表示されます。

◎IEEE802.11b端末を拒否★

6Mbps、12Mbps、24Mbpsのレートをベーシックレートに設定することで、IEEE802.11b規格だけで動作する端末からの接続を拒否します。
IEEE802.11b規格のレートは有効のため、IEEE802.11g規格対応の端末に対して、IEEE802.11b規格のレートで通信できます。

◎IEEE802.11b無効★

IEEE802.11b規格のレートを無効化することで、IEEE802.11b規格での通信を無効化します。
IEEE802.11b規格のレートを使用することによる通信品位の低下を改善したい場合に使用します。

◎音声端末向け

音声端末向けにIEEE802.11b規格のレートを無効化し、さらに中間のレートを無効化することで、通話品位悪化時のパケット再送回数を低減し、通話を安定させます。

◎安定重視1

無線アクセスポイントと無線LAN端末の通信において、速度重視ではなく、安定性を重視したい場合に使用します。
IEEE802.11ac規格、IEEE802.11n規格の高いレートを無効化することで、電波状況が悪い場合にパケット再送回数を低減し、通信を安定させます。

◎安定重視2

「安定重視1」で通信の安定性が改善しない場合に選択します。
「安定重視1」よりもさらに多くのレートを無効化して、通信を安定させます。

4 設定画面について

「レート」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > レート

■ プリセットされた各レート設定

初期値	IEEE802.11b端末を拒否	IEEE802.11b無効
1Mbps ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示 (5GHz時)	1Mbps 有効 2Mbps 有効 5.5Mbps 有効	1Mbps 無効 2Mbps 無効 5.5Mbps 無効
2Mbps ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示 (5GHz時)	6Mbps ベーシックレート 9Mbps 有効 11Mbps 有効	6Mbps ベーシックレート 9Mbps 有効 11Mbps 無効
5.5Mbps ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示 (5GHz時)	12Mbps ベーシックレート 18Mbps 有効 24Mbps ベーシックレート	12Mbps ベーシックレート 18Mbps 有効 24Mbps ベーシックレート
6Mbps 有効(2.4GHz時) ベーシックレート(5GHz時)	36Mbps 有効 48Mbps 有効 54Mbps 有効	36Mbps 有効 48Mbps 有効 54Mbps 有効
9Mbps 有効	MCS0 有効	MCS0 有効
11Mbps ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示 (5GHz時)	MCS1 有効 MCS2 有効	MCS1 有効 MCS2 有効
12Mbps 有効(2.4GHz時) ベーシックレート(5GHz時)	MCS3 有効 MCS4 有効	MCS3 有効 MCS4 有効
18Mbps 有効	MCS5 有効	MCS5 有効
24Mbps 有効(2.4GHz時) ベーシックレート(5GHz時)	MCS6 有効 MCS7 有効	MCS6 有効 MCS7 有効
36Mbps 有効	MCS8 有効	MCS8 有効
48Mbps 有効	MCS9 有効	MCS9 有効
54Mbps 有効	MCS10 有効	MCS10 有効
MCS0 有効	MCS11 有効	MCS11 有効
MCS1 有効	MCS12 有効	MCS12 有効
MCS2 有効	MCS13 有効	MCS13 有効
MCS3 有効	MCS14 有効	MCS14 有効
MCS4 有効	MCS15 有効	MCS15 有効
MCS5 有効	マルチキャストレート 1Mbps	マルチキャストレート 6Mbps
MCS6 有効		
MCS7 有効		
MCS8 有効		
MCS9 有効		
MCS10 有効		
MCS11 有効		
MCS12 有効		
MCS13 有効		
MCS14 有効		
MCS15 有効		
VHT-MCS 1ストリーム MCS0-9(IEEE802.11ac 対応時のみ表示)		
VHT-MCS 2ストリーム MCS0-9(IEEE802.11ac 対応時のみ表示)		
マルチキャストレート 1Mbps (2.4GHz時) 6Mbps (5GHz時)		

4 設定画面について

「レート」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > レート

■ プリセットされた各レート設定

音声端末向け		安定重視1		安定重視2	
1Mbps	無効(2.4GHz時) 非表示(5GHz時)	1Mbps	ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示(5GHz時)	1Mbps	ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示(5GHz時)
2Mbps	無効(2.4GHz時) 非表示(5GHz時)	2Mbps	ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示(5GHz時)	2Mbps	ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示(5GHz時)
5.5Mbps	無効(2.4GHz時) 非表示(5GHz時)	5.5Mbps	ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示(5GHz時)	5.5Mbps	ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示(5GHz時)
6Mbps	ベーシックレート	6Mbps	有効(2.4GHz時) ベーシックレート(5GHz時)	6Mbps	有効(2.4GHz時) ベーシックレート(5GHz時)
9Mbps	無効	9Mbps	有効	9Mbps	有効
11Mbps	無効(2.4GHz時) 非表示(5GHz時)	11Mbps	ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示(5GHz時)	11Mbps	ベーシックレート (2.4GHz時) 非表示(5GHz時)
12Mbps	ベーシックレート	12Mbps	有効(2.4GHz時) ベーシックレート(5GHz時)	12Mbps	有効(2.4GHz時) ベーシックレート(5GHz時)
18Mbps	無効	18Mbps	有効	18Mbps	有効
24Mbps	ベーシックレート	24Mbps	有効(2.4GHz時) ベーシックレート(5GHz時)	24Mbps	有効(2.4GHz時) ベーシックレート(5GHz時)
36Mbps	無効	36Mbps	有効	36Mbps	有効
48Mbps	無効	48Mbps	有効	48Mbps	有効
54Mbps	有効	54Mbps	有効	54Mbps	有効
MCS0	有効	MCS0	有効	MCS0	有効
MCS1	無効	MCS1	有効	MCS1	有効
MCS2	無効	MCS2	有効	MCS2	有効
MCS3	無効	MCS3	有効	MCS3	有効
MCS4	有効	MCS4	有効	MCS4	有効
MCS5	無効	MCS5	有効	MCS5	有効
MCS6	無効	MCS6	有効	MCS6	有効
MCS7	有効	MCS7	有効	MCS7	有効
MCS8	有効	MCS8	有効	MCS8	無効
MCS9	無効	MCS9	有効	MCS9	無効
MCS10	無効	MCS10	有効	MCS10	無効
MCS11	無効	MCS11	有効	MCS11	無効
MCS12	有効	MCS12	無効	MCS12	無効
MCS13	無効	MCS13	無効	MCS13	無効
MCS14	無効	MCS14	無効	MCS14	無効
MCS15	有効	MCS15	無効	MCS15	無効
VHT-MCS 1ストリーム		VHT-MCS 1ストリーム		VHT-MCS 1ストリーム	
MCS0-9(IEEE802.11ac 対応時のみ表示)		MCS0-8(IEEE802.11ac 対応時のみ表示)		MCS0-7(IEEE802.11ac 対応時のみ表示)	
VHT-MCS 2ストリーム		VHT-MCS 2ストリーム		VHT-MCS 2ストリーム	
MCS0-9(IEEE802.11ac 対応時のみ表示)		MCS0-8(IEEE802.11ac 対応時のみ表示)		MCS0-7(IEEE802.11ac 対応時のみ表示)	
マルチキャストレート		マルチキャストレート		マルチキャストレート	
6Mbps		1Mbps(2.4GHz時) 6Mbps(5GHz時)		1Mbps(2.4GHz時) 6Mbps(5GHz時)	

4 設定画面について

「レート」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > レート

■ 通信レート of 各設定について

本製品と接続できる無線LAN端末を制限するとき、またはマルチキャストパケット伝送時の速度を指定するときは、「レート」画面で各仮想AP(ath0 ~ ath15)のレートを設定します。

ベーシックレートを設定した場合、無線LAN端末側が、その速度やMCS値を使用できることが条件となります。

たとえば、ベーシックレートを設定したレートで通信できない無線LAN端末は、本製品に接続できません。

※設定したレートにより、接続が不安定になることがありますので、特に問題がない場合は、出荷時の設定でご使用ください。

[レガシー] 欄は通信速度ごとに設定します。

- 無効: 選択した速度では通信しない
- 有効: 選択した速度で通信する
- ベーシックレート
: 無線LAN端末が選択した速度で通信できない場合は接続を許可しない

[HT-MCS] 欄は、HT(High Throughput)の速度で使用する変調方式、通信レートなどを対応付けしたMCS値(P.4-82)ごとに設定します。

- 無効: 選択したMCS値では通信しない
- 有効: 選択したMCS値で通信する
- ベーシックレート
: 無線LAN端末が選択したMCS値で通信できない場合は接続を許可しない

レート設定

インターフェース: ath0 仮想APごとに通信レートを設定できます。

プリセット: 初期値

1 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> 有効	<input checked="" type="radio"/> ベーシックレート
2 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> 有効	<input checked="" type="radio"/> ベーシックレート
5.5 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> 有効	<input checked="" type="radio"/> ベーシックレート
6 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
9 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
11 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> 有効	<input checked="" type="radio"/> ベーシックレート
12 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
18 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
24 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
36 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
48 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
54 Mbps:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート

レガシー:

HT-MCS:

MCS 0:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
MCS 1:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
MCS 12:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
MCS 13:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
MCS 14:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート
MCS 15:	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> ベーシックレート

マルチキャスト送信レート:

マルチキャストレート: 1 Mbps

VHT-MCS:

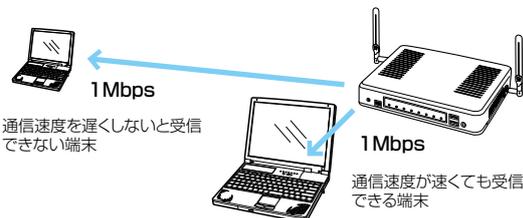
ストリーム1: MCS 0-7 MCS 0-8 MCS 0-9

ストリーム2: MCS 0-7 MCS 0-8 MCS 0-9

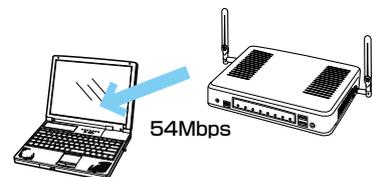
※無線2の場合、「レート」画面に[VHT-MCS]欄も表示されますので、ストリーム数ごとに、対応するMCS値(P.4-82)を設定します。

マルチキャスト送信レートの設定について

接続した複数の無線LAN端末の受信状態が異なるため、マルチキャストパケット伝送時、どの端末も受信できる最低速度で通信しています。(通信速度を優先させたくても変更できない状態)



エリアや端末の受信状況により、マルチキャストパケット伝送時の通信速度を選択すると、動画配信にも対応できるようになります。



※出荷時、マルチキャスト送信レートは、無線LAN規格の最低レートに設定されています。

4 設定画面について

「レート」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > レート

■ MCS値ごとの通信レートについて

下表を目安に、「レート」画面で[HT-MCS]欄や[VHT-MCS]欄を設定してください。

HT-MCS	ストリーム数	通信レート (Mbps)			
		帯域幅 20MHz(HT20)		帯域幅 40MHz(HT40)	
		800ns GI	400ns GI	800ns GI	400ns GI
0	1	6.5	7.2	13.5	15
1		13	14.4	27	30
2		19.5	21.7	40.5	45
3		26	28.9	54	60
4		39	43.3	81	90
5		52	57.8	108	120
6		58.5	65	121.5	135
7		65	72.2	135	150
8	2	13	14.4	27	30
9		26	28.9	54	60
10		39	43.3	81	90
11		52	57.8	108	120
12		78	86.7	162	180
13		104	115.6	216	240
14		117	130	243	270
15		130	144.4	270	300

VHT-MCS	ストリーム数	通信レート (Mbps)					
		帯域幅 20MHz(VHT20)		帯域幅 40MHz(VHT40)		帯域幅 80MHz(VHT80)	
		800ns GI	400ns GI	800ns GI	400ns GI	800ns GI	400ns GI
0	1	6.5	7.2	13.5	15	29.3	32.5
1		13	14.4	27	30	58.5	65
2		19.5	21.7	40.5	45	87.8	97.5
3		26	28.9	54	60	117	130
4		39	43.3	81	90	175.5	195
5		52	57.8	108	120	234	260
6		58.5	65	121.5	135	263.3	292.5
7		65	72.2	135	150	292.5	325
8		78	86.7	162	180	351	390
9		—	—	180	200	390	433.3
0	2	13	14.4	27	30	58.5	65
1		26	28.9	54	60	117	130
2		39	43.3	81	90	175.5	195
3		52	57.8	108	120	234	260
4		78	86.7	162	180	351	390
5		104	115.6	216	240	468	520
6		117	130	243	270	526.5	585
7		130	144.4	270	300	585	650
8		156	173.3	324	360	702	780
9		—	—	360	400	780	866.7

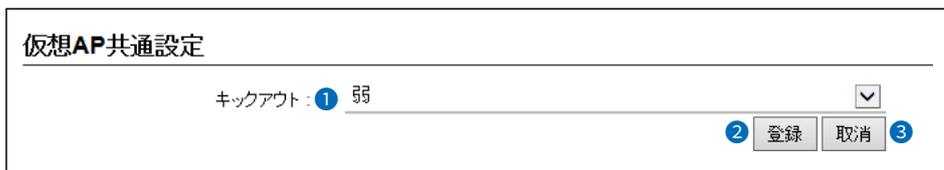
4 設定画面について

「レート」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > レート

■ 仮想AP共通設定

無線LANユニットごとに、本製品と通信する無線LAN端末を制限して、通信状態を改善するときに設定します。



- 1 キックアウト** 通信品位の低い端末を早期に追い出すことで、ほかの端末に対する悪影響を抑制します。
(出荷時の設定：弱)
通信品位の悪い端末の存在がほかの端末に対して悪影響をおよぼす場合に設定すると、全体の通信品位の悪化を低減できます。
設定するときは、「無効」、「弱」、「中」、「強」から選択します。
「強」にするほど、通信品位の低い端末を追い出しやすくなるため、通信品位の低い端末は切断されやすくなります。
- 2 <登録>** 「レート」画面で設定した内容を登録するボタンです。
- 3 <取消>** 「レート」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「ARP代理応答」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > ARP代理応答

■ ARP代理応答設定

無線LAN端末へのARPリクエストに対する応答を代理することで、無線LAN端末の省電力制御をする機能の設定です。

ARP代理応答設定

インターフェース: ① ath0

ARP代理応答: ② 無効 有効

不明なARPの透過: ③ 無効 有効

ARPエージング時間: ④ 0 分

⑤ 登録 ⑥ 取消

- ① インターフェース 設定する仮想APを選択します。 (出荷時の設定: ath0)
- ② ARP代理応答 [インターフェース] (①) 欄で選択した仮想APで、ARP代理応答の機能を使用するかしないかを設定します。 (出荷時の設定: 無効)
- ③ 不明なARPの透過 [インターフェース] (①) 欄で選択した仮想APと通信している無線LAN端末すべてのARP情報がわかっていて、不明なARPが来たとき、透過するかしないかを設定します。 (出荷時の設定: 有効)
- ARPリクエストを受信したとき、本製品に接続している無線LAN端末のIPアドレス学習状況によって、下記のような処理をします。
- ◎IPアドレス学習済みの無線LAN端末だけが存在する場合
- ARPリクエストのTargetIPが学習したIPアドレスと一致する場合は、本製品が代理応答します。
- 一致しない場合、[不明なARPの透過] 欄の設定が「有効」の場合は透過、「無効」の場合は破棄します。
- ◎IPアドレスを学習していない無線LAN端末が1台でもいる場合
- ARPリクエストのTargetIPが学習したIPアドレスと一致する場合は、本製品が代理応答します。
- 一致しない場合、[不明なARPの透過] 欄の設定に関係なく、ARPリクエストを透過します。
- ④ ARPエージング時間 学習したARP情報を削除するまでの時間を設定します。設定できる範囲は、「0～1440」(分)です。 (出荷時の設定: 0)
- ※ARP情報を学習後、設定した時間が経過すると、該当するARP情報が削除されます。
- ※「0」(出荷時の設定)のときは、削除されません。
- ※無線LAN端末が本製品から離脱した場合は、時間設定に関わらずARP情報が削除されます。
- ⑤ <登録> [ARP代理応答] 項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑥ <取消> [ARP代理応答] 項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
- なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「ARP代理応答」画面

無線LAN設定 > 無線1/無線2 > ARP代理応答

■ ARPキャッシュ情報

学習したARP情報がMACアドレスとIPアドレスの組み合わせで表示されますので、必要に応じて削除してください。

ARPキャッシュ情報		
MACアドレス	IPアドレス	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	削除 ①
		全削除 ②

- ① <削除> [ARP代理応答]項目の[インターフェース]欄で選択したインターフェースが学習したARPキャッシュ情報を削除するボタンです。
- ② <全削除> [ARP代理応答]項目の[インターフェース]欄で選択したインターフェースが学習したARPキャッシュ情報を一括して削除するボタンです。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー接続共通設定

本製品が接続するSIPサーバーについての設定です。

SIPサーバー接続共通設定

接続先の選択: ① ひかり電話(網直収) [▼]

SIP接続簡易設定: ② 有効 [▼]

自動設定に使用するサーバー番号: ③ 1 [▼]

④ 登録 ⑤ 取消

① 接続先の選択 ……………

IP電話へ接続するために、ご契約のIP電話接続業者が指定するSIPサーバーを選択します。
(出荷時の設定：ひかり電話(網直収))

接続先を変更すると、[SIPサーバー設定]項目(P.4-89～P.4-98)と、「ネットワーク設定」メニューにある「QoS」画面の「QoSルール設定」項目(P.4-28)で設定した内容が消去されます。

◎ひかり電話(網直収)

NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する電話サービスで、本製品が直接収容されます。

※本製品が対応する電話サービスは、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタイプ、ひかり電話オフィスエースの3種類です。

※ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイは必要ありません。

※「ルーター設定」メニュー→「WAN接続先」画面→「回線種別設定」項目の「回線種別」欄で「DHCPクライアント」、または「固定IP」が設定されている場合は、「使用しない」に設定されます。

※「ルーター設定」メニューに「VoIP用WAN」画面が表示されます。

◎ひかり電話(GW配下)

NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する電話サービスで、本製品をNTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイのIP電話端末として、電話サービスを使用するときに設定します。

※一部のオフィスゲートウェイ装置が有するカスケード接続で本製品を下部VoIPゲートウェイ装置として動作させることはできません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー接続共通設定

本製品が接続するSIPサーバーについての設定です。

SIPサーバー接続共通設定	
接続先の選択: ①	ひかり電話(網直収) <input type="checkbox"/>
SIP接続簡易設定: ②	有効 <input type="checkbox"/>
自動設定に使用するサーバー番号: ③	1 <input type="checkbox"/>
④ <input type="button" value="登録"/> ⑤ <input type="button" value="取消"/>	

① 接続先の選択(つづき) ……………

◎IP Voice(インターネット併用)

NTTコミュニケーションズのArcstar IP Voiceで提供する電話サービスで、インターネットアクセスもできます。

※「ルーター設定」メニューに「VoIP用WAN」画面が表示されます。

◎IP Voice(UNO接続)

NTTコミュニケーションズのArcstar IP Voiceで提供する電話サービスで、IP電話専用のUNO接続を使用するときに設定します。

◎サーバー接続

簡易中継サーバー(親機)の子機として、簡易中継サーバーと接続するとき設定します。

※2021年10月現在、VE-AG1(アナログ回線)、VE-IG1(ISDN回線)を本製品と接続する場合にも、この設定を使用します。

◎使用しない

相手のSIP URI(相手先のIPアドレス)を登録して、Peer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)で使用するとき設定します。

② SIP接続簡易設定 ……………

[ひかり電話(網直収)]

[ひかり電話(GW配下)]

本製品の起動時やDHCP更新時、[SIPサーバー設定]項目(P.4-89～P.4-92)を自動的に設定する機能です。 (出荷時の設定:有効)

◎無効

自動設定しません。

◎有効

自動設定します。

ひかり電話におけるSIP設定自動取得についてのご注意

[ひかり電話(網直収)] は、ひかり電話網からDHCPで、契約番号(SIPアカウント)を自動取得します。

追加番号契約がある場合は、追加番号を99番号まで自動取得します。

[ひかり電話(GW配下)]は、上位のゲートウェイからDHCPで、上位のゲートウェイに設定した子機アカウント1つを自動取得します。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー接続共通設定

本製品が接続するSIPサーバーについての設定です。

SIPサーバー接続共通設定

接続先の選択: ① ひかり電話(網直収) [▼]

SIP接続簡易設定: ② 有効 [▼]

自動設定に使用するサーバー番号: ③ 1 [④] [⑤▼]

登録 取消

③ 自動設定に使用する

サーバー番号
[ひかり電話(網直収)]
[ひかり電話(GW配下)]

電話番号に対するSIPサーバーの設定が、[SIPサーバー設定]項目(P.4-89、P.4-92)に自動設定される番号を選択します。(出荷時の設定: 1)
設定できる範囲は、「1」～「100」です。
※ [SIP接続簡易設定] (②)欄で「有効」を選択したとき表示されます。

④ <登録>

[SIPサーバー接続共通設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

⑤ <取消>

[SIPサーバー接続共通設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [ひかり電話(網直収)]

NTTが提供する「ひかり電話」サービスに接続するための設定です。

※ホームゲートウェイやオフィスゲートウェイは必要なく、NTTの交換機(SIPサーバー)に直接接続されます。

※[SIPサーバー接続共通設定]項目の[SIP接続簡易設定]欄(P.4-87)で「有効」を設定したときは、[SIPサーバー設定]項目が自動設定されます。

SIPサーバー設定

番号: ① 1

IP電話番号: ② _____

番号種別: ③ 契約者番号 追加番号

SIPサーバーアドレス: ④ _____

SIPサービスドメイン: ⑤ _____

ユーザーID: ⑥ _____

パスワード: ⑦ _____

登録時間: ⑧ 3600 ⑨ ⑩ 秒

① 番号 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。

最大100件まで登録できます。

〈一括設定画面へ移動〉

一括して新規登録するとき、クリックします。

クリックすると、「SIPサーバー一括設定」画面(P.4-109)に切り替わります。

② IP電話番号 ご契約の回線業者から付与された契約回線番号、または追加で使用する電話番号を半角で入力します。

③ 番号種別 [IP電話番号](②)欄で入力した電話番号が契約回線番号か追加番号かを指定します。

「追加番号」をクリックしたときは、下記の画面を表示します。

追加番号を使用する回線の契約者番号を[契約者番号]欄で選択します。

番号: 1

IP電話番号: _____

番号種別: 契約者番号 追加番号

契約者番号: _____

④ SIPサーバーアドレス ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑤ SIPサービスドメイン ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [ひかり電話(網直収)]

- ⑥ ユーザーID SIPサーバーへの接続認証に使用するIDです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑦ パスワード SIPサーバーへの接続認証に使用するパスワードです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または•(黒丸)で表示します。
- ⑧ 登録時間 本製品の接続情報をSIPサーバー(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60～28800」(秒)です。 (出荷時の設定：3600)
- ⑨ <登録> [SIPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑩ <取消> [SIPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [ひかり電話(GW配下)]

NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続するための設定です。
ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの内線設定に合わせた内容を設定します。

SIPサーバー設定

番号: ① 1

IP電話番号: ② _____

SIPサーバーアドレス: ③ _____

SIPサービスドメイン: ④ _____

ユーザーID: ⑤ _____

パスワード: ⑥ _____

登録時間: ⑦ 3600 秒

⑧ ⑨

- ① 番号 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。
最大100件まで登録できます。
〈一括設定画面へ移動〉
一括して新規登録するとき、クリックします。
クリックすると、「SIPサーバー一括設定」画面(P.4-110)に切り替わります。
- ② IP電話番号 上位のゲートウェイに設定されたIP端末の内線番号を半角で入力します。
- ③ SIPサーバーアドレス 接続するホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイのIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ④ SIPサービスドメイン 上位のゲートウェイに設定されたSIPサーバーのドメイン名、または接続するゲートウェイのIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑤ ユーザーID SIPサーバーへの接続認証に使用するIDです。
上位のゲートウェイに設定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。

IP電話番号について

NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイとの接続では、本製品に設定する「IP電話番号」はホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに設定されている1桁～2桁の内線番号となります。
この内線番号と実際に使用する発着信外線電話番号との関連付けは、ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイ側で設定します。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [ひかり電話(GW配下)]

SIPサーバー設定

番号: ① 1

IP電話番号: ② _____

SIPサーバーアドレス: ③ _____

SIPサービスドメイン: ④ _____

ユーザーID: ⑤ _____

パスワード: ⑥ _____

登録時間: ⑦ 3600 _____ 秒

⑧ ⑨

- ⑥ パスワード SIPサーバーへの接続認証に使用するパスワードです。
上位のゲートウェイに設定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または•(黒丸)で表示します。
- ⑦ 登録時間 本製品の接続情報をSIPサーバー(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60～28800」(秒)です。 (出荷時の設定: 3600)
- ⑧ <登録> [SIPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑨ <取消> [SIPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [IP Voice(インターネット併用)]

NTTコミュニケーションズのArcstar IP Voiceに接続するための設定です。
Arcstar IP Voiceの内線設定に合わせた内容を設定します。

SIPサーバー設定

番号: ① 1

IP電話番号: ② _____

番号種別: ③ 契約者番号 追加番号

SIPサーバーアドレス: ④ _____

SIPサービスドメイン: ⑤ _____

ユーザーID: ⑥ _____

パスワード: ⑦ _____

⑧ 登録 取消 ⑨

① 番号 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。

最大100件まで登録できます。

〈一括設定画面へ移動〉

一括して新規登録するとき、クリックします。

クリックすると、「SIPサーバー一括設定」画面(P.4-111)に切り替わります。

② IP電話番号 ご契約の回線業者から付与された契約回線番号、または追加で使用する電話番号を半角で入力します。

③ 番号種別 [IP電話番号] (②) 欄で入力した電話番号が契約回線番号か追加番号かを指定します。

「追加番号」をクリックしたときは、下記の画面を表示します。

追加番号を使用する回線の契約者番号を[契約者番号]欄で選択します。

番号: 1

IP電話番号: _____

番号種別: 契約者番号 追加番号

契約者番号: _____

④ SIPサーバーアドレス ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑤ SIPサービスドメイン ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [IP Voice(インターネット併用)]

SIPサーバー設定

番号: ① 1

IP電話番号: ② _____

番号種別: ③ 契約者番号 追加番号

SIPサーバーアドレス: ④ _____

SIPサービスドメイン: ⑤ _____

ユーザーID: ⑥ _____

パスワード: ⑦ _____

⑧ ⑨

- ⑥ ユーザーID SIPサーバーへの接続認証に使用するIDです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑦ パスワード SIPサーバーへの接続認証に使用するパスワードです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または•(黒丸)で表示します。
- ⑧ <登録> [SIPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑨ <取消> [SIPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [IP Voice(UNO接続)]

NTTコミュニケーションズのArcstar IP Voiceに接続するための設定です。
Arcstar IP Voiceの内線設定に合わせた内容を設定します。

① 番号 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。

最大100件まで登録できます。

〈一括設定画面へ移動〉

一括して新規登録するとき、クリックします。

クリックすると、「SIPサーバー一括設定」画面(P.4-112)に切り替わります。

② IP電話番号 ご契約の回線業者から付与された契約回線番号、または追加で使用する電話番号を半角で入力します。

③ 番号種別 [IP電話番号] (②) 欄で入力した電話番号が契約回線番号か追加番号かを指定します。

「追加番号」をクリックしたときは、下記の画面を表示します。

追加番号を使用する回線の契約者番号を[契約者番号]欄で選択します。

④ SIPサーバーアドレス ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑤ SIPサービスドメイン ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [IP Voice(UNO接続)]

SIPサーバー設定

番号: ① 1

IP電話番号: ②

番号種別: ③ 契約者番号 追加番号

SIPサーバーアドレス: ④

SIPサービスドメイン: ⑤

ユーザーID: ⑥

パスワード: ⑦

⑧ ⑨

- ⑥ ユーザーID SIPサーバーへの接続認証に使用するIDです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑦ パスワード SIPサーバーへの接続認証に使用するパスワードです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または•(黒丸)で表示します。
- ⑧ <登録> [SIPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑨ <取消> [SIPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [サーバー接続]

簡易中継サーバー(親機)の子機として、簡易中継サーバーと接続するとき設定します。

SIPサーバー設定

番号: ① 1

IP電話番号: ② _____

SIPサーバーアドレス: ③ _____

SIPサービスドメイン: ④ _____

ユーザーID: ⑤ _____

パスワード: ⑥ _____

登録時間: ⑦ 600 秒

再登録周期: ⑧ 通常時: 50 % 異常時: 50 %

- ① 番号 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。
最大100件まで登録できます。
〈一括設定画面へ移動〉
一括して新規登録するとき、クリックします。
クリックすると、「SIPサーバー一括設定」画面(P.4-113)に切り替わります。
- ② IP電話番号 簡易中継サーバーの子機として使用するIP電話番号を半角で入力します。
入力は、任意の半角数字31桁までです。
※簡易中継サーバー(親機)側に登録されているときだけ、IP電話を使用できます。
- ③ SIPサーバーアドレス 簡易中継サーバー(親機)側のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ④ SIPサービスドメイン 簡易中継サーバー(親機)側に設定されている内線ドメインを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑤ ユーザーID [IP電話番号]②欄で設定した同じ番号を半角で入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑥ パスワード 簡易中継サーバー(親機)側への接続認証に使用するパスワードです。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または•(黒丸)で表示します。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定 [サーバー接続]

SIPサーバー設定

番号: ① 1

IP電話番号: ② _____

SIPサーバーアドレス: ③ _____

SIPサービスドメイン: ④ _____

ユーザーID: ⑤ _____

パスワード: ⑥ _____

登録時間: ⑦ 600 秒

再登録周期: ⑧ 通常時: 50 % 異常時: 50 %

- ⑦ 登録時間 本製品の接続情報を簡易中継サーバー(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60～28800」(秒)です。 (出荷時の設定：600)
- ⑧ 再登録周期 本製品の接続情報を簡易中継サーバー(親機)側に再登録する周期を設定します。
(出荷時の設定：通常時：50、異常時：50)
周期は、通常(接続成功)時と異常(接続失敗)時について、設定した[登録時間]
(⑦)欄に対する比で指定します。
設定できる範囲は、「10～90」(%)です。
- ⑨ <登録> [SIPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑩ <取消> [SIPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧(契約者番号) [ひかり電話(網直収)]

[SIPサーバー設定]項目(P.4-89)で登録した契約者(IP電話)番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。発番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧				
契約者番号				
番号 ①	IP電話番号 ②	接続状況 ③	発番号通知 ④	⑦ ⑧
1	XXXXXXXXXX	接続試行中	通知する	編集 削除

- ① **番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ③ **接続状況** SIPサーバーとの接続状況を、「接続試行中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ **発番号通知** IP電話使用時、契約者(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先に契約者(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された契約者(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈接続状況の更新〉** 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況] (③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ⑥ **〈再接続〉** 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦ **〈編集〉** ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(契約者番号)]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外
は確認できません。
- ⑧ **〈削除〉** ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧(追加番号) [ひかり電話(網直収)]

[SIPサーバー設定]項目(P.4-89)で登録した追加(IP電話)番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

番号 ①	IP電話番号 ②	契約者番号 ③	発番号通知 ④	⑤	⑥
2			通知する	編集	削除

⑦ 登録 ⑧ 取消 ⑨ 全削除

- ① 番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② IP電話番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した追加(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、追加(IP電話)番号を変更できません。
- ③ 契約者番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ④ 発番号通知 IP電話使用時、追加(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先に追加(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された追加(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤ <編集> ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目では、[番号]、[IP電話番号]、[契約者番号]以外は確認できません。
- ⑥ <削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。
- ⑦ <登録> [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑧ <取消> [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑨ <全削除> 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目と[SIPサーバー設定一覧(契約者番号)]項目の内容がすべて削除されます。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧 [ひかり電話(GW配下)]

[SIPサーバー設定]項目(P.4-91)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。発番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

番号	IP電話番号	接続状況	発番号通知		
1		接続試行中	通知する	編集	削除

5 接続状況の更新 6 再接続

7 8

9 登録 10 取消 11 全削除

- ① 番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② IP電話番号 [SIPサーバー設定]項目で登録したIP電話番号を表示します。
※この欄ではIP電話番号の変更はできません。
- ③ 接続状況 SIPサーバーとの接続状況を、「接続試行中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ 発番号通知 IP電話使用時、IP電話番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先にIP電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定されたIP電話番号を通知します。
※NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイ側で設定が必要です。
詳しくは、ゲートウェイ装置の取扱説明書をご確認ください。
- ⑤ 〈接続状況の更新〉 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況] (③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧 [ひかり電話(GW配下)]

SIPサーバー設定一覧				5	6	
番号 1	IP電話番号 2	接続状況 3	発番号通知 4	7	8	
1	03-1234-5678	接続試行中	通知する	接続状況の更新	再接続	
				9	10	11
				登録	取消	全削除

- 6 <再接続> 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- 7 <編集> ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※ [SIPサーバー設定一覧]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。
- 8 <削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- 9 <登録> [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- 10 <取消> [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 11 <全削除> 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※ [SIPサーバー設定一覧]項目の内容がすべて削除されます。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧(契約者番号) [IP Voice(インターネット併用)]

[SIPサーバー設定]項目(P.4-93)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発信番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧				
番号 ①	IP電話番号 ②	接続状況 ③	発信番号通知 ④	⑦ ⑧
1	03-1234-5678	接続試行中	通知する	接続状況の更新 再接続
				編集 削除

- ① **番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ③ **接続状況** SIPサーバーとの接続状況を、「接続試行中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ **発信番号通知** IP電話使用時、契約者(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先に契約者(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された契約者(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈接続状況の更新〉** 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況] (③) 欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ⑥ **〈再接続〉** 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦ **〈編集〉** ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(契約者番号)]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外
は確認できません。
- ⑧ **〈削除〉** ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧(追加番号) [IP Voice(インターネット併用)]

[SIPサーバー設定]項目(P.4-93)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

番号 ①	IP電話番号 ②	契約者番号 ③	発番号通知 ④	⑤	⑥
2			通知する	編集	削除

⑦ 登録 ⑧ 取消 ⑨ 全削除

- ① 番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② IP電話番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した追加(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、追加(IP電話)番号を変更できません。
- ③ 契約者番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ④ 発番号通知 IP電話使用時、追加(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先に追加(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された追加(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤ <編集> ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目では、[番号]、[IP電話番号]、[契約者番号]以外は確認できません。
- ⑥ <削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ⑦ <登録> [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑧ <取消> [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑨ <全削除> 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目と[SIPサーバー設定一覧(契約者番号)]項目の内容がすべて削除されます。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧(契約者番号) [IP Voice(UNO接続)]

[SIPサーバー設定]項目(P.4-95)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発信番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧				
番号 ①	IP電話番号 ②	接続状況 ③	発信番号通知 ④	
1	03-1234-5678	接続試行中	通知する	

⑤ 接続状況の更新 ⑥ 再接続

⑦ 編集 ⑧ 削除

- ① **番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ③ **接続状況** SIPサーバーとの接続状況を、「接続試行中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ **発信番号通知** IP電話使用時、契約者(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先に契約者(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された契約者(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈接続状況の更新〉** 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況] (③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ⑥ **〈再接続〉** 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦ **〈編集〉** ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(契約者番号)]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。
- ⑧ **〈削除〉** ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧(追加番号) [IP Voice(UNO接続)]

[SIPサーバー設定]項目(P.4-95)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

番号 ①	IP電話番号 ②	契約者番号 ③	発番号通知 ④	⑤	⑥
2			通知する	編集	削除

⑦ 登録 ⑧ 取消 ⑨ 全削除

- ① 番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② IP電話番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した追加(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、追加(IP電話)番号を変更できません。
- ③ 契約者番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ④ 発番号通知 IP電話使用時、追加(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先に追加(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された追加(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤ <編集> ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目では、[番号]、[IP電話番号]、[契約者番号]以外は確認できません。
- ⑥ <削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ⑦ <登録> [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑧ <取消> [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑨ <全削除> 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目と[SIPサーバー設定一覧(契約者番号)]項目の内容がすべて削除されます。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧 [サーバー接続]

[SIPサーバー設定]項目(P.4-97)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。発番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧				5	6	
番号 1	IP電話番号 2	接続状況 3	発番号通知 4	7	8	
1	000000000000	接続試行中	通知する	接続状況の更新	再接続	
				9	10	11
				登録	取消	全削除

- ① **番号** [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** [SIPサーバー設定]項目で登録したIP電話番号を表示します。
※この欄ではIP電話番号の変更はできません。
- ③ **接続状況** SIPサーバーとの接続状況を、「接続試行中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ **発番号通知** IP電話使用時、IP電話番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
- ◎通知しない
発信先にIP電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定されたIP電話番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈接続状況の更新〉** 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況](③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー設定一覧 [サーバー接続]

SIPサーバー設定一覧			
番号 ①	IP電話番号 ②	接続状況 ③	発番号通知 ④
1	0000000000000000	接続試行中	通知する

⑤ 接続状況の更新 ⑥ 再接続

⑦ 編集 ⑧ 削除

⑨ 登録 ⑩ 取消 ⑪ 全削除

- ⑥ <再接続> 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦ <編集> ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。
- ⑧ <削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ⑨ <登録> [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑩ <取消> [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑪ <全削除> 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧]項目の内容がすべて削除されます。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー一括設定 [ひかり電話(網直収)]

接続するSIPサーバーを一括して登録する設定です。

[SIPサーバー設定]項目の[番号]欄(P.4-89)で<一括設定画面へ移動>をクリックしたときに表示される画面です。

番号	IP電話番号	ユーザーID	パスワード	発番通知
1				通知する
2				通知する
3				通知する

- ① 開始番号 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を一括登録するために、開始番号を設定します。
- ② 追加回数 [個別設定項目]欄(④)で登録するSIPサーバーの件数を設定します。
- ③ SIPサーバー設定項目 各電話番号に対するSIPサーバーについて、入力します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定]項目をご覧ください。
- ④ 個別設定項目 SIPサーバーに登録されている簡易中継サーバー(子機)ごとに、「IP電話番号」、「ユーザーID」、「パスワード」を入力し、「発番通知」で通知する/しないを設定します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定一覧]項目をご覧ください。
- ⑤ <登録> [SIPサーバー一括設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑥ <取消> [SIPサーバー一括設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー一括設定 [ひかり電話(GW配下)]

接続するSIPサーバーを一括して登録する設定です。

[SIPサーバー設定]項目の[番号]欄(P.4-91)で<一括設定画面へ移動>をクリックしたときに表示される画面です。

番号	IP電話番号	ユーザーID	パスワード	発番号通知
1				通知する
2				通知する
3				通知する

- ① 開始番号 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を一括登録するために、開始番号を設定します。
- ② 追加個数 [個別設定項目]欄(④)で登録するSIPサーバーの件数を設定します。
- ③ SIPサーバー設定項目 各電話番号に対するSIPサーバーについて、入力します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定]項目をご覧ください。
- ④ 個別設定項目 SIPサーバーに登録されている簡易中継サーバー(子機)ごとに、「IP電話番号」、「ユーザーID」、「パスワード」を入力し、「発番号通知」で通知する/しないを設定します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定一覧]項目をご覧ください。
- ⑤ <登録> [SIPサーバー一括設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑥ <取消> [SIPサーバー一括設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー一括設定 [IP Voice(インターネット併用)]

接続するSIPサーバーを一括して登録する設定です。

[SIPサーバー設定]項目の[番号]欄(P.4-93)で<一括設定画面へ移動>をクリックしたときに表示される画面です。

番号	IP電話番号	ユーザーID	パスワード	発番号通知
1				通知する
2				通知する
3				通知する

- ① 開始番号 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を一括登録するために、開始番号を設定します。
- ② 追加回数 [個別設定項目]欄(④)で登録するSIPサーバーの件数を設定します。
- ③ SIPサーバー設定項目 各電話番号に対するSIPサーバーについて、入力します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定]項目をご覧ください。
- ④ 個別設定項目 SIPサーバーに登録されている簡易中継サーバー(子機)ごとに、「IP電話番号」、「ユーザーID」、「パスワード」を入力し、「発番号通知」で通知する/しないを設定します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定一覧]項目をご覧ください。
- ⑤ <登録> [SIPサーバー一括設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑥ <取消> [SIPサーバー一括設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー一括設定 [IP Voice(UNO接続)]

接続するSIPサーバーを一括して登録する設定です。

[SIPサーバー設定]項目の[番号]欄(P.4-95)で〈一括設定画面へ移動〉をクリックしたときに表示される画面です。

番号	IP電話番号	ユーザーID	パスワード	発番号通知
1				通知する
2				通知する
3				通知する

- ① 開始番号 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を一括登録するために、開始番号を設定します。
- ② 追加回数 [個別設定項目]欄(④)で登録するSIPサーバーの件数を設定します。
- ③ SIPサーバー設定項目 各電話番号に対するSIPサーバーについて、入力します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定]項目をご覧ください。
- ④ 個別設定項目 SIPサーバーに登録されている簡易中継サーバー(子機)ごとに、「IP電話番号」、「ユーザーID」、「パスワード」を入力し、「発番号通知」で通知する/しないを設定します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定一覧]項目をご覧ください。
- ⑤ 〈登録〉 [SIPサーバー一括設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑥ 〈取消〉 [SIPサーバー一括設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「IP回線」画面

電話回線設定 > IP回線

■ SIPサーバー一括設定 [サーバー接続]

接続するSIPサーバーを一括して登録する設定です。

[SIPサーバー設定]項目の[番号]欄(P.4-97)で〈一括設定画面へ移動〉をクリックしたときに表示される画面です。

番号	IP電話番号	ユーザーID	パスワード	発番号通知
1				通知する
2				通知する
3				通知する

- ① 開始番号 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を一括登録するために、開始番号を設定します。
- ② 追加回数 [個別設定項目]欄(④)で登録するSIPサーバーの件数を設定します。
- ③ SIPサーバー設定項目 各電話番号に対するSIPサーバーについて、入力します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定]項目をご覧ください。
- ④ 個別設定項目 SIPサーバーに登録されている簡易中継サーバー(子機)ごとに、「IP電話番号」、「ユーザーID」、「パスワード」を入力し、「発番号通知」で通知する/しないを設定します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定一覧]項目をご覧ください。
- ⑤ 〈登録〉 [SIPサーバー一括設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑥ 〈取消〉 [SIPサーバー一括設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「回線グループ」画面

電話回線設定 > 回線グループ

■ 回線スライド設定

スライド動作を許可するSIPサーバーからのレスポンスコードを設定します。

※「IP回線」画面で設定する接続先(P.4-86)により、初期値が異なります。

特に問題がある場合を除いては、初期値でお使いください。

回線スライド設定

SIPレスポンス番号: ① 500 503 _____

スライド動作を許可するSIPのレスポンスコードを設定します。 ② ③

- ① SIPレスポンス番号 スライド発信を許可するSIPサーバーからのレスポンスコードを登録します。最大10件まで登録できます。

- ② <登録> [回線スライド設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

- ③ <取消> [回線スライド設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「回線グループ」画面

電話回線設定 > 回線グループ

■ 回線グループ設定

スライド発信する複数の回線(電話番号)を回線グループに登録します。

回線グループ番号	1	▼	追加
電話回線の登録	01	03	06
	02	03	07
	03	03	08
	04		09
	05		10

- ① 回線グループ番号 …………… 各回線グループを登録する番号を設定します。
最大50件まで登録できます。
〈追加〉
[回線グループ設定]項目(①～②)で設定した内容を[現在の登録]項目に登録するボタンです。
- ② 電話回線の登録 …………… スライド発信する回線(電話番号)を登録します。
「01」のテキストボックスに登録された回線(電話番号)から順番に発信します。
使用中の場合は、次の番号に登録された回線(電話番号)にスライドし、発信します。

電話回線設定 > 回線グループ

■ 回線グループ設定一覧

[回線グループ設定]項目で登録した内容を表示します。

番号	回線番号	①	②
1	03 03 03	編集	削除

- ① 〈編集〉 …………… 登録した内容を編集するときは、該当する欄の〈編集〉をクリックします。
※登録されている内容は、[回線グループ設定]項目に表示します。
- ② 〈削除〉 …………… 登録した内容を削除するときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

4 設定画面について

「Peer to Peer」画面

Peer to Peer設定 > Peer to Peer

■ Peer to Peer共通設定

WAN側回線からのPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない)対1での通話)着信を禁止、または許可します。

Peer to Peer共通設定	
WAN側からの着信: ① 拒否	▼
② 登録	取消 ③

- ① **WAN側からの着信** WAN側回線からのPeer to Peer着信について設定します。
(出荷時の設定：拒否)
「許可」に設定すると、WAN側回線からのPeer to Peer着信を許可します。
※WAN側からの着信には、相手先SIP URIがVoIP電話帳に登録されている必要があります。
- ② **〈登録〉** [Peer to Peer共通設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ③ **〈取消〉** [Peer to Peer共通設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

[Peer to Peer]画面

Peer to Peer設定 > Peer to Peer

■ Peer to Peer設定

Peer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)で通話するとき、自分のSIP URIを設定します。
※画面の内容は、設定例です。

- ① **番号** 自分の[SIP URI]を登録するために、「1」～「200」の番号を選択します。
最大200件まで登録できます。
- ② **SIP URI** 自分のSIP URIを半角英数字(63文字以内)で入力します。
次のどちらかの書式で入力できます。
◎sip : [SIPユーザー名]@[本製品のIPアドレス]
◎sip : [SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]
[SIPユーザー名]部分の入力について
任意の英数字を入力します。
※[SIPユーザー名]部分は、数字だけの入力としないで、必ず英字1文字以上を含むように入力(例：SR7100VN)してください。
[ホスト名.ドメイン名]部分について
◎通話相手のVoIP電話帳に、本製品のIPアドレスで登録されている場合は、本製品のLAN側IPアドレスを入力します。
◎通話相手のVoIP電話帳に、本製品のホスト名がダイナミックDNSや固定IPアドレスで登録されている場合は、通話相手から指定されたホスト名(例：telephone)、ドメイン名(例：icom.co.jp)を半角英数字で入力します。
- ③ **〈登録〉** [Peer to Peer設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ④ **〈取消〉** [Peer to Peer設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

Peer to Peer通話とは

IP電話サービスなどを含む上位SIPサーバーを経由せずに、複数の収容内線子機間で通話できます。

たとえば、SR-7100VN複数稼働でのIP-VPN経由で接続された事業所間の通話や、1つのLAN内に複数設置された異なる部署間での通話ができます。

WAN側経路を使用した通話もできますが、この場合は、WAN側回線からのPeer to Peerの着信を許可に設定し、VoIP電話帳に相手のSIP URIを登録する必要があります。

Peer to Peer通話では、経路となる回線全体の通信品質(帯域や遅延)が通話品質に影響しますので、安定した回線での利用をおすすめします。

4 設定画面について

「Peer to Peer」画面

Peer to Peer設定 > Peer to Peer

■ Peer to Peer設定一覧

[Peer to Peer設定]項目で登録した[SIP URI]の表示、および編集する[SIP URI]を選択します。

※画面の内容は、登録例です。

番号	SIP URI	1	2
1	sip.SR7100VN@telephone.icom.co.jp	編集	削除

3
全削除

- ①〈編集〉 ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[Peer to Peer設定]項目で、その内容を確認できます。
- ②〈削除〉 ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ③〈全削除〉 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※ [Peer to Peer設定一覧]項目の内容がすべて削除されます。

4 設定画面について

「VoIP電話帳」画面

Peer to Peer設定 > VoIP電話帳

■ VoIP電話帳の保存と書き込み

登録したVoIP電話帳をファイルに保存したり、保存したファイルの本製品に書き込んだりします。

VoIP電話帳の保存と書き込み

保存したファイルを書き込む：①

CSV形式のファイルが書き込みできます。
ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。

ファイルに保存する：② voiptbl.csv で保存されます。

① 保存したファイルを書き込む …

[ファイルに保存する]②欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」(拡張子: csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。

「電話帳登録ファイル」の保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。表示された画面から目的の電話帳登録ファイル(例: voiptbl.csv)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。

選択した電話帳登録ファイルの参照先が表示されたことを確認できたら、〈書き込み〉をクリックすると、[VoIP電話帳登録一覧]項目にその内容が表示されます。

書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、VoIP電話帳の内容も、その設定ファイルに保存されているVoIP電話帳の内容に上書きされますのでご注意ください。

※[ファイルに保存する]②欄の操作で保存した状態のファイル、および本書4-120ページの書式で編集したファイル以外のインポートは、保証対象外になります。

② ファイルに保存する ……………

[VoIP電話帳登録一覧]項目の内容を電話帳登録ファイル(例: voiptbl.csv)として、パソコンに保存します。

〈保存〉をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、電話帳登録ファイルを保存できます。

※保存した電話帳登録ファイルは、表計算ソフトウェアなどで編集できます。

また、保存した電話帳登録ファイルは、本製品を使用する複数の相手に書き込みできます。

4 設定画面について

「VoIP電話帳」画面

Peer to Peer設定 > VoIP電話帳

■ VoIP電話帳の保存と書き込み

電話帳登録ファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.4-119)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「電話帳登録ファイル」(拡張子: csv)の書式

	A	B	C	D	E
1	#	SR-7100VN	VOIP電話帳	設定保存ファイル	
2	#	Ver. 1.0000 (Copyright 2015-2016 Exseli Inc.)			
3	#	File Ver. 1.00			
4	#登録番号	名前	電話番号	SIP URI	
5	1	telephone	tel:7000	sip:icom7000@telephone.voip.net	voip
6	2	telephone1	tel:7100	sip:icom7100@telephone.voip.net	voip

A列: 登録番号(1~2000)、重複しない番号を入力

B列: 名前(半角30(全角15)文字以内)

C列: 電話番号(tel:任意の数字(半角31桁以内)と記号(#、*))、文字列認識用のため、tel:につづけて入力

D列: SIPURI(半角英数字63文字以内)

通話相手のSIP URIの書式に合わせて、下記のどちらかで入力できます。

sip: [SIPユーザー名]@[相手先のIPアドレス]

sip: [SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]

E列: 発信経路("voip" 固定)

ご注意

- ◎ A列、C列には、コメント行(A列の#ではじまる行)を除き、重複しない番号を入力してください。
上記画面の例では、1行~3行がコメント行です。
- ◎ 一度、[ファイルに保存する]欄(P.4-119)の操作で、CSVファイルとして保存してから、そのCSVファイルを表計算ソフトウェアなどで編集してください。
- ◎ CSVファイルに含まれる改行コードがエラーの原因となりますので、他機種からの電話帳を移行する場合は、テキストエディターなどで不要な改行コードを削除してください。

4 設定画面について

「VoIP電話帳」画面

Peer to Peer設定 > VoIP電話帳

■ VoIP電話帳への登録

Peer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)でIP電話する相手の電話番号を登録します。

VoIP電話帳への登録

番号: ① 1

名前: ② telephone

電話番号: ③ 7000

SIP URI: ④ sip: icom7000@telephone.voip.net

⑤ ⑥

- ① 番号 相手先電話番号を登録するために、「1」～「2000」の番号を選択します。
最大2000件まで登録できます。
- ② 名前 相手の名前を任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ 電話番号 電話機からダイヤルする電話番号を半角で入力します。
※緊急番号(110、118、119)の番号は、登録できません。
※任意の半角数字と半角記号(#、*)を31桁以内で入力します。
- ④ SIP URI SIPサーバーを中継しないでPeer to Peerで発信する場合、相手の[SIPURI]を半角英数字(63文字以内)で入力します。
[電話番号](③)欄に設定した電話番号を電話機からダイヤルをすると、[SIP URI]欄に入力した宛先に電話をかけます。
通話相手のSIP URIの書式に合わせて、下記のどちらかで入力できます。
◎sip : [SIPユーザー名]@[相手先のIPアドレス]
◎sip : [SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]
- ⑤ <登録> [VoIP電話帳への登録]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑥ <取消> [VoIP電話帳への登録]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「VoIP電話帳」画面

Peer to Peer設定 > VoIP電話帳

■ VoIP電話帳登録一覧

[VoIP電話帳への登録]項目で登録した内容を表示します。

VoIP電話帳登録一覧					
番号	名前	電話番号	SIP URI	①	②
1	telephone	7000	sip:icom7000@telephone.voip.net	編集	削除
2	telephone1	7100	sip:icom7100@telephone.voip.net	編集	削除
				③	全削除

- ①〈編集〉 ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[VoIP電話帳への登録]項目で、その内容を確認できます。
- ②〈削除〉 ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ③〈全削除〉 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※ [VoIP電話帳登録一覧]項目の内容がすべて削除されます。

4 設定画面について

「基本」画面

PBX設定 > 基本

■ 基本設定

登録された内線子機で共通に使用する基本設定です。

基本設定	
転送切り戻り時間	① 20 秒
鳴動時間	② 30 秒
パークリコール時間	③ 180 秒
保留音	④ 保留音1 <input type="button" value="v"/>
保留音の音量	⑤ <input checked="" type="radio"/> 0 dB <input type="radio"/> +6 dB
留守番電話機能	⑥ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
TELポートの通信中転送	⑦ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
留守番電話の保存先	⑧ <input checked="" type="radio"/> 内部メモリー <input type="radio"/> USBメモリー
営業時間外設定機能	⑨ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
⑩ 登録 ⑪ 取消	

- ① 転送切り戻り時間 …………… 内線子機から転送に失敗したとき、元の通話に戻すまでの時間です。設定時間内に転送先が応答できなかったときは、転送を元の通話に戻します。設定できる範囲は、「0～99」(秒)です。 (出荷時の設定：20)
※「0」を設定した場合は、元の通話に戻りません。
- ② 鳴動時間 …………… 転送を切り戻したときに鳴動時間が経過すると、通話を切断します。設定できる範囲は、「1～99」(秒)です。 (出荷時の設定：30)
- ③ パークリコール時間 …………… 通話をパーク保留したとき、転送元の内線子機をリコール(再呼び出し)するまでの時間です。
パークリコール設定時間内に誰もパーク応答しなかったとき、通話をパーク保留した子機にリコールを開始します。 (出荷時の設定：180)
設定できる範囲は、「0～600」(秒)です。
※「0」を設定した場合は、リコールしません。
- ④ 保留音 …………… 内線子機で通話を保留したときの保留音を設定します。
保留音は、以下の全8種類から選択できます。 (出荷時の設定：保留音1)
◎保留音1：エリーゼのために
◎保留音2：グリーンスリーブス
◎保留音3：峠の我が家
◎保留音4：カノン
◎保留音5：メヌエット
◎オリジナル保留音1
◎オリジナル保留音2
◎オリジナル保留音3
※オリジナル保留音(1～3)を使用する場合は、指定フォーマット形式で保存されたオーディオファイルを、あらかじめ本製品に読み込ませておく必要があります。(P.5-14)
- ⑤ 保留音の音量 …………… 内線子機で通話を保留したとき、設定した保留音(③)の音量を、「0dB」(小)、「+6dB」(大)から設定します。 (出荷時の設定：0dB)

4 設定画面について

「基本」画面

PBX設定 > 基本

■ 基本設定

基本設定	
転送切り戻り時間	① 20 秒
鳴動時間	② 30 秒
パークリコール時間	③ 180 秒
保留音	④ 保留音1
保留音の音量	⑤ <input checked="" type="radio"/> 0 dB <input type="radio"/> +6 dB
留守番電話機能	⑥ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
TELポートの通信中転送	⑦ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
留守番電話の保存先	⑧ <input checked="" type="radio"/> 内部メモリー <input type="radio"/> USBメモリー
営業時間外設定機能	⑨ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
⑩ 登録 ⑪ 取消	

- ⑥ 留守番電話機能 本製品の留守番電話機能を設定します。 (出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、登録された内線子機から留守番電話を操作できます。
留守番電話の応答やリモコン用の電話番号は、ユーザー用の設定画面で設定
できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
※この欄を変更して登録すると、電話機との接続が切断されます。
通話中の場合は、通話が切断されます。
- ⑦ TELポートの通信中転送 本製品の[TEL](1～4)ポートに接続するアナログ電話機でのフッキングによ
り、通話保留した相手を転送する機能です。 (出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、保留中に第2発信ができます。
※「無効」に設定している場合は、フッキングによる保留/解除ができます。
- ⑧ 留守番電話の保存先 留守番電話の保存先を「内部メモリー」、または「USBメモリー」に設定します。
(出荷時の設定：内部メモリー)
※この欄を変更して登録すると、電話機との接続が切断されます。
通話中の場合は、通話が切断されます。
※赤文字で「USBメモリーが確認できません。USB設定またはメモリーの
接続を確認してください。」と表示されている場合は、「管理ツール」画面の
[USBメモリー]欄(P.4-303)を「有効」に設定したあとに、本製品の[USB]
ポートにUSBメモリーを接続し、[USB]ランプ緑点灯を確認してから、再
度「登録」をクリックしてください。
- ⑨ 営業時間外設定機能 外線着信時の時刻による切り替え動作を設定します。(出荷時の設定：無効)
◎無効：昼夜切替など日付を指定して、詳細な切り替え動作設定ができます。
(P.4-285～P.4-286)
◎有効：簡単に切り替えやスケジュールの動作設定ができます。
※「有効」に設定すると、ユーザー用の設定画面に「営業時間外設定」
が表示されます。
※この場合、「外線サービスグループ設定」、「昼夜切替」、「夜間転送
先」は変更できません。
- ⑩ <登録> [基本設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑪ <取消> [基本設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 特番設定

[TEL](1～4)ポートに接続されたアナログ電話機など、フレキシブルボタンのない電話機などで操作したり、内部処理をしたりするために割り当てる特別番号について設定します。

※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。

※任意の半角数字と半角記号(#、*)を3桁以内で入力します。

※緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。

※「0」ではじまる番号は使用しないでください。

※内線番号や内線代表番号と重複した数字は設定できません。

また、内線番号や内線代表番号、他の特番の冒頭部と重複した数字や記号も設定できません。

※②、⑥、⑪、⑮の設定は、同じ設定グループ番号が割り当てられた内線子機に対して有効です。

特番設定	
コールピックアップ	① *81
グループピックアップ	② **
指定ピックアップ	③ *80
パーク保留	④ *90
パーク応答	⑤ *91
外線キー応答	⑥ *92
音声呼出	⑦ *83
不在転送	⑧ *94

- ① コールピックアップ …………… この欄で設定した番号をダイヤルすると、ほかの内線子機への呼び出しに代理応答できます。 (出荷時の設定：*81)
- ② グループピックアップ …………… この欄で設定した番号をダイヤルすると、同じ設定グループに所属するほかの内線子機への呼び出しに代理応答できます。 (出荷時の設定：**) ※この欄で設定した番号につづけてピックアップグループ番号(P.4-152)をダイヤルすると、指定した設定グループへの呼び出しに代理応答できます。
- ③ 指定ピックアップ …………… この欄で設定した番号につづけて内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の内線子機への呼び出しに代理応答できます。 (出荷時の設定：*80)
- ④ パーク保留 …………… この欄で設定した番号につづけてパーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24)をダイヤルすると、通話をパーク保留できます。 (出荷時の設定：*90)
- ⑤ パーク応答 …………… この欄で設定した番号につづけてパーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24)をダイヤルすると、ほかの内線子機でパーク保留した呼び出しに応答できます。 (出荷時の設定：*91)

4 設定画面について

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 特番設定

特番設定	
コールピックアップ :	① *81
グループピックアップ :	② **
指定ピックアップ :	③ *80
パーク保留 :	④ *90
パーク応答 :	⑤ *91
外線キー応答 :	⑥ *92
音声呼出 :	⑦ *83
不在転送 :	⑧ *94

- ⑥ **外線キー応答** 同じ設定グループに所属する内線子機から、外線着信や外線保留に応答するときに使用する特番です。 (出荷時の設定 : *92)
※着信している番号に、〈外線状態通知キー〉(P.4-156)を割り当てていない場合は、外線キー応答ができません。
※KXシリーズの着信に、ほかの内線子機から応答するときは、フレキシブルボタンがない内線子機でも使用できます。
- ◎**KX-UT136N、KX-HDV230Nに着信した電話を、ほかの内線子機から応答する場合**
同じ設定グループに所属する内線子機から、この欄で設定した番号(例 : *92)につづけて、外線着信中、または外線保留中の〈外線状態通知キー〉のキー番号(01 ~ 24)をダイヤルすると、外線着信や外線保留に応答できます。
例 : 03番のキー番号に応答するには、「*9203」とダイヤルします。
- ◎**フレキシブルボタンがない内線子機に着信した電話の場合**
着信した内線子機に、フレキシブルボタンがないときは、KX-UT136N、KX-HDV230Nに着信したときのように、電話機本体で〈外線状態通知キー〉のキー番号(01 ~ 24)を識別できませんので、「*81」(コールピックアップ)で応答することをおすすめします。
- ⑦ **音声呼出** この欄で設定した番号につづけて内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の内線子機を音声で呼び出します。 (出荷時の設定 : *83)
※KXシリーズ、IP200H以外の電話機には、音声呼び出しできません。
- ⑧ **不在転送** この欄で設定した番号をダイヤルすると、あらかじめ指定した内線子機ごとの転送先に着信が転送されます。 (出荷時の設定 : *94)
※「*94」につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
※不在転送機能を解除するときは、「*94」だけをダイヤルします。
※ユーザー用の「内線着信転送設定」画面で、内線子機ごとの転送先を設定できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

4 設定画面について

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 特番設定

特番設定	
コールドリフト	9
不応答転送	9 *95
話中転送	10 *96
外線着信転送の切替	11 *97
昼夜切替	12 *98
留守電の開始と停止	13 *99
留守電の再生	14 *84

- ⑨ 不応答転送 この欄で設定した番号をダイヤルすると、設定時間内に応答できない場合、あらかじめ指定した転送先に着信が転送されます。(出荷時の設定：*95)
※[*95]につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
※不応答転送機能を解除するときは、「*95」をダイヤルします。
※ユーザー用の「内線着信転送設定」画面で、内線子機ごとの転送先と呼び出し時間(出荷時の設定：5秒)を設定できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- ⑩ 話中転送 この欄で設定した番号をダイヤルすると、内線通話中に、ほかの内線から着信した場合、あらかじめ指定した転送先に着信が転送されます。(出荷時の設定：*96)
※[*96]につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
※話中転送機能を解除するときは、「*96」だけをダイヤルします。
※ユーザー用の「内線着信転送設定」画面で、登録した内線子機ごとの転送先を設定できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- ⑪ 外線着信転送の切替 指定した外線着信転送の「有効」/「無効」を切り替えます。(出荷時の設定：*97)
※この機能を使用する場合、フレキシブルボタンに外線着信転送切替の割り当てが必要です。
※ユーザー用の「外線着信転送設定」画面で回線(電話番号)ごとの転送先を設定できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- KX-UT136N、KX-HDV230Nと同じ設定グループに所属する内線子機は、「*97」につづけて、外線着信転送切替(P.4-163)を割り当てたKX-UT136N、KX-HDV230Nのフレキシブルボタン番号(01～24)をダイヤルします。(例：*9724)

4 設定画面について

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 特番設定

特番設定	
外線サービスグループ :	*94
不応答転送 :	9 *95
話中転送 :	10 *96
外線着信転送の切替 :	11 *97
昼夜切替 :	12 *98
留守電の開始と停止 :	13 *99
留守電の再生 :	14 *84

- 12 昼夜切替** 外線からの着信先を、昼間と夜間で切り替えます。（出荷時の設定：*98）
[*98]につづけて外線サービスグループ番号(01～12)(P.4-284)をダイヤルすると、指定の外線サービスグループ番号に対する着信動作の設定を昼間から夜間、または夜間から昼間に変更できます。
※[*98]をダイヤルすると、すべての外線サービスグループに対する着信動作の設定(昼間から夜間、または夜間から昼間)を一括して変更できます。
※回線ごとの夜間転送先は、「夜間転送先」画面(P.4-287)で設定できます。
※切替状況は、ユーザー用の「昼夜切替設定」画面(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)、またはKX-UT136NIに割り当てた「昼夜切替」によるランプで確認できます。（昼間：消灯、夜間：赤点灯）
- 13 留守電の開始と停止** この欄で設定した番号につづけて留守電ボックス番号(01～10)をダイヤルすると、ダイヤルした番号の留守電ボックスの留守番電話機能を開始、または停止できます。（操作例：*9901）（出荷時の設定：*99）
- 14 留守電の再生** この欄で設定した番号につづけて、留守電ボックス番号(01～10)をダイヤルすると、ダイヤルした番号の留守電ボックスの留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインできます。（操作例：*8401）
（出荷時の設定：*84）
ログインした状態で、電話機から聞こえるメッセージにしたがって操作すると、録音内容の再生や各種設定ができます。
※留守番電話操作メニュー(メインメニュー)の詳細については、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」(留守番電話操作一覧)をご覧ください。

4 設定画面について

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 特番設定

特番設定

回線閉塞の開始と停止 : 15 *87

着信おまかせの開始と停止 : 16 *86

システム特番 : 17 *82 *93 *85 *88 *89

登録 取消

18 19

- 15 回線閉塞の開始と停止 …………… 回線閉塞機能を開始、または停止するときに使用する特番です。
(出荷時の設定：*87)
- 回線閉塞機能とは、通話中や不在など、あらかじめ応答できないことがわかっている場合に、回線を話中状態にできる機能です。
- 同じ設定グループに所属する電話機から、この欄で設定した番号につづけて、外線状態通知キーを割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24)をダイヤルすると、選択した回線について回線閉塞機能を開始、または停止できます。
- 回線閉塞機能が動作しているあいだは、選択した回線の〈外線状態通知キー〉が赤色に点灯して、外線からの着信を拒否します。
- ※この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、フレキシブルボタンに〈外線状態通知キー〉の割り当てが契約チャンネル数分必要です。
(P.4-156)

回線閉塞機能を設定したときは

ほかの機能と回線閉塞機能の設定が重複した場合は、下記のような条件で動作します。

回線閉塞機能が優先される機能は

完全に回線が閉塞された状態では、話中になるため、下記の機能は同時に利用できません。

- ◎着信キューイング機能
- ◎着信おまかせ機能
- ◎着信転送機能

回線閉塞機能より優先される機能は

- ◎迷惑電話お断り機能
- ◎非通知着信拒否機能
- ◎留守番電話機能(ただし、該当する留守電ボックスが開始状態で、外線着信転送機能がOFFの場合)

4 設定画面について

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 特番設定

- 16 着信おまたせの開始と停止** …… この欄で設定した番号をダイヤルすると、通話中など登録した内線子機が設定した時間内に応答できないときに、メッセージを流して相手に待っていただく着信おまたせ機能を開始、または停止できます。（出荷時の設定：*86）
※ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で、回線ごと使用するパターンを設定します。
※KX-UT136N、KX-HDV230Nで、この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、フレキシブルボタンに〈外線状態通知キー〉の割り当てが契約チャンネル数分必要です。（P.4-156）
※着信おまたせ機能で、オリジナルおまたせメッセージをご利用になる場合は、USBメモリーからオーディオファイルを本製品に読み込ませる必要があります。
ファイル形式や操作方法など、詳しくは本書5-14ページをご覧ください。
- 17 システム特番** …………… 本製品のシステム内部で使用する特番です。
（出荷時の設定：*82 *93 *85 *88 *89）
これらの番号をほかの特番や内線番号として使用したい場合には、重複しない番号に変更してください。
※システム特番は、登録した内線子機からダイヤルする番号ではありません。
- 18 〈登録〉** …………… [特番設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- 19 〈取消〉** …………… [特番設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「特番」画面

PBX設定 > 特番

■ 外線発信特番設定

「内線個別」画面(P.4-132)で登録した回線捕捉と異なる回線を使用して外線へ発信するための番号です。

外線電話番号	回線	プレフィクス
03-1234-5678	IP回線	*1*
03-1234-5679	IP回線	*2*
03-1234-5680	IP回線	*3*
03-1234-5681	IP回線	*4*
03-1234-5682	IP回線	*5*
回線グループ1	IP回線	*6*

プレフィクス……………

回線(電話番号)ごとに、任意の半角数字と半角記号(#、*)を7桁以内で入力します。

[プレフィクス]を付けて発信すると、選択した回線に切り替えて発信できます。

※ほかの特番や内線番号などと重複しないように設定してください。

回線グループ機能について

上記の例で、「回線グループ1」に設定した[プレフィクス]を付けて発信すると、その回線グループ(P.4-115)に登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉できます。

※[外線発信特番設定]項目に表示されるのは、回線グループ番号と回線だけです。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ」画面(P.4-115)で確認できます。

4 設定画面について

「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線個別設定

内線子機を新規登録するとき、または設定内容を編集するときを使用します。

※内線番号と内線代表番号は重複して登録できません。

登録されている内線代表番号は、「内線代表」画面の[内線代表設定一覧]項目(P.4-141)で確認できます。

内線個別設定	
機種: ①	自動 <input type="button" value="▼"/>
番号: ②	1 <input type="button" value="▼"/>
名前: ③	<input type="text"/>
内線番号: ④	<input type="text"/>
パスワード: ⑤	<input type="text"/>

- ① 機種 登録する内線子機の機種を「自動」、「KX-UTシリーズ」、「KX-HDVシリーズ」、「IP200H」、「IP200PG」、「標準SIPフォン」、「標準SIPフォン(WLAN)」、「TEL1」、「TEL2」、「TEL3」、「TEL4」から選択します。
(出荷時の設定：自動)
※「TEL1」～「TEL4」は、アナログ電話機のことです。
アナログ電話機を本製品の[TEL](1～4)ポートに接続したとき、「TEL1」～「TEL4」を指定します。
※アナログ電話機以外を登録する場合は、機種を自動判別する「自動」をおすすめします。
機種を指定して登録する場合は、パナソニック社製IP電話機は「KX-UTシリーズ」、または「KX-HDVシリーズ」、IP200Hは「IP200H」、IP200PGは「IP200PG」、無線IP携帯は「標準SIPフォン(WLAN)」を選択します。
- ② 番号 内線子機を登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。
※[機種]①欄で「TEL1」～「TEL4」を選択したときは表示されません。
- ③ 名前 登録する内線子機の名前を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。
※[機種]①欄で「TEL1」～「TEL4」を選択したときは表示されません。
- ④ 内線番号 登録する内線子機の内線番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。
- ⑤ パスワード 登録した内線子機が、本製品に接続するとき使用するパスワードを、半角英数字31文字以内で入力します。
※[機種]①欄で「TEL1」～「TEL4」を選択したときは表示されません。
※ご使用になるIP電話機側のパスワードと一致しない場合は、本製品の内線子機として使用できませんのでご注意ください。(アナログ電話機を除く)

4 設定画面について

「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線個別設定

- 6 IP回線** プリセット発信時に使用するIP回線の電話番号、または回線グループ (P.4-115)を選択します。 (出荷時の設定：捕捉しない)
- 7 Peer to Peer** Peer to Peer発信時に使用するSIPユーザー名を選択します。 (出荷時の設定：捕捉しない)
- 8 留守電ボックス** 登録する内線子機が使用する留守電ボックスを、「使用しない」、「ボックス1」～「ボックス10」から選択します。 (出荷時の設定：ボックス1)
KXシリーズの電話機にある<メッセージ>を押したときに選択されるボックス番号です。
※[機種] (1) 欄で、「自動」、「KX-UTシリーズ」、「KX-HDVシリーズ」、「IP200H」、「IP200PG」を設定したときだけ、選択できます。
- 9 WAN側からの接続** WAN側回線からの接続について設定します。 (出荷時の設定：禁止)
「許可」に設定すると、WAN側回線からの接続を許可します。
※「許可」に設定した場合、特に[パスワード] (5) 欄に入力するパスワードは、長く複雑なものに設定することをおすすめします。
- 10 MACアドレス** ご使用になるパナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)のMACアドレスを入力します。
※[機種] (1) 欄で、「自動」、「KX-UTシリーズ」、「KX-HDVシリーズ」以外を選択していると、MACアドレスを入力できません。
※MACアドレスの入力を間違えると、電話機を利用できません。
MACアドレスの確認方法については、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。
- 11 <登録>** [内線個別設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- 12 <取消>** [内線個別設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線設定一覧

[内線個別設定]項目(P.4-132)で登録した内線子機の内線番号と機種などを表示します。

※登録されている内線代表番号は、「内線代表」画面の[内線代表設定一覧]項目(P.4-141)で確認できます。

① <input type="checkbox"/> すべて	番号	名前	内線番号	機種	②	③
<input type="checkbox"/>	1	受付	501	自動	編集	削除
<input type="checkbox"/>	2	営業1	201	自動	編集	削除
<input type="checkbox"/>	3	営業2	202	自動	編集	削除
<input type="checkbox"/>	8	資材2	402	自動	編集	削除

④ 選択削除 ⑤ 全削除

- ① **子機選択ボックス** …………… 複数の内線子機を削除するとき、または複数の内線子機に設定をコピーするとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※設定を複数の内線子機にコピーするときは、コピー先にしたい子機選択ボックスにチェックマークを入れてから、[内線一括設定]項目でコピー元になる内線子機の選択が必要です。(P.4-135)
- ② **〈編集〉** …………… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線番号(内線子機)の内容を[内線設定]項目で編集できます。
- ③ **〈削除〉** …………… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線番号に対する登録を削除します。
- ④ **〈選択削除〉** …………… クリックすると、[子機選択ボックス](①)欄で選択した内線子機の内容を削除します。
- ⑤ **〈全削除〉** …………… クリックすると、内線子機として登録されたすべての内容を削除します。

4 設定画面について

「内線個別」画面

PBX設定 > 内線個別

■ 内線一括設定

連番で内線番号を一括登録したり、設定内容をほかの内線番号に一括コピーしたりできます。

内線一括設定

一括登録: ① _____ ~ _____

指定した範囲の連番を内線番号として登録を行います。

設定コピー: ② コピー元: 内線子機 1(501)

コピー元から選択した子機へ内線設定をコピーします。

コピーする設定項目

機種

IP回線

Peer to Peer

留守電ボックス

WAN側からの接続

① 一括登録

連番で一括に登録したい内線番号の範囲を入力します。

〈追加〉

クリックすると、入力した範囲(例:601~605)の内線番号が[内線設定一覧]項目に登録されます。

※入力した範囲で、すでに登録された内線番号がある場合は、「電話番号が重複しています」を表示します。

② 設定コピー

登録した内線子機の設定内容をほかの内線子機にコピーできます。

【コピーのしかた】

1. [内線個別設定]項目で、コピー元の子機(例:501)について設定します。
2. [一括登録]欄で、登録する内線番号の範囲(例:601~605)を入力して、〈追加〉をクリックします。
3. [内線設定一覧]項目で、設定をコピーしたい内線子機(例:601~605)のチェックボックスをクリックします。
4. [設定コピー]欄で、コピー元の内線子機(例:501)を選択し、コピーする設定項目のチェックボックスをクリックします。
5. [設定コピー]欄の〈コピー〉をクリックします。

4 設定画面について

「TEL」画面

PBX設定 > TEL > TEL1/TEL2/TEL3/TEL4

■ TEL設定

本製品の[TEL](1～4)ポートに接続する電話機の基本設定です。

TEL設定	
ナンバーディスプレイ	① <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
FAXの接続	② <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
受話音量	③ 0 <input type="text"/> <input type="button" value="v"/> dB
送話音量	④ 0 <input type="text"/> <input type="button" value="v"/> dB
電話機のダイヤル方式	⑤ 全方式に対応 <input type="button" value="v"/>
桁間タイマー	⑥ 5 <input type="text"/> 秒

- ① **ナンバーディスプレイ** …………… [TEL](1～4)ポートに接続するアナログ電話機で使用するナンバーディスプレイ機能について設定します。 (出荷時の設定：無効)
※ナンバーディスプレイ機能を「有効」に設定する場合、アナログ電話機がナンバーディスプレイ機能に対応していることをご確認ください。
- ② **FAXの接続** …………… [TEL](1～4)ポートにアナログ電話回線用のFAXを接続するときの設定です。 (出荷時の設定：有効)
※「無効」に設定すると、FAXを接続しても動作しません。
- ③ **受話音量** …………… アナログ電話機使用時、自分の受話器に聞こえる音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ④ **送話音量** …………… アナログ電話機使用時、相手の受話器に聞こえる音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ⑤ **電話機のダイヤル方式** …………… 本製品の[TEL](1～4)ポートに接続するアナログ電話機のダイヤル信号の種類を設定します。 (出荷時の設定：全方式に対応)
◎**全方式に対応** : 電話機のダイヤル方式を自動認識させるとき
◎**PB** : 電話機のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
◎**DP** : 電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)のとき
- ⑥ **桁間タイマー** …………… ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。 (出荷時の設定：5)
設定できる範囲は、「1～99」(秒)です。
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎて操作がないと発信を開始しますのでご注意ください。

4 設定画面について

「TEL」画面

PBX設定 > TEL > TEL1/TEL2/TEL3/TEL4

■ TEL設定

TEL設定

エコーキャンセラー：⑦ 無効 有効

エコーサプレッション：⑧ 無効 有効

エコーサプレッションレベル：⑨ -30 dB

CNG：⑩ 無効 有効

CNGレベル：⑪ -55 dB

⑫ ⑬

- ⑦ **エコーキャンセラー** …………… 本製品の[TEL](1～4)ポートで使用するエコーキャンセラー機能について設定します。
(出荷時の設定：有効)
※「有効」に設定すると、通話するときにかかるエコー(反響)を低減します。
(通話する相手に返るエコー抑止に効果があります)
- ⑧ **エコーサプレッション** …………… 本製品のエコーサプレッション機能について設定します。
(出荷時の設定：有効)
※「有効」に設定すると、送話音量を検知し、それに応じた受話音量を下げて、エコー量を抑止します。
- ⑨ **エコーサプレッションレベル** …… エコーサプレッション機能使用時のエコー抑止レベルを設定します。
(出荷時の設定：-30)
設定できる範囲は、「-65」(最小)～「0」(最大)(dB)です。
ダブルトーク時、途切れ感がある場合にレベルを下げます。
※レベルを下げすぎると、エコー量が増加しますのでご注意ください。
- ⑩ **CNG** …………… 本製品のCNG(コンフォートノイズ生成)機能について設定します。
(出荷時の設定：有効)
※「有効」に設定すると、相手の受話器に聞こえる受話音に少しノイズ(サー)を付加して無通話時の違和感を軽減します。
- ⑪ **CNGレベル** …………… CNG機能を使用時、相手の受話器に聞こえるノイズ(サー)の音量を設定します。
(出荷時の設定：-55)
設定できる範囲は、「-65」(最小音量)～「-30」(最大音量)(dB)です。
- ⑫ **〈登録〉** …………… [TEL設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑬ **〈取消〉** …………… [TEL設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「内線代表」画面

PBX設定 > 内線代表

複数の内線番号を内線代表番号という1つのグループにまとめ、最大50件まで登録できます。

- ◎**一斉着信**：設定したグループ内で、着信させる内線子機、着信させない内線子機を選択できます。
一斉着信では、一定時間、応答できない状態がつづく、着信させる内線子機を変更できます。
※着信させる内線子機の設定は、1次着信から3次着信まで設定できます。
- ◎**順次着信**：設定したグループ内で、着信させる内線子機の順番を指定できます。
順次着信では「01」～「104」のテキストボックスに登録された順番に着信します。(P.4-140)
※通話中の場合は、次の番号に登録された内線子機に着信します。

■ 内線代表設定

内線代表で使用する内線代表番号を新規登録するときに使用します。

※内線番号と内線代表番号は重複して登録できません。

登録されている内線子機の内線番号と機種は、「内線個別」画面(P.4-132)で確認できます。

内線代表設定	
内線代表番号：①	_____
内線代表名：②	_____
動作：③	一斉 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
1次着信：④	<input type="checkbox"/> すべて <input type="checkbox"/> 501 <input checked="" type="checkbox"/> 201 <input type="checkbox"/> 202 <input type="checkbox"/> 203 <input type="checkbox"/> 301 <input type="checkbox"/> 302 <input type="checkbox"/> 401 <input type="checkbox"/> 402
2次着信 起動開始時間：⑤	10秒後 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
2次着信：	<input type="checkbox"/> すべて <input type="checkbox"/> 501 <input checked="" type="checkbox"/> 201 <input checked="" type="checkbox"/> 202 <input checked="" type="checkbox"/> 203 <input type="checkbox"/> 301 <input type="checkbox"/> 302 <input type="checkbox"/> 401 <input type="checkbox"/> 402
3次着信 起動開始時間：	なし
	⑥ 登録 ⑦ 取消

- ① **内線代表番号** 内線代表名(②)に対する内線代表番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。
設定された内線代表番号をダイヤルすると、この項目で設定された内容にしたがって着信します。
外線から内線代表番号に着信させるときは、「着信」画面の[着信設定]項目にある[着信内線番号]欄(P.4-142)で設定できます。
※緊急通報(110、118、119)の番号は、使用しないでください。
※「0」ではじまる番号は、使用しないでください。
- ② **内線代表名** 登録する内線代表の名称を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ **動作** 内線代表番号で着信したときの動作を選択します。
 - ◎**一斉**：[内線番号](④)欄で、着信させる内線子機のチェックボックスをクリックします。
※一定時間、応答できない状態がつづいたとき、着信させる内線子機を変更する場合は、[起動開始時間](⑤)欄を設定します。
 - ◎**順次**：設定したグループ内で、着信させる内線子機の順番を指定できます。(P.4-140)

4 設定画面について

「内線代表」画面

PBX設定 > 内線代表

■ 内線代表設定

内線代表設定

内線代表番号: ① _____

内線代表名: ② _____

動作: ③ 一斉 [v]

1次着信: ④ すべて 501 201
 202 203 301
 302 401 402

2次着信 起動開始時間: ⑤ 10秒後 [v]

2次着信: すべて 501 201
 202 203 301
 302 401 402

3次着信 起動開始時間: なし

⑥ 登録 ⑦ 取消

- ④ 内線番号 内線代表番号で着信したとき鳴動させる内線子機の内線番号を選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※[動作](③)欄で「一斉」を選択したときは、[起動開始時間](⑤)欄を設定すると、3次着信まで動作を設定できます。
- ⑤ 起動開始時間 次の着信動作に切り替わるまでの鳴動時間を設定します。
(出荷時の設定: なし)
設定できる範囲は、「なし」、「10秒後」～「60秒後」(5秒刻み)です。
※[動作](③)欄で「順次」を選択したときは、表示されません。
- ⑥ <登録> [内線代表設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑦ <取消> 「内線代表設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「内線代表」画面

PBX設定 > 内線代表

■ 内線代表設定

登録された内線代表番号に対する設定内容を編集するときに使用します。

※編集するときは、[内線代表設定一覧]項目(P.4-141)に表示された内線代表番号の<編集>をクリックします。

※登録された内線番号は、「内線個別」画面の[内線個別設定]項目(P.4-132)で編集できます。

※[動作](③)欄で「順次」を選択したときの画面を使用しています。

※「一斉」を選択したときの説明については、4-138ページをご覧ください。

内線代表設定

内線代表番号: ① _____

内線代表名: ② _____

動作: ③ 順次 [v]

内線番号: ④

001 [v]	053 [v]
002 [v]	054 [v]
003 [v]	055 [v]
050 [v]	102 [v]
051 [v]	103 [v]
052 [v]	104 [v]

- ① 内線代表番号 内線代表名(②)に対する内線代表番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。設定された内線代表番号をダイヤルすると、この項目で設定された内容にしたがって着信します。外線から内線代表番号に着信させるときは、「着信」画面の[着信設定]項目にある[着信内線番号]欄(P.4-142)で設定できます。※緊急通報(110、118、119)の番号は、使用しないでください。※「0」ではじまる番号は、使用しないでください。
- ② 内線代表名 登録する内線代表の名称を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ 動作 内線代表番号で着信したときの動作を選択します。
◎一斉：設定したグループ内で、着信させる内線子機を選択できます。
※一定時間、応答できない状態がつづいたとき、着信させる内線子機を変更できます。
着信させる内線子機の選択は、1次着信から3次着信まで設定できます。(P.4-138)
◎順次：「01」～「104」のテキストボックス(④)で、着信させる内線子機の順番を指定します。
- ④ 内線番号 内線代表番号で着信したとき、鳴動させる内線子機の内線番号を選択します。※「01」のテキストボックスに登録された内線子機が通話中の場合は、次の番号に登録された内線子機に着信します。※KXシリーズなど多重着信に対応した多機能電話機では、順次着信が正しく動作しないことがあります。

4 設定画面について

「内線代表」画面

PBX設定 > 内線代表

■ 内線代表設定一覧

[内線代表設定]項目(P.4-138)で登録した内線代表番号に設定された着信動作を表示します。

内線代表番号	内線代表名	動作	内線番号	1	2
200	営業部	一斉	<1次着信> 201 <2次着信> 10秒後 202 203 <3次着信> なし	編集	削除
300	購買部	一斉	<1次着信> 301 302 <2次着信> なし <3次着信> なし	編集	削除
400	資材部	順次	401 402	編集	削除

3
全削除

- ① 〈編集〉 クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線代表番号の設定内容を[内線代表設定]項目で編集できます。
- ② 〈削除〉 クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線代表番号に対する登録を削除します。
- ③ 〈全削除〉 クリックすると、内線代表番号として登録されたすべての番号を削除します。

4 設定画面について

「着信」画面

PBX設定 > 着信

■ 着信設定

登録した着信内線番号の変更、着信キューイングの設定をします。

着信設定					
外線電話番号	回線	着信内線番号 ①	鳴り分け判別 ②	着信キューイング ③	
06-XXXXXXXX	IP回線	30	外線音A	使用しない	
06-XXXXXXXX	IP回線	30	外線音A	使用しない	
06-XXXXXXXX	IP回線	33	外線音A	使用しない	
06-XXXXXXXX	IP回線	41	外線音A	使用しない	
06-XXXXXXXX	IP回線	42	外線音A	使用しない	

④ 登録 ⑤ 取消

- ① 着信内線番号 …………… 登録した外線電話番号(回線)に電話がかかってきたとき、着信させる内線子機の内線番号(ダイヤルイン)を設定します。(出荷時の設定：なし)
着信内線番号には内線番号、または内線代表番号を設定できます。
- ② 鳴り分け判別 …………… 登録した外線電話番号ごとに、着信時の音(パターン)★を設定します。
(出荷時の設定：外線音A(IP回線時)、
内線音A(Peer to Peer時))
※KXシリーズ、IP200H、IP200PG以外の電話機では無効な設定です。KXシリーズ、IP200H、IP200PGを本製品に接続している場合は、下記から選択できます。
◎外線音A～外線音C : 外線着信時に使用される音(パターン)です。
◎内線音A～内線音C : 内線着信時に使用される音(パターン)です。
◎通知番号で判別 : 「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合、着信時の音に「外線音A」を使用し、それ以外の場合は、「内線音A」を使用します。
★KXシリーズの電話機では、着信音ではなく、着信音の鳴るパターン(リズム)になります。
「電話機」画面の[着信音パターン割り当て]項目で割り当てたパターン(リズム)で鳴ります。
- ③ 着信キューイング …………… 着信中、または通話中に、新たに外線からの着信があっても話中にならないようにする機能です。(出荷時の設定：使用しない)
※「使用する」に設定すると、[着信内線番号]①欄で選択した内線子機に着信できない状態で、新たに外線からの着信があっても話中にならず、電話をかけた相手には登録した電話機が着信できる状態になるまで呼び出し音が聞こえます。
- ④ <登録> …………… 「着信設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑤ <取消> …………… 「着信設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 電話機のメンテナンス

登録された内線番号に、設定グループを設定します。

<input type="checkbox"/> すべて ①	名前 ②	内線番号 ③	機種 ④	状態 ⑤	グループ設定 ⑥	⑦
<input type="checkbox"/>		31	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	再起動
<input type="checkbox"/>		32	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	再起動
<input type="checkbox"/>		33	自動 (IP200H)	接続済み	設定グループ1	再起動
<input type="checkbox"/>		34	自動	未接続	設定グループ1	再起動
		41	TEL1	--	設定グループ1	
		42	TEL2	--	設定グループ1	

- ① 選択ボックス 複数のIP電話機を再起動するときボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※[状態] (⑤) 欄が「未接続」と表示されているIP電話機は選択できません。
- ② 名前 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された名前を表示します。
- ③ 内線番号 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線番号を表示します。
- ④ 機種 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線子機の機種(自動、KX-UTシリーズ、KX-HDVシリーズ、IP200H、IP200PG、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2、TEL3、TEL4)を表示します。
- ⑤ 状態 本製品に登録された内線子機の接続状況を、「接続済み」/「未接続」で表示します。
※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」を表示します。
※機種を「TEL1」～「TEL4」(アナログ電話機)に設定した場合は、「--」が表示されます。
- ⑥ グループ設定 本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
設定できる範囲は、「設定グループ1～設定グループ30」までです。
(出荷時の設定：設定グループ1)
設定グループごとに、フレキシブルキーの機能割り当てを使用できます。
※フレキシブルボタンに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番+ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答はパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。
- ⑦ <再起動> [状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているKXシリーズ、IP200H、IP200PGを再起動するとき、クリックします。
※<全端末再起動>をクリックすると、[状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。
※<選択端末再起動>をクリックすると、[選択ボックス] (①) 欄でチェックしたすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。

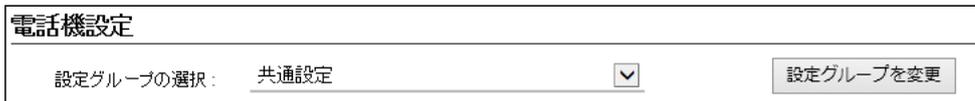
4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 電話機設定

本製品に登録した内線子機の設定グループを変更します。



設定グループの選択…………… 本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「共通設定」、「設定グループ1」～「設定グループ30」から選択します。
〈設定グループを変更〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

◎ 共通設定

- 本製品に登録したKX-UTシリーズで使用する共通の設定
- ・ [機種個別設定(KX-UTシリーズ)]項目(受話音量/送話音量)
 - ・ [電話機音設定]項目(P.4-145～P.4-151)

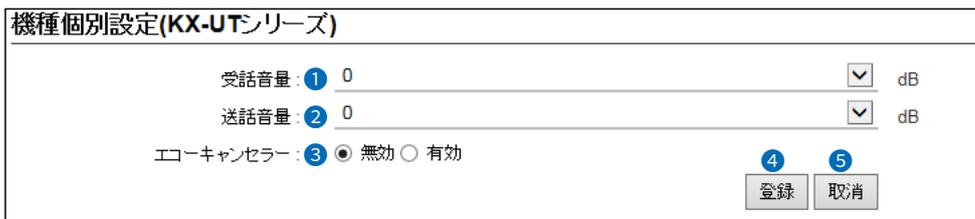
◎ 設定グループ1～設定グループ30(P.4-152)

- [電話機のメンテナンス]項目で登録した設定グループごとの設定
- ・ [機種個別設定(KX-UTシリーズ)]項目(ボタン割当など)

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ)[共通設定]

本製品に登録した内線子機で共通に使用する設定です。



1 受話音量 …………… KX-UTシリーズの受話音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-6」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

2 送話音量 …………… KX-UTシリーズの送話音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-6」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

3 エコーキャンセラー …………… KX-UTシリーズのエコーキャンセラー機能を設定します。
(出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、通話するときにかかるエコー(反響)を低減します。

4 〈登録〉 …………… 「機種個別設定(KX-UTシリーズ)」項目で設定した内容を登録するボタンです。

5 〈取消〉 …………… 「機種個別設定(KX-UTシリーズ)」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 発信音 [共通設定]

発信音(発信時に受話器を上げたときの音)を設定します。

発信音									
周波数1:	400								Hz
周波数2:	0								Hz
音量:	0								dB
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続								
タイミング:	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	60	250	190						

- ① 周波数1/周波数2 発信音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 発信音の音量を設定します。(出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した発信音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴ら
すかどうか設定します。(出荷時の設定：有効)
◎無効：パターンの最後(上図：190)に到達すると、発信音を停止します。
◎有効：パターンの最後(上図：190)に到達すると、パターンの最初(上図：
60)に戻り、発信音を繰り返します。
◎連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大9個の値を使用して、発信音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(出荷時の設定：60、250、190)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、250ミリ秒間鳴り、190ミリ秒間停
止を繰り返します。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 話中音 [共通設定]

話中音を設定します。

話中音									
周波数1:	400								Hz
周波数2:	0								Hz
音量:	0								dB
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続								
タイミング:	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	60	500	440						

- ① 周波数1/周波数2 話中音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 話中音の音量を設定します。
(出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した話中音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。
(出荷時の設定：有効)
◎無効：パターンの最後(上図：440)に到達すると、話中音を停止します。
◎有効：パターンの最後(上図：440)に到達すると、パターンの最初(上図：60)に戻り、話中音を繰り返します。
◎連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大9個の値を使用して、話中音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(出荷時の設定：60、500、440)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停止を繰り返します。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 規制音 [共通設定]

規制音を設定します。

規制音									
周波数1:	400								Hz
周波数2:	0								Hz
音量:	0								dB
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続								
タイミング:	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	60	500	440						

- ① 周波数1/周波数2 規制音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 規制音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング](④)欄で作成した規制音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴ら
すかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後(上図：440)に到達すると、規制音を停止します。
○有効：パターンの最後(上図：440)に到達すると、パターンの最初(上図：
60)に戻り、規制音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2] (①)欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大9個の値を使用して、規制音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(出荷時の設定：60、500、440)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停
止を繰り返します。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 呼出音 [共通設定]

呼出音(相手先を呼び出し中に使用する音)を設定します。

呼出音									
周波数1:	400		Hz						
周波数2:	440		Hz						
音量:	0		dB						
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続								
タイミング:	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	60	1000	1940						

- ① 周波数1/周波数2 呼出音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/440(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 呼出音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した呼出音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴ら
すかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後(上図：1940)に到達すると、呼出音を停止します。
○有効：パターンの最後(上図：1940)に到達すると、パターンの最初(上図：
60)に戻り、呼出音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大9個の値を使用して、呼出音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(出荷時の設定：60、1000、1940)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、1000ミリ秒間鳴り、1940ミリ秒
間停止を繰り返します。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 保留アラーム音 [共通設定]

保留アラーム音(保留後の第2通話が長時間になった場合に流れる音)を設定します。

保留アラーム音																	
周波数1:	425 Hz																
周波数2:	0 Hz																
音量:	0 dB																
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続																
タイミング:	<table border="1"><tr><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr><tr><td>120</td><td>14880</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	120	14880						
ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF										
120	14880																

- ① 周波数1/周波数2 保留アラーム音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：425(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 保留アラーム音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング](④)欄で作成した保留アラーム音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後(上図：14880)に到達すると、保留アラーム音を停止します。
○有効：パターンの最後(上図：14880)に到達すると、パターンの最初(上図：120)に戻り、保留アラーム音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2](①)欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、保留アラーム音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：120、14880)
設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、120ミリ秒間鳴り、14880ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 着信音パターン [共通設定]

着信音パターンを設定します。

着信音パターン								
パターン1:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	1000	2000						
パターン2:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	800	400	800	2000				
パターン3:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	400	200	400	200	800	2000		
パターン4:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	300	200	300	200	300	1000		
パターン5:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	250	250	250	2250				

パターン1～パターン5 ……………

最大8個の値を使用して、着信音のパターン(ON/OFF)を設定します。

(出荷時の設定：パターン1 1000、2000

パターン2 800、400、800、2000

パターン3 400、200、400、200、800、2000

パターン4 300、200、300、200、300、1000

パターン5 250、250、250、2250)

設定できる範囲は、「51～5000」(ミリ秒)です。

たとえば、「1000(ON)、2000(OFF)」と指定した場合、1000ミリ秒間鳴り、2000ミリ秒間停止のパターンとなります。

※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

※KX-UTシリーズの着信音(パターン)は、パターンを割り当て電話機ごとの鳴り分け判別で使用します。(P.4-142、P.4-151)

※電話帳に一致した場合の着信音(音色)は、所属する設定グループごとに設定できます。(P.4-154)

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 着信音パターン割り当て [共通設定]

着信音パターン割り当てを設定します。

着信音パターン割り当て		
外線A:	パターン1	▼
外線B:	パターン2	▼
外線C:	パターン3	▼
内線A:	パターン5	▼
内線B:	パターン2	▼
内線C:	パターン3	▼
デフォルト内線:	パターン5	▼
リコール:	パターン4	▼
		登録 取消

「着信」画面(P.4-142)で設定した鳴り分け判別を、「パターン1」～「パターン5」から選択します。

たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、KX-UTシリーズに着信したとき「パターン1」が鳴ります。

※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音が鳴ります。

※[鳴り分け判別]欄で内線(内線A～内線C)に設定している回線(IP回線)からの着信は、内線として扱われます。

※ほかの内線子機から内線で着信した場合、「デフォルト内線」に設定した着信音が鳴ります。

※パーク保留した電話機にリコール(再呼出)する場合は、「リコール」に設定した着信音が鳴ります。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種共通設定 [設定グループ]

選択した内線子機の設定グループごとに、キー操作や機能の割り当てを設定します。

機種共通設定	
ピックアップグループ番号	① 01
コールピックアップ対象	② 内線のみ <input type="checkbox"/>
グループピックアップ対象	③ 外線/内線 <input type="checkbox"/>
指定ピックアップ対象	④ 外線/内線 <input type="checkbox"/>
発信規制	⑤ 無効 <input type="checkbox"/>

- ① **ピックアップグループ番号** …… 設定グループへの着信を代理応答するときに使用するピックアップグループ番号を半角数字7桁以内で入力します。
(出荷時の設定：01(設定グループ1の場合))
※グループピックアップ特番(出荷時の設定：**)につづけて、この欄で設定した番号をダイヤルすると、指定した設定グループへの着信に代理応答できます。
- ② **コールピックアップ対象** …… ほかの内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：内線のみ)
- ③ **グループピックアップ対象** …… 同じ設定グループのほかの子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)
- ④ **指定ピックアップ対象** …… 指定の内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)
- ⑤ **発信規制** …… 設定グループごとに、外線への発信規制を設定します。(出荷時の設定：無効)
◎無効 : 発信を規制しません。
◎**発信規制ルール1～16** : 「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
◎**外線発信規制** : 外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-UTシリーズ)	
ダイヤル待ち時間: ① 5	秒
外線通話中の内線着信: ② <input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可	
ボタン割当が無い外線着信: ③ <input type="radio"/> 拒否 <input checked="" type="radio"/> 許可	
外線状態通知キーの保留: ④ <input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可	
長時間保留の監視時間: ⑤ 180	秒
電話帳の利用: ⑥ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
電話帳[共通]の利用: ⑦ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
電話帳の着信音: ⑧ 着信音1	
キー操作音: ⑨ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
不在着信のディスプレイ表示: ⑩ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効	

- ① **ダイヤル待ち時間** …………… ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「15」(秒)です。 (出荷時の設定：5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎてても操作がないときは、発信を開始しますのでご注意ください。
- ② **外線通話中の内線着信** …………… 外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。
(出荷時の設定：拒否)
「拒否」を設定すると、外線通話時に内線着信を拒否(話中応答)します。
- ③ **ボタン割当がない外線着信** …… [ボタン割当] (⑪)欄で、〈外線状態通知キー〉(P.4-156)を割り当てていないときや、〈外線状態通知キー〉がすべて使用中の場合に、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉への着信動作を設定します。 (出荷時の設定：許可)
◎許可：〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いているとき、そのボタンに着信します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降は、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に着信します。
ただし、〈外線状態通知キー〉での確認や応答はできません。
◎拒否：〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いていても、そのボタンへの着信を拒否します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降の着信が拒否されます。
- ④ **外線状態通知キーの保留** …………… 「許可」を設定すると、外線通話時に〈外線状態通知キー〉を操作して、外線保留できます。 (出荷時の設定：拒否)
- ⑤ **長時間保留の監視時間** …………… 設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音を鳴らします。
設定できる範囲は、「30～240」(秒)です。 (出荷時の設定：180)

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) [設定グループ]

機種個別設定(KX-UTシリーズ)	
ダイヤル待ち時間: ① 5	秒 <input type="checkbox"/>
外線通話中の内線着信: ② <input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可	
ボタン割当が無い外線着信: ③ <input type="radio"/> 拒否 <input checked="" type="radio"/> 許可	
外線状態通知キーの保留: ④ <input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可	
長時間保留の監視時間: ⑤ 180	秒
電話帳の利用: ⑥ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
電話帳[共通]の利用: ⑦ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
電話帳の着信音: ⑧ 着信音1	<input type="checkbox"/>
キー操作音: ⑨ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
不在着信のディスプレイ表示: ⑩ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効	

- ⑥ 電話帳の利用 KX-UTシリーズの電話機が起動したときに、本製品の電話帳(共通最大900件/設定グループ最大100件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。
(出荷時の設定: 有効)
※「無効」に設定すると、電話機が起動しても、電話機本体の電話帳に反映されません。
- ⑦ 電話帳[共通]の利用 KX-UTシリーズの電話機が起動したときに、本製品の共通電話帳(最大900件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。
(出荷時の設定: 有効)
※[電話帳の利用]⑥欄で「無効」を選択したときは、表示されない項目です。
- ⑧ 電話帳の着信音 KX-UTシリーズの電話機に登録した相手先から着信したときの音を、「着信音1」～「着信音32」から設定します。
(出荷時の設定: 着信音1)
- ⑨ キー操作音 KX-UTシリーズの電話機でキー操作したときの確認音を設定します。
(出荷時の設定: 有効)
「無効」を設定すると、キー操作したときの確認音が鳴りません。
- ⑩ 不在着信のディスプレイ表示 ... 「不在着信」を待受画面に表示するかどうかを設定します。
(出荷時の設定: 無効)

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) [設定グループ]

① ボタン割当(1 ~ 24) …………… KX-UT136Nのフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。
(出荷時の設定：DNキー)

◎ワンタッチ

よく利用する内線番号や外線番号、および本製品で設定した特番などを、あらかじめ登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。

※外線発信先を登録する場合、外線発信特番設定のプレフィクスを前置きすると、指定回線(発信番号)での発信もできます。

指定しない場合、内線個別設定の回線捕捉設定にしがいます。

例：ボタン24に〈ワンタッチ〉でボタン12に割り当てた外線(状態通知キー)を閉塞/解除できます。

◎DNキー (Directory Number)

着信時、自己保留時など、状況を確認して応答できる機能です。

ランプ表示について

高速点滅(緑) : 内線着信中/外線着信中

低速点滅(緑) : 自己保留中(自端末)

点灯(緑) : 通話中

※フレキシブルボタン番号(01 ~ 24)の点滅(緑)は、小さい番号順です。

※〈DNキー〉の割り当ては、最低2つ以上必要です。

※〈DNキー〉と〈外線着信キー〉の合計数が使用できる最大通話数です。

ただし、「通話数制限」画面で通話数が制限されている場合は、そちらを優先します。

DNキーについてのご注意

◎ DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。

◎ DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。

◎ フレキシブルボタンがないKX-UT123Nでは、DNキーは本体内部に2つ固定割り当てされ、追加設定はできません。

外線通話中に新たな外線着信を受けると、先の通話を保留したり転送したりできません。(DNキー不足状態のため)

このような場合は、先の通話を終了するか、ほかの電話機であとの着信に応答する必要があります。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-UTシリーズ)	
11 ボタン割当	
ワンタッチ	ボタン24
DNキー	DNキー
外線状態通知キー	
外線発信キー	ボタン23
外線着信キー	DNキー
パーク	
留守電開始/停止	ボタン22
着信おまかせ開始/停止	DNキー
不在転送切替	
不応答転送切替	ボタン21
話中転送切替	DNキー
昼夜切替	
外線着信転送切替	
ヘッドセット	
音声呼出	
未使用	

11 ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎外線状態通知キー

割り当てた回線(IP回線)、または回線グループの使用状況を確認して、着信に応答、外線保留/応答できる機能です。

ボタン12
外線状態通知キー
回線グループ1(IP)

例：ボタン12に〈外線状態通知キー〉(IP回線)を割り当てた場合

ランプ表示について

赤点滅：外線着信中/外線保留中

赤点灯：回線閉塞中/外線使用中(ほかの端末)

緑点灯：外線使用中(自端末)

※〈外線状態通知キー〉の割り当ては、契約チャネル数分必要です。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) [設定グループ]

11 ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎外線発信キー

外線発信時に使用する回線(IP回線)の電話番号、または回線グループ★を選択できる機能です。

例：ボタン11に〈外線発信キー〉(IP回線)を割り当てた場合
ボタンを押すと、電話機のディスプレイに該当する(設定した)発信プレフィクスが表示され、これにつづけて電話番号をダイヤルするか、あらかじめ電話番号を登録した〈ワンタッチ〉を押すと、選択した回線(IP回線)で発信します。

※電話帳から発信する場合、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。

※〈外線発信キー〉と電話帳の短縮番号を組み合わせるとダイヤルできません。

※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認できます。

★回線グループについて

回線グループを〈外線発信キー〉に割り当てた場合は、その回線グループに登録した複数の電話番号から、空いているIP回線(電話番号)を自動的に捕捉して発信できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ」画面で(P.4-115)で確認できます。

※回線グループに登録した電話番号は、単独では割り当てられません。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) [設定グループ]

11 ボタン割当	
ボタン24	DNキー
ボタン23	DNキー
ボタン22	DNキー
ボタン21	DNキー

11 ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎外線着信キー

割り当てた回線(IP回線)の電話番号、または回線グループへの着信に応答できる機能です。

ボタン23	外線着信キー
	回線グループ1(IP)

例：ボタン23に〈外線着信キー〉(IP回線)を割り当てた場合

※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認や応答ができます。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) [設定グループ]

11 ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎パーク

通話をパーク保留して、どの内線子機からでも応答できる機能です。最低必要な<DNキー>の割り当て(2つ)以外に、最大22件まで、パーク保留・応答として設定できます。

※フレキシブルボタンがないKX-UT123Nだけの場合でも、パーク機能の割り当てが必要です。(左図参照)

ボタン1にパーク機能が割り当てられていない場合は、「*90」「01」(ボタン番号)をダイヤルしても、パーク保留できません。

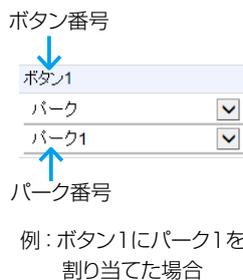
※特番につづけてダイヤルする番号の桁数により動作が異なりますのでご注意ください。

1桁：パーク番号(1～9)

2桁：ボタン番号(01～24)

フレキシブルボタンの番号とパーク番号が一致するようにしてください。

設定が異なると、パーク保留できないことがあります。(下表参照)



ボタン番号とパーク番号 設定例	ダイヤル操作例	
	「*90」「1」(パーク番号)	「*90」「01」(ボタン番号)
番号が一致している場合 ボタン1 パーク パーク1	パーク1が割り当てられたボタン1にパーク保留されます。	ボタン1にパーク保留されます。
番号が一致していない場合 ボタン9 パーク パーク1	パーク1が割り当てられたボタン9にパーク保留されます。	ボタン9にパーク保留されません。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) [設定グループ]

機種個別設定(KX-UTシリーズ)	
① ボタン割当	
ワンタッチ	ボタン24
DNキー	DNキー
外線状態通知キー	
外線発信キー	ボタン23
外線着信キー	DNキー
パーク	
留守電開始/停止	ボタン22
着信おまかせ開始/停止	DNキー
不在転送切替	
応答転送切替	ボタン21
話中転送切替	DNキー
昼夜切替	
外線着信転送切替	
ヘッドセット	
音声呼出	
未使用	

① ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎留守電開始/停止

内線子機が使用するボックスについて、留守番電話機能の開始、停止を操作できます。

留守番電話機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※留守番電話機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※「基本」画面の [留守番電話機能] 欄を「有効」に設定していない場合は、無効な機能です。

◎着信おまかせ開始/停止

着信おまかせ機能を設定すると、通話中など登録した内線子機が設定した時間内に応答できないときに、メッセージを流して相手に待っていただけます。

着信おまかせ機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※着信おまかせ機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※着信おまかせ機能で、留守番電話に接続する場合は、「基本」画面の [留守番電話機能] 欄を「有効」に設定しておく必要があります。

※KX-UTシリーズで、この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、フレキシブルボタンに〈外線状態通知キー〉の割り当てが契約チャンネル数分必要です。(P.4-156)

※ユーザー用の「着信おまかせ設定」画面で、回線ごとに使用するパターンを選択していない場合は、無効な機能です。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) [設定グループ]

機種個別設定(KX-UTシリーズ)	
11 ボタン割当	
ワンタッチ	ボタン24
DNキー	DNキー
外線状態通知キー	
外線発信キー	ボタン23
外線着信キー	DNキー
パーク	
留守電開始/停止	ボタン22
着信おまかせ開始/停止	DNキー
不在転送切替	
不応答転送切替	ボタン21
話中転送切替	DNキー
昼夜切替	
外線着信転送切替	
ヘッドセット	
音声呼出	
未使用	

11 ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎不在転送切替

不在中にかかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。

不在転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※不在転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不在転送]欄(P.4-126)で設定した特番(出荷時の設定：*94)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「内線着信転送設定」画面に設定されます。

◎不応答転送切替

電話に応答できないときなど、かかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。

不応答転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※不応答転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不応答転送]欄(P.4-127)で設定した特番(出荷時の設定：*95)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「内線着信転送設定」画面に設定されます。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) [設定グループ]

機種個別設定(KX-UTシリーズ)	
① ボタン割当	
ボタン24	DNキー
ボタン23	DNキー
ボタン22	DNキー
ボタン21	DNキー

① ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎話中転送切替

外線通話中にほかの外線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能です。

話中転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※話中転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[話中転送]欄(P.4-127)で設定した特番(出荷時の設定：*96)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「外線着信転送設定」画面に設定されます。

◎昼夜切替

あらかじめ登録した外線サービスグループ(P.4-284)ごとに、昼間か夜間で、着信したときの動作を切り替える機能です。

ボタン10	
昼夜切替	
外線サービスグループ1	

例：ボタン10に〈昼夜切替〉(外線サービスグループ1)を割り当てた場合指定の外線サービスグループが夜間の場合は、ボタン10が赤色に点灯します。

※夜間転送を解除するときは再度ボタンを押す、またはユーザー用の「昼夜切替設定」画面でボタンをクリックして消灯をご確認ください。

※夜間転送を一括解除するときは、「特番」画面の[昼夜切替]欄(P.4-128)で設定した昼夜切替特番(出荷時の設定：*98)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※「PBX拡張設定」メニューの「夜間転送先」画面(P.4-287)で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

4 設定画面について

「電話機(KX-UTシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-UTシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) [設定グループ]

機種個別設定(KX-UTシリーズ)	
① ボタン割当	
ボタン24	DNキー
ボタン23	DNキー
ボタン22	DNキー
ボタン21	DNキー

① ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎外線着信転送切替

回線(電話番号)ごとに、外線からの着信をあらかじめ登録した転送先へ転送する機能です。

ボタン22	
外線着信転送切替	
(IP)	

例：ボタン22に〈外線着信転送切替〉(IP回線)を割り当てた場合
外線着信転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※外線着信転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※「夜間転送先設定」画面で「外線」に設定されているときは、夜間転送に切り替わると、この設定に関わらず、夜間転送先設定が優先されます。

※ユーザー用の「外線着信転送設定」画面で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

◎ヘッドセット

KX-UT136Nにヘッドセットを接続して通話するときに使用するボタンです。

ヘッドセット機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

◎音声呼出

ダイヤルした相手を直接音声で呼び出す機能です。

ボタンを押してダイヤルすると、呼び出し先の電話機(KX-UTシリーズ)のスピーカー機能が有効になります。

◎未使用

機能を割り当てません。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 電話機のメンテナンス

登録された内線番号に、設定グループを設定します。

電話機のメンテナンス						
<input type="checkbox"/> すべて ①	名前 ②	内線番号 ③	機種 ④	状態 ⑤	グループ設定 ⑥	⑦
<input type="checkbox"/>		31	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	再起動
<input type="checkbox"/>		32	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	再起動
<input type="checkbox"/>		33	自動 (IP200H)	接続済み	設定グループ1	再起動
<input type="checkbox"/>		34	自動	未接続	設定グループ1	再起動
		41	TEL1	--	設定グループ1	
		42	TEL2	--	設定グループ1	

- ① 選択ボックス 複数のIP電話機を再起動するときボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※[状態] (⑤) 欄が「未接続」と表示されているIP電話機は選択できません。
- ② 名前 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された名前を表示します。
- ③ 内線番号 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線番号を表示します。
- ④ 機種 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線子機の機種(自動、KX-UTシリーズ、KX-HDVシリーズ、IP200H、IP200PG、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2、TEL3、TEL4)を表示します。
- ⑤ 状態 本製品に登録された内線子機の接続状況を、「接続済み」/「未接続」で表示します。
※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」を表示します。
※機種を「TEL1」～「TEL4」(アナログ電話機)に設定した場合は、「--」が表示されます。
- ⑥ グループ設定 本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
設定できる範囲は、「設定グループ1～設定グループ30」までです。
(出荷時の設定：設定グループ1)
設定グループごとに、フレキシブルキーの機能割り当てを使用できます。
※フレキシブルボタンに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番+ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答はパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。
- ⑦ <再起動> [状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているKXシリーズ、IP200H、IP200PGを再起動するとき、クリックします。
※<全端末再起動>をクリックすると、[状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。
※<選択端末再起動>をクリックすると、[選択ボックス] (①) 欄でチェックしたすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 電話機設定

本製品に登録した内線子機の設定グループを変更します。

電話機設定	
設定グループの選択:	共通設定 <input type="button" value="設定グループを変更"/>

設定グループの選択…………… 本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「共通設定」、「設定グループ1」～「設定グループ30」から選択します。
〈設定グループを変更〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

◎ 共通設定

本製品に登録したKX-HDVシリーズで使用する共通の設定
・ [電話機音設定]項目(P.4-166～P.4-172)

◎ 設定グループ1 ～設定グループ30(P.4-173)

[電話機のメンテナンス]項目で登録した設定グループごとの設定
・ [機種共通設定]項目
・ [機種個別設定(KX-HDVシリーズ)]項目(ボタン割当など)

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 発信音 [共通設定]

発信音(発信時に受話器を上げたときの音)を設定します。

発信音									
周波数1:	400								Hz
周波数2:	0								Hz
音量:	0								dB
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続								
タイミング:	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	60	250	190						

- ① 周波数1/周波数2 発信音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせせた音が鳴ります。
- ② 音量 発信音の音量を設定します。(出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した発信音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。(出荷時の設定：有効)
◎無効：パターンの最後(上図：190)に到達すると、発信音を停止します。
◎有効：パターンの最後(上図：190)に到達すると、パターンの最初(上図：60)に戻り、発信音を繰り返します。
◎連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大9個の値を使用して、発信音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(出荷時の設定：60、250、190)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、250ミリ秒間鳴り、190ミリ秒間停止を繰り返します。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 話中音 [共通設定]

話中音を設定します。

話中音									
周波数1:	400								Hz
周波数2:	0								Hz
音量:	0								dB
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続								
タイミング:	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	60	500	440						

- ① 周波数1/周波数2 話中音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 話中音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した話中音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
◎無効：パターンの最後(上図：440)に到達すると、話中音を停止します。
◎有効：パターンの最後(上図：440)に到達すると、パターンの最初(上図：60)に戻り、話中音を繰り返します。
◎連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大9個の値を使用して、話中音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(出荷時の設定：60、500、440)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停止を繰り返します。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 規制音 [共通設定]

規制音を設定します。

規制音									
周波数1:	400								Hz
周波数2:	0								Hz
音量:	0								dB
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続								
タイミング:	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	60	500	440						

- ① 周波数1/周波数2 規制音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 規制音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング](④)欄で作成した規制音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴ら
すかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターン最後の(上図：440)に到達すると、規制音を停止します。
○有効：パターン最後の(上図：440)に到達すると、パターンの最初(上図：
60)に戻り、規制音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2] (①)欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大9個の値を使用して、規制音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(出荷時の設定：60、500、440)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停
止を繰り返します。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 呼出音 [共通設定]

呼出音(相手先を呼び出し中に使用する音)を設定します。

呼出音									
周波数1:	400								Hz
周波数2:	440								Hz
音量:	0								dB
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続								
タイミング:	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	60	1000	1940						

- ① 周波数1/周波数2 呼出音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/440(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 呼出音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング](④)欄で作成した呼出音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴ら
すかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後(上図：1940)に到達すると、呼出音を停止します。
○有効：パターンの最後(上図：1940)に到達すると、パターンの最初(上図：
60)に戻り、呼出音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2](①)欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大9個の値を使用して、呼出音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(出荷時の設定：60、1000、1940)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、1000ミリ秒間鳴り、1940ミリ秒
間停止を繰り返します。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 保留アラーム音 [共通設定]

保留アラーム音(保留後の第2通話が長時間になった場合に流れる音)を設定します。

保留アラーム音	
周波数1:	425 Hz
周波数2:	0 Hz
音量:	0 dB

- ① 周波数1/周波数2 保留アラーム音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：425(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 保留アラーム音の音量を設定します。(出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 着信音パターン [共通設定]

着信音パターンを設定します。

着信音パターン								
パターン1:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	1000	2000						
パターン2:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	800	400	800	2000				
パターン3:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	400	200	400	200	800	2000		
パターン4:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	300	200	300	200	300	1000		
パターン5:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	250	250	250	2250				

パターン1～パターン5 ……………

最大8個の値を使用して、着信音のパターン(ON/OFF)を設定します。

(出荷時の設定：パターン1 1000、2000

パターン2 800、400、800、2000

パターン3 400、200、400、200、800、2000

パターン4 300、200、300、200、300、1000

パターン5 250、250、250、2250)

設定できる範囲は、「51～5000」(ミリ秒)です。

たとえば、「1000(ON)、2000(OFF)」と指定した場合、1000ミリ秒間鳴り、2000ミリ秒間停止のパターンとなります。

※パターン最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

※KX-HDVシリーズの着信音(パターン)は、パターンを割り当て電話機ごとの鳴り分け判別で使用します。(P.4-142、P.4-172)

※電話帳に一致した場合の着信音(音色)は、所属する設定グループごとに設定できます。(P.4-174)

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 着信音パターン割り当て [共通設定]

着信音パターン割り当てを設定します。

着信音パターン割り当て		
外線A:	パターン1	▼
外線B:	パターン2	▼
外線C:	パターン3	▼
内線A:	パターン5	▼
内線B:	パターン2	▼
内線C:	パターン3	▼
デフォルト内線:	パターン5	▼
リコール:	パターン4	▼

「着信」画面(P.4-142)で設定した鳴り分け判別を、「パターン1」～「パターン5」から選択します。

たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、KX-HDVシリーズに着信したとき「パターン1」が鳴ります。

※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音が鳴ります。

※[鳴り分け判別]欄で内線(内線A～内線C)に設定している回線(IP回線)からの着信は、内線として扱われます。

※ほかの内線子機から内線で着信した場合、「デフォルト内線」に設定した着信音が鳴ります。

※パーク保留した電話機にリコール(再呼出)する場合は、「リコール」に設定した着信音が鳴ります。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種共通設定 [設定グループ]

選択した内線子機の設定グループごとに、キー操作や機能の割り当てを設定します。

機種共通設定	
ピックアップグループ番号	① 01
コールピックアップ対象	② 内線のみ <input type="checkbox"/>
グループピックアップ対象	③ 外線/内線 <input type="checkbox"/>
指定ピックアップ対象	④ 外線/内線 <input type="checkbox"/>
発信規制	⑤ 無効 <input type="checkbox"/>

- ① **ピックアップグループ番号** …… 設定グループへの着信を代理応答するときに使用するピックアップグループ番号を半角数字7桁以内で入力します。
(出荷時の設定：01(設定グループ1の場合))
※グループピックアップ特番(出荷時の設定：**)につづけて、この欄で設定した番号をダイヤルすると、指定した設定グループへの着信に代理応答できます。
- ② **コールピックアップ対象** …… ほかの内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：内線のみ)
- ③ **グループピックアップ対象** …… 同じ設定グループのほかの子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)
- ④ **指定ピックアップ対象** …… 指定の内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)
- ⑤ **発信規制** …… 設定グループごとに、外線への発信規制を設定します。(出荷時の設定：無効)
◎無効 : 発信を規制しません。
◎**発信規制ルール1～16** : 「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
◎**外線発信規制** : 外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ) [設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)	
ダイヤル待ち時間: ①	5 秒
外線通話中の内線着信: ②	<input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可
ボタン割当が無い外線着信: ③	<input type="radio"/> 拒否 <input checked="" type="radio"/> 許可
外線状態通知キーの保留: ④	<input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可
長時間保留の監視時間: ⑤	180 秒
電話帳の利用: ⑥	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
電話帳(共通)の利用: ⑦	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
不在着信のディスプレイ表示: ⑧	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

- ① **ダイヤル待ち時間** …………… ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「15」(秒)です。 (出荷時の設定：5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎてても操作がないときは、発信を開始しますのでご注意ください。
- ② **外線通話中の内線着信** …………… 外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。
(出荷時の設定：拒否)
「拒否」を設定すると、外線通話時に内線着信を拒否(話中応答)します。
- ③ **ボタン割当が無い外線着信** …… [ボタン割当] (⑨)欄で、〈外線状態通知キー〉(P.4-177)を割り当てていないときや、〈外線状態通知キー〉がすべて使用中の場合に、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉への着信動作を設定します。 (出荷時の設定：許可)
◎許可：〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いているとき、そのボタンに着信します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降は、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に着信します。
ただし、〈外線状態通知キー〉での確認や応答はできません。
◎拒否：〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いていても、そのボタンへの着信を拒否します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降の着信が拒否されます。
- ④ **外線状態通知キーの保留** …………… 「許可」を設定すると、外線通話時に〈外線状態通知キー〉を操作して、外線保留できます。
(出荷時の設定：拒否)
- ⑤ **長時間保留の監視時間** …………… 設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音を鳴らします。
設定できる範囲は、「30～240」(秒)です。 (出荷時の設定：180)

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)	
ダイヤル待ち時間: ①	5 <input type="text"/> 秒
外線通話中の内線着信: ②	<input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可
ボタン割当が無い外線着信: ③	<input type="radio"/> 拒否 <input checked="" type="radio"/> 許可
外線状態通知キーの保留: ④	<input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可
長時間保留の監視時間: ⑤	180 <input type="text"/> 秒
電話帳の利用: ⑥	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
電話帳[共通]の利用: ⑦	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
不在着信のディスプレイ表示: ⑧	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

- ⑥ 電話帳の利用 KX-HDVシリーズの電話機が起動したときに、本製品の電話帳(共通最大900件/設定グループ最大100件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。
(出荷時の設定: 有効)
※「無効」に設定すると、電話機が起動しても、電話機本体の電話帳に反映されません。
- ⑦ 電話帳[共通]の利用 KX-HDVシリーズの電話機が起動したときに、本製品の共通電話帳(最大900件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。
(出荷時の設定: 有効)
※[電話帳の利用](⑥)欄で「無効」を選択したときは、表示されない項目です。
- ⑧ 不在着信のディスプレイ表示 ... 「不在着信」を待受画面に表示するかどうかを設定します。
(出荷時の設定: 無効)

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		
KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。 KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。		
⑨ ボタン割当(ページ1)		
番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー	DNキー
10	外線着信キー パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 不応答転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出 未使用	DNキー
3	未使用	DNキー

- ⑨ ボタン割当(1 ~ 24) KX-HDV230Nのフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。
(出荷時の設定：DNキー)

◎ワンタッチ

よく利用する内線番号や外線番号、および本製品で設定した特番などを、あらかじめ登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。

※外線発信先を登録する場合、外線発信特番設定のプレフィクスを前置すると、指定外線(発信番号)での発信もできます。

指定しない場合、内線個別設定の回線捕捉設定にしたがいます。

24	ワンタッチ	*8712	ワンタッチ
----	-------	-------	-------

例：ボタン24に〈ワンタッチ〉でボタン12に割り当てた外線(状態通知キー)を閉塞/解除できます。

KX-HDV130Nについて

- ◎機能を ライン1/P1、ライン2/P2 の2つに割り当てることができます。
- ◎この画面の「ボタン1」、「ボタン2」に割り当てられたものが ライン1/P1、ライン2/P2 に反映されます。
- ◎「未使用」、「通話転送」、「会議通話」、「ブラインド転送」を割り当てた場合、DNキーとして動作します。
- ◎ボタンラベルは表示されません。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ) [設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		
KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。 KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。		
9 ボタン割当(ページ1)		
番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー	DNキー
10	外線着信キー パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 不応答転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出 未使用	DNキー
3		DNキー

9 ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎DNキー(Directory Number)

着信時、自己保留時など、状況を確認して応答できる機能です。

ランプ表示について

高速点滅(青) : 内線着信中/外線着信中

低速点滅(青) : 自己保留中(自端末)

点灯(青) : 通話中

※フレキシブルボタン番号(01～24)の点滅(青)は、小さい番号順です。

※<DNキー>の割り当ては、最低2つ以上必要です。

※<DNキー>と<外線着信キー>の合計数が使用できる最大通話数です。

ただし、「通話数制限」画面で通話数が制限されている場合は、そちらを優先します。

◎外線状態通知キー

割り当てた回線(IP回線)、または回線グループの使用状況を確認して、着信に応答、外線保留/応答できる機能です。

12	外線状態通知キー	外線状態通知キー (IP)	外線状態通知キー
----	----------	---------------	----------

例：ボタン12に<外線状態通知キー>(IP回線)を割り当てた場合

ランプ表示について

赤点滅：外線着信中/外線保留中

赤点灯：回線閉塞中/外線使用中

※<外線状態通知キー>の割り当ては、契約チャネル数分必要です。

DNキーについてのご注意

◎ DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。

◎ DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。

◎ KX-HDV130Nでは、、 にDNキー以外を割り当てた場合、内部にDNキーが2つ動作します。

また上記とは別に、内部にDNキー(保留/転送用)が1つ動作します。

※ 、 にDNキーを割り当てても、DNキーは2つしか動作しません。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		
KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。 KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。		
9 ボタン割当(ページ1)		
番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー	DNキー
10	外線着信キー パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 応答転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出 未使用	DNキー
3	未使用	DNキー

9 ボタン割当(1~24)(つづき) ...

◎外線発信キー

外線発信時に使用する回線(IP回線)の電話番号、または回線グループ★を選択できる機能です。

11	外線発信キー	外線電話番号(IP)	外線発信キー
----	--------	------------	--------

例：ボタン11に〈外線発信キー〉(IP回線)を割り当てた場合

ボタンを押すと、電話機のディスプレイに該当する(設定した)発信プレフィクスが表示され、これにつづけて電話番号をダイヤルすると、選択した回線(IP回線)で発信します。

※〈外線発信キー〉と〈ワンタッチ〉を組み合わせると発信できません。

※電話帳から発信する場合、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。

※〈外線発信キー〉と電話帳の短縮番号を組み合わせるとダイヤルできません。

※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認できます。

★回線グループについて

回線グループを〈外線発信キー〉に割り当てた場合は、その回線グループに登録した複数の電話番号から、空いているIP回線(電話番号)を自動的に捕捉して発信できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ」画面で(P.4-115)で確認できます。

※回線グループに登録した電話番号は、単独では割り当てられません。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ) [設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		
KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。 KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。		
⑨ ボタン割当(ページ1)		
番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー	DNキー
10	外線着信キー パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 不応答転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出	DNキー
3	未使用	DNキー

⑨ ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎外線着信キー

割り当てた回線(IP回線)の電話番号、または回線グループへの着信に応答できる機能です。

※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認や応答ができます。

23	外線着信キー	☺☺☺☺☺☺☺☺☺☺ (IP)	外線着信キー
----	--------	-----------------	--------

例：ボタン23に〈外線着信キー〉(IP回線)を割り当てた場合

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)

KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。
KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。

9 ボタン割当(ページ1)

番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー	DNキー
10	外線着信キー パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 不応答転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出 未使用	DNキー
3	未使用	DNキー

9 ボタン割当(1~24)(つづき) ...

◎パーク

通話をパーク保留して、どの内線子機からでも応答できる機能です。

※フレキシブルボタンがないKX-HDV130Nだけの場合でも、パーク機能の割り当てが必要です。(左図参照)

ボタン1にパーク機能が割り当てられていない場合は、「*90」「01」(ボタン番号)をダイヤルしても、パーク保留できません。

※特番につづけてダイヤルする番号の桁数により動作が異なりますのでご注意ください。

1桁：パーク番号(1~9)

2桁：ボタン番号(01~24)

フレキシブルボタンの番号とパーク番号が一致するようにしてください。

設定が異なると、パーク保留できないことがあります。(下表参照)

1
パーク
▼

パーク1
▼

↑
ボタン番号

↑
パーク番号

例：ボタン1にパーク1を
割り当てた場合

ボタン番号とパーク番号 設定例	ダイヤル操作例	
	「*90」「1」(パーク番号)	「*90」「01」(ボタン番号)
番号が一致している場合 <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="text-align: center;"> 1 パーク ▼ </div> <div style="text-align: center;"> パーク1 ▼ </div> </div> </div>	パーク1が割り当てられた ボタン1にパーク保留され ます。	ボタン1にパーク保留され ます。
番号が一致していない場合 <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="text-align: center;"> 9 パーク ▼ </div> <div style="text-align: center;"> パーク1 ▼ </div> </div> </div>	パーク1が割り当てられた ボタン9にパーク保留され ます。	ボタン9にパーク保留され ません。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		
KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。 KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。		
9 ボタン割当(ページ1)		
番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー	DNキー
10	外線着信キー パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 不応答転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出 未使用	DNキー
3	未使用	DNキー

9 ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎留守電開始/停止

内線子機が使用するボックスについて、留守番電話機能の開始、停止を操作できます。

留守番電話機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※留守番電話機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※「基本」画面の[留守番電話機能]欄を「有効」に設定していない場合は、無効な機能です。

◎着信おまたせ開始/停止

着信おまたせ機能を設定すると、通話中など登録した内線子機が設定した時間内に応答できないときに、メッセージを流して相手に待っていただけます。

着信おまたせ機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※着信おまたせ機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※着信おまたせ機能で、留守番電話に接続する場合は、「基本」画面の[留守番電話機能]欄を「有効」に設定しておく必要があります。

※KX-HDVシリーズで、この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、フレキシブルボタンに〈外線状態通知キー〉の割り当てが契約チャンネル数分必要です。(P.4-177)

※ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で、回線ごとに使用するパターンを選択していない場合は、無効な機能です。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		
KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。 KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。		
9 ボタン割当(ページ1)		
番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー	DNキー
10	外線着信キー パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 不応答転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出 未使用	DNキー
3	未使用	DNキー

9 ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎不在転送切替

不在中にかかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。

不在転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※不在転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不在転送]欄(P.4-126)で設定した特番(出荷時の設定：*94)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「内線着信転送設定」画面に設定されます。

◎不応答転送切替

電話に応答できないときなど、かかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。

不応答転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※不応答転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不応答転送]欄(P.4-127)で設定した特番(出荷時の設定：*95)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「内線着信転送設定」画面に設定されます。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		
KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。 KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。		
⑨ ボタン割当(ページ1)		
番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー	DNキー
10	外線着信キー パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 不応答転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出 未使用	DNキー
3		DNキー

⑨ ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎話中転送切替

内線通話中にほかの内線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能です。

話中転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※話中転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[話中転送]欄(P.4-127)で設定した特番(出荷時の設定：*96)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「内線着信転送設定」画面に設定されます。

◎昼夜切替

あらかじめ登録した外線サービスグループ(P.4-284)ごとに、昼間か夜間で、着信したときの動作を切り替える機能です。

10	昼夜切替	▼	外線サービスグループ1	▼	昼夜切替
----	------	---	-------------	---	------

例：ボタン10に〈昼夜切替〉(外線サービスグループ1)を割り当てた場合指定の外線サービスグループが夜間の場合は、ボタン10が赤色に点灯します。

※夜間転送を解除するときは再度ボタンを押す、またはユーザー用の「昼夜切替設定」画面でボタンをクリックして消灯をご確認ください。

※夜間転送を一括解除するときは、「特番」画面の[昼夜切替]欄(P.4-128)で設定した昼夜切替特番(出荷時の設定：*98)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※「PBX拡張設定」メニューの「夜間転送先」画面(P.4-287)で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ)[設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		
KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。 KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。		
⑨ ボタン割当(ページ1)		
番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー 外線着信キー	DNキー
10	パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 応答転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出	DNキー
3	未使用	DNキー

⑨ ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎外線着信転送切替

回線(電話番号)ごとに、外線からの着信をあらかじめ登録した転送先へ転送する機能です。

22	外線着信転送切替	外線着信転送切替 (IP)	外線着信転送切替
----	----------	---------------	----------

- 例：ボタン22に〈外線着信転送切替〉(IP回線)を割り当てた場合
外線着信転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。
※外線着信転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。
※「夜間転送先設定」画面で「外線」に設定されているときは、夜間転送に切り替わると、この設定に関わらず、夜間転送先設定が優先されます。
※ユーザー用の「外線着信転送設定」画面で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。
(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

4 設定画面について

「電話機(KX-HDVシリーズ)」画面

PBX設定 > 電話機(KX-HDVシリーズ)

■ 機種個別設定(KX-HDVシリーズ) [設定グループ]

機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		
KX-HDV130はボタン1、2のみ有効です。また、ボタンラベルは表示されません。 KX-HDV130は未使用、通話転送、ブラインド転送、会議通話を設定時、DNキーとして動作します。		
9 ボタン割当(ページ1)		
番号	ボタン情報	ボタンラベル
12	ワンタッチ DNキー	DNキー
11	外線状態通知キー 外線発信キー	DNキー
10	外線着信キー パーク	DNキー
9	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止	DNキー
8	不在転送切替 不在転送切替	DNキー
7	話中転送切替 昼夜切替	DNキー
6	外線着信転送切替 通話転送	DNキー
5	ブラインド転送 会議通話	DNキー
4	音声呼出 未使用	DNキー
3	未使用	DNキー

9 ボタン割当(1～24)(つづき) …

◎通話転送

通話を保留して、登録した電話番号に転送する機能です。
転送先と通話後に「実行」を押す、または受話器を置くと転送完了です。

◎ブラインド転送

通話を保留して、登録した電話番号に転送する機能です。
ブラインド転送が割り当てられたボタンを押すと、転送先と通話せずに、一方的に転送します。

◎会議通話

通話を保留して、登録した電話番号に会議発信をする機能です。
転送先と通話中、^{会議}を押すと、転送先を含めた3者での会議通話ができます。

◎音声呼出

ダイヤルした相手を直接音声で呼び出す機能です。
ボタンを押してダイヤルすると、呼び出し先の電話機(KX-HDVシリーズ)のスピーカー機能が有効になります。

◎未使用

機能を割り当てません。

4 設定画面について

「増設ユニット(KX-HDV230)」画面

PBX設定 > 増設ユニット(KX-HDV230) > 増設ユニット(1～5)

■ 電話機のメンテナンス

IP電話機(KXシリーズ)用の共通電話帳や設定グループごとに登録できる電話帳を編集するときに選択します。

電話機のメンテナンス						
<input type="checkbox"/> すべて ①	名前 ②	内線番号 ③	機種 ④	状態 ⑤	グループ設定 ⑥	⑦
<input type="checkbox"/>		31	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1 <input type="button" value="v"/>	<input type="button" value="再起動"/>
<input type="checkbox"/>		32	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1 <input type="button" value="v"/>	<input type="button" value="再起動"/>
<input type="checkbox"/>		33	自動 (IP200H)	接続済み	設定グループ1 <input type="button" value="v"/>	<input type="button" value="再起動"/>
<input type="checkbox"/>		34	自動	未接続	設定グループ1 <input type="button" value="v"/>	<input type="button" value="再起動"/>
		41	TEL1	--	設定グループ1 <input type="button" value="v"/>	
		42	TEL2	--	設定グループ1 <input type="button" value="v"/>	

- ① 選択ボックス 複数のIP電話機を再起動するときボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※[状態] (⑤) 欄が「未接続」と表示されているIP電話機は選択できません。
- ② 名前 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された名前を表示します。
- ③ 内線番号 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線番号を表示します。
- ④ 機種 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線子機の機種(自動、KX-UTシリーズ、KX-HDVシリーズ、IP200H、IP200PG、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2、TEL3、TEL4)を表示します。
- ⑤ 状態 本製品に登録された内線子機の接続状況を、「接続済み」/「未接続」で表示します。
※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」を表示します。
※機種を「TEL1」～「TEL4」(アナログ電話機)に設定した場合は、「--」が表示されます。
- ⑥ グループ設定 本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
設定できる範囲は、「設定グループ1～設定グループ30」までです。
(出荷時の設定：設定グループ1)
設定グループごとに、フレキシブルキーの機能割り当てを使用できます。
※フレキシブルボタンに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番+ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答はパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。
- ⑦ <再起動> [状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているKXシリーズ、IP200H、IP200PGを再起動するとき、クリックします。
※<全端末再起動>をクリックすると、[状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。
※<選択端末再起動>をクリックすると、[選択ボックス] (①) 欄でチェックしたすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。

4 設定画面について

「増設ユニット(KX-HDV230)」画面

PBX設定 > 増設ユニット(KX-HDV230) > 増設ユニット(1～5)

■ 電話機設定

本製品に登録した内線子機の設定グループを変更します。

電話機設定	
設定グループの選択:	共通設定 <input type="button" value="設定グループを変更"/>

設定グループの選択…………… 本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「設定グループ1」～「設定グループ30」から選択します。
〈設定グループを変更〉をクリックすると、選択した設定グループの内容に切り替わります。

4 設定画面について

「増設ユニット(KX-HDV230)」画面

PBX設定 > 増設ユニット(KX-HDV230) > 増設ユニット(1～5)

■ 機種個別設定(KX-HDV230)[増設ユニット]

		ボタン割当	
番号	ボタン種別	ボタン情報	ボタンラベル
10	ワンタッチ DNキー		DNキー
9	外線状態通知キー		DNキー
8	外線発信キー 外線着信キー パーク		DNキー
7	留守電開始/停止 着信おまたせ開始/停止		DNキー
6	不在転送切替		DNキー
5	不応答転送切替 話中転送切替 昼夜切替		DNキー
4	外線着信転送切替 通話転送		DNキー
3	ブラインド転送 会議通話		DNキー
2	音声呼出		DNキー
1	未使用		DNキー

ボタン割当.....

増設ユニット1(1～40)

増設ユニット2(41～80)

増設ユニット3(81～120)

増設ユニット4(121～160)

増設ユニット5(161～200)

増設ユニットのフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。

各機能の説明は4-176ページ～4-185ページをご覧ください。

◎ワンタッチ★

◎DNキー (Directory Number)

◎外線状態通知キー

◎外線発信キー★

◎外線着信キー

◎パーク

◎留守電開始/停止

◎着信おまたせ開始/停止

◎不在転送切替

◎不応答転送切替

◎話中転送切替

◎昼夜切替

◎外線着信転送切替

◎通話転送★

◎ブラインド転送★

◎会議通話★

◎音声呼出★

◎未使用★

※増設ユニット2～5に割り当てられるのは、★印のものだけです。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機 (IP200H)

■ 電話機のメンテナンス

登録された内線番号に、設定グループを設定します。

電話機のメンテナンス									
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
<input type="checkbox"/> すべて	名前	内線番号	機種	状態	グループ設定	共通項目の設定	詳細設定		
<input type="checkbox"/>		31	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	-	詳細	再起動	
<input type="checkbox"/>		32	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	-	詳細	再起動	
<input type="checkbox"/>		33	自動 (IP200H)	接続済み	設定グループ1	本製品の設定	詳細	再起動	
<input type="checkbox"/>		34	自動	未接続	設定グループ1	本製品の設定	詳細	再起動	
		41	TEL1	--	設定グループ1	-	-		
		42	TEL2	--	設定グループ1	-	-		

- ① 選択ボックス 複数のIP無線機を再起動するときボックスにチェックマークを入れます。
 ※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
 ※[状態] (⑤) 欄が「未接続」と表示されているIP無線機は選択できません。
- ② 名前 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された名前を表示します。
- ③ 内線番号 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線番号を表示します。
- ④ 機種 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線子機の機種(自動、KX-UTシリーズ、KX-HDVシリーズ、IP200H、IP200PG、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2、TEL3、TEL4)を表示します。
- ⑤ 状態 本製品に登録された内線子機の接続状況を、「接続済み」/「未接続」で表示します。
 ※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」を表示します。
 ※機種を「TEL1」～「TEL4」(アナログ電話機)に設定した場合は、「--」が表示されます。
- ⑥ グループ設定 本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
 設定できる範囲は、「設定グループ1～設定グループ30」までです。
 (出荷時の設定：設定グループ1)
 設定グループごとに、プログラマブルキーの機能割り当てを使用できます。
 ※プログラマブルキーに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番+ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答はパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 電話機のメンテナンス

電話機のメンテナンス									
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
<input type="checkbox"/> すべて	名前	内線番号	機種	状態	グループ設定	共通項目の設定	詳細設定		
<input type="checkbox"/>		31	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	-	詳細	再起動	
<input type="checkbox"/>		32	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	-	詳細	再起動	
<input type="checkbox"/>		33	自動 (IP200H)	接続済み	設定グループ1	本製品の設定	詳細	再起動	
<input type="checkbox"/>		34	自動	未接続	設定グループ1	本製品の設定	詳細	再起動	
		41	TEL1	--	設定グループ1	-	-		
		42	TEL2	--	設定グループ1	-	-		

- ⑦ 共通項目の設定 共通項目の設定について選択します。 (出荷時の設定：本製品の設定)
「他製品の設定」を選択した場合は、WLAN無線機、IP無線機と共通する項目は「電話機詳細設定」画面(P.4-191)で非表示になります。
設定を変更すると、WLAN無線機、IP電話機を含む、すべての設定を再取得します。
- ⑧ 詳細設定 <詳細>をクリックすると、電話機の詳細設定について別画面が表示されます。(P.4-191)
- ⑨ <再起動> [状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているKXシリーズ、IP200H、IP200PGを再起動するとき、クリックします。
※<全端末再起動>をクリックすると、[状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。
※<選択端末再起動>をクリックすると、[選択ボックス] (①) 欄でチェックしたすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。
- ⑩ <登録> [電話機のメンテナンス] 項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑪ <取消> [電話機のメンテナンス] 項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

登録されたIP200Hごとに、画面表示やキー操作音などを設定します。

※設定変更後は、IP200Hの再起動が必要です。

※画面の値は、設定例です。

電話機詳細設定	
表示部	内線番号: ① 200 機種: 自動
	表示項目: ② <input checked="" type="radio"/> 日付 <input type="radio"/> 名前
	バックライト: ③ 操作時点灯 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
	バックライト輝度: ④ <input type="radio"/> 暗い <input checked="" type="radio"/> 明るい
機能設定	電話着信: ⑤ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
	コントラスト: ⑥ 8 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
	Bluetooth: ⑦ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
	Bluetooth 自動接続: ⑧ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

- ① 内線番号/機種 [電話機のメンテナンス]項目で選択した内線子機の内線番号と機種が表示されます。
- 表示部
- ② 表示項目 IP200Hの待受画面に日付を表示するか、自局に登録された名前★を表示するかを選択します。 (出荷時の設定: 日付)
★「内線個別」画面で、名前が登録されていない場合は、空白になります。
- ③ バックライト IP200H使用時のバックライト機能を設定します。 (出荷時の設定: 操作時点灯)
- ◎常時消灯 : バックライトが点灯しません。
 - ◎常時点灯 : 常にバックライトが点灯します。
 - ◎操作時点灯 : 操作するとバックライトが点灯し、何も操作しない状態が約5秒つづくと、自動的に消灯します。
- ④ バックライト輝度 IP200Hの表示部と、各キーのバックライトの明るさを「暗い」、「明るい」から設定します。 (出荷時の設定: 明るい)
- ⑤ 電話着信 着信時、IP200Hのバックライトを青点減させて通知する機能です。 (出荷時の設定: 無効)
- ⑥ コントラスト IP200Hの画面表示について、濃度を設定します。 (出荷時の設定: 8)
設定できる範囲は、1(薄い)~16(濃い)です。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定

内線番号: ① 200
機種: 自動

表示部

表示項目: ② 日付 名前

バックライト: ③ 操作時点灯 ▼

バックライト輝度: ④ 暗い 明るい

電話着信: ⑤ 無効 有効

コントラスト: ⑥ 8 ▼

機能設定

Bluetooth: ⑦ 無効 有効

Bluetooth 自動接続: ⑧ 無効 有効

機能設定

- ⑦ Bluetooth IP200HとBluetooth機能対応機器を接続するときに設定します。
(出荷時の設定: 無効)
- ⑧ Bluetooth自動接続 Bluetooth機能有効時(⑦)、ペアリング済みの機器と自動接続するかどうかを設定します。
(出荷時の設定: 有効)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定

キーロック設定

解除時のパスワード入力: 無効 有効

解除用パスワード:

パスワード入力失敗回数: ▼

オートキーロック: 無効 有効 ▼

起動時のキーロック: 無効 有効

キー操作音

キー操作音: 無効 有効

キー操作音量: ▼

マイク

マイクゲイン: ▼ dB

ヘッドセット

ノイズキャンセラー: 無効 有効

側音: 無効 有効

エコーキャンセラー: 無効 有効

キーロック設定

⑨ 解除時のパスワード入力/解除用パスワード

パスワード入力失敗回数 …………… IP200Hのキーロックを解除するときに、パスワードを使用するかどうかの設定です。 (出荷時の設定: 無効)

解除用パスワードを設定するときは、任意の半角数字と半角記号(#、*)を10桁以内で入力します。

※初期設定では、パスワード入力失敗回数は制限していませんが、必要に応じて、回数制限(5回/10回)を設定してください。ただし、指定した回数を超えた場合、パスワード入力ができなくなります。

【パスワード入力制限時の解除方法】

解除用パスワードを変更、またはパスワード入力失敗回数を「制限なし」に変更してください。

※解除パスワードを変更した場合は、パスワードの入力失敗回数がリセットされます。

⑩ オートキーロック ……………

一定時間、IP200Hの操作がない場合、自動的にキーロックする機能を設定します。 (出荷時の設定: 無効)

キーロックされるまでの時間は、「15秒、30秒、1分、3分、5分、10分」の範囲で設定します。

⑪ 起動時のキーロック ……………

IP200H起動時、キーロック状態にするかどうかを設定します。 (出荷時の設定: 無効)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定

キーロック設定
解除時のパスワード入力: 無効 有効
解除用パスワード: 0000
パスワード入力失敗回数: 制限なし
オートキーロック: 無効 有効
起動時のキーロック: 無効 有効

キー操作音
キー操作音: 無効 有効
キー操作音量: 10

マイク
マイクゲイン: 0 dB

ヘッドセット
ノイズキャンセラー: 無効 有効
側音: 無効 有効
エコーキャンセラー: 無効 有効

キー操作音

- 12** キー操作音/キー操作音量 …………… IP200Hのキーやスイッチを操作したときの確認音を設定します。
(出荷時の設定: 有効)
- 無効: 確認音が鳴りません。
 有効: 確認音が鳴ります。
「有効」にして使用するときには、キー操作音量を、「0」～「16」の範囲で設定します。
(出荷時の設定: 10)
※「0」を設定した場合は、IP200H側の音量設定に関わらず、確認音は鳴りません。

マイク

- 13** マイクゲイン …………… マイクロホンの感度を設定します。
(出荷時の設定: 0)
設定できる範囲は、「-12(低)」～「12(高)」(3dB刻み)です。
※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で話すことで、通話相手に聞きやすい音声になります。
また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で話すことで、通話相手に聞きやすい音声になります。

ヘッドセット

- 14** ノイズキャンセラー …………… ノイズキャンセラー機能を設定します。
(出荷時の設定: 無効)
- 無効: ノイズキャンセラー機能が動作しません。
 有効: ノイズキャンセラー機能が動作して、周囲の雑音を低減され、通話相手がこちらの音声を聞きやすくなります。
※本体/イヤホンマイク/ヘッドセット共通設定です。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定

キーロック設定
解除時のパスワード入力: 無効 有効
解除用パスワード: 0000
パスワード入力失敗回数: 制限なし
オートキーロック: 無効
起動時のキーロック: 無効 有効

キー操作音
キー操作音: 無効 有効
キー操作音量: 10

マイク
マイクゲイン: 0 dB

ヘッドセット
ノイズキャンセラー: 無効 有効
側音: 無効 有効
エコーキャンセラー: 無効 有効

- 15 側音** イヤホンマイク(別売品)接続時の側音機能を設定します。
(出荷時の設定: 無効)
「有効」に設定すると、ヘッドセットから自分の音声聞こえるようになり、話しやすくなります。

ヘッドセット

ノイズキャンセラー: 無効 有効
側音: 無効 有効
側音音量: 10

Bluetoothマイク

側音機能を使用するときの音量は、「0」(最小)~「16」(最大)の範囲で設定します。
(出荷時の設定: 10)
※側音機能とエコーキャンセラー機能は併用できません。

- 16 エコーキャンセラー** エコーキャンセラー機能を設定します。
(出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、同時通話(複信通信)するとき起こるエコー(反響)を低減します。
※通話する相手に返るエコー抑止に効果があります。
※側音機能とエコーキャンセラー機能は併用できません。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定

Bluetoothマイク

本体ボリューム連動: 17 無効 有効

AF出力: 18 ヘッドセットのみ ヘッドセット+スピーカー

自動切断: 19 無効 有効

エコーキャンセラー: 20 無効 有効

エコーキャンセラー 入力ゲイン: 21 0 ▼ dB

エコーキャンセラー 音声遅延: 22 35 ▼ ミリ秒

ノイズキャンセラー: 23 無効 有効

パワーセーブ(アイコムオプション用): 24 無効 有効

VoIP設定

Bluetoothマイク

- 17 本体ボリューム連動 Bluetooth接続時に使用するボリューム連動機能を設定します。
(出荷時の設定: 無効)
「有効」に設定すると、Bluetooth接続しているIP200Hの[音量]でも音量を調整できます。
- 18 AF出力 Bluetooth機器を接続している場合の、無線機本体からの音声出力を設定します。
(出荷時の設定: ヘッドセットのみ)
- ◎ヘッドセットのみ:
無線機本体のスピーカーをOFFにし、Bluetooth機器からだけ音声を出力します。
- ◎ヘッドセット+スピーカー:
無線機本体のスピーカーをONにし、Bluetooth機器と無線機から音声を出力します。
- 19 自動切断 BluetoothヘッドセットとのSCO(Synchronous Connection-Oriented)リンク★を自動で切断する機能を設定します。
(出荷時の設定: 無効)
「有効」に設定すると、Bluetoothヘッドセットの音声入出力がない状態が一定時間つづいたとき、ヘッドセットとのSCOリンクを自動で切断します。
自動切断時間は、「0～10」秒の範囲で設定します。
※SCOリンクを切断中に音声を送受信したり、ビープ音が鳴ったりしたときは、自動でSCOリンクを接続します。
※「有効」に設定するとSCOリンクが自動で切断されるため、VOX機能は使用できません。特に必要がない場合は、「無効」に設定して使用されることをおすすめします。
★音声通信用のBluetoothリンク

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定

Bluetoothマイク

本体ボリューム運動: 17 ● 無効 ○ 有効

AF出力: 18 ● ヘッドセットのみ ○ ヘッドセット+スピーカー

自動切断: 19 ● 無効 ○ 有効

エコーキャンセラー: 20 ○ 無効 ● 有効

エコーキャンセラー 入力ゲイン: 21 0 ▼ dB

エコーキャンセラー 音声遅延: 22 35 ▼ ミリ秒

ノイズキャンセラー: 23 ○ 無効 ● 有効

パワーセーブ(アイコムオプション用): 24 ● 無効 ○ 有効

VoIP設定

Bluetoothマイク(つづき)

- 20 エコーキャンセラー Bluetooth接続時に使用するエコーキャンセラー機能を設定します。
(出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、同時通話(複信通信)するときにかかるエコー(反響)を低減します。
※通話する相手に返るエコー抑止に効果があります。
- 21 エコーキャンセラー
入力ゲイン Bluetooth接続時に使用するエコーキャンセラーの入力ゲインを設定します。
(出荷時の設定: 0)
設定できる範囲は、「-40 ~ 40」(dB)です。
- 22 エコーキャンセラー
音声遅延 Bluetooth接続時に使用するエコーキャンセラーの音声遅延を設定します。
設定できる範囲は、「0 ~ 160」(ミリ秒)です。 (出荷時の設定: 35)
- 23 ノイズキャンセラー Bluetooth接続時に使用するノイズキャンセラー機能を設定します。
「有効」に設定すると、周囲の雑音が高減され、通話相手はこちらの音声を聞きやすくなります。
(出荷時の設定: 有効)
- 24 パワーセーブ
(アイコムオプション用) Bluetooth接続時に使用するパワーセーブ機能を設定します。
「有効」に設定すると、通話がない状態が2分つづいたときに、パワーセーブが動作します。
(出荷時の設定: 無効)
◎着信があると、自動的にパワーセーブを解除し、受信音が出力されます。
◎送信するときは、IP200Hの[PTT]を押してはなすと、「ブツ」と音がしてパワーセーブが解除されます。
パワーセーブ解除後に、再度[PTT]を押すと送信できます。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 29 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 30 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 31 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 32 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (26) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定

- 25 音声Codec 通話に使用する音声コーデックを、「G.711u」、「G.726-32kbps (G.721)」から選択します。(出荷時の設定：G.726-32kbps (G.721))
※「G.711u」は音声を圧縮しないので、音質の劣化が少ない特徴があります。
- 26 ジッターバッファ種別 パケットの揺らぎによる音声途切れを軽減するために使用するジッターバッファを、「スタティック」、「ダイナミック」から選択します。(出荷時の設定：ダイナミック)
- ◎スタティック
音声を受信したとき、[ジッターバッファ]欄で設定した時間で音声データを蓄えます。
- ◎ダイナミック
音声を受信したとき、揺らぎに応じて音声データを蓄える時間が変動します。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) [v]</p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 [v] ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) [v]</p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 [v] ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 29 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 30 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) [v]</p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 [v] ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 31 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 32 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (26) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定(つづき)

- 27 **ジッターバッファサイズ** …… IP200Hが音声を受信したときに、音声データを蓄える時間を設定します。設定できる範囲は、「40」～「480」(ミリ秒)です。(出荷時の設定：40) 設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声途切れやすくなります。
- 28 **TOS種別** …………… IP200HのTOS機能について設定します。(出荷時の設定：TOS)
- ◎**使用しない**
TOS機能を使用しません。
 - ◎**TOS**
TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
RFC1349に準拠して、1ビット～3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。
残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。
 - ◎**Diffserv**
Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
1ビット～6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。
残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) [v]</p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 [v] ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) [v]</p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 [v] ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 29 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 30 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) [v]</p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 [v] ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 31 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 32 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (26) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定(つづき)

29 **メディア(RTP)**
TOS種別：TOS

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。 (出荷時の設定：7)

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。 (出荷時の設定：0)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 29 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 30 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 31 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 32 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (26) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定(つづき)

30 呼制御(SIP)

TOS種別：TOS

TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。 (出荷時の設定：6)

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。 (出荷時の設定：0)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 29 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 30 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec: 25 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別: 26 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ: 27 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別: 28 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP): 31 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP): 32 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (26) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定(つづき)

31 **メディア(RTP)**
TOS種別：Diffserv

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。 (出荷時の設定：56)

32 **呼制御(SIP)**
TOS種別：Diffserv

TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。 (出荷時の設定：48)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
IPアドレス設定	設定方法: 33 他製品の設定 <input type="button" value="v"/>
保守設定	
保守サーバー: 34	<input type="text"/>
保守サーバー以外からの再起動: 35	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
起動時のファームウェア自動更新: 36	有効(自動再起動有り) <input type="button" value="v"/>
ファームアップサーバー: 37	<input type="text"/>
SYSLOGホストアドレス: 38	<input type="text"/>
SYSLOG送信レベル: 39	<input type="checkbox"/> DEBUG <input type="checkbox"/> INFO <input type="checkbox"/> NOTICE
セキュリティ設定	

IPアドレス設定

33 設定方法

IP200HのIPアドレスに関する設定をします。

(出荷時の設定: 他製品の設定)

◎他製品の設定

導入時は、CS-IP200Hで設定された内容を使用しますが、本製品で変更した場合は、その設定内容で動作するようになります。

◎DHCPクライアント

DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得するときに使用します。

※必要に応じて、プライマリーDNSサーバー、セカンダリーDNSサーバーを設定してください。

IPアドレス設定	
設定方法:	DHCPクライアント
プライマリーDNSサーバー:	<input type="text"/>
セカンダリーDNSサーバー:	<input type="text"/>

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
IPアドレス設定	設定方法: 33 他製品の設定 <input type="button" value="v"/>
保守設定	
保守サーバー: 34	<input type="text"/>
保守サーバー以外からの再起動: 35	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
起動時のファームウェア自動更新: 36	有効(自動再起動有り) <input type="button" value="v"/>
ファームアップサーバー: 37	<input type="text"/>
SYSLOGホストアドレス: 38	<input type="text"/>
SYSLOG送信レベル: 39	<input type="checkbox"/> DEBUG <input type="checkbox"/> INFO <input type="checkbox"/> NOTICE
セキュリティ設定	

IPアドレス設定

33 設定方法(つづき)

◎固定IP

固定IPアドレスを割り当てるときに使用します。

ご利用になるネットワーク環境に応じて設定してください。

※ネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器のIPアドレスをデフォルトゲートウェイに入力します。

※必要に応じて、プライマリーDNSサーバー、セカンダリーDNSサーバーを設定してください。

IPアドレス設定	
設定方法:	固定IP
IPアドレス:	<input type="text"/>
サブネットマスク:	<input type="text"/>
デフォルトゲートウェイ:	<input type="text"/>
プライマリーDNSサーバー:	<input type="text"/>
セカンダリーDNSサーバー:	<input type="text"/>

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

保守設定

- 34 保守サーバー** IP200Hの保守サーバーに指定する機器のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※本製品を保守サーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。
- 35 保守サーバー以外からの再起動** [保守サーバー]欄で指定した機器以外から、IP200Hを再起動させるかどうかを設定します。 (出荷時の設定：無効)
※2021年10月現在、対応機種はVE-PG4、SR-7100VNシリーズです。
- 36 起動時のファームウェア自動更新** 本製品からIP200Hのファームウェアを自動更新するための設定です。 (出荷時の設定：有効(自動再起動有り))
- 無効
本製品によるIP200Hのファームウェア自動更新を無効にします。
 - 有効(自動再起動無し)
IP200Hの電源を入れたとき、本製品に内蔵しているファームウェアを確認し、更新する内容がある場合、IP200Hはファームウェアを取得します。IP200Hの電源を入れなおすと、ファームウェアの更新を開始します。
 - 有効(自動再起動有り)
IP200Hの電源を入れたとき、本製品に内蔵しているファームウェアを確認し、更新する内容がある場合、IP200Hはファームウェアの更新を開始します。
更新が完了すると、自動的にIP200Hが再起動します。
※本製品に内蔵しているIP200Hのファームウェアのバージョン情報は、「TOP」メニューで確認できます。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定

IPアドレス設定
設定方法: 33 他製品の設定

保守設定
保守サーバー: 34
保守サーバー以外からの再起動: 35 無効 有効
起動時のファームウェア自動更新: 36 有効(自動再起動有り)
ファームアップサーバー: 37
SYSLOGホストアドレス: 38
SYSLOG送信レベル: 39 DEBUG INFO NOTICE

セキュリティ設定

保守設定(つづき)

- 37 **ファームアップサーバー** …………… IP200Hのファームアップサーバーに指定する機器のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※本製品をファームアップサーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。
※システム内に複数のファームアップサーバーを設置しないでください。
- 38 **SYSLOGホストアドレス** …………… IP200HのSYSLOGサーバーに指定する機器(ホスト)のIPアドレスを入力します。
※ホストは、SYSLOGサーバー機能に対応している必要があります。
- 39 **SYSLOG送信レベル** …………… [SYSLOGホストアドレス]欄に入力したホストへ送信するログ情報の各レベルを選択します。(出荷時の設定: DEBUG INFO NOTICE)
ログ出力するレベルのチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✓]を入れます。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

セキュリティ設定

- 40 アクセスパスワード CS-IP200H★から、書き込み、読み込み、ファームウェア更新をする場合の認証用パスワードを、半角16文字以内で設定します。
★CS-IP200Hは、IP200Hの無線LANや保守サーバーを設定できるソフトウェアです。弊社ホームページからダウンロードできます。

プロビジョニング設定

- 41 プロビジョニング時の初期化 ... プロビジョニング時に、初期化する項目のチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✓]を入れます。
(出荷時の設定：□ 設定 □ 履歴 □ 録音データ □ Bluetoothユニット)

メニュー設定

- 42 RESET IP200Hのメニュー画面(メニュー⇒設定)に「リセット」(初期値に戻す)を表示させるかどうかを選択します。
(出荷時の設定：■ 基本モード ✓ 詳細モード)
※基本モードは、「非表示」固定です。

- 43 <登録> [電話機詳細設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

- 44 <取消> [電話機詳細設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 電話機詳細設定コピー

[電話機詳細設定]項目で登録したIP200Hの設定内容をほかのIP200Hにコピーできます。

※画面の値は、設定例です。

電話機詳細設定コピー

コピー元電話機: 31(自動) ▼

コピー先電話機

1 すべて 31(自動) 32(自動) 33(自動) 34(自動)

2 コピー 3 取消

- 1 **選択ボックス** …………… ボックスにチェックマークを入れて、コピー先のIP200Hを選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※「内線個別」画面の「内線個別設定」項目で、機種を「自動」、「IP200H」以外に設定した内線番号は表示されません。
- 2 **〈コピー〉** …………… クリックすると、「電話機詳細設定」項目に表示されている登録内容が、選択した内線番号のIP200H(1)にコピーされます。
- 3 **〈取消〉** …………… クリックすると、「選択ボックス」(1)欄のチェックマークが解除されます。
※〈コピー〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 電話機設定

本製品に登録した内線子機の設定グループを変更します。

電話機設定	
設定グループの選択:	共通設定 <input type="button" value="設定グループを変更"/>

設定グループの選択…………… 本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「共通設定」、「設定グループ1」～「設定グループ30」から選択します。
〈設定グループを変更〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

◎ 共通設定

本製品に登録したIP200Hで使用する共通の設定
・ [電話機音設定]項目(P.4-210～P.4-232)

◎ 設定グループ1～設定グループ30(P.4-218)

[電話機のメンテナンス]項目で登録した設定グループごとの設定
・ [機種個別設定(IP200H)]項目(キー設定など)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 内線発信音 [共通設定]

内線発信時の音を設定します。

内線発信音									
周波数1:	①	400							Hz
周波数2:		0							Hz
音量:	②	0							dB
繰り返し:	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング:	④	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
		250	250						

- ① 周波数1/周波数2 発信音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせせた音が鳴ります。
- ② 音量 発信音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した発信音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後に到達すると、発信音を停止します。
○有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、発信音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、発信音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：250、250)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、250ミリ秒間鳴り、250ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 外線発信音 [共通設定]

外線発信時の音を設定します。

外線発信音																	
周波数1:	<input type="text" value="400"/> Hz																
周波数2:	<input type="text" value="0"/> Hz																
音量:	<input type="text" value="0"/> dB																
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 連続																
タイミング:	<table border="1"><tr><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr><tr><td><input type="text" value="0"/></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	<input type="text" value="0"/>							
ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF										
<input type="text" value="0"/>																	

- ① 周波数1/周波数2 発信音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 発信音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した発信音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：連続)
○無効：パターンの最後に到達すると、発信音を停止します。
○有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、発信音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、発信音のパターン(ON/OFF)を設定します。
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、連続的に発信音を鳴らします。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 第2発信音 [共通設定]

第2発信(転送)時の音を設定します。

第2発信音									
周波数1:	①	400						Hz	
周波数2:		0						Hz	
音量:	②	0						dB	
繰り返し:	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング:	④	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
		125	125						

- ① 周波数1/周波数2 発信音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 発信音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した発信音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴ら
すかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後に到達すると、発信音を停止します。
○有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、発信音を繰
り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、発信音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：125、125)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、125ミリ秒間鳴り、125ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登
録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 話中音 [共通設定]

話中音を設定します。

話中音									
周波数1:	①	400							Hz
周波数2:		0							Hz
音量:	②	0							dB
繰り返し:	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング:	④	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
		500	500						

- ① 周波数1/周波数2 話中音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 話中音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した話中音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
◎無効：パターンの最後に到達すると、話中音を停止します。
◎有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、話中音を繰り返します。
◎連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、話中音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：500、500)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、500ミリ秒間鳴り、500ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 規制音 [共通設定]

規制音を設定します。

規制音									
周波数1:	①	400							Hz
周波数2:		0							Hz
音量:	②	0							dB
繰り返し:	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング:	④	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
		500	500						

- ① 周波数1/周波数2 規制音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 規制音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング](④)欄で作成した規制音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴ら
すかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後に到達すると、規制音を停止します。
○有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、規制音を繰
り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2] (①)欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、規制音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：500、500)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、500ミリ秒間鳴り、500ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登
録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 呼出音 [共通設定]

呼出音(相手先を呼び出し中に使用する音)を設定します。

呼出音																	
周波数1: ①	400 Hz																
周波数2: ②	440 Hz																
音量: ③	0 dB																
繰り返し: ④	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続																
タイミング: ⑤	<table border="1"><tr><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr><tr><td>2000</td><td>1000</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	2000	1000						
ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF										
2000	1000																

- ① 周波数1/周波数2 呼出音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/440(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 呼出音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した呼出音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴ら
すかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後に到達すると、呼出音を停止します。
○有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、呼出音を繰
り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 大8個の値を使用して、規制音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：2000、1000)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、2000ミリ秒間鳴り、1000ミリ秒間停止を繰り返しま
す。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登
録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 保留アラーム音 [共通設定]

保留アラーム音(自己保留が長時間になった場合に流れる音)を設定します。

保留アラーム音																	
周波数1:	<input type="text" value="600"/> Hz																
周波数2:	<input type="text" value="0"/> Hz																
音量:	<input type="text" value="0"/> dB																
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続																
タイミング:	<table border="1"><tr><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr><tr><td>120</td><td>120</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	120	120						
ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF										
120	120																

- ① 周波数1/周波数2 保留アラーム音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：600(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 保留アラーム音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した保留アラーム音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後に到達すると、保留アラーム音を停止します。
○有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、保留アラーム音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、保留アラーム音のパターン(ON/OFF)を設定します。 (出荷時の設定：120、120)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、120ミリ秒間鳴り、120ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 通話中着信表示音 [共通設定]

通話中着信表示音(通話中に別の端末からの着信を通知する音)を設定します。

通話中着信表示音								
周波数1:	400							Hz
周波数2:	0							Hz
音量:	0							dB
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	50	450	50	3450				

- ① 周波数1/周波数2 通話中着信表示音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 通話中着信表示音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した通話中着信表示音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターン最後に到達すると、通話中着信表示音を停止します。
○有効：パターン最後に到達すると、パターンの最初に戻り、通話中着信表示音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、通話中着信表示音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：50、450、50、3450)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、50ミリ秒間鳴り、450ミリ秒間停止、50ミリ秒間鳴り、3450ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種共通設定 [設定グループ]

選択した内線子機の設定グループごとに、キー操作や機能の割り当てを設定します。

機種共通設定	
ピックアップグループ番号	① 01
コールピックアップ対象	② 内線のみ
グループピックアップ対象	③ 外線/内線
指定ピックアップ対象	④ 外線/内線
発信規制	⑤ 無効

- ① **ピックアップグループ番号** …… 設定グループへの着信を代理応答するときに使用するピックアップグループ番号を半角数字7桁以内で入力します。
(出荷時の設定：01(設定グループ1の場合))
※グループピックアップ特番(出荷時の設定：**)につづけて、この欄で設定した番号をダイヤルすると、指定した設定グループへの着信に代理応答できます。
- ② **コールピックアップ対象** …… ほかの内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：内線のみ)
- ③ **グループピックアップ対象** …… 同じ設定グループのほかの子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)
- ④ **指定ピックアップ対象** …… 指定の内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)
- ⑤ **発信規制** …… 設定グループごとに、外線への発信規制を設定します。(出荷時の設定：無効)
◎無効 : 発信を規制しません。
◎発信規制ルール1～16 : 「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
◎外線発信規制 : 外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

機種個別設定(IP200H)

ダイヤル待ち時間: ① 5 秒

外線発信キー: ② 0

アイドル時外線発信キー押下: ③ 無効 有効

外線捕捉範囲: ④ 1 - 4

オフフック回線捕捉: ⑤ 内線 外線

オフフック外線応答: ⑥ 無効 有効

着信優先順位: ⑦ 内線優先 外線優先

外線通話中の内線着信: ⑧ 拒否 許可

長時間保留の監視時間: ⑨ 180 秒

保留キー動作: ⑩ 自己保留 保留

電話帳[共通]の利用: ⑪ 無効 有効

通話中着信表示音: ⑫ 無効 有効

- ① **ダイヤル待ち時間** ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「15」(秒)です。 (出荷時の設定：5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎても操作がないときは、発信を開始しますのでご注意ください。
- ② **外線発信キー** 空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるための番号を「0」～「9」、「*」、「#」から選択します。 (出荷時の設定：0)
- ③ **アイドル時外線発信キー押下** ... 待受画面の状態で、[外線発信キー] (②) 欄で設定した番号を押したときの動作を設定します。 (出荷時の設定：無効)
「有効」を設定すると、[外線発信キー] (②) 欄で設定した番号を押したときに、外線捕捉をします。
- ④ **外線捕捉範囲** 空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるため、IP200Hのプログラブルキーに割り当てる〈外線キー〉の設定範囲を、「1」～「4」から選択します。 (出荷時の設定：1 - 4)
- ⑤ **オフフック回線捕捉** [発信/応答]を操作してダイヤルするときの発信先(内線/外線)を設定します。 (出荷時の設定：内線)
◎**内線**：[発信/応答]を押したときに内線発信音(ツーツー)が聞こえ、ダイヤルした内線番号の内線子機を呼び出します。
◎**外線**：[発信/応答]を押したとき、[外線捕捉範囲] (④) 欄で設定した空いている回線を自動的に捕捉します。
- ⑥ **オフフック外線応答** 「有効」を設定すると、外線から電話がかかってきたときに受話器を上げるだけで応答できます。 (出荷時の設定：有効)
※「無効」を設定すると、外線着信より発信操作を優先したり、〈外線キー〉を押して応答する同時着信中の外線を選択したりできます。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

機種個別設定(IP200H)

ダイヤル待ち時間: ① 5 秒

外線発信キー: ② 0

アイドル時外線発信キー押下: ③ 無効 有効

外線捕捉範囲: ④ 1 - 4

オフフック回線捕捉: ⑤ 内線 外線

オフフック外線応答: ⑥ 無効 有効

着信優先順位: ⑦ 内線優先 外線優先

外線通話中の内線着信: ⑧ 拒否 許可

長時間保留の監視時間: ⑨ 180 秒

保留キー動作: ⑩ 自己保留 保留

電話帳[共通]の利用: ⑪ 無効 有効

通話中着信表示音: ⑫ 無効 有効

- ⑦ 着信優先順位 …………… 「外線優先」を設定すると、外線からの電話を優先して内線子機に着信させます。
(出荷時の設定：内線優先)
※外線からの電話は、ディスプレイに「着信中(キー番号)」を表示して、使用している回線を確認できます。
- ⑧ 外線通話中の内線着信 …………… 外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。
(出荷時の設定：拒否)
「拒否」を設定すると、外線通話時に内線着信を拒否(話中応答)します。
- ⑨ 長時間保留の監視時間 …………… 設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音を鳴らします。
設定できる範囲は、「30～240」(秒)です。 (出荷時の設定：180)
- ⑩ 保留キー動作 …………… [クリア/保留] を操作して保留するときの動作(自己保留/保留)を設定します。
(出荷時の設定：自己保留)
「保留」を設定すると、パークキー([P1]～[P4])と同様に、[クリア/保留]で通話をパーク保留できます。
- ⑪ 電話帳[共通]の利用 …………… IP200Hの電話機が起動したときに、本製品の共通電話帳(最大900件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。
(出荷時の設定：有効)
- ⑫ 通話中着信表示音 …………… IP200Hで通話中、別の端末からの着信があった場合に通知音で知らせるかどうかの設定です。
(出荷時の設定：有効)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

機種個別設定(IP200H)

電話帳からの発信 : 13 無効 有効

通話中のPTT押下 : 14 無効 電話切断

レジストサーバー : 15 _____

通信圏外通知音 : 16 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

側音停止 : 17 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

履歴表示 : 18 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

19 プログラムプルギ設定

P1	P2	P3	P4
音声呼出 <input type="button" value="v"/>	未使用 <input type="button" value="v"/>	未使用 <input type="button" value="v"/>	未使用 <input type="button" value="v"/>

- 13 電話帳からの発信 IP200Hのメニュー画面(メニュー⇒アドレス帳)内の「電話帳」(共通/個別)を操作できるかどうかを選択します。(出荷時の設定：有効)
- 14 通話中のPTT押下 電話通話中にIP200Hの[PTT]を押して、電話を切りたいときに設定します。(出荷時の設定：無効)
- 15 レジストサーバー IP200Hのレジストサーバーに指定する機器のIPアドレスを入力します。
※本製品を使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。

※下記は、[電話機のメンテナンス]項目の[共通項目の設定]欄(P.4-190)が「本製品の設定」の場合に有効です。

- 16 通信圏外通知音 IP200Hが通信圏外になったことをお知らせする通知音を設定します。(出荷時の設定：無効)
- 17 側音停止 側音を停止して、圏外などで通信できなくなったことをお知らせする機能を設定します。(出荷時の設定：無効)
○無効：圏外時でも、ヘッドセットから自分の音声聞こえます。
○有効：圏外になると、ヘッドセットから自分の音声聞こえなくなります。
- 18 履歴表示 履歴の表示を設定します。(出荷時の設定：有効)
○無効：履歴を表示しません。
○有効：履歴を表示できるように設定します。
※IP200Hのメニュー画面やキー操作で履歴を確認できます。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

機種個別設定(IP200H)

通話中着信表示音: 無効 有効

の発信: 13 無効 有効

DT押下: 14 無効 電話切断

バー: 15

通知音: 16 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

音停止: 17 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

履歴表示: 18 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

19 プログラマブルキー設定

P2	P3	P4
未使用	未使用	未使用

プログラマブルキー設定

19 [P1]～[P4] IP200Hの[P1]～[P4](プログラマブルキー)ごとに機能を割り当てます。
(出荷時の設定: 未使用)

◎他製品の設定

WLAN無線機(コントローラー)やCS-IP200Hなど本製品以外で割り当てられた機能が動作します。

◎ワンタッチ

よく利用する内線番号や外線番号、および本製品で設定した特番などを、あらかじめ登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。

※外線発信先を登録する場合、外線発信特番設定のプレフィクスを前置きすると、指定回線(発信番号)での発信もできます。

指定しない場合、内線個別設定の回線捕捉設定にしたがいます。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

機種個別設定(IP200H)

通話中着信表示音: 無効 有効

の発信: 13 無効 有効

DT押下: 14 無効 電話切断

パーカー: 15

通知音: 16 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

音停止: 17 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

履歴表示: 18 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

19 プログラマブルキー設定

P2	P3	P4
未使用	未使用	未使用

プログラマブルキー設定

19 [P1]～[P4](プログラマブルキー)(つづき)

◎外線キー

外線発信時に使用する回線の電話番号、または回線グループ★を選択できる機能です。

※〈外線キー〉に割り当てた回線の使用状況は、ランプ表示で確認できます。

※IP200H側が「IP電話機」を含む動作モードのときに設定できます。

回線を選択するには

キーを押すと、緑色に点灯します。ダイヤルすると、選択した回線で発信します。履歴からでも回線を選択して発信できます。

★回線グループについて

回線グループを〈外線キー〉に割り当てた場合は、その回線グループに登録した複数の電話番号から、空いているIP回線(電話番号)を自動的に捕捉して発信できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面で(P.4-115)で確認できます。

※回線グループに登録した電話番号は、単独で〈外線キー〉に割り当てられません。

回線の使用状況を確認するには

回線が使用中で発信できないときは、赤色に点灯します。着信すると、赤色に高速点滅します。保留中は緑色に低速点滅します。

※ほかの子機で保留したときは、赤色に低速点滅します。

◎パーク

通話をパーク保留して、どの内線子機からでも応答できる機能です。

※パークを設定していない場合は、パーク保留特番(初期設定: *90)やパーク応答特番(初期設定: *91)につづけてパーク番号(1～24)をダイヤルすると機能します。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

機種個別設定(IP200H)

通話中着信表示音: 無効 有効

の発信: 13 無効 有効

DT押下: 14 無効 電話切断

キーバー: 15

通知音: 16 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

音停止: 17 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

履歴表示: 18 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

19 プログラマブルキー設定

P2	P3	P4
未使用	未使用	未使用

プログラマブルキー設定

19 [P1]～[P4](プログラマブルキー)(つづき)

◎留守電開始/停止

内線子機が使用するボックスについて、留守番電話機能の開始、停止を操作できます。

留守番電話機能が動作しているときは、キーが黄色に点灯します。

※留守番電話機能を解除するときは、再度キーを押して消灯をご確認ください。

※「基本」画面の[留守番電話機能]欄を「有効」に設定していない場合は、無効な機能です。

◎着信おまたせ開始/停止

着信おまたせ機能を設定すると、通話中など登録した内線子機が設定した時間内に応答できないときに、メッセージを流して相手に待っていただけます。

着信おまたせ機能が動作しているときは、キーが黄色に点灯します。

※着信おまたせ機能を解除するときは、再度キーを押して消灯をご確認ください。

※着信おまたせ機能で、留守番電話に接続する場合は、「基本」画面の[留守番電話機能]欄を「有効」に設定しておく必要があります。

※IP200Hで、この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、プログラマブルキーに〈外線キー〉の割り当てが契約チャネル数分必要です。(P.4-222)

※ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で、回線ごとに使用するパターンを選択していない場合は、無効な機能です。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

機種個別設定(IP200H)

通話中着信表示音: 無効 有効

の発信: 13 無効 有効

DT押下: 14 無効 電話切断

キーバー: 15

通知音: 16 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

音停止: 17 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

履歴表示: 18 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

19 プログラマブルキー設定

P2	P3	P4
未使用	未使用	未使用

プログラマブルキー設定

19 [P1]～[P4](プログラマブルキー)(つづき)

◎不在転送切替

不在中にかかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。

不在転送機能が動作しているときは、キーが黄色に点灯します。

※不在転送機能を解除するときは、再度キーを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不在転送]欄(P.4-126)で設定した特番(出荷時の設定: *94)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「内線着信転送設定」画面に設定されます。

◎不応答転送切替

電話に応答できないときなど、かかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。

不応答転送機能が動作しているときは、キーが黄色に点灯します。

※不応答転送機能を解除するときは、再度キーを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[不応答転送]欄(P.4-127)で設定した特番(出荷時の設定: *95)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「内線着信転送設定」画面に設定されます。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

機種個別設定(IP200H)

通話中着信表示音: 無効 有効

の発信: 13 無効 有効

DT押下: 14 無効 電話切断

キーバー: 15

通知音: 16 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

音停止: 17 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

履歴表示: 18 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

19 プログラマブルキー設定

P2	P3	P4
未使用	未使用	未使用

プログラマブルキー設定

19 [P1]～[P4](プログラマブルキー)(つづき)

◎話中転送切替

内線通話中にほかの内線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能です。

話中転送機能が動作しているときは、キーが黄色に点灯します。

※話中転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番」画面の[話中転送]欄(P.4-127)で設定した特番(出荷時の設定：*96)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「内線着信転送設定」画面に設定されます。

◎昼夜切替

あらかじめ登録した外線サービスグループ(P.4-284)ごとに、昼間か夜間で、着信したときの動作を切り替える機能です。

指定の外線サービスグループが夜間の場合は、キーが黄色に点灯します。

※夜間転送を解除するときは再度キーを押す、またはユーザー用の「昼夜切替設定」画面のボタンをクリックして消灯をご確認ください。

※夜間転送を一括解除するときは、「特番」画面の[昼夜切替]欄(P.4-128)で設定した昼夜切替特番(出荷時の設定：*98)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※「PBX拡張設定」メニューの「夜間転送先」画面(P.4-287)で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

19 プログラマブルキー設定		
P2	P3	P4
未使用	未使用	未使用

プログラマブルキー設定

19 [P1]～[P4](プログラマブルキー)(つづき)

◎外線着信転送切替

回線(電話番号)ごとに、外線からの着信をあらかじめ登録した転送先へ転送する機能です。

外線着信転送機能が動作しているときは、キーが黄色に点灯します。

※外線着信転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※「夜間転送先設定」画面で「外線」に設定されているときは、夜間転送に切り替わると、この設定に関わらず、夜間転送先設定が優先されます。

※ユーザー用の「外線着信転送設定」画面で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

機種個別設定(IP200H)

通話中着信表示音: 無効 有効

の発信: 13 無効 有効

DT押下: 14 無効 電話切断

バー: 15

通知音: 16 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

音停止: 17 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

歴表示: 18 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

19 プログラマブルキー設定

P2	P3	P4
未使用	未使用	未使用

プログラマブルキー設定

19 [P1]～[P4](プログラマブルキー)(つづき)

◎留守電の再生

内線子機が使用するボックスに録音されたメッセージを確認するときに使用するキーです。

キーを押すと、留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインできます。ログインした状態で、電話機から聞こえるメッセージにしたがって操作すると、録音内容の再生や各種設定ができます。

※留守番電話操作メニュー(メインメニュー)の詳細については、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」(留守番電話操作一覧)をご覧ください。

※「基本」画面の[留守番電話機能]欄を「有効」に設定していない場合は、無効な機能です。

◎コールピックアップ

ほかの内線子機への呼び出しに代理応答できるキーです。

◎グループピックアップ

同じ設定グループに所属するほかの内線子機への呼び出しに代理応答できる番号キーです。

※指定した設定グループへの呼び出しに代理応答する場合は、特番+ピックアップグループ番号を押します。(例：**01)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 機種個別設定(IP200H) [設定グループ]

P2	P3	P4
未使用	未使用	未使用

プログラマブルキー設定

19 [P1]～[P4](プログラマブルキー)(つづき)

◎内線キー

内線発信時に使用するキーです。〈内線キー〉を押してから、内線番号をダイヤルします。

◎回線閉塞

回線閉塞機能を開始、または停止するときに使用するキーです。通話中や不在など、あらかじめ応答できないことがわかっている場合に、回線を話中状態にできる機能です。

※IP200Hで、この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、プログラマブルキーに〈外線キー〉の割り当てが契約チャンネル数分必要です。(P.4-221)

◎音声メモ

電話通話中の録音を開始、または停止するときに使用するキーです。

※無線通話は対象外になります。

※IP200H側が「IP電話機」を含む動作モードのときに設定できます。

◎音声呼出

ダイヤルした相手を直接音声で呼び出す機能です。ボタンを押してダイヤルすると、呼び出し先の電話機(KXシリーズ、IP200H)のスピーカー機能が有効になります。

◎未使用

機能を割り当てません。

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 着信音 [設定グループ]

着信音を設定します。

着信音	
着信音色 :	着信音1 <input type="button" value="▼"/>

着信音色..... 本製品に登録したIP200Hで使用する着信音を、「着信音1」～「着信音5」から選択します。
(出荷時の設定：着信音1)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 着信音パターン [設定グループ]

着信音パターンを設定します。

着信音パターン								
パターン1:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	1000	2000						
パターン2:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	800	400	800	2000				
パターン3:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	400	200	400	200	800	2000		
パターン4:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	300	200	300	200	300	1000		
パターン5:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	250	250	250	2250				
パターン6:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	250	250	250	250	250	250	250	2250
パターン7:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	150	300	600	300	150	300	600	300

パターン1～パターン7 ……………

最大8個の値を使用して、着信音のパターン(ON/OFF)を設定します。

(出荷時の設定：パターン1 1000、2000

パターン2 800、400、800、2000

パターン3 400、200、400、200、800、2000

パターン4 300、200、300、200、300、1000

パターン5 250、250、250、2250)

パターン6 250、250、250、250、250、250、250、2250

パターン7 150、300、600、300、150、300、600、300)

設定できる範囲は、「50～5000」(ミリ秒)です。

たとえば、「1000(ON)、2000(OFF)」と指定した場合、1000ミリ秒間鳴り、2000ミリ秒間停止のパターンとなります。

※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

※IP200Hの着信音(パターン)は、パターンを割り当て電話機ごとの鳴り分け判別で使用します。(P.4-142、P.4-232)

4 設定画面について

「電話機(IP200H)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200H)

■ 着信音パターン割り当て [設定グループ]

着信音パターン割り当てを設定します。

着信音パターン割り当て		
外線A:	パターン1	▼
外線B:	パターン2	▼
外線C:	パターン3	▼
内線A:	パターン5	▼
内線B:	パターン6	▼
内線C:	パターン7	▼
デフォルト内線:	パターン5	▼
		<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>

「着信」画面(P.4-142)で設定した鳴り分け判別を、「着信音なし」、「パターン1」～「パターン7」から選択します。
たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、IP200Hに着信したとき「パターン1」が鳴ります。
※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音が鳴ります。
※[鳴り分け判別]欄で内線(内線A～内線C)に設定している回線(IP回線)からの着信は、内線として扱われます。
※ほかの内線子機から内線で着信した場合、「デフォルト内線」に設定した着信音が鳴ります。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 電話機のメンテナンス

登録された内線番号に、設定グループを設定します。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
<input type="checkbox"/> すべて	名前	内線番号	機種	状態	グループ設定	共通項目の設定	詳細設定	
<input type="checkbox"/>		31	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	-	詳細	再起動
<input type="checkbox"/>		32	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	-	詳細	再起動
<input type="checkbox"/>		33	自動 (IP200H)	接続済み	設定グループ1	本製品の設定	詳細	再起動
<input type="checkbox"/>		34	自動	未接続	設定グループ1	本製品の設定	詳細	再起動
		41	TEL1	--	設定グループ1	-	-	
		42	TEL2	--	設定グループ1	-	-	

- ① 選択ボックス 複数のIP200PGを再起動するときボックスにチェックマークを入れます。
 ※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
 ※[状態] (⑤) 欄が「未接続」と表示されているIP200PGは選択できません。
- ② 名前 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された名前を表示します。
- ③ 内線番号 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線番号を表示します。
- ④ 機種 「内線個別」画面(P.4-132)で登録された内線子機の機種(自動、KX-UTシリーズ、KX-HDVシリーズ、IP200H、IP200PG、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2、TEL3、TEL4)を表示します。
- ⑤ 状態 本製品に登録された内線子機の接続状況を、「接続済み」/「未接続」で表示します。
 ※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」を表示します。
 ※機種を「TEL1」～「TEL4」(アナログ電話機)に設定した場合は、「--」が表示されます。
- ⑥ グループ設定 本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
 設定できる範囲は、「設定グループ1～設定グループ30」までです。
 (出荷時の設定：設定グループ1)
 設定グループごとに、プログラマブルキーの機能割り当てを使用できます。
 ※プログラマブルキーに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番+ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答はパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 電話機のメンテナンス

電話機のメンテナンス									
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		⑧	⑨
<input type="checkbox"/> すべて	名前	内線番号	機種	状態	グループ設定	共通項目の設定		詳細設定	
<input type="checkbox"/>		31	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	-		詳細	再起動
<input type="checkbox"/>		32	自動 (KX-HDVシリーズ)	接続済み	設定グループ1	-		詳細	再起動
<input type="checkbox"/>		33	自動 (IP200H)	接続済み	設定グループ1	本製品の設定		詳細	再起動
<input type="checkbox"/>		34	自動	未接続	設定グループ1	本製品の設定		詳細	再起動
		41	TEL1	--	設定グループ1	-			
		42	TEL2	--	設定グループ1	-			

- ⑦ 共通項目の設定 共通項目の設定について選択します。 (出荷時の設定：本製品の設定)
「他製品の設定」を選択した場合は、WLAN無線機、IP無線機と共通する項目は「電話機詳細設定」画面(P.4-235)で非表示になります。
設定を変更すると、WLAN無線機、IP電話機を含む、すべての設定を再取得します。
- ⑧ 詳細設定 <詳細>をクリックすると、電話機の詳細設定について別画面が表示されます。(P.4-235)
- ⑨ <再起動> [状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているKXシリーズ、IP200H、IP200PGを再起動するとき、クリックします。
※<全端末再起動>をクリックすると、[状態] (⑤) 欄が「接続済み」と表示されているすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。
※<選択端末再起動>をクリックすると、[選択ボックス] (①) 欄でチェックしたすべてのKXシリーズ、IP200H、IP200PGを一斉に再起動できます。
- ⑩ <登録> [電話機のメンテナンス]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑪ <取消> [電話機のメンテナンス]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

登録されたIP200PGごとに、画面表示やキー操作音などを設定します。

※設定変更後は、IP200PGの再起動が必要です。

※画面の値は、設定例です。

電話機詳細設定	
	内線番号: ① 211
	機種: 自動
表示部	状態表示ランプ消灯モード: ② 有効 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
	状態表示ランプ消灯モード移行時間: ③ 30 秒
呼出先指定	発信先番号: ④ _____
キー操作音	キー操作音: ⑤ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
	キー操作音量: 10 <input type="checkbox"/>
マイク	

① 内線番号/機種 [電話機のメンテナンス]項目で選択した内線子機の内線番号と機種が表示されます。

表示部

② 状態表示ランプ消灯モード IP200PG起動後やキー操作/通話終了後、IP200PGの状態表示ランプを消灯させるときに設定します。 (出荷時の設定: 無効)

◎無効:

状態表示ランプ消灯モードを使用しないとき

◎有効:

状態表示ランプ消灯モードを使用して、電源ランプを減灯するとき

[状態表示ランプ消灯モード移行時間] (③) 欄に設定した時間(出荷時の設定: 30秒)が経過すると、電源ランプの明るさが暗くなります。同時に、電源以外のランプは、IP200PGを使用中でも消灯状態になります。

◎有効(完全消灯):

状態表示ランプ消灯モードを使用して、すべてのランプを消灯するとき

[状態表示ランプ消灯モード移行時間] (③) 欄に設定した時間(出荷時の設定: 30秒)が経過すると、すべてのランプが消灯状態になります。

③ 状態表示ランプ消灯モード

移行時間

[状態表示ランプ消灯モード] (①) 欄を「有効」、「有効(完全消灯)」に設定したとき、状態表示ランプ消灯モードになるまでの時間を設定します。

設定できる範囲は、「0～3600」(秒)です。 (出荷時の設定: 30秒)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
内線番号	① 211
機種	自動
表示部	
状態表示ランプ消灯モード	② 有効 <input type="button" value="▼"/>
状態表示ランプ消灯モード移行時間	③ 30 秒
呼出先指定	
発信先番号	④ _____
キー操作音	
キー操作音	⑤ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
キー操作音量	_____ <input type="button" value="▼"/>
マイク	

呼出先指定

- ④ 発信先番号 発信先の電話番号を半角で入力します。
※任意の半角数字と半角記号(#、*)を31桁以内で入力します。

キー操作音

- ⑤ キー操作音/キー操作音量 IP200PGのキーを操作したときの確認音を設定します。
(出荷時の設定：有効)
- ◎無効：確認音が鳴りません。
◎有効：確認音が鳴ります。
「有効」にして使用するときは、キー操作音量を、「0」～「16」の範囲で設定します。
(出荷時の設定：10)
※「0」を設定した場合は、IP200PG側の音量設定に関わらず、確認音は鳴りません。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
マイク	
マイクゲイン : ⑥	0 ▼ dB
エコーキャンセラー : ⑦	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーキャンセラー 入力ゲイン : ⑧	12 ▼ dB
エコーキャンセラー 音声遅延 : ⑨	0 ▼ ミリ秒
ノイズキャンセラー : ⑩	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
同時通話音量制限 : ⑪	16 ▼
放送設定	
ページング機能 : ⑫	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

マイク

- ⑥ **マイクゲイン** マイクロホンの感度を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-12(低)」～「12(高)」(3dB刻み)です。
※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で話すことで、通話相手に聞きやすい音声になります。
また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で話すことで、通話相手に聞きやすい音声になります。
- ⑦ **エコーキャンセラー** エコーキャンセラー機能を設定します。 (出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、同時通話(複信通信)するときにかかるエコー(反響)を低減します。
※通話する相手に返るエコー抑止に効果があります。
- ⑧ **エコーキャンセラー 入力ゲイン** エコーキャンセラーの入力ゲインを設定します。 (出荷時の設定：12)
設定できる範囲は、「-40～40」(dB)です。
- ⑨ **エコーキャンセラー 音声遅延** エコーキャンセラーの音声遅延を設定します。設定できる範囲は、「0～160」(ミリ秒)です。 (出荷時の設定：0)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
マイク	
マイクゲイン：⑥	0 ▼ dB
エコーキャンセラー：⑦	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーキャンセラー 入力ゲイン：⑧	12 ▼ dB
エコーキャンセラー 音声遅延：⑨	0 ▼ ミリ秒
ノイズキャンセラー：⑩	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
同時通話音量制限：⑪	16 ▼
放送設定	
ページング機能：⑫	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

マイク(つづき)

- ⑩ **ノイズキャンセラー** …………… ノイズキャンセラー機能を設定します。 (出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、周囲の雑音が低減され、通話相手がこちらの音声を聞きやすくなります。
- ⑪ **同時通話音量制限** …………… 同時通話時の最大音量を設定します。 (出荷時の設定：16)
設定できる範囲は、「0」～「16」です。
IP200PG本体の音量が、この設定値以上になっている場合、[通話]を押すと、設定した音量に制限されます。
※「0」を設定した場合は、IP200PG側の音量設定に関わらず、音は鳴りません。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
放送設定	
ページング機能 : 12	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
応答待機時間 : 13	1.5秒 <input type="button" value="▼"/>
前置音 : 14	単音1 <input type="button" value="▼"/>
後置音 : 15	なし <input type="button" value="▼"/>
マイク動作 : 16	キー操作後有効 <input type="button" value="▼"/>
自動切断タイマー	
着信中 : 17	120秒 <input type="button" value="▼"/>
発信中 : 18	120秒 <input type="button" value="▼"/>
通話中 : 19	120秒 <input type="button" value="▼"/>

放送設定

- 12 ページング機能 IP200PGのページング機能を使用するときに設定します。
(出荷時の設定：有効)
電話機から着信すると、音声出力先の設定(P.4-244)にしたがい、IP200PG本体のスピーカーやIP200PGに接続した放送システムから音声が出力されます。
※マイク動作有効時(16)、電話機からの呼び出しに応答できません。
※「無効」を設定した場合は、通常の電話着信になります。
- 13 応答待機時間 IP200PGに着信してから前置音を鳴らすまでの時間を、「1.0秒」、「1.5秒」、「2.0秒」、「3.0秒」から選択します。
(出荷時の設定：1.5秒)
外部出力端子を放送アンプの電源制御に使用している場合など、これらの端子の動作から音声が出力されるまで、間隔が必要な場合に利用します。
- 14 前置音 放送開始前の効果音を、「なし」、「4音(アップ)」、「単音1」、「単音2」から選択します。
(出荷時の設定：単音1)
- 15 後置音 放送終了後の効果音を、「なし」、「4音(ダウン)」、「単音1」、「単音2」から選択します。
(出荷時の設定：なし)
- 16 マイク動作 ページング着信後のマイク動作について設定します。
(出荷時の設定：キー操作後有効)
- ◎常時有効 : マイクが常時有効になります。
 - ◎キー操作後有効 : [通話]を押すと、マイクが有効になります。
 - ◎無効 : マイクが常時無効になります。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
放送設定	
ページング機能 : 12	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
応答待機時間 : 13	1.5秒 <input type="button" value="▼"/>
前置音 : 14	単音1 <input type="button" value="▼"/>
後置音 : 15	なし <input type="button" value="▼"/>
マイク動作 : 16	キー操作後有効 <input type="button" value="▼"/>
自動切断タイマー	
着信中 : 17	120秒 <input type="button" value="▼"/>
発信中 : 18	120秒 <input type="button" value="▼"/>
通話中 : 19	120秒 <input type="button" value="▼"/>

自動切断タイマー

- 17 着信中 IP200PGへ着信が一定時間つづいたとき、自動的に切断する時間を設定します。
(出荷時の設定：120秒)
設定できる範囲は、「なし」、「30秒」、「60秒」、「120秒」です。
※「なし」を設定すると、自動的に切断しません。
- 18 発信中 相手先が応答しないなど、IP200PGから発信が一定時間つづいたとき、自動的に切断する時間を設定します。
(出荷時の設定：120秒)
設定できる範囲は、「なし」、「30秒」、「60秒」、「120秒」です。
※「なし」を設定すると、自動的に切断しません。
- 19 通話中 離席など、IP200PGでの無通話が一定時間つづいたとき、自動的に切断する時間を設定します。
(出荷時の設定：120秒)
設定できる範囲は、「なし」、「30秒」、「60秒」、「120秒」、「300秒」、「600秒」です。
※「なし」を設定すると、自動的に切断しません。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
外部端子 電源出力 (1ピン)	電源出力: 20 無効 <input type="checkbox"/>
外部端子 制御出力 (8ピン)	制御出力: 21 無効 <input type="checkbox"/>
外部端子 制御入力 (4ピン)	機能: 22 無効 <input type="checkbox"/>
外部端子 音声出力 (3ピン)	音量: 23 8 <input type="checkbox"/>
外部端子 音声入力 (6ピン)	入力感度切替: 24 <input type="radio"/> -40dBs (マイク入力) <input checked="" type="radio"/> -10dBs (ライン入力)
	入力オフセットゲイン: 25 0 <input type="checkbox"/> dB
	エコーキャンセラー: 26 <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

外部端子 電源出力 (1ピン)

20 電源出力

電源が必要なマイクロホンなどIP200PGに接続した外部機器への12V電源供給について設定します。(出荷時の設定: 無効)

◎常時有効 : 常時、50mAまで電源を供給します。

◎連動 : 動作条件有効時に、電源を供給にします。

電源出力:	<input checked="" type="radio"/> 連動
電話着信時:	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
電話発信時:	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
ページング着信時:	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

◎他製品の設定: 弊社製コントローラーやCS-IP200PGなど、本製品以外で割り当てられた設定で動作します。

※「無効」を設定した場合は、外部機器へ電源を供給しません。

※1ピン(DC 12V)を使用する場合は、2ピン(DET)を「Lレベル」(GNDに接続)にし、外部機器の接続検出状態にする必要があります。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
外部端子 電源出力 (1ピン)	電源出力: 20 無効 <input type="checkbox"/>
外部端子 制御出力 (8ピン)	制御出力: 21 無効 <input type="checkbox"/>
外部端子 制御入力 (4ピン)	機能: 22 無効 <input type="checkbox"/>
外部端子 音声出力 (3ピン)	音量: 23 8 <input type="checkbox"/>
外部端子 音声入力 (6ピン)	入力感度切替: 24 <input type="radio"/> -40dBs (マイク入力) <input checked="" type="radio"/> -10dBs (ライン入力)
	入力オフセットゲイン: 25 0 <input type="checkbox"/> dB
	エコーキャンセラー: 26 <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

外部端子 制御出力 (8ピン)

21 制御出力

IP200PGに接続した外部機器のON/OFF制御について設定します。

(出荷時の設定: 無効)

「常時有効」、「連動」を設定すると、外部機器へ制御信号を出力します。オープンコレクター出力(12V 50mA以下)で使用ください。

◎常時有効 : 常時、外部機器へ制御信号を出力します。

◎連動 : 動作条件有効時に、外部機器へ制御信号を出力します。

制御出力:	連動
電話着信時:	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
電話発信時:	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
ページング着信時:	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

◎他製品の設定優先 : 弊社製コントローラーやCS-IP200PGなど、本製品以外で割り当てられた機能が動作します。

※「無効」を設定した場合は、外部機器へ制御信号を出力しません。

※8ピン(BUSY)を使用する場合は、2ピン(DET)を「LLレベル」(GNDに接続)にし、外部機器の接続検出状態にする必要があります。

外部端子 制御入力 (4ピン)

22 機能

IP200PGに接続した外部機器の[PTT]を押したときの動作を設定します。

(出荷時の設定: 無効)

◎通話キー : 指定した相手先(発信先番号)へ発信します。(P.4-236)

◎他製品の設定 : 弊社製コントローラーやCS-IP200PGなど、本製品以外で割り当てられた設定で動作します。

※「無効」を設定した場合は、外部機器の[PTT]を押しても動作しません。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
外部端子 電源出力 (1ピン)	電源出力: 20 無効 <input type="checkbox"/>
外部端子 制御出力 (8ピン)	制御出力: 21 無効 <input type="checkbox"/>
外部端子 制御入力 (4ピン)	機能: 22 無効 <input type="checkbox"/>
外部端子 音声出力 (3ピン)	音量: 23 8 <input type="checkbox"/>
外部端子 音声入力 (6ピン)	入力感度切替: 24 <input type="radio"/> -40dBs (マイク入力) <input checked="" type="radio"/> -10dBs (ライン入力)
	入力オフセットゲイン: 25 0 <input type="checkbox"/> dB
	エコーキャンセラー: 26 <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

外部端子 音声出力 (3ピン)

23 音量

IP200PGに接続した外部機器の音量レベルを設定します。
設定できる範囲は、「0」～「16」です。 (出荷時の設定：8)
※「0」を設定した場合は、外部機器側の音量設定に関わらず、音は鳴りません。

外部端子 音声入力 (6ピン)

24 入力感度切替

IP200PGに接続した外部機器の音声入力感度を、「-40dBs (マイク入力)」、
「-10dBs (ライン入力) (0dBs=0.775Vrms)」から選択します。
(出荷時の設定：-10dBs (ライン入力))
※設定値は、接続する外部機器のオーディオ出力の信号レベルによりますが、
目安として、マイクロホンを接続するときは「-40dBs (マイク入力)」、
外部機器のライン出力を接続するときは「-10dBs (ライン入力)」を選択し
ます。
※「-40dBs (マイク入力)」を選択した場合は、同時にマイク用電源が供給
されます。

25 入力オフセットゲイン

IP200PGに接続した外部機器から入力された信号の増幅度を設定します。設
定できる範囲は、「-77～+12」(dB)です。 (出荷時の設定：0)

26 エコーキャンセラー

外部機器接続時に使用するエコーキャンセラー機能を設定します。
(出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、IP200PGに接続した外部機器で同時通話(複信通信)す
るときに起こるエコー(反響)を低減します。
※通話する相手に返るエコー抑止に効果があります。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
エコーキャンセラー : 26	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーキャンセラー 入力ゲイン : 27	0 <input type="button" value="v"/> dB
エコーキャンセラー 音声遅延 : 28	0 <input type="button" value="v"/> ミリ秒
ノイズキャンセラー : 29	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
同時通話音量制限 : 30	16 <input type="button" value="v"/>
通話キー	
通話キー : 31	無効 <input type="button" value="v"/>
音声出力先	
音声出力先 : 32	内蔵スピーカー <input type="button" value="v"/>

外部端子 音声入力 (6ピン)(つづき)

27 エコーキャンセラー

入力ゲイン 外部機器接続時に使用するエコーキャンセラーの入力ゲインを設定します。
設定できる範囲は、「-40～40」(dB)です。 (出荷時の設定：0)

28 エコーキャンセラー

音声遅延 外部機器接続時に使用するエコーキャンセラーの音声遅延を設定します。
設定できる範囲は、「0～160」(ミリ秒)です。 (出荷時の設定：0)

29 ノイズキャンセラー

外部機器接続時に使用するノイズキャンセラー機能を設定します。
「有効」に設定すると、周囲の雑音が減り、通話相手がこちらの音声を聞きやすくなります。 (出荷時の設定：無効)

30 同時通話音量制限

同時通話時の最大音量を設定します。 (出荷時の設定：16)
設定できる範囲は、「0」～「16」です。
外部機器の音量が、この設定値以上になっている場合、[通話]を押すと、設定した音量に制限されます。
※「0」を設定した場合は、外部機器側の音量設定に関わらず、音は鳴りません。

通話キー

31 通話キー

P200PGの[通話]を押したときの動作を設定します。(出荷時の設定：無効)
◎**電話発信** : 呼出先指定で設定した番号に発信します。(P.4-236)
◎**他製品の設定** : 弊社製コントローラーやCS-IP200PGなど、本製品以外で割り当てられた設定で動作します。
※「無効」を設定した場合は、IP200PGの[通話]を押しても動作しません。

音声出力先

32 音声出力先

IP200PGの音声出力先を、「内蔵スピーカー」、「外部端子」、「両方」から設定します。 (出荷時の設定：内蔵スピーカー)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec： 33 G.726-32kbps (G.721) <input type="checkbox"/></p> <p>ジッターバッファ種別： 34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ： 35 40 <input type="checkbox"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別： 36 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec： 33 G.726-32kbps (G.721) <input type="checkbox"/></p> <p>ジッターバッファ種別： 34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ： 35 40 <input type="checkbox"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別： 36 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)： 37 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)： 38 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec： 33 G.726-32kbps (G.721) <input type="checkbox"/></p> <p>ジッターバッファ種別： 34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ： 35 40 <input type="checkbox"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別： 36 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)： 39 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)： 40 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (34) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定

- 33 音声Codec 通話に使用する音声コーデックを、「G.711u」、「G.726-32kbps (G.721)」から選択します。(出荷時の設定：G.726-32kbps (G.721))
※「G.711u」は音声を圧縮しないので、音質の劣化が少ない特徴があります。
- 34 ジッターバッファ種別 パケットの揺らぎによる音声途切れを軽減するために使用するジッターバッファを、「スタティック」、「ダイナミック」から選択します。
(出荷時の設定：ダイナミック)
- ◎スタティック
音声を受信したとき、[ジッターバッファ]欄で設定した時間で音声データを蓄えます。
- ◎ダイナミック
音声を受信したとき、揺らぎに応じて音声データを蓄える時間が変動します。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

	電話機詳細設定
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec：33 G.726-32kbps (G.721) <input type="checkbox"/></p> <p>ジッターバッファ種別：34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ：35 40 <input type="checkbox"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別：36 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec：33 G.726-32kbps (G.721) <input type="checkbox"/></p> <p>ジッターバッファ種別：34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ：35 40 <input type="checkbox"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別：36 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)：37 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)：38 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec：33 G.726-32kbps (G.721) <input type="checkbox"/></p> <p>ジッターバッファ種別：34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ：35 40 <input type="checkbox"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別：36 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)：39 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)：40 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (34) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定(つづき)

35 **ジッターバッファサイズ** …… IP200PGが音声を受信したときに、音声データを蓄える時間を設定します。設定できる範囲は、「40」～「480」(ミリ秒)です。(出荷時の設定：40) 設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。

36 **TOS種別** …………… IP200PGのTOS機能について設定します。(出荷時の設定：TOS)

◎使用しない

TOS機能を使用しません。

◎TOS

TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

RFC1349に準拠して、1ビット～3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。

残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎Diffserv

Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

1ビット～6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。

残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec： 33 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別： 34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ： 35 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別： 36 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec： 33 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別： 34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ： 35 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別： 36 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)： 37 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)： 38 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec： 33 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別： 34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ： 35 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別： 36 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)： 39 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)： 40 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (34) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定(つづき)

37 **メディア(RTP)**
TOS種別：TOS

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。 (出荷時の設定：7)

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。 (出荷時の設定：0)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec：33 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別：34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ：35 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別：36 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec：33 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別：34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ：35 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別：36 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)：37 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)：38 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec：33 G.726-32kbps (G.721) <input type="button" value="v"/></p> <p>ジッターバッファ種別：34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ：35 40 <input type="button" value="v"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別：36 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)：39 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)：40 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (34) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定(つづき)

38 呼制御(SIP)
TOS種別：TOS

TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。 (出荷時の設定：6)

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。 (出荷時の設定：0)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
TOS種別：使用しない	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec：33 G.726-32kbps (G.721) <input type="checkbox"/></p> <p>ジッターバッファ種別：34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ：35 40 <input type="checkbox"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別：36 <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p>
TOS種別：TOS	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec：33 G.726-32kbps (G.721) <input type="checkbox"/></p> <p>ジッターバッファ種別：34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ：35 40 <input type="checkbox"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別：36 <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)：37 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)：38 優先度 6 サービスタイプ 0 16進表示: C0</p>
TOS種別：Diffserv	<p>VoIP設定</p> <p>音声Codec：33 G.726-32kbps (G.721) <input type="checkbox"/></p> <p>ジッターバッファ種別：34 <input checked="" type="radio"/> スタティック <input type="radio"/> ダイナミック</p> <p>ジッターバッファサイズ：35 40 <input type="checkbox"/> ミリ秒</p> <p>TOS種別：36 <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv</p> <p>メディア(RTP)：39 DSCP 56 16進表示: E0</p> <p>呼制御(SIP)：40 DSCP 48 16進表示: C0</p>

※説明のため、[ジッターバッファ種別] (34) 欄を「スタティック」に設定したときに表示される画面を使用しています。

V/RoIP設定(つづき)

- 39 **メディア(RTP)** TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。
TOS種別：Diffserv
◎DSCP
DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。 (出荷時の設定：56)
- 40 **呼制御(SIP)** TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットを優先制御する基準についての設定項目です。
TOS種別：Diffserv
◎DSCP
DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。 (出荷時の設定：48)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
IPアドレス設定	設定方法: 41 他製品の設定 <input type="checkbox"/>
保守設定	
保守サーバー:	42 _____
保守サーバー以外からの再起動:	43 <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
起動時のファームウェア自動更新:	44 有効(自動再起動有り) <input type="checkbox"/>
ファームアップサーバー:	45 _____
SYSLOGホストアドレス:	46 _____
SYSLOG送信レベル:	47 <input type="checkbox"/> DEBUG <input type="checkbox"/> INFO <input type="checkbox"/> NOTICE
セキュリティ設定	
アクセスパスワード:	48 _____
プロビジョニング設定	
プロビジョニング時の初期化:	49 <input type="checkbox"/> 設定
50 登録 51 取消	

IPアドレス設定

41 設定方法

IP200PGのIPアドレスに関する設定をします。

(出荷時の設定: 他製品の設定)

◎他製品の設定

導入時は、CS-IP200PGで設定された内容を使用しますが、本製品で変更した場合は、その設定内容で動作するようになります。

◎DHCPクライアント

DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得するときに使用します。

※必要に応じて、プライマリーDNSサーバー、セカンダリーDNSサーバーを設定してください。

IPアドレス設定	
設定方法:	DHCPクライアント
プライマリーDNSサーバー:	_____
セカンダリーDNSサーバー:	_____

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定	
IPアドレス設定	設定方法: 41 他製品の設定 <input type="checkbox"/>
保守設定	保守サーバー: 42 _____
	保守サーバー以外からの再起動: 43 <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
	起動時のファームウェア自動更新: 44 有効(自動再起動有り) <input type="checkbox"/>
	ファームアップサーバー: 45 _____
	SYSLOGホストアドレス: 46 _____
	SYSLOG送信レベル: 47 <input type="checkbox"/> DEBUG <input type="checkbox"/> INFO <input type="checkbox"/> NOTICE
セキュリティ設定	アクセスパスワード: 48 _____
プロビジョニング設定	プロビジョニング時の初期化: 49 <input type="checkbox"/> 設定
	50 登録 51 取消

IPアドレス設定

41 設定方法(つづき)

◎固定IP

固定IPアドレスを割り当てるときに使用します。

ご利用になるネットワーク環境に応じて設定してください。

※ネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器の

IPアドレスをデフォルトゲートウェイに入力します。

※必要に応じて、プライマリーDNSサーバー、セカンダリーDNSサーバーを設定してください。

IPアドレス設定	
設定方法:	固定IP
IPアドレス:	_____
サブネットマスク:	_____
デフォルトゲートウェイ:	_____
プライマリーDNSサーバー:	_____
セカンダリーDNSサーバー:	_____

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定

IPアドレス設定
設定方法: 41 他製品の設定

保守設定
保守サーバー: 42
保守サーバー以外からの再起動: 43 無効 有効
起動時のファームウェア自動更新: 44 有効(自動再起動有り)
ファームアップサーバー: 45
SYSLOGホストアドレス: 46
SYSLOG送信レベル: 47 DEBUG INFO NOTICE

セキュリティ設定
アクセスパスワード: 48

プロビジョニング設定
プロビジョニング時の初期化: 49 設定

50 登録 51 取消

保守設定

42 保守サーバー IP200PGの保守サーバーに指定する機器のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※本製品を保守サーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。

43 保守サーバー以外からの再起動 [保守サーバー]欄で指定した機器以外から、IP200PGを再起動させるかどうかを設定します。 (出荷時の設定: 無効)
※2021年10月現在、対応機種はVE-PG4、SR-7100VNシリーズです。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

44 起動時のファームウェア

自動更新

本製品からIP200PGのファームウェアを自動更新するための設定です。
(出荷時の設定：有効(自動再起動有り))

◎無効

本製品によるIP200PGのファームウェア自動更新を無効にします。

◎有効(自動再起動無し)

IP200PGの電源を入れたとき、本製品に内蔵しているファームウェアを確認し、更新する内容がある場合、IP200PGはファームウェアを取得します。

IP200PGの電源を入れなおすと、ファームウェアの更新を開始します。

◎有効(自動再起動有り)

IP200PGの電源を入れたとき、本製品に内蔵しているファームウェアを確認し、更新する内容がある場合、IP200PGはファームウェアの更新を開始します。

更新が完了すると、自動的にIP200PGが再起動します。

※本製品に内蔵しているIP200PGのファームウェアのバージョン情報は、「TOP」メニューで確認できます。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

電話機詳細設定

IPアドレス設定
設定方法: 41 他製品の設定

保守設定
保守サーバー: 42
保守サーバー以外からの再起動: 43 ● 無効 ○ 有効
起動時のファームウェア自動更新: 44 有効(自動再起動有り)
ファームアップサーバー: 45
SYSLOGホストアドレス: 46
SYSLOG送信レベル: 47 DEBUG INFO NOTICE

セキュリティ設定
アクセスパスワード: 48

プロビジョニング設定
プロビジョニング時の初期化: 49 設定

登録 取消

保守設定(つづき)

- 45 **ファームアップサーバー** …………… IP200PGのファームアップサーバーに指定する機器のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※本製品をファームアップサーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。
※システム内に複数のファームアップサーバーを設置しないでください。
- 46 **SYSLOGホストアドレス** …………… IP200PGのSYSLOGサーバーに指定する機器(ホスト)のIPアドレスを入力します。
※ホストは、SYSLOGサーバー機能に対応している必要があります。
- 47 **SYSLOG送信レベル** …………… [SYSLOGホストアドレス]欄に入力したホストへ送信するログ情報の各レベルを選択します。(出荷時の設定: DEBUG INFO NOTICE)
ログ出力するレベルのチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✓]を入れます。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG) > 電話機詳細設定

■ 電話機詳細設定

セキュリティ設定

- 48 アクセスパスワード …………… CS-IP200PG*から、書き込み、読み込み、ファームウェア更新をする場合の認証用パスワードを、半角16文字以内で設定します。
★CS-IP200PGは、IP200PGの無線LANや保守サーバーを設定できるソフトウェアです。弊社ホームページからダウンロードできます。

プロビジョニング設定

- 49 プロビジョニング時の初期化 …………… プロビジョニング時に、初期化する項目のチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✓]を入れます。
(出荷時の設定：□ 設定)

- 50 <登録> …………… [電話機詳細設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

- 51 <取消> …………… [電話機詳細設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 電話機詳細設定コピー

[電話機詳細設定]項目で登録したIP200PGの設定内容をほかのIP200PGにコピーできます。

※画面の値は、設定例です。

電話機詳細設定コピー

コピー元電話機: 31(自動)

コピー先電話機

① すべて 31(自動) 32(自動) 33(自動) 34(自動)

② ③

- ① **選択ボックス** ボックスにチェックマークを入れて、コピー先のIP200PGを選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※「内線個別」画面の[内線個別設定]項目で、機種を「自動」、「IP200PG」以外に設定した内線番号は表示されません。
- ② **〈コピー〉** クリックすると、[電話機詳細設定]項目に表示されている登録内容が、選択した内線番号のIP200PG(①)にコピーされます。
- ③ **〈取消〉** クリックすると、[選択ボックス](①)欄のチェックマークが解除されます。
※〈コピー〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 電話機設定

本製品に登録した内線子機の設定グループを変更します。

電話機設定	
設定グループの選択:	共通設定 <input type="button" value="設定グループを変更"/>

設定グループの選択…………… 本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「共通設定」、「設定グループ1」～「設定グループ30」から選択します。
〈設定グループを変更〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

◎ 共通設定

本製品に登録したIP200PGで使用する共通の設定
・ [電話機音設定]項目(P.4-258～P.4-260)

◎ 設定グループ1～設定グループ30(P.4-261)

[電話機のメンテナンス]項目で登録した設定グループごとの設定
・ [機種個別設定(IP200PG)]項目(通信圏外通知音など)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 話中音 [共通設定]

話中音を設定します。

話中音									
周波数1:	①	400							Hz
周波数2:		0							Hz
音量:	②	0							dB
繰り返し:	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング:	④	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
		500	500						

- ① 周波数1/周波数2 話中音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 話中音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング]④欄で作成した話中音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
◎無効：パターンの最後に到達すると、話中音を停止します。
◎有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、話中音を繰り返します。
◎連続：連続的に[周波数1]/[周波数2]①欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、話中音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：500、500)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、500ミリ秒間鳴り、500ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 規制音 [共通設定]

規制音を設定します。

規制音									
周波数1:	①	400							Hz
周波数2:		0							Hz
音量:	②	0							dB
繰り返し:	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング:	④	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
		500	500						

- ① 周波数1/周波数2 規制音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 規制音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング](④)欄で作成した規制音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴ら
すかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後に到達すると、規制音を停止します。
○有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、規制音を繰
り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2] (①)欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、規制音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：500、500)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、500ミリ秒間鳴り、500ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登
録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 呼出音 [共通設定]

呼出音(相手先を呼び出し中に使用する音)を設定します。

呼出音								
周波数1:	<input type="text" value="400"/>							Hz
周波数2:	<input type="text" value="440"/>							Hz
音量:	<input type="text" value="0"/>							dB
繰り返し:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング:	<input type="text" value="ON"/>	<input type="text" value="OFF"/>	<input type="text" value="ON"/>	<input type="text" value="OFF"/>	<input type="text" value="ON"/>	<input type="text" value="OFF"/>	<input type="text" value="ON"/>	<input type="text" value="OFF"/>
	<input type="text" value="1000"/>	<input type="text" value="2000"/>	<input type="text" value=""/>	<input type="text" value=""/>	<input type="text" value=""/>	<input type="text" value=""/>	<input type="text" value=""/>	<input type="text" value=""/>

- ① 周波数1/周波数2 呼出音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/440(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせせた音が鳴ります。
- ② 音量 呼出音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し [タイミング](④)欄で作成した呼出音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
○無効：パターンの最後に到達すると、呼出音を停止します。
○有効：パターンの最後に到達すると、パターンの最初に戻り、呼出音を繰り返します。
○連続：連続的に[周波数1]/[周波数2](①)欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング 最大8個の値を使用して、規制音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：1000、2000)
設定できる範囲は、「50～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、1000ミリ秒間鳴り、2000ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 機種共通設定 [設定グループ]

選択した内線子機の設定グループごとに、キー操作や機能の割り当てを設定します。

機種共通設定	
ピックアップグループ番号	① 01
コールピックアップ対象	② 内線のみ
グループピックアップ対象	③ 外線/内線
指定ピックアップ対象	④ 外線/内線
発信規制	⑤ 無効

- ① **ピックアップグループ番号** …… 設定グループへの着信を代理応答するときに使用するピックアップグループ番号を半角数字7桁以内で入力します。
(出荷時の設定：01(設定グループ1の場合))
※グループピックアップ特番(出荷時の設定：**)につづけて、この欄で設定した番号をダイヤルすると、指定した設定グループへの着信に代理応答できます。
- ② **コールピックアップ対象** …… ほかの内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：内線のみ)
- ③ **グループピックアップ対象** …… 同じ設定グループのほかの子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)
- ④ **指定ピックアップ対象** …… 指定の内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)
- ⑤ **発信規制** …… 設定グループごとに、外線への発信規制を設定します。(出荷時の設定：無効)
◎無効 : 発信を規制しません。
◎発信規制ルール1～16 : 「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
◎外線発信規制 : 外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 機種個別設定(IP200PG) [設定グループ]

機種個別設定(IP200PG)

レジストサーバー：① _____
通信圏外通知音：② 無効 有効
※共通項目の設定が本製品の設定の場合に有効となります。

- ① レジストサーバー …………… IP200PGのレジストサーバーに指定する機器のIPアドレスを入力します。
※本製品を使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。
- ② 通信圏外通知音 …………… IP200PGが通信圏外になったことをお知らせする通知音を設定します。
(出荷時の設定：無効)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 着信音 [設定グループ]

着信音を設定します。

着信音	
着信音色:	着信音1 <input type="button" value="▼"/>

着信音色..... 本製品に登録したIP200PGで使用する着信音を、「着信音1」～「着信音5」から選択します。
(出荷時の設定：着信音1)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 着信音パターン [設定グループ]

着信音パターンを設定します。

着信音パターン								
パターン1:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	1000	2000						
パターン2:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	800	400	800	2000				
パターン3:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	400	200	400	200	800	2000		
パターン4:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	300	200	300	200	300	1000		
パターン5:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	250	250	250	2250				
パターン6:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	250	250	250	250	250	250	250	2250
パターン7:	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	150	300	600	300	150	300	600	300

パターン1～パターン7 ……………

最大8個の値を使用して、着信音のパターン(ON/OFF)を設定します。

(出荷時の設定：パターン1 1000、2000

パターン2 800、400、800、2000

パターン3 400、200、400、200、800、2000

パターン4 300、200、300、200、300、1000

パターン5 250、250、250、2250)

パターン6 250、250、250、250、250、250、
250、2250

パターン7 150、300、600、300、150、300、
600、300)

設定できる範囲は、「50～5000」(ミリ秒)です。

たとえば、「1000(ON)、2000(OFF)」と指定した場合、1000ミリ秒間鳴り、2000ミリ秒間停止のパターンとなります。

※パターン最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

※IP200PGの着信音(パターン)は、パターンを割り当て電話機ごとの鳴り分け判別で使用します。(P.4-142、P.4-265)

4 設定画面について

「電話機(IP200PG)」画面

PBX設定 > 電話機(IP200PG)

■ 着信音パターン割り当て [設定グループ]

着信音パターン割り当てを設定します。

着信音パターン割り当て		
外線A:	パターン1	▼
外線B:	パターン2	▼
外線C:	パターン3	▼
内線A:	パターン5	▼
内線B:	パターン6	▼
内線C:	パターン7	▼
デフォルト内線:	パターン5	▼
		<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>

「着信」画面(P.4-142)で設定した鳴り分け判別を、「着信音なし」、「パターン1」～「パターン7」から選択します。
たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、IP200PGに着信したとき「パターン1」が鳴ります。
※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音が鳴ります。
※[鳴り分け判別]欄で内線(内線A～内線C)に設定している回線(IP回線)からの着信は、内線として扱われます。
※ほかの内線子機から内線で着信した場合、「デフォルト内線」に設定した着信音が鳴ります。

4 設定画面について

「電話帳」画面

PBX設定 > 電話帳

■ 設定グループ選択

IP電話機用の共通電話帳や設定グループごとに登録できる電話帳を編集するときに選択します。

設定グループの選択				
共通				
0件				
設定グループ1	設定グループ2	設定グループ3	設定グループ4	設定グループ5
0件	0件	0件	0件	0件
設定グループ6	設定グループ7	設定グループ8	設定グループ9	設定グループ10
0件	0件	0件	0件	0件
設定グループ11	設定グループ12	設定グループ13	設定グループ14	設定グループ15
0件	0件	0件	0件	0件
設定グループ16	設定グループ17	設定グループ18	設定グループ19	設定グループ20
0件	0件	0件	0件	0件
設定グループ21	設定グループ22	設定グループ23	設定グループ24	設定グループ25
0件	0件	0件	0件	0件
設定グループ26	設定グループ27	設定グループ28	設定グループ29	設定グループ30
0件	0件	0件	0件	0件

共通電話帳(最大300件)はすべての多機能電話機に登録されます。
設定グループ1~30(最大100件)は各内線子機の多機能電話設定グループに対応して登録されます。

電話帳の選択.....

編集するIP電話機用の電話帳を、〈共通〉、〈設定グループ1〉～〈設定グループ30〉から選択します。

クリックすると、選択した電話帳の登録内容を[電話帳登録一覧]項目で確認、または編集できます。(P.4-271)

※[電話帳の保存と書き込み]項目では、選択した電話帳ごとに、電話帳の保存やファイルを書き込みできます。

※登録した件数は、それぞれのボタンの下に表示されます。

※設定グループは、IP電話機を設定する画面の[電話機のメンテナンス]項目で登録できます。(P.4-164、P.4-186、P.4-189)

4 設定画面について

「電話帳」画面

PBX設定 > 電話帳

■ 電話帳の保存と書き込み

選択した電話帳ごとに、ファイルに保存したり、保存したファイルの本製品に書き込んだりします。

電話帳の保存と書き込み

保存したファイルを書き込む: ①

CSV形式のファイルが書き込みできます。
ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。

ファイルに保存する: ② phonebook.csv で保存されます

① 保存したファイルを書き込む …

[ファイルに保存する] (②) 欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」(拡張子: csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。

電話帳登録ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。

表示された画面で目的の電話帳登録ファイルを選択して、〈開く(O)〉をクリックします。

テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[電話帳登録一覧]項目にその内容を書き込みます。

書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、あとから書き込んだ設定ファイルの内容に上書きしますのでご注意ください。

※ユーザー用の設定画面で電話帳が書き込まれると、管理者用の「電話帳設定」画面の内容が上書きされます。

※下記ファイル以外のインポートは、保証対象外になります。

◎ [ファイルに保存する] (②) 欄の操作で保存した状態のファイル

◎ 4-268ページの書式で保存した状態のファイル

◎ ユーザー用の「電話帳の編集」画面で保存したファイル

② ファイルに保存する ……………

[電話帳登録一覧]項目に表示された内容を電話帳登録ファイルとして、パソコンに保存します。

〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、電話帳登録ファイル(拡張子: csv)として保存できます。

※ファイル名は、[設定グループの選択]項目(P.4-266)でクリックしたボタンに応じて変わります。

たとえば、設定グループ1をクリックしたときの電話帳登録ファイル名は、phonebook01.csvになります。

4 設定画面について

「電話帳」画面

PBX設定 > 電話帳

■ 電話帳の保存と書き込み

電話帳登録ファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.4-267)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「電話帳登録ファイル」(拡張子：csv)の書式

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	#	SR-7100VN	電話帳				設定保存ファイル			
2	#	Ver.	Copyright © 2015-2018				Icom Inc.			
3	#	File Ver.								
4	#登録番号	名前	電話番号	—	—	ヨミガナ	短縮番号	表示種別(0=電話番号、1=短縮番号)	回線種別(0=外線、1=内線)	電話帳グループ
5	1	ICOM1	tel:05012345678			アイム1	tel:201	0	0	1
6	2	ICOM2	tel:05012345679			アイム2	tel:202	0	0	1
7	3	営業所1	tel:0612345678			イチヨウヨ1	tel:	0	0	1

A列：登録番号(共通電話帳：1～900、グループ電話帳：1～100)、重複しない番号を入力

B列：名前(半角30(全角15)文字以内)

C列：電話番号(tel:半角数字22桁以内)、文字列認識用のため、tel:につづけて入力

D列：文字の入力はしないこと(入力すると、内容は無効になる)、列は削除しないこと

E列：文字の入力はしないこと(入力すると、内容は無効になる)、列は削除しないこと

F列：ヨミガナ(任意の半角30文字以内)

G列：短縮番号(tel:半角数字7桁以内)、文字列認識用のため、tel:につづけて入力

※短縮番号を使用しない場合は、空白にすること

H列：表示種別(電話番号：0、短縮番号：1)

I列：回線種別(外線：0、内線：1)

※設定を変更しないでください。

J列：電話帳グループ(1～10)

※設定を変更しないでください。

ご注意

◎A列、C列、G列には、コメント行(A列の#ではじまる行)を除き、重複しない番号を入力してください。

上記画面の例では、1行～4行がコメント行です。

◎一度、[ファイルに保存する]欄(P.4-267)の操作で、CSVファイルとして保存してから、そのCSVファイルを表計算ソフトウェアなどで編集してください。

◎CSVファイルに含まれる改行コードがエラーの原因となりますので、他機種からの電話帳を移行する場合は、テキストエディターなどで不要な改行コードを削除してください。

◎JIS第2水準、旧字体などの一部で、正しく表示されない文字があります。

◎KX-UTシリーズの電話機では、UTF-16非対応の文字(楨、𪛗など)が使用できません。

4 設定画面について

「電話帳」画面

PBX設定 > 電話帳

■ 電話帳への登録

よく利用する電話番号を電話帳に登録します。

※電話帳を利用した発信など電話機ごとの操作については、本書6-29ページ～6-33ページもあわせてご覧ください。

電話帳への登録

番号: ① 1

名前: ②

ヨミガナ: ③

電話番号: ④

短縮番号: ⑤

表示種別: ⑥ 電話番号

回線種別: ⑦ 外線

⑧ ⑨

- ① 番号 相手先電話番号に登録する番号を設定します。
◎共通電話帳の場合 : 「1」～「900」の番号を選択します。
◎グループ電話帳の場合 : 「1」～「100」の番号を選択します。
- ② 名前★ 相手の名前を、任意の半角30文字(全角15)以内で入力します。
- ③ ヨミガナ★ 相手のヨミガナを、任意の半角30文字以内で入力します。
※半角カタカナ、半角英数字が使用できます。
※全角カナは、半角カタカナに変換されます。
- ④ 電話番号★ 電話機からダイヤルする電話番号を、半角数字22桁以内で入力します。
※「電話番号ルーティング設定」画面で設定した宛先電話番号、プレフィクスを付加した電話番号でも登録できます。
- ⑤ 短縮番号 必要に応じて、短縮番号を、半角数字7桁以内で入力します。
外線(IP外線)へ発信する、またはPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)で発信する場合に使用できます。
※特番やプレフィクスと短縮番号を組み合わせるとダイヤルできません。
※KX-UT136N、KX-HDV230Nに割り当てられた<外線発信キー>と短縮番号を組み合わせるとダイヤルできません。
※短縮番号が使用できるのは、内線個別設定で割り当てた回線捕捉番号だけです。
※短縮番号は、KXシリーズ以外の電話機からも利用できます。
- 短縮ダイヤル機能について**
[短縮番号]欄に、緊急通報(110、118、119)、時報(117)や天気予報(177)など、「1」ではじまる3桁の番号を設定して、その番号をダイヤルすると、短縮番号発信が優先されるため、該当するサービスへ発信できないことがあります。
短縮ダイヤル機能は、特別な理由がない限り、「1」ではじまる3桁の番号を避けてご利用していただくことをおすすめします。

★空白(何も設定していない)の場合、電話帳に登録できません。

4 設定画面について

「電話帳」画面

PBX設定 > 電話帳

■ 電話帳への登録

電話帳への登録

番号: ① 1

名前: ②

ヨミカナ: ③

電話番号: ④

短縮番号: ⑤

表示種別: ⑥ 電話番号

回線種別: ⑦ 外線

⑧ 登録 取消 ⑨

⑥ 表示種別 発信者の名前を表示させるとき、発信した相手の「短縮番号」、または「電話番号」のどちらを名前表示の識別に使用するかを選択します。
(出荷時の設定：電話番号)

⑦ 回線種別 発信時に捕捉する回線の種類を、「外線」、「内線」から選択します。
(出荷時の設定：外線)
※「外線」をIP200Hの電話帳に登録している場合は、外線自動捕捉をしてから発信します。
「内線」に登録している場合は、自動捕捉をせず発信します。
なお、「内線」に登録している場合でも、デフォルト発信経路が割り当てられていたり、発信ルールで外線経路が割り当てられていれば、その経路が優先されます。
※回線種別を間違えて登録すると、発信できないことがありますのでご注意ください。
※KXシリーズの電話機では、使用できない機能です。

⑧ <登録> [電話帳への登録]項目で設定した内容を登録するボタンです。

⑨ <取消> [電話帳への登録]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「電話帳」画面

PBX設定 > 電話帳

■ 電話帳登録一覧

[電話帳への登録]項目(P.4-269)で登録した内容を表示します。

電話帳登録一覧							
短縮番号に緊急番号（110、118、119）等を設定するとその番号に発信できなくなりますのでご注意ください。 詳細は取扱説明書を参照してください。							
番号	名前	ヨミガナ	電話番号	短縮番号	表示種別	回線種別	
1	ICOM1	アイコム1	03-1234-5678	201	電話番号	外線	① 編集 ② 削除
2	ICOM2	アイコム2	03-1234-5679	202	電話番号	外線	編集 削除
3	営業所1	イトジョウ1	03-1234-5680		電話番号	外線	編集 削除
							③ 全削除

- ① 〈編集〉 クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を[電話帳への登録]項目で編集できます。
- ② 〈削除〉 ボタンの左欄に表示された登録内容を削除するとき、クリックします。
- ③ 〈全削除〉 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。

4 設定画面について

「拡張」画面

PBX拡張設定 > 拡張

■ SIP拡張設定

本製品に登録された端末で共通に使用する拡張設定です。

SIP 拡張設定

内線ドメイン: ① LAN IPアドレス 指定

SIP 183対応: ② 無効 有効

SIP レスポンス中継: ③ 無効 有効

内線レスポンス中継: ④ 無効 有効

呼出中転送方式: ⑤ 被転送番号を中継しない 被転送番号を中継する

SIP UR競合時の優先: ⑥ IP回線 Peer to Peer

電話番号での英字の使用: ⑦ 禁止 許可

- ① 内線ドメイン 簡易中継サーバーとその子機間が共通で使用するSIPサービスドメイン名を任意に設定できます。 (出荷時の設定: LAN IPアドレス)
入力は、半角英数字で63文字までです。
※ここで設定した値を子機側の[SIPサービスドメイン]欄に入力します。
- ② SIP 183対応 発信時、上位SIPサーバーから受信したSDP付き183 Session Progressの中継方法についての設定です。 (出荷時の設定: 無効)
◎**有効**: 電話機に音声情報を伴う呼出(SDP付き183)もそのまま伝えます。それによって、呼出中、通話中の状態遷移を区別して伝えられますが、一部の端末で、呼出中状態ではDTMF信号が送出できないことがあります。
◎**無効**: 相手への音声情報を伴う呼出(SDP付き183)を受信すると、子機に通話中に変換して伝え、上記の現象を回避できる場合があります。
※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。
- ③ SIP レスポンス中継 発信時、上位SIPサーバーから受信したエラーメッセージの中継方法についての設定です。 (出荷時の設定: 有効)
◎**有効**: 発信時、SIPサーバーからのエラーレスポンス(4xx~6xx)を受信すると、レスポンスコードをそのまま中継します。
◎**無効**: 発信時、SIPサーバーからのエラーレスポンス(4xx~6xx)を受信すると、486レスポンスに変換して中継します。
※この設定は、スライド発信をするために必要です。
※ほかのSIPサーバーを簡易中継サーバーの子機として、本製品に接続するような構成で、スライド発信をご利用の場合は、[SIP レスポンス中継]欄を「有効」に設定してください。

ご注意

IP電話ネットワーク内で、同じ内線ドメインは使用できません。

ほかのSIPサーバー(簡易中継サーバー)、VE-IG1やVE-AG1などのゲートウェイ装置を増設する場合、それぞれ異なる内線ドメインを設定してください。

[内線ドメイン]欄(①)を出荷時の設定(LAN IPアドレス)でお使いいただくと、内線ドメイン名の競合を回避できます。

本製品に設定した内線ドメインと、本製品の「電話回線設定」メニューの「IP回線」画面にあるSIPサービスドメインが一致するような構成はできません。

4 設定画面について

「拡張」画面

PBX拡張設定 > 拡張

■ SIP拡張設定

SIP 拡張設定

内線ドメイン: ① LAN IPアドレス 指定

SIP 183対応: ② 無効 有効

SIPレスポンス中継: ③ 無効 有効

内線レスポンス中継: ④ 無効 有効

呼出中転送方式: ⑤ 被転送番号を中継しない 被転送番号を中継する

SIP URI競合時の優先: ⑥ IP回線 Peer to Peer

電話番号での英字の使用: ⑦ 禁止 許可

- ④ 内線レスポンス中継 …………… 着信時、内線子機から受信したエラーメッセージの中継方法についての設定です。 (出荷時の設定：有効)
- ◎**有効**：着信時、内線子機からのエラーレスポンス(4xx～6xx)を受信すると、レスポンスコードをそのまま中継します。
- ◎**無効**：着信時、内線子機からのエラーレスポンス(4xx～6xx)を受信すると、486レスポンスに変換して中継します。
- ※「電話回線設定」メニュー→「IP回線画面」画面→[接続先の選択]欄 (P.4-86)で「ひかり電話(網直収)」、「ひかり電話(GW配下)」以外を設定したときに表示されます。
- ⑤ 呼出中転送方式 …………… 「被転送番号を中継する」に設定すると、転送先呼出中に受話器を置いて転送する(呼出中転送)とき、転送先に被転送の電話番号を表示します。 (出荷時の設定：被転送番号を中継する)
- 操作例**
- AからBにかかってきた電話を、BがCに転送するときに、Cの電話機にAの電話番号が表示されます。
- 「被転送番号を中継しない」に設定されている場合は、Cの電話機には、Bの電話番号が表示されます。
- ⑥ SIP URI競合時の優先 …………… 上位のSIPサーバー(簡易中継サーバー)からの着信で、IP回線とPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない)対1での通話)のSIP URIが競合したとき、どちらとみなして動作するかを設定します。 (出荷時の設定：IP回線)
- ⑦ 電話番号での英字の使用 …………… 電話番号に英字を使用する場合に設定します。 (出荷時の設定：禁止)

4 設定画面について

「拡張」画面

PBX拡張設定 > 拡張

■ VoIP設定

IP電話での音質について設定します。

※下記のように、TOS種別の設定ごとに[VoIP設定]項目の内容が変更になります。

TOS種別:使用しない	VoIP設定 ジッターバッファ: ① 40 [v] ミリ秒 TOS種別: ② <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv
TOS種別:TOS	ジッターバッファ: ① 40 [v] ミリ秒 TOS種別: ② <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv メディア(RTP): ③ 優先度 5 サービスタイプ 12 16進表示:B8 呼制御(SIP): ④ 優先度 5 サービスタイプ 12 16進表示:B8
TOS種別:Diffserv	ジッターバッファ: ① 40 [v] ミリ秒 TOS種別: ② <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv メディア(RTP): ③ DSCP 46 16進表示:B8 呼制御(SIP): ④ DSCP 46 16進表示:B8

① **ジッターバッファ** …………… 音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。
(出荷時の設定：40)

設定できる範囲は、「20」～「160」(ミリ秒です。

設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。

② **TOS種別** …………… 本製品のTOS機能について設定します。
(出荷時の設定：Diffserv)

◎使用しない

TOSを使用しないネットワークに該当します。

◎TOS

TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

RFC1349に準拠して、1ビット～3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。

残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎Diffserv

Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

1ビット～6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。

残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

4 設定画面について

「拡張」画面

PBX拡張設定 > 拡張

VoIP設定

TOS種別:使用しない

VoIP設定	
ジッターバッファ: ① 40	ミリ秒
TOS種別: ② <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv	

TOS種別:TOS

ジッターバッファ: ① 40	ミリ秒
TOS種別: ② <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv	
メディア(RTP): ③ 優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8
呼制御(SIP): ④ 優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8

TOS種別:Diffserv

ジッターバッファ: ① 40	ミリ秒
TOS種別: ② <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv	
メディア(RTP): ③ DSCP 46	16進表示: B8
呼制御(SIP): ④ DSCP 46	16進表示: B8

③ メディア(RTP)

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

※「IP回線」画面の「接続先の選択」欄を設定すると、回線仕様に合わせた値になりますので、変更された値のままご使用ください。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。

(出荷時の設定: 5

7

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。

(出荷時の設定: 0

12

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。

(出荷時の設定: 40

46

56

4 設定画面について

「拡張」画面

PBX拡張設定 > 拡張

■ VoIP設定

TOS種別: 使用しない

VoIP設定	
ジッターバッファ: ① 40	ミリ秒
TOS種別: ② <input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv	

TOS種別: TOS

VoIP設定	
ジッターバッファ: ① 40	ミリ秒
TOS種別: ② <input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv	
メディア(RTP): ③ 優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8
呼制御(SIP): ④ 優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8

TOS種別: Diffserv

VoIP設定	
ジッターバッファ: ① 40	ミリ秒
TOS種別: ② <input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv	
メディア(RTP): ③ DSCP 46	16進表示: B8
呼制御(SIP): ④ DSCP 46	16進表示: B8

④ 呼制御(SIP)

TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

※「IP回線」画面の「接続先の選択」欄を設定すると、回線仕様に合わせた値になりますので、変更された値のままご使用ください。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。

(出荷時の設定: 5

6

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。

(出荷時の設定: 0

12

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。

(出荷時の設定: 40

46

48

TOS設定時の16進数表記

TOS設定時、出荷時の呼制御(SIP)の優先度設定値を2進数で表示すると、優先度(101)、サービスタイプ(1100)、未使用フィールド(0)なので、「10111000」の16進数表記は、「B8」になります。

Diffserv設定時の16進数表記

Diffserv設定時、出荷時の呼制御(SIP)のDSCP設定値46を2進数で表示すると、(101110)、未使用フィールド(00)なので「10111000」の16進表記は「B8」になります。

4 設定画面について

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 電話番号ルーティング設定

相手先の電話番号、外線発信に使用する回線など、ルーティングの対象となる条件を設定します。

電話番号ルーティング設定				
番号 ①	プレフィクス ②	宛先電話番号 ③	発信回線指定 ④	⑤
1		090	03	追加

- ① 番号 各宛先電話番号に対して使用する回線を登録するために、「1」～「400」の番号を選択します。
最大400件まで登録できます。
- ② プレフィクス 半角数字7桁以内で、プレフィクスを入力します。
入力したプレフィクスを相手先の電話番号に付けて発信すると、プレフィクスを取り除いた電話番号で、指定した回線(④)に発信します。
※[外線発信特番設定]項目(P.4-131)でもプレフィクスを登録できます。
- ③ 宛先電話番号 対象となる番号を、半角数字30桁以内で入力します。
入力した電話番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、指定した回線(④)に発信します。
- ④ 発信回線指定 「IP回線」画面、または「回線グループ」画面で登録した回線を使用して発信します。
- ⑤ <追加> [電話番号ルーティング設定]項目で設定した内容を[電話番号ルーティング設定一覧]項目に登録するボタンです。

4 設定画面について

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 電話番号ルーティング設定一覧

[電話番号ルーティング設定]項目で登録した設定内容を表示します。

番号	プレフィクス	宛先電話番号	発信回線指定	①	②
1		090	03	編集	削除
2		050	03	編集	削除

③ 全削除

- ① <編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を[電話番号ルーティング設定]項目で編集できます。
- ② <削除> クリックすると、ボタンの左欄に表示された設定内容を削除します。
- ③ <全削除> クリックすると、表示された設定内容をすべて削除します。

4 設定画面について

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 番号計画例外ルール

外線発信時、番号変換ルール/発信規制ルールの対象にしない特番について設定します。

番号計画例外ルール

184/186自動判定: ① 無効 有効

例外番号: ② _____

③ 登録 ④ 取消

- ① 184/186自動判定 …………… 「184」や「186」につづけてダイヤルした宛先電話番号に対して、番号変換ルール/発信規制ルールを適用するかどうかを設定します。
(出荷時の設定：有効)
- ② 例外番号 …………… 番号変換ルール/発信規制ルールを適用しない特番(例外番号)を、最大5件まで登録できます。
外線発信時、ここに登録した特番以降の宛先電話番号が、番号変換ルール/発信規制ルールの対象になります。
- ③ <登録> …………… 「番号計画例外ルール」項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ④ <取消> …………… 「番号計画例外ルール」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 発信先番号ルール設定

番号変換ルールの対象/例外となる発信先番号とグループを設定します。

番号 ①	種別 ②	宛先電話番号 ③	削除桁数 ④	付加番号 ⑤	⑥
1	変換	98765432	削除しない	080	追加

- ① **番号** 登録された番号変換ルールを比較する順位を指定します。
設定できる範囲は、「1」～「100」です。
- ② **種別** 対象となる番号の変換条件を設定します。 (出荷時の設定：変換)
◎**変換**：番号変換ルールに一致した場合、番号を変換します。
◎**例外**：番号変換ルールに一致した場合、番号を変換しません。
- ③ **宛先電話番号** 対象となる番号を半角数字15桁以内で入力します。 (出荷時の設定：空白)
ここで指定した番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、番号変換ルールが適用されます。
- ④ **削除桁数** [宛先電話番号] (③) 欄で入力した番号を変換する場合に、その先頭から削除する番号の桁数を設定します。 (出荷時の設定：削除しない)
設定できる範囲は、「削除しない」、「1」～「15」です。
- ⑤ **付加番号** 先頭に付加する番号を半角数字15桁以内で入力します。
(出荷時の設定：空白)
- ⑥ **追加** [発信先番号変換ルール設定] 項目で設定した内容を [発信先番号変換ルール一覧] 項目に登録するボタンです。

変換ルール設定時の動作例について

下記は、上記画面で設定した変換ルールに対する動作例です。

◎例1

[宛先電話番号] (③) 欄: 98765432

[削除桁数] (④) 欄 : 削除しない

[付加番号] (⑤) 欄 : 080

この場合、「98765432」をダイヤルすると、「08098765432」に変換されて発信します。

◎例2

[宛先電話番号] (③) 欄: 00065432

[削除桁数] (④) 欄 : 3

[付加番号] (⑤) 欄 : 080987

この場合、「00065432」をダイヤルすると、「08098765432」に変換されて発信します。

番号変換ルールの対象となる番号について

内線子機からダイヤルした電話番号のうち、プレフィクスや特番以降の電話番号が番号変換ルールの対象になります。

4 設定画面について

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 発信先番号ルール一覧

[発信先番号変換ルール設定]項目で登録した内容を表示します。

番号	種別	宛先電話番号	削除桁数	付加番号	①	②
1	変換	080	削除しない	1234	編集	削除
2	変換	090	削除しない	1234	編集	削除
3	例外	0800			編集	削除
4	変換	5678	4	1234	編集	削除
					③	全削除

- ① <編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を、[発信先番号変換ルール設定]項目で編集できます。
- ② <削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ③ <全削除> 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。

設定例について

上記画面の登録例では、発信時、下記のルールにしたがって、発信者番号を変換して発信します。

◎「080」ではじまる番号に対して「1234」を付加し、「0800」ではじまる番号だけをそのままにするルール

「08012345678」をダイヤルしたときは、「123408012345678」に変換されて発信されます。

「08001234567」をダイヤルしたときは、番号3(上記画面)の行に設定された「例外」に一致するため、変換されずに「08001234567」をそのまま発信します。

◎「090」ではじまる番号に対して「1234」を付加するルール

「09012345678」をダイヤルしたときは、「123409012345678」に変換されて発信されます。

◎「5678」ではじまる番号に対して「5678」の4桁を削除して、「1234」を付加するルール

「5678123456」をダイヤルしたときは、「1234123456」に変換されて発信されます。

◎「0667935301」をダイヤルしたときは、番号1～番号4(上記画面)のどの行にも一致しないため、変換されずに「0667935301」をそのまま発信します。

番号表示変換ルール適用時について

◎内線子機から外線へ発信するときだけ、番号変換ルールが適用されます。

ルールの適用については、登録した回線(電話番号)ごとに「外線サービスグループ」画面で設定できます。

◎変換種別は、例外設定が優先されます。

◎番号変換ルールを複数設定しているときは、番号の小さい順に比較を開始します。

条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のルールは比較しません。

※削除により番号を付加する前の有効桁数が0以下になる場合、番号変換後の桁数が32桁以上になる場合は番号変換ルールが適用されません。

4 設定画面について

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 発信規制ルール設定

発信規制ルールのグループと対象/例外となる宛先電話番号を設定します。

発信規制ルール設定

発信規制ルール番号: ① 共通

発信規制リスト: ② 宛先電話番号

0			

発信許可リスト: ③ 宛先電話番号

01			

- ① 発信規制ルール番号 …………… 対象となる発信規制ルールのグループを選択します。(出荷時の設定: 共通)
選択できる範囲は、「共通」、または「1」～「16」です。
発信規制ルールの適用については、内線子機の設定グループごとに「電話機設定」画面で設定できます。
※「共通」に設定した内容は、すべてのグループ(1～16)に適用されます。
- 〈追加〉
[発信規制ルール設定]項目で設定した内容を、[発信規制ルール一覧]項目に登録するボタンです。
- ② 発信規制リスト …………… 発信規制ルールに一致した場合、外線への発信を規制する番号を、半角数字15桁以内で入力します。(出荷時の設定: 空白)
ここで指定した番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、発信規制ルールが適用されます。
[発信規制ルール番号]①欄で選択したルール番号ごとに、最大20件まで登録できます。
- ③ 発信許可リスト …………… 発信規制ルールに一致した場合、外線への発信を許可する番号を、半角数字15桁以内で入力します。(出荷時の設定: 空白)
ここで指定した番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、発信規制ルールが適用されます。
[発信規制ルール番号]①欄で選択したルール番号ごとに、最大20件まで登録できます。

4 設定画面について

「番号計画」画面

PBX拡張設定 > 番号計画

■ 発信規制ルール一覧

[発信規制ルール設定]項目で登録した内容を表示します。

発信規制ルール番号	宛先電話番号			
	規制リスト	許可リスト	①	②
共通	0	01	編集	削除
1	0990		編集	削除
2	0880		編集	削除
				③ 全削除

- ①〈編集〉 クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を、[発信規制ルール設定]項目で編集できます。
- ②〈削除〉 ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ③〈全削除〉 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。

発信規制ルールの順番について

「電話機」画面や「外線サービスグループ」画面で設定した発信規制は、内線子機(設定グループ)、選択した回線(電話番号)の順に適用され、外線発信を規制します。

※海外への発信を許可しない、または特定の拠点への発信だけを許可するなど、外線発信を規制できます。

発信規制ルールの対象となる番号について

◎「電話機設定」画面(設定グループ)の[機種共通設定]項目で発信規制ルールを設定した場合

内線子機からダイヤルした電話番号のうち、プレフィクスや特番以降の宛先電話番号が発信規制ルールの対象になります。

◎「外線サービスグループ」画面で発信規制グループを設定した場合

選択した回線(電話番号)から発信するときの電話番号★が発信規制ルールの対象になります。

★内線子機からダイヤルした電話番号は、「番号計画」画面の番号変換ルールにしたがって、変更されます。

4 設定画面について

「外線サービスグループ」画面

PBX拡張設定 > 外線サービスグループ

■ 外線サービスグループ設定

本製品に登録した回線(電話番号)について、グループを設定します。

※ユーザー用の「昼夜切替設定」画面では、下記の「外線サービスグループ設定」項目で設定した外線サービスグループごとに、「昼間に切替」、「夜間に切替」を選択できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

外線電話番号	回線	外線サービスグループ ①	発信規制 ②	番号変換 ③
03	IP回線	外線サービスグループ1	無効	無効
03	IP回線	外線サービスグループ1	無効	無効
03	IP回線	外線サービスグループ1	無効	無効

④ 登録 ⑤ 取消

- ① **外線サービスグループ** …………… 設定できるグループは、「外線サービスグループ1」～「外線サービスグループ12」までです。
(出荷時の設定：外線サービスグループ1)
※「営業時間外設定機能」(P.4-124)が有効のときは、「外線サービスグループ1」に固定されます。
- ② **発信規制** …………… 登録した回線(電話番号)ごとに、外線への発信規制を設定します。
(出荷時の設定：無効)
- 無効 ……………：発信を規制しません。
 - 発信規制ルール1～16** ……………：「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
 - 外線発信規制** ……………：外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。
- ③ **番号変換** …………… 登録した回線(電話番号)ごとに、外線発信時の番号変換ルールを設定します。
(出荷時の設定：無効)
- 「有効」に設定すると、「番号計画」画面で設定した番号変換ルールにしたがって変換された番号で外線へ発信します。
- ④ **〈登録〉** …………… [外線サービスグループ設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑤ **〈取消〉** …………… [外線サービスグループ設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「昼夜切替」画面

PBX拡張設定 > 昼夜切替

■ 昼夜切替曜日設定

設定した曜日と時間に仕掛けて、すべての外線サービスグループの昼夜(昼間から夜間、または夜間から昼間)切り替えを一括して、自動で切り替えるための設定です。

※最大10件まで設定できます。

※ユーザー用の「昼夜切替設定」画面では、外線サービスグループごとに昼夜切り替えができます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

昼夜切替	切替時刻	有効曜日						
		日	月	火	水	木	金	土
夜間に切替 <input type="checkbox"/>	18 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
昼間に切替 <input type="checkbox"/>	08 : 00	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 <input type="checkbox"/>	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 <input type="checkbox"/>	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 <input type="checkbox"/>	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 <input type="checkbox"/>	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 <input type="checkbox"/>	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 <input type="checkbox"/>	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 <input type="checkbox"/>	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 <input type="checkbox"/>	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

切替時刻・有効曜日……………

[昼夜切替]欄で、「昼間に切替」、または「夜間に切替」を選択し、切り替え開始時間を24時間制で入力します。

指定する曜日のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。

設定後は、[昼夜切替曜日設定]項目の〈登録〉をクリックします。

※本製品の自動時計設定機能(P.4-298)と併せてご使用になることをおすすめします。

※[昼夜切替日付設定]項目(P.4-286)の設定と重複する場合は、[昼夜切替日付設定]項目の設定が優先されます。

※昼間から夜間に着信動作が切り替わったあとに、本製品が再起動されたときは、次回設定した曜日と時間になるまで、昼間の着信となります。

「営業時間外設定機能」が有効のときは

ユーザー用の「営業時間設定」画面で登録した内容が、自動的にこの画面に反映されます。

この画面では、設定を変更できません。

4 設定画面について

「昼夜切替」画面

PBX拡張設定 > 昼夜切替

■ 昼夜切替日付設定

設定した日時と時間にしたがって、すべての外線サービスグループの昼夜(昼間から夜間、または夜間から昼間)切り替えを一括して、自動で切り替えるための設定です。

※最大30件まで設定できます。

※「営業時間外設定機能」が有効のときは、この画面は設定できません。

昼夜切替	切替日時
夜間に切替 <input type="button" value="v"/>	10 月 7 日 18 : 00
昼間に切替 <input type="button" value="v"/>	10 月 6 日 08 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00
無効 <input type="button" value="v"/>	月 日 00 : 00

切替日時.....

[昼夜切替]欄で、「昼間に切替」、または「夜間に切替」を選択し、切り替え開始の日時を入力します。

開始時間を24時間制で入力します。

設定後は、[昼夜切替日付設定]項目の〈登録〉をクリックします。

※本製品の自動時計設定機能と併せてご使用になることをおすすめします。

※[昼夜切替曜日設定]項目(P.4-285)の設定と重複する場合は、[昼夜切替日付設定]項目の設定が優先されます。

※昼間から夜間に着信動作が切り替わったあとに、本製品が再起動されたときは、次回設定した日時と時間になるまで、昼間の着信となります。

4 設定画面について

「夜間転送先」画面

PBX拡張設定 > 夜間転送先

■ 夜間転送先

昼夜切り替え動作において、夜間に切り替わったときの転送先を、回線(電話番号)ごとに設定します。

※「営業時間外設定機能」が有効のときは、この画面は設定できません。

また、ユーザー用の「営業時間外の動作設定」で設定した内容が自動で反映されます。

夜間転送先			
外線サービスグループ1			
外線電話番号	回線	夜間転送先 ①	着信内線番号 ②
03	IP回線	転送しない	なし
03	IP回線	転送しない	なし
03	IP回線	転送しない	なし

③ 登録 ④ 取消

- ① **夜間転送先** 昼夜切り替え動作で夜間に切り替わったときの着信動作を設定します。
(出荷時の設定：転送しない)
- ◎ **転送しない** : 夜間に切り替わっても「PBX設定」メニューの「着信」画面で設定した着信内線番号に着信します。
 - ◎ **外線** : ユーザー用の「外線着信転送設定」画面で設定した回線(電話番号)ごとの転送先番号へ転送します。
 - ◎ **内線** : [着信内線番号](②)欄に設定した内線番号、または内線代表番号の子機に着信します。
 - ◎ **留守番電話** : ユーザー用の「留守電ボックス設定」画面で設定した回線(電話番号)ごとの留守電ボックスで応答します。
※留守電ボックスが設定されていないときは、「転送しない」を選択したときと同じ着信動作になります。
- ② **着信内線番号** 夜間に切り替わったときに着信させる内線子機の内線番号(ダイヤルイン)を設定します。
(出荷時の設定：なし)
着信内線番号には、内線番号、または内線代表番号を設定できます。
- ③ **〈登録〉** 「夜間転送先」項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ④ **〈取消〉** 「夜間転送先」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

着信動作の優先順位について

管理者用の「夜間転送先設定」画面やユーザー用の設定画面*で重複した着信動作を設定したときは、下記の優先順位になります。

1. 「夜間転送先設定」画面
2. 「外線着信転送設定」画面*
3. 「留守電ボックス設定」画面*
4. 「内線着信転送設定」画面*

★設定について詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。

4 設定画面について

「通話数制限」画面

PBX拡張設定 > 通話数制限

■ 通話数制限設定(システム全体)

本製品に登録したすべての回線(電話番号)について、通話数の制限を設定します。

通話数制限設定(システム全体)	
外線通話本数制限: ①	50 <input type="button" value="▼"/>
優先回線用の通話確保数: ②	0 <input type="button" value="▼"/>
同時鳴動数制限: ③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

- ① 外線通話本数制限 本製品に登録した回線で、発着信できる総通話数を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「50」です。 (出荷時の設定：50)
※本製品に登録した回線の総通話数が、[外線通話本数制限]欄で設定した通話数になると、新たに発着信があったとき話中になります。
- ② 優先回線用の通話確保数 優先したい回線に確保する総通話数を設定します。
設定できる範囲は、「0」～「50」です。 (出荷時の設定：0)
※[外線通話本数制限] (①) 欄で設定した以上の通話数を設定できませんが、本製品で発着信できる総通話数を超える通話はできません。
※[外線通話本数制限] (①) 欄と同じ、またそれ以上の通話数を設定した場合は、通常回線★を使用できません。
※通常回線★での通話総数は、外線通話本数制限から優先回線用の通話確保数を除いた値となります。
★本書では、優先回線の割り当てをしない回線を「通常回線」と表記します。
- ③ 同時鳴動数制限 外線着信で一斉鳴動する電話機を多数設定し、さらに着信が集中した場合、一時的に着信を制限する機能です。 (出荷時の設定：有効)
※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。

4 設定画面について

「通話数制限」画面

PBX拡張設定 > 通話数制限

■ 通話数制限設定

本製品に登録した回線(電話番号)について、通話数の制限や優先回線の割り当てを設定します。

外線電話番号 ①	回線 ②	通話数制限 ③	優先回線割り当て ④
03	IP回線	制限なし	しない
03	IP回線	制限なし	しない
03	IP回線	制限なし	しない

⑤ 登録 ⑥ 取消

- ① 外線電話番号 「電話回線設定」メニューで登録した回線の電話番号を表示します。
※この欄では電話番号の変更はできません。
- ② 回線 「電話回線設定」メニューで登録した回線の種別を表示します。
- ③ 通話数制限 電話番号ごとに、発着信できる通話数を制限します。
設定できる範囲は、「制限なし」、「1」～「50」です。(出荷時の設定：制限なし)
※本製品に登録したKX-UT136N、KX-HDV230Nの電話機では、回線の使用状況をフレキシブルボタンの点灯で確認できます。
- ④ 優先回線割り当て 本製品に登録した電話番号ごとに、優先回線の割り当てを設定します。
(出荷時の設定：しない)
◎「する」に設定した回線は優先回線として機能します。
優先回線の通話数は[外線通話本数制限](P.4-288)、または[通話数制限] (③)です。
◎「しない」に設定した回線は、通常回線★として機能します。
通常回線の通話数は[外線通話本数制限]－[優先回線用の通話確保数] (P.4-288)、または[通話数制限] (③)です。
※優先回線数が外線通話本数以上の場合、通常回線★は使用できません。
★本書では、優先回線の割り当てをしない回線を「通常回線」と表記します。
- ⑤ <登録> 「通話数制限設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑥ <取消> 「通話数制限設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「ゲートウェイ接続」画面

PBX拡張設定 > ゲートウェイ接続

■ ゲートウェイ接続設定

本製品のゲートウェイ接続について設定します。

※特定のシステム環境が必要となりますので、特別な理由がない限り出荷時のままでご使用ください。

ゲートウェイ接続設定	
内線番号: ①	501(受付) <input type="button" value="▼"/>
ゲートウェイ接続: ②	無効 <input type="button" value="▼"/>
内線番号判定: ③	有効 <input type="button" value="▼"/>
DisplayName発信者番号を優先: ④	しない <input type="button" value="▼"/>
ゲートウェイ発信時ドメインを使用: ⑤	しない <input type="button" value="▼"/>
ゲートウェイ発信先アドレス: ⑥	<input type="text"/>
ゲートウェイ発信先ドメイン: ⑦	<input type="text"/>
	⑧ <input type="button" value="登録"/> ⑨ <input type="button" value="取消"/>

- ① **内線番号** ゲートウェイ接続を使用する内線子機の内線番号を選択します。
※この欄では「PBX設定」メニューで登録した内線番号を変更できません。
- ② **ゲートウェイ接続** 本製品のゲートウェイ接続について設定します。 (出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、内線子機が本製品にレジストされていなくても通信できる特殊な動作となります。
- ③ **内線番号判定** ゲートウェイ接続時の内線番号判定機能について設定します。
(出荷時の設定：有効)
「無効」に設定すると、内線番号ではなくドメインの一致により、どの端末からの発信か判定します。
この機能により、多台数のゲートウェイ接続端末から内線機能を使用できるようになります。
- ④ **DisplayName発信者番号を優先** ゲートウェイ接続を使用した着信時に、内線番号を判定する方法を設定します。
(出荷時の設定：しない)
「する」に設定すると、SIP URIの「DisplayName」エリアと内線番号で判定します。
「ユーザパート」エリアと内線番号で判定するときは、「しない」に設定します。
※この設定に関わらず、[内線番号判定](③)欄が優先されます。
- ⑤ **ゲートウェイ発信時ドメインを使用** ゲートウェイ接続を使用した発信時に、指定されたドメインを使用するか設定します。
(出荷時の設定：しない)
本製品のIPアドレスを使用するときは、「しない」に設定します。

4 設定画面について

「ゲートウェイ接続」画面

PBX拡張設定 > ゲートウェイ接続

■ ゲートウェイ接続設定

ゲートウェイ接続設定

内線番号:	① 501(受付)	▼
ゲートウェイ接続:	② 無効	▼
内線番号判定:	③ 有効	▼
DisplayName発信者番号を優先:	④ しない	▼
ゲートウェイ発信時ドメインを使用:	⑤ しない	▼
ゲートウェイ発信先アドレス:	⑥	
ゲートウェイ発信先ドメイン:	⑦	

⑧ 登録 ⑨ 取消

- ⑥ **ゲートウェイ発信先アドレス** … ゲートウェイ接続を使用した発信時に、接続する機器について設定します。指定されたIPアドレスを入力します。
- ⑦ **ゲートウェイ発信先ドメイン** … ゲートウェイ接続を使用した着信時の端末判定に、ドメインを使用する場合に設定します。指定されたドメイン(または該当する機器のIPアドレス)を半角英数字63文字以内で入力します。
- ⑧ **〈登録〉** …………… [ゲートウェイ接続設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑨ **〈取消〉** …………… [ゲートウェイ接続設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

PBX拡張設定 > ゲートウェイ接続

■ ゲートウェイ接続設定一覧

[ゲートウェイ接続設定]項目で登録した内容を表示します。

番号	名前	内線番号	ゲートウェイ接続	ゲートウェイ発信先アドレス	ゲートウェイ発信先ドメイン
1	受付	501	有効		
2	営業1	201	有効		
3	営業2	202	無効		
4	営業3	203	無効		
5	購買1	301	無効		
6	購買2	302	無効		

※登録した内容を変更するときは、[ゲートウェイ接続設定]項目で該当する内線番号を選択します。

4 設定画面について

「番号表示変換」画面

PBX拡張設定 > 番号表示変換

■ 発信元回線設定

着信時に、発信元番号(発番号)表示を変換する機能について設定します。

回線	電話番号	番号表示変換 ①
IP回線	03-■■■■■■■■■■	有効 <input type="checkbox"/>
IP回線	03-■■■■■■■■■■	無効 <input type="checkbox"/>
IP回線	03-■■■■■■■■■■	無効 <input type="checkbox"/>
Peer to Peer	SR7100VN	無効 <input type="checkbox"/>
内線	-	無効 <input type="checkbox"/>

② ③

- ① **番号表示変換** 着信時に、発信元番号(発番号)を変換して表示するかどうか、登録した回線ごとに設定します。(出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、[番号表示変換ルール設定]項目で設定したルールにしたがって番号を表示します。
※「内線」は同じSIPサーバー(本製品)に登録された内線子機からの着信が該当します。
- ② **〈登録〉** 「発信元回線設定」項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ③ **〈取消〉** 「発信元回線設定」項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「番号表示変換」画面

PBX拡張設定 > 番号表示変換

■ 番号表示変換ルール設定

番号表示変換ルールの対象/例外となる発信元番号(発番号)を設定します。

番号 ①	種別 ②	電話番号 ③	削除桁数 ④	付加番号 ⑤	
1	変換	98765432	削除しない	080	追加 ⑥

- ① **番号** 登録された番号表示変換ルールを比較する順位を指定します。
設定できる範囲は、「1」～「100」です。
- ② **種別** 対象となる番号の変換条件を設定します。 (出荷時の設定：変換)
◎**変換**：番号表示変換ルールに一致した場合、表示番号を変換します。
◎**例外**：番号表示変換ルールに一致した場合、表示番号を変換しません。
- ③ **電話番号** 対象となる番号を半角数字15桁以内で入力します。 (出荷時の設定：空白)
ここで指定した番号が、着信した番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、番号表示変換ルールが適用されます。
- ④ **削除桁数** [電話番号](③)欄で入力した番号を変換する場合に、その先頭から削除する番号の桁数を設定します。 (出荷時の設定：削除しない)
設定できる範囲は、「削除しない」、「1」～「15」です。
- ⑤ **付加番号** 先頭に付加する番号を半角数字15桁以内で入力します。
(出荷時の設定：空白)
- ⑥ **追加** [番号表示変換ルール設定]項目で設定した内容を、[番号表示変換ルール一覧]項目に登録するボタンです。

変換ルール設定時の動作例について

下記は、上記画面で設定した変換ルールに対する動作例です。

◎ 例1

[電話番号](③)欄: 98765432

[削除桁数](④)欄: 削除しない

[付加番号](⑤)欄: 080

この場合、「98765432」から着信すると、「08098765432」に変換されて表示されます。

◎ 例2

[電話番号](③)欄: 00065432

[削除桁数](④)欄: 3

[付加番号](⑤)欄: 080987

この場合、「00065432」から着信すると、「08098765432」に変換されて表示されます。

4 設定画面について

「番号表示変換」画面

PBX拡張設定 > 番号表示変換

■ 番号表示変換ルール一覧

[番号表示変換ルール設定]項目で登録した内容を表示します。

番号	種別	電話番号	削除桁数	付加番号	①	②
1	変換	080	削除しない	1234	編集	削除
2	変換	090	削除しない	1234	編集	削除
3	例外	0800			編集	削除
4	変換	5678	4	1234	編集	削除

③ 全削除

①〈編集〉 クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を、[番号表示変換ルール設定]項目で編集できます。

②〈削除〉 ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

③〈全削除〉 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。

設定例について

上記画面の登録例では、着信時、下記のルールにしたがって、発信者番号を変換して表示します。

◎「080」ではじまる番号に対して「1234」を付加し、「0800」ではじまる番号だけをそのままにするルール

「08012345678」から着信したときは、「123408012345678」に変換されて表示されます。

「08001234567」から着信したときは、番号3(上記画面)の行に設定された「例外」に一致するため、変換されずに「08001234567」をそのまま表示します。

◎「090」ではじまる番号に対して「1234」を付加するルール

「09012345678」から着信したときは、「123409012345678」に変換されて表示されます。

◎「5678」ではじまる番号に対して「5678」の4桁を削除して、「1234」を付加するルール

「5678123456」から着信したときは、「1234123456」に変換されて表示されます。

◎「0667935301」から着信したときは、番号1～番号4(上記画面)のどの行にも一致しないため、変換されずに「0667935301」をそのまま表示します。

番号表示変換ルール適用時について

◎変換種別は、例外設定が優先されます。

◎番号表示変換ルールを複数設定しているときは、番号の小さい順に比較を開始します。

条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のルールは比較しません。

※削除により番号を付加する前の有効桁数が0以下になる場合、番号表示変換後の桁数が32桁以上になる場合は番号表示変換ルールが適用されません。

4 設定画面について

「管理者」画面

管理 > 管理者

■ 管理者パスワードの変更

本製品の設定画面にアクセスするためのパスワードを変更します。

管理者パスワードの変更	
管理者ID:	① admin
現在のパスワード:	② _____
新しいパスワード:	③ _____
新しいパスワード再入力:	④ _____

- ① **管理者ID** 本製品の設定画面へのアクセスを許可する管理者IDを表示します。
※本製品の設定画面にアクセスすると、ユーザー名として入力を求められますので、本製品の管理者ID(admin)を入力します。
※本製品の[管理者ID]は、変更できません。
- ② **現在のパスワード** 新しいパスワードに変更するとき、現在のパスワードを大文字/小文字の区別
に注意して入力します。 (出荷時の設定: admin)
※入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ③ **新しいパスワード** 新しいパスワードを入力します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号(半角31文字以内)で
入力します。
※新しいパスワードを登録後は、設定内容がマスクされ、すぐにパスワードの
入力を求める画面を表示しますので、そこに新しいパスワードを入力しま
す。
- ④ **新しいパスワード再入力** 確認のために、新しいパスワードを再入力します。

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものに変更されることをおすすめします。

ご注意

管理者パスワードを忘れた場合、設定画面にアクセスするには、工場出荷時(初期値)の状態に戻す必要があります。

※初期化するときは、5-4ページにしたがって、本製品の〈MODE〉ボタンを操作してください。

4 設定画面について

「管理者」画面

管理 > 管理者

■ ユーザー画面 管理設定

本製品の「ユーザー設定」画面(ユーザー用)へのアクセス制限を設定します。

※この項目を設定することで、管理者以外が「ユーザー設定」画面の共通設定を変更できないようにします。

ユーザー画面 管理設定

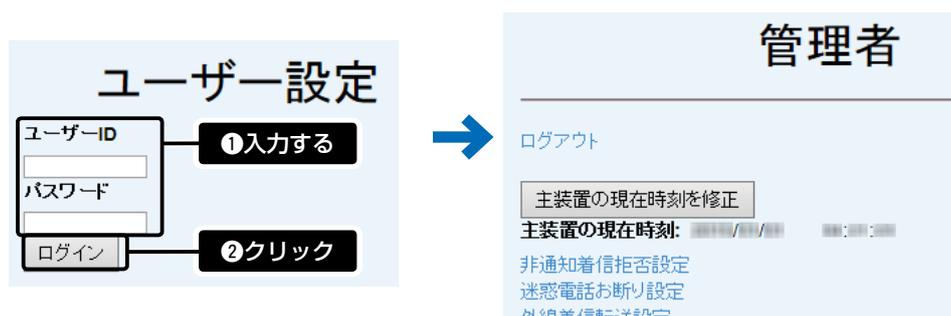
共通設定の認証: ① 無効 有効

管理者ID(ユーザー画面): ② _____

パスワード(ユーザー画面): ③ _____

④ 登録 取消 ⑤

- ① 共通設定の認証 本製品の「ユーザー設定」画面へのアクセス制限を設定します。
(出荷時の設定：無効)
※「有効」に設定しても、不在転送などの設定画面には、内線子機ごとのユーザーIDとパスワードでログインできます。
- ② 管理者ID(ユーザー画面) 本製品の「ユーザー設定」画面へのアクセスを制限するために、管理者としての名前(ユーザーID)を設定します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。(入力例：ICOM)
※[管理者ID]を設定すると、次回のアクセスからユーザーIDの入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。(下記参照)
- ③ パスワード(ユーザー画面) [管理者ID]に対するパスワードを設定します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。
パスワードを設定すると、次回のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[パスワード]を入力します。(下記参照)
- ④ <登録> [ユーザー画面 管理設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑤ <取消> [ユーザー画面 管理設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。



管理者IDでログインしたときの「ユーザー設定」画面

4 設定画面について

「時計」画面

管理 > 時計

■ 時刻設定

本製品の内部時計を手動で設定します。

時計	
本体の現在時刻: ① 2016年 11月 01日 11時 39分 (Asia/Tokyo)	③
設定する時刻: ② 2016 年 12 月 1 日 11 時 39 分	設定

- ① **本体の現在時刻** 本製品に設定されている時刻を表示します。
※自動時計設定時、インターネット上に存在するNTPサーバーに日時の間い合わせをしているときは、「NTPサーバーへアクセスしています...」を表示します。
- ② **設定する時刻** 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻を表示します。
※お使いのWWWブラウザで表示画面を更新すると、パソコンの時計設定を取得して表示します。
- ③ **〈設定〉** [設定する時刻] (②) 欄に表示された時刻を本製品に手動で設定するボタンです。
※時刻を手動で設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスするか、お使いのWWWブラウザで表示画面を更新してから、〈設定〉をクリックしてください。

4 設定画面について

「時計」画面

管理 > 時計

■ 自動時計設定

本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバーの設定です。

自動時計設定

自動時計設定：① 無効 有効

NTPサーバー1：② 210.173.160.27

NTPサーバー2：③ 210.173.160.57

アクセス時間間隔：④ 1 日

前回アクセス日時：⑤ -

次回アクセス日時：⑥ 2016-11-02 11:39

⑦ 登録 ⑧ 取消

- ① **自動時計設定** 本製品の自動時計設定機能を設定します。 (出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、インターネット上に存在するNTPサーバーに日時の間
問い合わせをして、内部時計を自動設定します。
- ② **NTPサーバー1** アクセスするNTPサーバーのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定：210.173.160.27)
応答がないときは、[NTPサーバー2] (③) 欄で設定したNTPサーバーにアク
セスします。
※初期に参照しているNTPサーバーアドレスは、インターネットマルチ
フィード株式会社 <http://www.jst.mfeed.ad.jp/> のものです。
- ③ **NTPサーバー2** [NTPサーバー1]の次にアクセスさせるNTPサーバーがあるときは、そのIP
アドレスを入力します。 (出荷時の設定：210.173.160.57)
- ④ **アクセス時間間隔** NTPサーバーにアクセスする間隔を設定します。 (出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「1～99」(日)です。
※設定した日数でアクセスできなかったときは、次の間隔までアクセスしま
せん。
- ⑤ **前回アクセス日時** NTPサーバーにアクセスした日時を表示します。

自動時計設定機能について

自動時計設定機能で「有効」を選択して<登録>を押した直後、NTPサーバーに日時の間
問い合わせをして、内部時計を自動設定
します。

また、自動時計設定機能を「有効」に設定すると、本体起動時にNTPサーバーに日時の間
問い合わせをします。

それ以降は、設定されたアクセス時間間隔で、内部時計を自動設定します。

ご注意

自動時計設定機能は、NTPサーバーへの問い合わせ先(経路)を設定する必要があります。

経路を設定しないときは、問い合わせできませんので、自動時計設定機能をお使いいただけません。

「ネットワーク設定」メニュー→「IPアドレス」画面→「IPアドレス」項目にある[デフォルトゲートウェイ]欄、または「スタ
ティックルーティング」画面の[スタティックルーティング設定]項目で、ルーティングテーブルを設定してください。

4 設定画面について

「時計」画面

管理 > 時計

■ 自動時計設定

自動時計設定

自動時計設定：① 無効 有効

NTPサーバー1：② 210.173.160.27

NTPサーバー2：③ 210.173.160.57

アクセス時間間隔：④ 1 日

前回アクセス日時：⑤ -

次回アクセス日時：⑥ 2016-11-02 11:39

⑦ 登録 ⑧ 取消

- ⑥ 次回アクセス日時 …………… NTPサーバーにアクセスする予定日時を、[前回アクセス日時] (⑤) 欄と[アクセス時間間隔] (④) 欄で設定された日数より算出して表示します。
- ⑦ <登録> …………… [自動時計設定] 項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑧ <取消> …………… [自動時計設定] 項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「時計」画面

管理 > 時計

■ SNTPサーバー設定

本製品を弊社製RoIP機器のNTPサーバーとして使用する時の設定です。

SNTPサーバー設定

SNTPサーバー機能: ① ○ 無効 ● 有効

外部NTPサーバーへの経路が確保できない弊社VoIP機器用です。

登録 取消

- ① **SNTPサーバー機能** …………… 本製品を弊社製RoIP機器用のNTPサーバーとして使用する時の設定です。
(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、NTPサーバーとして動作する本製品にWLAN無線機が日時の問い合わせをして、内部時計を自動設定します。
※この機能は、外部のNTPサーバーへの問い合わせ先(経路)が設定できない弊社製RoIP機器専用です。
※外部のNTPサーバーへの問い合わせ先(経路)が設定できない弊社製RoIP機器を本製品と併用している場合に、この機能を使用されることをおすすめします。
※この機能を使用するには、あらかじめ「時計」画面で、本製品本体の時計を設定してください。
- ② **〈登録〉** …………… [自動時計設定]項目、[SNTPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ③ **〈取消〉** …………… [自動時計設定]項目、[SNTPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「SYSLOG」画面

管理 > SYSLOG

■ SYSLOG設定

指定したホストにログ情報などを出力するための設定です。

- | | |
|-----------------|--|
| ① DEBUG | 各種デバッグ情報を指定したホスト(④)に出力する設定です。
(出荷時の設定：無効) |
| ② INFO..... | INFOタイプのメッセージを指定したホスト(④)に出力する設定です。
(出荷時の設定：有効) |
| ③ NOTICE | NOTICEタイプのメッセージを指定したホスト(④)に出力する設定です。
(出荷時の設定：有効) |
| ④ ホストアドレス | SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
※ホストは、SYSLOGサーバー機能に対応している必要があります。 |
| ⑤ <登録> | [SYSLOG]項目で設定した内容を登録するボタンです。 |
| ⑥ <取消> | [SYSLOG]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

4 設定画面について

「SNMP」画面

管理 > SNMP

■ SNMP設定

TCP/IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから本製品の情報を自動的に収集して、ネットワーク管理をするときの設定です。

SNMP設定

SNMP: ① 無効 有効

コミュニティID (GET): ② public

場所: ③

連絡先: ④

⑤ 登録 ⑥ 取消

- ① **SNMP** 本製品のSNMP機能を設定します。 (出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、本製品の設定情報をSNMP管理ツール側で管理できます。
- ② **コミュニティID(GET)** 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から読み出すことを許可するIDを、半角31文字以内の英数字で入力します。 (出荷時の設定：public)
- ③ **場所** MIB-II(RFC1213)に対応するSNMP管理ツール側で表示される場所を、半角127文字以内の英数字で入力します。
- ④ **連絡先** MIB-II(RFC1213)に対応するSNMP管理ツール側で表示される連絡先を、半角127文字以内の英数字で入力します。
- ⑤ **〈登録〉** [SNMP設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑥ **〈取消〉** [SNMP設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ USB設定

市販のUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んだときの動作を設定します。

USB設定

USBメモリー: ① 無効 有効

USBアクセス許可: ② ファームウェアの更新
 設定の保存/復元
 オリジナル保留音
 オリジナルおまたせメッセージ

USB認証キー: ③ _____

USB認証キーの書き込み: ④

- ① USBメモリー USBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んだときの動作について設定します。
(出荷時の設定：有効)
※「無効」に設定されていると、本製品のファームウェアファイルや設定ファイルなどを保存したUSBメモリーを差し込んだ状態で、本製品の電源を接続しても、ファイルを読み込みません。
- ② USBアクセス許可 本製品に接続されたUSBメモリーから読み込むファイルを選択します。
(出荷時の設定： ファームウェアの更新
 設定の保存/復元
 オリジナル保留音
 オリジナルおまたせメッセージ)
- ※チェックマーク[]をはずすと、ファイルを保存したUSBメモリーを差し込んだ状態で、本製品の電源を接続しても、該当ファイルを読み込みません。
- ◎ファームウェアの更新(5-10ページ)
本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)を保存したUSBメモリーを差し込むと、ファームウェアをバージョンアップします。
- ◎設定の保存/復元(5-15ページ)
本製品の設定ファイルをUSBメモリーに保存後、設定が異なる本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。
- ◎オリジナル保留音(5-14ページ)
オーディオファイル(拡張子：wav)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、オリジナル保留音として読み込みます。
※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)
※オーディオファイルが読み込まれていない状態では、オリジナル保留音を選択しても保留音が再生されないまま保留状態となります。

4 設定画面について

「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ USB設定

USB設定

USBメモリー: ① 無効 有効

USBアクセス許可: ② ファームウェアの更新
 設定の保存/復元
 オリジナル保留音
 オリジナルおまたせメッセージ

USB認証キー: ③ _____

USB認証キーの書き込み: ④

② USBアクセス許可(つづき) ……

◎オリジナルおまたせメッセージ(5-21ページ)

オーディオファイル(拡張子:wav)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、着信おまたせ機能のオリジナルおまたせメッセージとして読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面でオリジナルおまたせメッセージを選択していると、メッセージが再生されないまま、着信おまたせ機能が動作します。

③ USB認証キー ……

本製品の[USB]ポートに差し込んだUSBメモリーへのファイルの読み込みと書き出しに対するUSB認証キーを設定します。

大文字/小文字の区別に注意して、64文字以内(任意の半角英数字/記号)で入力します。

※入力後、「管理ツール」画面の〈登録〉をクリックすると、本製品にUSB認証キーが設定されます。

※本製品にUSB認証キーを設定すると、本製品からUSBメモリーに書き込んだUSB認証キーと同じかどうかを認証します。

4 設定画面について

「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ USB設定

USB設定

USBメモリー: ① 無効 有効

USBアクセス許可: ② ファームウェアの更新
 設定の保存/復元
 オリジナル保留音
 オリジナルおまたせメッセージ

USB認証キー: ③ _____

USB認証キーの書き込み: ④

- ④ USB認証キーの書き込み …………… 本製品に設定されているUSB認証キーを本製品の[USB]ポートに差し込んだUSBメモリーへ書き込むボタンです。
<書き込み>をクリックして、表示される画面にしたがって操作してください。

USB認証キーを保存したUSBメモリーを差し込んでいる場合は、「既に認証キーが書き込まれています。上書きする場合は「進む」ボタンをクリックしてください。」が表示されます。

USB認証キーの書き込み

USBメモリーに認証キーを書き込みます。
USBメモリーを本体に装着し、準備ができたら「進む」ボタンをクリックしてください。



USB認証キーの書き込み

認証キーの書き込みが完了しました。

※下記の画面が表示されたときは、<OK>をクリックして画面を閉じ、「管理ツール」画面の<登録>をクリックしてください。

Web ページからのメッセージ

⚠ USB認証キーが変更されています。
変更を登録してから、書き込みを行なってください。

4 設定画面について

「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ HTTP/HTTPS設定

HTTPとHTTPSは、WWWブラウザから設定画面にアクセスするためのプロトコルです。

※両方を「無効」に設定すると、WWWブラウザを使用して、本製品の設定画面にアクセスできなくなりますのでご注意ください。

HTTP/HTTPS設定	
HTTP :	<input type="radio"/> ① 無効 <input checked="" type="radio"/> ② 有効
HTTPポート番号 :	<input type="text" value="③ 80"/>
HTTPS :	<input checked="" type="radio"/> ③ 無効 <input type="radio"/> ④ 有効
HTTPSポート番号 :	<input type="text" value="④ 443"/>

- ① HTTP 本製品へのHTTPプロトコルによるアクセスの許可を設定します。
(出荷時の設定：有効)
- ② HTTPポート番号 本製品へのHTTPプロトコルによるアクセスのポート番号を設定します。
設定できる範囲は、「80」と「1024～65535」です。(出荷時の設定：80)
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※HTTPS、Telnet、SSHを使用時、これらに設定されたポート番号と重複しないように設定してください。
- ③ HTTPS 本製品へのHTTPSプロトコルによるアクセスの許可を設定します。
(出荷時の設定：無効)
※HTTPSを使用すると、パスワードやデータが暗号化されるため、TelnetやHTTPでのアクセスより安全性が向上します。
- ④ HTTPSポート番号 本製品へのHTTPSプロトコルによるアクセスのポート番号を設定します。
(出荷時の設定：443)
設定できる範囲は、「443」と「1024～65535」です。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※HTTP、Telnet、SSHを使用時、これらに設定されたポート番号と重複しないように設定してください。

4 設定画面について

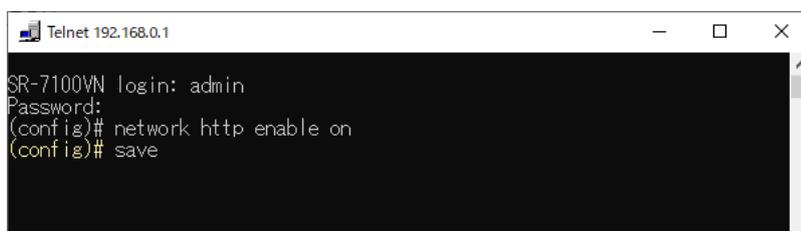
「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ HTTP/HTTPS設定後、設定画面にアクセスできなくなったときは

Telnet(P.6-5)で本製品(例:192.168.0.1)にアクセスして、(config)#につづけて、下記の太字部分のように入力後、[Enter]キーを押してください。

- ① (config)# **network http enable on** と入力し[Enter]キーを押します。
- ② (config)# **save** と入力し[Enter]キーを押す。
- ③ 本製品の設定画面へのアクセスを確認します。



```
Telnet 192.168.0.1
SR-7100VN login: admin
Password:
(config)# network http enable on
(config)# save
```

4 設定画面について

「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ Telnet/SSH設定

TelnetクライアントやSSHクライアントからアクセスするためのプロトコルについて設定します。

Telnet/SSH設定

Telnet: ① 無効 有効

Telnetポート番号: ② 23

SSH: ③ 無効 有効

SSHバージョン: ④ 自動

SSH認証方式: ⑤ 自動

SSHポート番号: ⑥ 22

⑦ 登録 ⑧ 取消

- ① Telnet 本製品へのTelnetプロトコルによるアクセスの許可を設定します。
(出荷時の設定：有効)
- ② Telnetポート番号 本製品へのTelnetプロトコルによるアクセスのポート番号を設定します。
(出荷時の設定：23)
- 設定できる範囲は、「23」と「1024～65535」です。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※HTTP、HTTPS、SSHを使用時、これらに設定されたポート番号と重複しないように設定してください。
- ③ SSH 本製品へのSSHプロトコルによるアクセスの許可を設定します。
(出荷時の設定：無効)
- ※「有効」を選択して、[SSH認証方式] (⑤) 欄で、「自動」/「公開鍵認証」を選択すると、[SSH公開鍵管理] 項目と[SSH公開鍵登録状況] 項目を表示します。
- ※SSHを使用すると、Telnetクライアントプログラムを使用して設定する内容を暗号化して通信できます。
- ※SSHを使用するには、別途SSHクライアントをご用意ください。
- ④ SSHバージョン [SSH] (③) 欄で「有効」を設定したとき、本製品で使用するSSH機能のバージョンを設定します。
(出荷時の設定：自動)
- ◎1 : バージョン1を使用します。
◎2 : バージョン2を使用します。
◎自動 : 「バージョン1」と「バージョン2」を自動認識します。
- ⑤ SSH認証方式 [SSH] (③) 欄で「有効」を設定したとき、本製品へのアクセスに対する認証方式を設定します。
(出荷時の設定：自動)
- ◎パスワード認証 : パスワードを使用して認証するときに設定します。
◎公開鍵認証 : 公開鍵を使用して認証するときに設定します。
◎自動 : 「パスワード認証」と「公開鍵認証」を自動認識します。

4 設定画面について

「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ Telnet/SSH設定

Telnet/SSH設定

Telnet: ① 無効 有効

Telnetポート番号: ② 23

SSH: ③ 無効 有効

SSHバージョン: ④ 自動

SSH認証方式: ⑤ 自動

SSHポート番号: ⑥ 22

⑦ 登録 ⑧ 取消

- ⑥ SSHポート番号 本製品へのSSHプロトコルによるアクセスのポート番号を設定します。
(出荷時の設定: 22)
設定できる範囲は、「22」と「1024～65535」です。
そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※HTTP、Telnet、HTTPSを使用時、これらに設定されたポート番号と重複しないように設定してください。
- ⑦ <登録> 「管理ツール」画面で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑧ <取消> 「管理ツール」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「管理ツール」画面

管理 > 管理ツール

■ SSH公開鍵管理

SSHでアクセスするときに使用する公開鍵を登録します。

※[Telnet/SSH設定]項目の[SSH]欄を「有効」、[SSH認証方式]欄を「自動」/「公開鍵認証」に設定したとき表示される項目です。

※画面は、登録例です。

SSH公開鍵管理

公開鍵ファイル:
既存の公開鍵は上書きされます

SSH公開鍵登録状況

<pre>----- BEGIN SSH2 PUBLIC KEY ----- Comment: AAAAE3NzaC1yc2EAAAABJQAAAIBzCkODIZUlaXyfmPR7KJE2v2jcvpd/yJ6sDZ5 ----- END SSH2 PUBLIC KEY -----</pre>	<input type="button" value="削除"/> SSHv2 RFC4716 形式
---	---

公開鍵ファイル.....

登録できる鍵は、1種類だけです。

登録の手順

- 1.<参照...>をクリックして、公開鍵ファイルの保存先を指定します。
- 2.<登録>をクリックします。

- [SSH公開鍵登録状況]項目に公開鍵の内容を表示します。

※公開鍵ファイルの登録を取り消すときは、[SSH公開鍵登録状況]項目の<削除>をクリックします。

4 設定画面について

「ネットワークテスト」画面

管理 > ネットワークテスト

■ PINGテスト

本製品からPINGを送出し、ネットワークの疎通確認テストをします。

PINGテスト

ホスト: ① _____

試行回数: ② 4 [▼] 回

パケットサイズ: ③ 64 [▼] バイト

タイムアウト時間: ④ 1000 [▼] ミリ秒

⑤ 実行

- ① **ホスト** PINGを送出する対象ホストのIPアドレス、またはドメイン名を半角64文字以内で入力します。
- ② **試行回数** PINGを送出する回数を、「1」、「2」、「4」、「8」から選択します。
(出荷時の設定：4)
- ③ **パケットサイズ** 送信するパケットのデータ部分のサイズを設定します。(出荷時の設定：64)
設定できるサイズは、「32」、「64」、「128」、「256」、「512」、「1024」、「1448」、「1500」、「2048」(バイト)です。
- ④ **タイムアウト時間** PING送後、応答を待つ時間を、「500」、「1000」、「5000」(ミリ秒)から選択します。
(出荷時の設定：1000)
設定した時間以内に応答がないときは、タイムアウトになります。
- ⑤ **〈実行〉** PINGテストを実行するボタンです。
クリックして、表示される画面にしたがって操作すると、「PING結果」表示に切り替わり、テスト結果を表示します。

PING結果について

PING結果

```
PING 192.168.100.1 (192.168.100.1) 56(84) bytes of data.  
64 bytes from 192.168.100.1: icmp_seq=1 ttl=59 time=9.87 ms  
64 bytes from 192.168.100.1: icmp_seq=2 ttl=59 time=5.23 ms  
64 bytes from 192.168.100.1: icmp_seq=3 ttl=59 time=4.66 ms  
64 bytes from 192.168.100.1: icmp_seq=4 ttl=59 time=5.00 ms  
  
--- 192.168.100.1 ping statistics ---  
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3009ms  
rtt min/avg/max/mdev = 4.667/6.194/9.871/2.133 ms
```

保存 実行画面に戻る

※上図は、表示例です。

◎〈保存〉をクリックすると、テスト結果をファイル(拡張子:txt)に保存します。

※ファイル名は、「ping_[対象ホストのアドレス].txt」で保存されます。

◎〈実行画面に戻る〉をクリックすると、画面が「PINGテスト」表示に戻ります。

4 設定画面について

「ネットワークテスト」画面

管理 > ネットワークテスト

■ 経路テスト

本製品から特定のノードに対しての経路テスト(traceroute)をします。

経路テスト

ノード: ①

最大ホップ数: ② 16

タイムアウト時間: ③ 3 秒

DNS名前解決: ④ 無効 有効

⑤

- ① ノード 経路テストをする対象ノード(機器)のアドレスを入力します。
- ② 最大ホップ数 経由するホップ数(中継設備数)の最大値を、「4」、「8」、「16」、「32」から選択します。
(出荷時の設定: 16)
- ③ タイムアウト時間 テスト開始後、応答を待つ時間を、「1」、「3」、「5」(秒)から選択します。
(出荷時の設定: 3)
設定した時間以内に応答がないときは、タイムアウトになります。
- ④ DNS名前解決 テスト結果に表示するIPアドレスを、ホスト名に変換するかどうか設定します。
(出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、中継設備や対象ノードのアドレスに対して、DNS名前解決をします。
- ⑤ <実行> 経路テストを実行するボタンです。
クリックして、表示される画面にしたがって操作すると、「経路テスト結果」表示に切り替わり、テスト結果を表示します。

経路テスト結果について

経路テスト結果

```
traceroute to 192.168.100.1 (192.168.100.1), 16 hops max, 38 byte packets
 1  74.877 ms  0.801 ms  0.822 ms
 2  3.225 ms  1.985 ms  1.955 ms
 3  192.168.54.1  4.734 ms  3.569 ms  3.577 ms
 4  192.168.53.4  3.972 ms  3.026 ms  2.453 ms
 5  192.168.100.3  10.160 ms  8.860 ms  7.471 ms
 6  192.168.100.1  11.691 ms  8.541 ms  17.474 ms
```

※上図は、表示例です。

- ◎<保存>をクリックすると、テスト結果をファイル(拡張子: txt)に保存します。
※ファイル名は、「traceroute_[対象ノードのアドレス].txt」で保存されます。
- ◎<実行画面に戻る>をクリックすると、画面が「経路テスト」表示に戻ります。

4 設定画面について

「EXTポート」画面

管理 > EXTポート

■ 異常監視

通信異常の監視について設定します。

※②～④は、[監視動作]欄(①)を有効に設定した場合に表示されます。

異常監視

PING疎通テスト

監視動作：① 無効 有効

制御出力：② 無効

IPアドレス：③

監視周期：④ 10 ⑤ ⑥ 分

- ① **監視動作** 指定ホストへのIPレベルの通信状態を確認するときに設定します。
(出荷時の設定：無効)
通信異常を検出すると、下図のように「情報表示」メニューの「SYSLOG」画面に表示します。
- | 日付・時間 | 表示するレベル | 内容 |
|----------------|---------|----------------------|
| 12-14 16:52:23 | NOTICE | ext_wd: PING ERROR!! |
- ② **制御出力** 検出信号を、本製品のEXT出力端子に出力する場合設定します。(P.6-28)
(出荷時の設定：無効)
- ③ **IPアドレス** 検知する指定ホストのIPアドレスを入力します。
- ④ **監視周期** 指定ホストの監視間隔を設定します。(出荷時の設定：10)
設定できる範囲は、「1～4320」(分)です。
- ⑤ **〈登録〉** [異常監視]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑥ **〈取消〉** [異常監視]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお「登録」をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「再起動」画面

管理 > 再起動

■ 再起動

〈実行〉をクリックすると、本製品は再起動します。

再起動
再起動: <input type="button" value="実行"/>

4 設定画面について

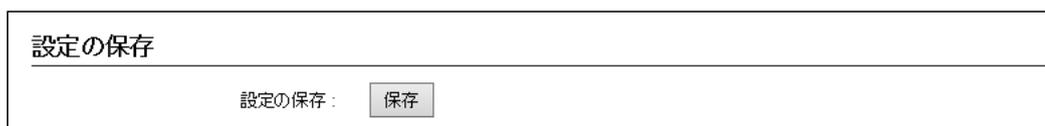
「設定の保存/復元」画面

管理 > 設定の保存/復元

■ 設定の保存

本製品の設定内容を保存します。

※保存した設定ファイル(拡張子：sav)は、本製品以外の製品では使用できません。



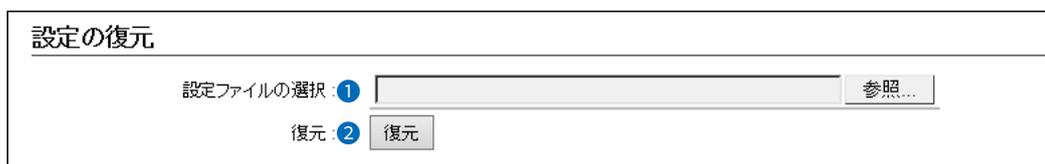
- 設定の保存**…………… 本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップできます。
〈保存〉をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、設定ファイル(拡張子：sav)を保存できます。
保存したファイルは、[設定の復元]項目の操作で、本製品に書き込みできます。

管理 > 設定の保存/復元

■ 設定の復元

保存した設定ファイルの本製品に書き込みます。

※書き込みには数分かかる場合があります。



- ① 設定ファイルの選択** …………… [設定の保存]項目の操作で保存した設定ファイル(拡張子：sav)の内容を本製品に書き込むとき使用します。
設定ファイルの保存先を指定するため、〈参照…〉をクリックします。
表示された画面から目的の設定ファイルをクリックして、〈開く(O)〉をクリックすると、選択した設定ファイルの参照先が表示されます。
- ② 復元** …………… [設定ファイルの選択] (①)欄のテキストボックスに保存先を指定後、〈復元〉をクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。
書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。
※書き込みを完了すると、本製品は自動的に再起動します。
※市販のソフトウェアなどで編集したものは、誤動作の原因になりますので、本製品に登録しないでください。

設定ファイルについてのご注意

本製品以外の機器へ書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

4 設定画面について

「設定の保存/復元」画面

管理 > 設定の保存/復元

■ 設定内容一覧

出荷時の設定から変更された内容を表示します。

※出荷時や全設定初期化後は、何も表示されません。

※画面の内容は、表示例です。

```
設定内容一覧

admin user_portal enable on
admin user_portal name "admin"
admin user_portal passwd "admin"
wireless enable wifi0 on
wireless enable wifi1 on
wireless vap auth wifi0 vap0 wpapsk-auto
```

4 設定画面について

「初期化」画面

管理 > 初期化

■ 初期化

選択した初期化条件で、本製品の設定内容を初期化します。

※IPアドレスと管理者用のパスワードが不明な場合などの初期化については、5-4ページをご覧ください。

初期化

全設定初期化: ① すべての設定を出荷時の設定に戻します。

無線LAN設定初期化: ② 無線LAN設定を出荷時の設定に戻します。

電話設定初期化: ③ 電話に関連する設定を出荷時の設定に戻します。

- ① 全設定初期化 本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。
※初期化実行後、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」(出荷時の設定)になります。
初期化によって、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。
- ② 無線設定初期化 「無線LAN設定」メニューの設定内容を出荷時の状態に戻します。
- ③ 電話設定初期化 「電話回線設定」、「Peer to Peer設定」、「PBX設定」、「PBX拡張設定」メニューの設定内容を出荷時の状態に戻します。
- ④ 〈実行〉 選択された初期化条件にしたがって、初期化します。

内蔵ファームウェアの削除について

全設定初期化、または電話設定初期化で「内蔵ファームウェアの削除」を選択して実行すると、本製品に内蔵しているIP200H、IP200PGのファームウェアが削除されます。

初期化

全設定初期化: すべての設定を出荷時の設定に戻します。

無線LAN設定初期化: 無線LAN設定を出荷時の設定に戻します。

電話設定初期化: 電話に関連する設定を出荷時の設定に戻します。

内蔵ファームウェアの削除: IP200H IP200PG

※ファームウェアの更新、設定復元では、内蔵ファームウェアは更新されませんので、更新が必要な場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

4 設定画面について

「ファームウェアの更新」画面

バージョンアップについてのご注意

- ◎故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。
 - ◎通話中、または留守番電話録音終了後しばらくのあいだ(本製品への書き込みが完了するまで)は、ファームウェアを更新できません。
 - ◎緊急番号へ発信したあと、数分間はファームウェアを更新できません。(NTTひかり電話設定時のみ)
 - ◎更新中は、ひかり電話、IP Voiceがご利用いただけません。
そのあいだは、緊急通報(110、118、119)などもかけることができませんのでご注意ください。
 - ◎更新中(数分間)は、すべての接続が切断されます。
インターネットご利用中に更新が実行される場合がありますのでご注意ください。
 - ◎ネットワークやサーバーの状態によっては、更新に失敗することがあります。
- ※バージョンアップによって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。
故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。

管理 > ファームウェアの更新

■ ファームウェア情報

本製品のファームウェアについて、バージョン情報を表示します。

ファームウェア情報	
IPL	Rev. <input type="text"/>
バージョン	Ver. <input type="text"/> Copyright <input type="text"/> Icom Inc.

4 設定画面について

「ファームウェアの更新」画面

管理 > ファームウェアの更新

■ オンライン更新

ファームウェアをオンラインでバージョンアップします。

※ファームウェアの確認には、インターネットへの接続環境が必要です。

オンライン更新	
ファームウェアの確認:	<input type="button" value="確認"/>

ファームウェアの確認……………

〈確認〉をクリックすると、アップデート管理サーバーに接続します。
接続に成功すると、最新のファームウェア情報(下図)を表示します。

ファームウェアオンライン更新	
ファームウェア情報	
状況:	情報取得成功
バージョン:	
更新内容:	
<input type="button" value="最新の情報に更新"/> <input type="button" value="ファームウェアを更新"/>	

ファームウェア情報について

- ◎「新しいファームウェアはありません」が表示されるときは、現在のファームウェアが最新ですので、ファームウェアの更新は必要ありません。
- ◎「情報取得成功」と更新内容が表示されたときは、〈ファームウェアを更新〉をクリックすると最新のファームウェアをアップデート管理サーバーからオンラインで更新できます。
- ◎「接続失敗」や「サーバーからエラーが返されました」が表示されるときは、下記を参考に、本製品からアップデート管理サーバーへ接続できる環境であることをご確認ください。

デフォルトゲートウェイとDNSサーバーアドレスを本製品に設定していますか？

→「ネットワーク設定」メニューの「IPアドレス」画面で設定を確認する
本製品からWeb通信することを、ファイアウォールなどで遮断していませんか？

→ネットワーク管理者に確認する

バージョンアップについてのご注意

故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。

※バージョンアップによって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

4 設定画面について

「ファームウェアの更新」画面

管理 > ファームウェアの更新

■ 自動更新

ファームウェアの自動更新機能を使用するときに設定します。

- ① **自動更新** ファームウェアの自動更新機能を設定します。 (出荷時の設定：有効)
自動更新機能有効時の通知機能について
[MSG]ランプが●緑点灯した場合は、ご都合のよいときにファームウェアの更新をしてください。(P.5-8、P.5-9)
※オンラインファーム検知時、ファームウェアは自動的に更新されません。
※更新内容によっては、アップデート管理サーバーから本製品のファームウェアが自動更新されることがあります。
運用中にファームウェアを更新して本製品が再起動しますので、自動更新を望まない場合は「無効」に設定してください。
- ② **〈登録〉** [自動更新]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ③ **〈取消〉** [自動更新]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

「ファームウェアの更新」画面

管理 > ファームウェアの更新

■ 手動更新

パソコンに保存しているファイルを指定してファームウェアをバージョンアップします。

手動更新	
ファームウェアの選択: ①	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/>
ファームウェアの更新: ②	<input type="button" value="更新"/>

- ① **ファームウェアの選択** …………… <参照...>をクリックして、表示された画面から、パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子: dat)を選択して、<開く(O)>をクリックします。
選択したファイルとその階層が、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに自動入力されたことを確認します。
- ② **ファームウェアの更新** …………… <更新>をクリックすると、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに表示された保存先のファームウェアファイル(拡張子: dat)を本製品に書き込みます。
更新を開始すると、「ファームウェアを更新しています。」と表示されます。

バージョンアップについてのご注意

故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。

※バージョンアップによって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

この章では、

本製品の設定内容保存、ファームウェアのバージョンアップをする手順について説明しています。

1. 設定内容の確認または保存	5-2
2. 保存された設定の書き込み(復元)	5-3
3. 設定を出荷時の状態に戻すには	5-4
■ 〈MODE〉ボタンを使用する	5-4
■ Telnetを使用する	5-4
■ 設定画面を使用する	5-5
4. ファームウェアをバージョンアップする	5-6
■ ファームウェアについて	5-6
■ バージョンアップについてのご注意	5-6
A) ファイルを指定して更新する	5-7
B) オンラインバージョンアップ	5-8
C) 〈UPDATE〉ボタンを使用して更新する	5-9
5. USBメモリーによる自動設定機能について	5-10
■ USBメモリー使用時のご注意	5-11
■ 対応するUSBメモリーの規格	5-11
■ 自動設定に使用するファイル名の付けかた	5-12
■ 自動バックアップされる設定ファイルについて	5-12
■ 複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには	5-13
■ オーディオファイルについて	5-14
6. USBメモリーから自動で設定を復元するには	5-15
■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順	5-15
7. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには	5-18
■ バージョンアップするまでの手順	5-18
8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには	5-20
■ オリジナル保留音の場合	5-20
■ オリジナルおまたせメッセージの場合	5-21
9. USBメモリー用の認証キーを設定するには	5-22
■ 設定のしかた	5-22

5 保守について

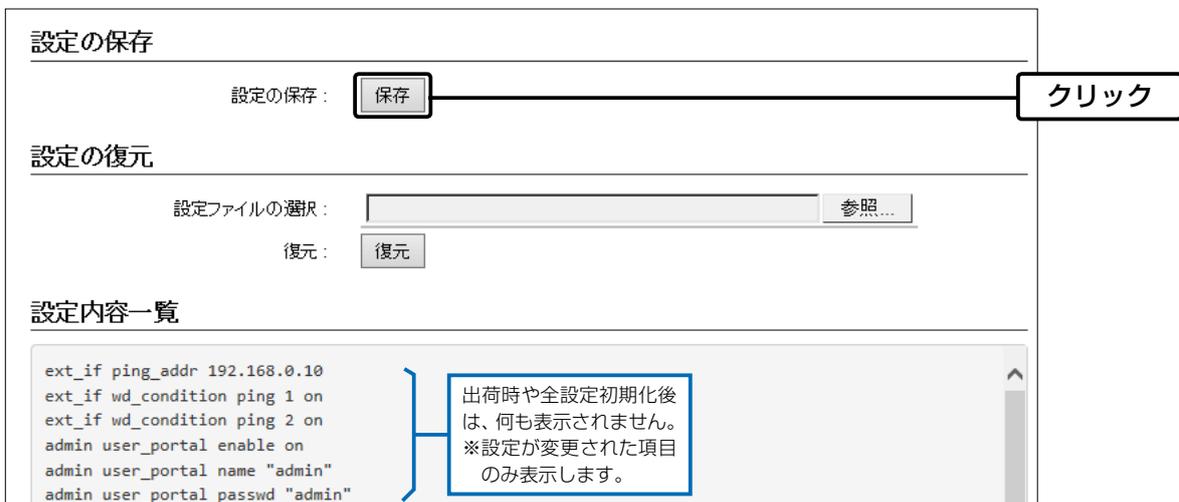
1. 設定内容の確認または保存

管理 > 設定の保存/復元

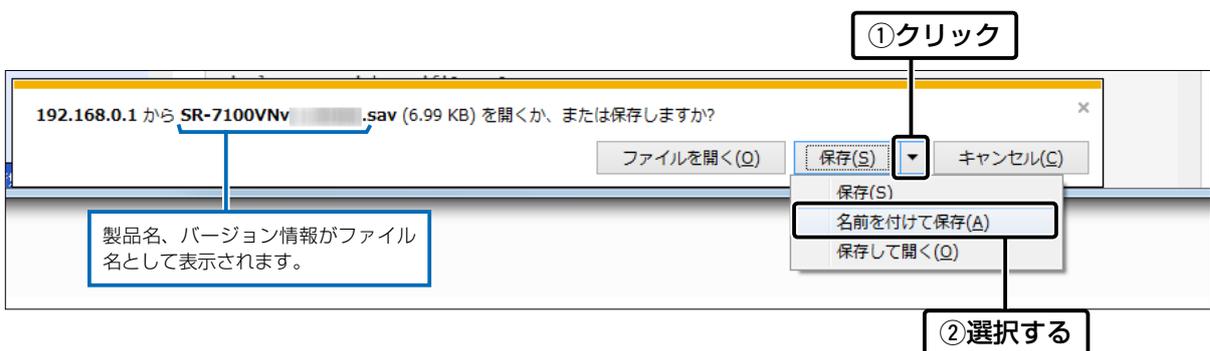
本製品の設定画面で変更された内容を確認して、その内容を設定ファイル(拡張子:sav)としてパソコンに保存できます。
※保存した設定ファイル(拡張子:sav)は、本製品以外の製品では使用できません。
※設定を保存しておくで、誤って設定内容が失われたときなどに利用できます。

- 1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。

- 2 「設定の保存」項目の「保存」をクリックします。
ファイルの確認画面(別画面)が表示されます。



- 3 「保存(S)」の「▼」をクリックして、「名前を付けて保存(A)」を選択します。
「名前を付けて保存」画面(別画面)が表示されます。



- 4 保存する場所を選択して、「保存(S)」をクリックします。
選択した場所に設定ファイル(拡張子:sav)が保存されます。

5 保守について

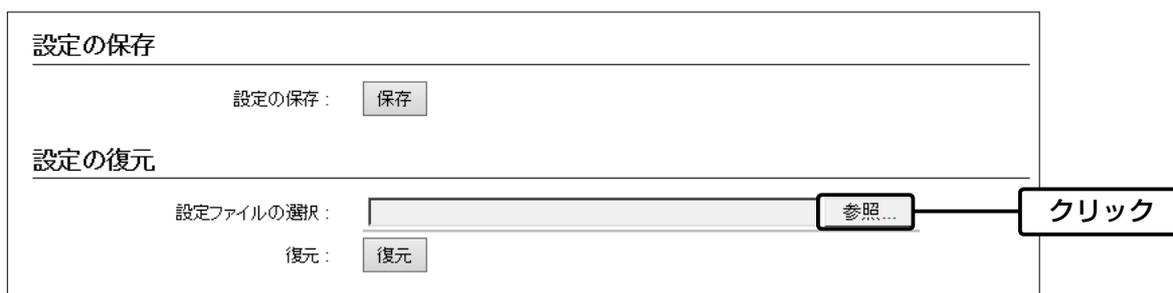
2. 保存された設定の書き込み(復元)

管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定画面からパソコンに保存した設定ファイル(P.5-2)を本製品に書き込む手順を説明します。

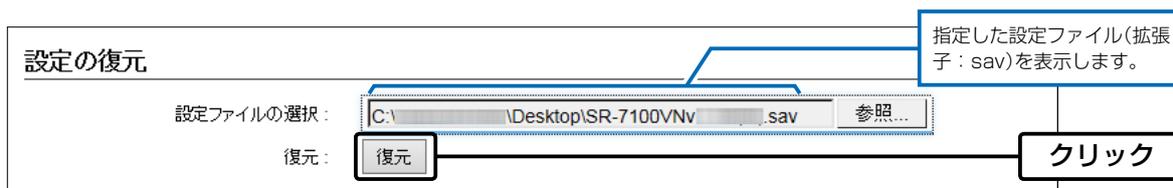
- 1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。

- 2 「設定の復元」項目の〈参照...〉をクリックします。
「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)が表示されます。



- 3 「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)から、設定ファイル(拡張子: sav)を指定して、〈開く(O)〉をクリックします。
「設定ファイルの選択」欄のテキストボックスに、書き込む設定ファイルが表示されます。

- 4 〈復元〉をクリックします。
「設定データを復元しています。」が表示されます。
※運用中の設定プロファイルを選択したときは、設定を復元するために本製品が再起動します。



設定ファイルについてのご注意

本製品以外の機器へ書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

5 保守について

3. 設定を出荷時の状態に戻すには

ネットワーク構成を変更するときなど、既存の設定データをすべて消去して、設定をはじめからやりなおすときは、本製品の設定内容を出荷時の状態に戻せます。

そのときの状況に応じて、次の3とおりの方法があります。

■ 〈MODE〉ボタンを使用する

- 1 本製品からすべての機器を取りはずして、電源を入れます。

※[POWER]ランプの●緑点灯を確認してから、手順2の操作を開始してください。

※ご使用の環境により、[POWER]ランプ以外の状態は異なります。

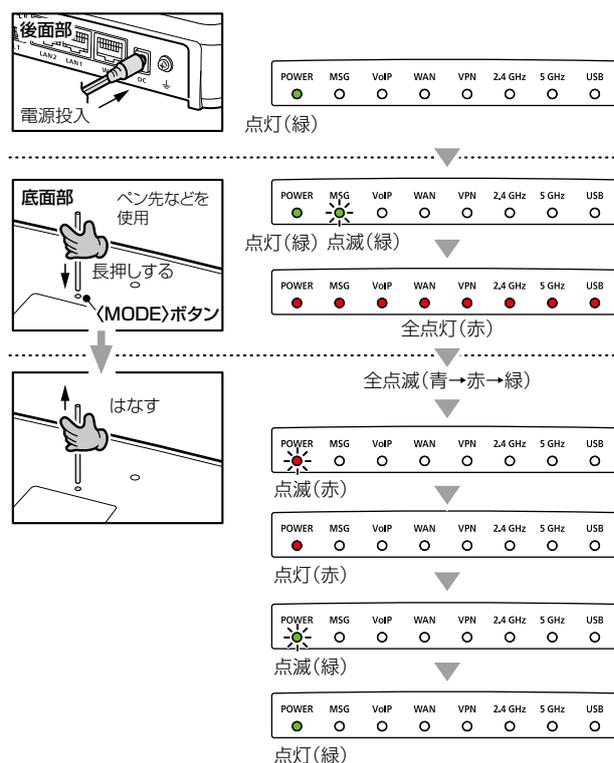
- 2 すべてのランプが●赤点灯するまで、〈MODE〉ボタンを押しつづけます。

※〈MODE〉ボタンを押しているあいだ、[MSG]ランプが●緑点滅します。

- 3 すべてのランプが●赤点灯したら、〈MODE〉ボタンから手をはなします。

※[POWER]ランプが●緑点灯に切り替わると、初期化完了です。

初期化操作によるランプの遷移について



ご注意

初期化すると、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」(出荷時の設定)になります。

初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

■ Telnetを使用する

本製品に設定されたIPアドレスがわかっている、Telnetで本製品に接続できるときに使用します。

※Telnetから、init allコマンドを実行すると、すべての設定項目が出荷時の状態になります。

ご注意

初期化すると、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」(出荷時の設定)になります。

初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

5 保守について

3. 設定を出荷時の状態に戻すには

管理 > 初期化

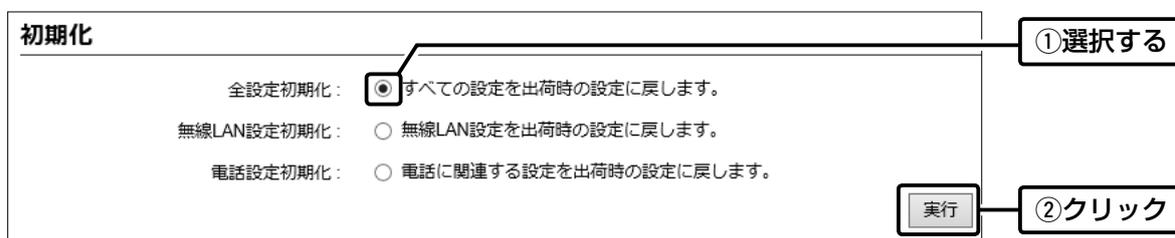
本製品に設定されたIPアドレスと管理者パスワードがわかっている、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、本製品の設定画面から、すべての設定を出荷時の状態に戻せます。

IPアドレスと管理者パスワードが不明な場合などの初期化については、5-4ページをご覧ください。

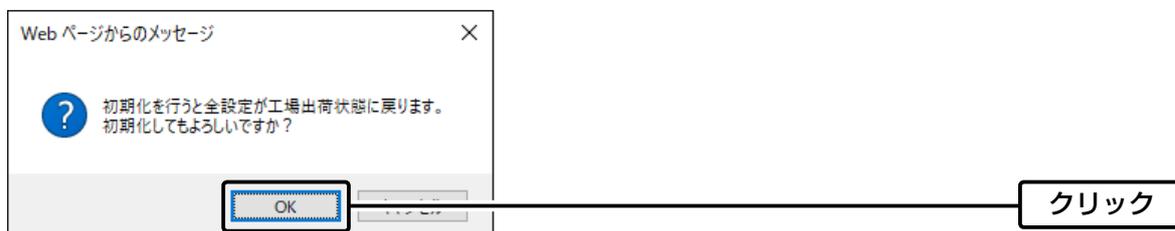
■ 設定画面を使用する

- 1 「管理」メニュー、「初期化」の順にクリックします。
「初期化」画面が表示されます。

- 2 初期化したい条件(例:全設定初期化)を選択して、「実行」をクリックします。



- 3 「OK」をクリックします。
出荷時の状態に戻すために、本製品が再起動します。



- 4 再起動完了後、「設定画面に戻る」と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックします。

◎全設定初期化をクリックした場合

本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。初期化すると、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」(出荷時の設定)になります。初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

◎無線設定初期化をクリックした場合

「無線LAN設定」メニューで設定した内容だけを出荷時の状態に戻します。初期化実行後、本製品とSSIDや暗号化設定が異なったときは、無線LANでアクセスできなくなりますので、必要に応じて、「無線LAN設定」メニューの設定を変更してください。

◎電話設定初期化をクリックした場合

「電話回線設定」、「Peer to Peer設定」、「PBX設定」、「PBX拡張設定」メニューの設定内容を出荷時の状態に戻します。必要に応じて、電話関連の設定を変更してください。

内蔵ファームウェアの削除について

全設定初期化、または電話設定初期化で「内蔵ファームウェアの削除」を選択して実行すると、本製品に内蔵しているIP200H、IP200PGのファームウェアが削除されます。

※ファームウェアの更新、設定復元では、内蔵ファームウェアは更新されませんので、更新が必要な場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5 保守について

4. ファームウェアをバージョンアップする

本製品の設定画面からファームウェアをバージョンアップできます。

Ⓐ ファイルを指定して更新する

オンラインバージョンアップできない環境では、あらかじめ弊社ホームページからダウンロードしたファームウェアを指定して、手動でバージョンアップできます。

Ⓑ オンラインバージョンアップ(P.5-8)

インターネットから本製品のファームウェアを最新の状態で自動更新できます。

Ⓒ 〈UPDATE〉ボタンを使用して更新する(P.5-9)

本体の〈UPDATE〉ボタンを押して、本製品のファームウェアを最新の状態で更新できます。

TOP

■ ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。

このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップをすることがあります。

バージョンアップの作業をする前に、本製品の設定画面にアクセスして、「TOP」画面に表示されるバージョン情報を確認してください。

バージョンアップをすると、機能の追加など、本製品を最良の状態にできます。

製品情報	
本体名称	SR-7100VN
IPL	Rev
バージョン	Ver. (N) Copyright Icom Inc.
内蔵ファームウェアバージョン (IP200H)	
内蔵ファームウェアバージョン (IP200PG)	
LAN MACアドレス	
WAN MACアドレス	
無線1 MACアドレス	
無線2 MACアドレス	

■ バージョンアップについてのご注意

◎ ファームウェアの更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。

更新中に電源を切ると、データの消失や故障の原因になります。

◎ ご使用のパソコンでファイアウォール機能が動作していると、バージョンアップできないことがあります。

バージョンアップできない場合は、ファイアウォール機能を無効にしてください。

◆ バージョンアップの結果については、自己責任の範囲となります。

次に示す内容をよくお読みになってから、弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> より提供される本製品のアップデート用ファームウェアファイルをご使用ください。

本製品以外の機器への書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

5 保守について

4. ファームウェアをバージョンアップする

管理 > ファームウェアの更新

A ファイルを指定して更新する

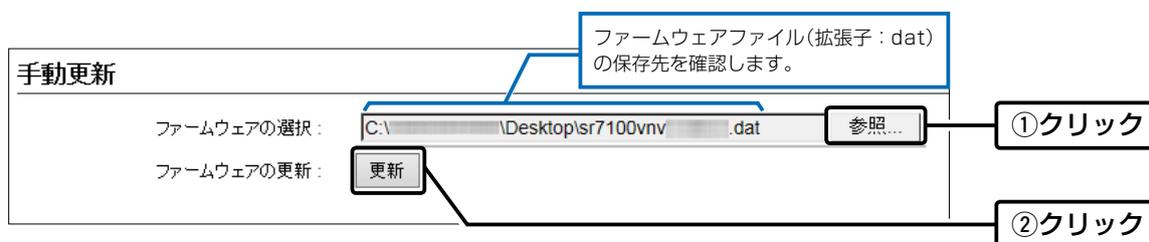
バージョンアップの前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。(P.5-2)

※バージョンアップ後、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、ダウンロードするときには、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

※日常、管理者以外の端末からバージョンアップできないように、設定画面へのアクセス制限の設定(P.3-9)をおすすめします。

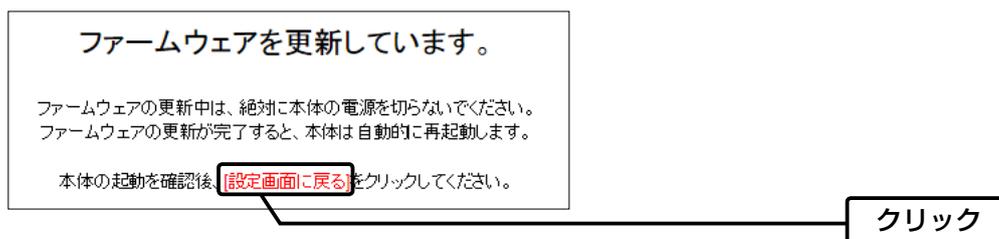
- 1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

- 2 下記のように、弊社ホームページよりダウンロードして解凍したファームウェアファイル(拡張子: dat)の保存先を指定して、更新します。



- 3 更新完了後、「設定画面に戻る」と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックすると、設定画面に戻ります。

設定画面に戻らないときは、ファームウェアの更新中ですので、しばらくしてから再度クリックしてください。
(接続するパソコンや本製品の電源は、絶対に切らないでください。)



ご注意

[設定画面に戻る]の操作(手順3)で設定画面に戻るようになるまで、ご使用のパソコンや本製品の電源を絶対に切らないでください。途中で電源を切ると、データの消失や誤動作の原因になります。

※出荷時の設定内容に戻るような注意書きがあるバージョンアップ用ファームウェアの場合は、上図の[設定画面に戻る]をクリックしても設定画面に戻れないことがあります。

その場合は、接続するパソコンのIPアドレスを「例: 192.168.0.100」に設定してから、本製品の設定画面「192.168.0.1」にアクセスしなおしてください。

5 保守について

4. ファームウェアをバージョンアップする

管理 > ファームウェアの更新

㊦ オンラインバージョンアップ

下記の手順で、最新のファームウェアを確認後、[MSG]ランプが●緑点灯しているときは、本製品のファームウェアをオンラインでバージョンアップできます。

※ ファームウェアの確認には、インターネットへの接続環境と本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイの設定が必要です。

※ バージョンアップの前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。(P.5-2)

1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。

「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

2 [ファームウェアの確認]欄の<確認>をクリックして、表示される更新内容を確認します。

※「新しいファームウェアはありません。」が表示され、[MSG]ランプが消灯のときは、バージョンアップは必要ありません。

オンライン更新

ファームウェアの確認: **確認** ①クリック

↓

ファームウェア情報

状態	情報取得成功
バージョン	
更新内容	

②確認する

最新の情報に更新 ファームウェアを更新

3 <ファームウェアを更新>をクリックします。

弊社のアップデート管理サーバーにアクセスを開始します。

※バージョンアップにより、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、バージョンアップする前に、表示される更新内容をご確認ください。

4 更新が完了するまで、そのまま数分程度お待ちください。

弊社のアップデート管理サーバーに接続すると、ファームウェアのダウンロードを開始し、更新後は、自動的に再起動します。

ファームウェアを更新しています。

ファームウェアの更新中は、絶対に本体の電源を切らないでください。
ファームウェアの更新が完了すると、本体は自動的に再起動します。

本体の起動を確認後、**設定画面に戻る**をクリックしてください。

5 保守について

4. ファームウェアをバージョンアップする

管理 > ファームウェアの更新

③ <UPDATE>ボタンを使用して更新する

[MSG]ランプが●緑点灯した場合は、下記の手順で、本製品のファームウェアをバージョンアップできます。

※オンラインファーム検知時、ファームウェアは自動的に更新されません。

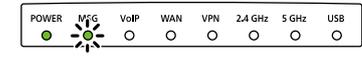
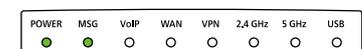
※更新内容によっては、アップデート管理サーバーから本製品のファームウェアが自動更新されることがあります。

運用中にファームウェアを更新して本製品が再起動しますので、自動更新を望まない場合は「無効」(出荷時の設定:有効)に設定してください。(P.4-320)

1 [MSG]ランプが●点灯(緑)から⦿点滅(緑)に切り替わるまで、<UPDATE>ボタンを押します。



2 [MSG]ランプが⦿点滅(緑)したことを確認して、<UPDATE>ボタンから手をはなします。ファームウェアのダウンロードを開始し、更新後は自動的に再起動します。
※本製品が再起動したあと、ご使用の端末を再起動してください。



再起動後、[MSG]ランプ点灯(緑)

※ご使用の環境により、[MSG]ランプ以外の状態は異なります。(全点灯時を除く)

5 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

本製品の[USB]ポートにUSBメモリー(市販品)を接続すると、あらかじめUSBメモリーに保存されたファームウェアファイルや設定ファイル(本製品の設定が保存されたファイル)、オーディオファイルを本製品に自動で読み込みます。また、本製品のWAN側MACアドレスをフォルダー名とするフォルダーを作成することで、1つのUSBメモリーを使用して、複数台(本製品)の設定復元やファームウェアのバージョンアップができます。

※操作方法については、5-15ページ～5-21ページをご覧ください。

◎ファームウェアの更新

本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、ファームウェアをバージョンアップします。

◎設定の保存／復元

本製品の設定ファイルをUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。

◎オリジナル保留音

オーディオファイル(拡張子：wav)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、オリジナル保留音として読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、保留機能にオリジナル保留音を設定していると、保留音が再生されないまま保留状態となります。

◎オリジナルおまたせメッセージ

オーディオファイル(拡張子：wav)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、着信おまたせ機能のオリジナルおまたせメッセージとして読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面でオリジナルおまたせメッセージを選択していると、メッセージが再生されないまま、着信おまたせ機能が動作します。

ご参考

「管理」メニューの「管理ツール」画面で、[USBメモリー]欄が「有効」に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれた本製品の電源を入れると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。

USB設定	
USBメモリー：	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
USBアクセス許可：	<input checked="" type="checkbox"/> ファームウェアの更新
	<input checked="" type="checkbox"/> 設定の保存／復元
	<input checked="" type="checkbox"/> オリジナル保留音
	<input checked="" type="checkbox"/> オリジナルおまたせメッセージ
USB認証キー：	_____
USB認証キーの書き込み：	<input type="button" value="書き込み"/>

(※画面の内容は、出荷時の設定です。)

5 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ USBメモリー使用時のご注意

- ◎ 指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。
- ◎ ご使用になる前に、あらかじめ、USBメモリー内のデータをバックアップしてください。
- ◎ データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーの接続や取りはずしをしてください。
設定保存/復元、ファームウェアのバージョンアップを使用する場合など、USBメモリーを接続中([USB]ランプ ● 緑点灯中)は、絶対にUSBメモリーを取りはずさないでください。
ファイルの消失や故障の原因になります。
- ◎ USBメモリーは、どちらか一方の[USB]ポートにだけ接続してください。
2つの[USB]ポートを同時には使用できません。
- ◎ USBメモリーを差し込むときは、形状と差し込み方向に注意して、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎ USBメモリーを接続中は、[USB]ランプが ● 緑点灯します。
設定復元中やファームウェアのバージョンアップ中は、すべてのランプが赤色で点灯します。
- ◎ 本製品の設定画面でUSB認証キーが設定(P.5-22)されている場合、差し込まれたUSBメモリー側の認証キーと一致しないときは、自動設定機能は動作しません。
- ◎ 設定を復元する直前の設定値は、設定ファイル(bakdata.sav)として、本製品に接続したUSBメモリーにバックアップされます。
- ◎ USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが、本製品に適用されているものと同じ場合や、破損していたり、本製品以外のものであったりするときは、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。
※本製品で動作中のものと異なる設定ファイルやファームウェアファイルが、USBメモリーに保存されている場合は、その内容で自動設定されます。
- ◎ 設定ファイルとファームウェアファイルの両方がUSBメモリーに保存されている場合は、設定復元、ファームウェアのバージョンアップの順に自動設定を実行します。

■ 対応するUSBメモリーの規格

インターフェース : USB3.0/2.0/1.1

デバイス : USB 大容量デバイス(USB Mass Storage Class)

フォーマット : FAT16/FAT32(exFATやNTFSなど、ほかのフォーマットには対応していません。)

※すべてのUSB対応周辺機器で動作を保証するものではありません。

5 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ 自動設定に使用するファイル名の付けかた

設定ファイル名は、「savedata」(拡張子：sav)でUSBメモリーに保存してください。

※自動設定に使用する設定ファイルは、「管理」メニュー→「設定の保存/復元」画面→「設定の保存」項目(P.5-2)で保存したものと、自動バックアップされる設定ファイル以外は、使用できません。

ファームウェアファイル名は、「firmware」(拡張子：dat)でUSBメモリーに保存してください。

※ファームウェアの自動バージョンアップに使用するファームウェアファイルは、弊社ホームページからダウンロードし、解凍してから、ファームウェアファイル名を変更してください。

■ 自動バックアップされる設定ファイルについて

バックアップは、下記のファイル名で、最大10世代前まで自動バックアップされます。

最新のバックアップ設定ファイルは、bakdata.savで自動バックアップされます。

例：1世代前のファイル名	bakdata_1.sav
2世代前のファイル名	bakdata_2.sav
3世代前のファイル名	bakdata_3.sav
～ 中略 ～	
10世代前のファイル名	bakdata_10.sav

※10世代を超えると、最も古いバックアップ設定ファイル(bakdata_10.sav)が削除されます。

また、削除と同時に、ファイル名の数字が1世代後退します。(例：bakdata_9.sav→bakdata_10.sav)

※ファームウェアファイルは、バックアップされません。

※本製品の設定内容を変更した場合に、設定ファイル(bakdata.sav)が自動バックアップされます。

5 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ 複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには

1つのUSBメモリーを使用して、本製品(複数台分)の設定復元やファームウェアのバージョンアップをするときは、あらかじめ、「TOP」画面に表示されているWAN側MACアドレスをフォルダー名^{*}とするフォルダーを作成し、そのフォルダーに本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存しておく必要があります。

★全角のフォルダー名は使用できません。

ルートディレクトリーにフォルダーがないとき

自身のWAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

自身のWAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

自身のWAN側MACアドレス(例：0090C7000001)と一致するフォルダーがあるとき

あらかじめ作成しておいたフォルダーの中にバックアップ設定ファイルを作成します。

あらかじめ作成しておいたフォルダーの中にある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

自身のWAN側MACアドレス(例：0090C7000002)と一致するフォルダーがないとき

自身のWAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

自身のWAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

5 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ オーディオファイルについて

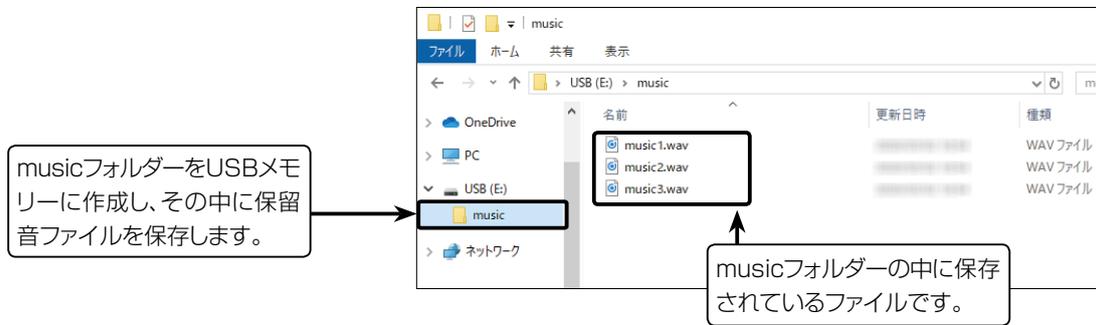
オリジナル保留音、オリジナルおまたせメッセージは、それぞれ最大3件まで本製品に登録できます。
(1件につき60秒まで)

※対応するファイルフォーマットは、下記のとおりです。

コーデック	サンプリング周波数	ビット数	チャンネル数	コンテナフォーマット
リニアPCM	8kHz	16ビット	モノラル	wav
G711 μ -law	8kHz	8ビット	モノラル(μ -law)	wav

1. オリジナル保留音

読み込ませる保留音ファイル(拡張子:wav)は、下記のように、musicフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。



※保留音ファイルは、本製品に読み込まれると、下記のように管理者用、ユーザー用の設定画面で扱われます。

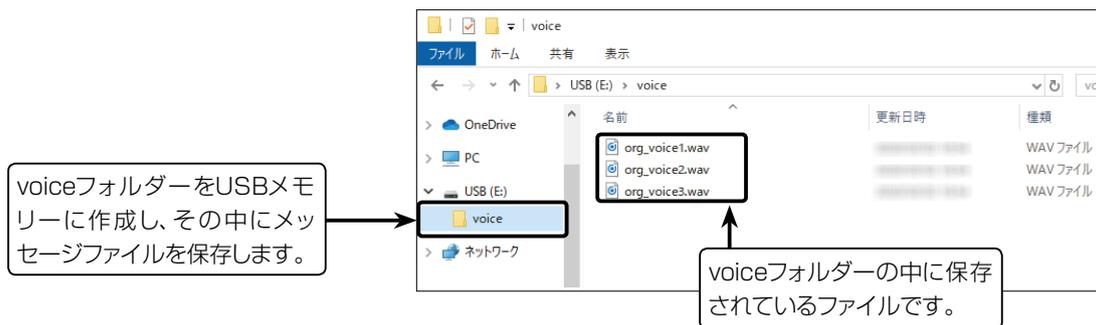
music1.wav:オリジナル保留音1

music2.wav:オリジナル保留音2

music3.wav:オリジナル保留音3

2. オリジナルおまたせメッセージ(着信おまたせ機能で使用する自動応答メッセージ)

読み込ませるメッセージファイル(拡張子:wav)は、下記のように、voiceフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。



※メッセージファイルは、本製品に読み込まれると、下記のようにユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で扱われます。

org_voice1.wav:オリジナルおまたせメッセージ1

org_voice2.wav:オリジナルおまたせメッセージ2

org_voice3.wav:オリジナルおまたせメッセージ3

※自身のWAN側MACアドレスと一致するフォルダーがある場合は(P.5-13)、そのフォルダーにあるmusicフォルダーやvoiceフォルダーに保存されているデータを読み込みます。

この場合、ルートフォルダーにあるmusicフォルダーやvoiceフォルダーは参照されません。

5 保守について

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

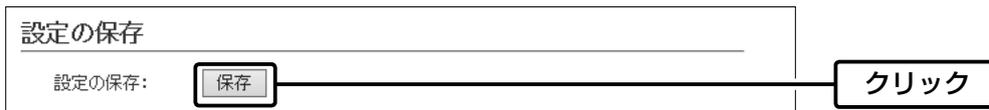
管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存後、設定が異なる本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元するまでの手順について説明します。

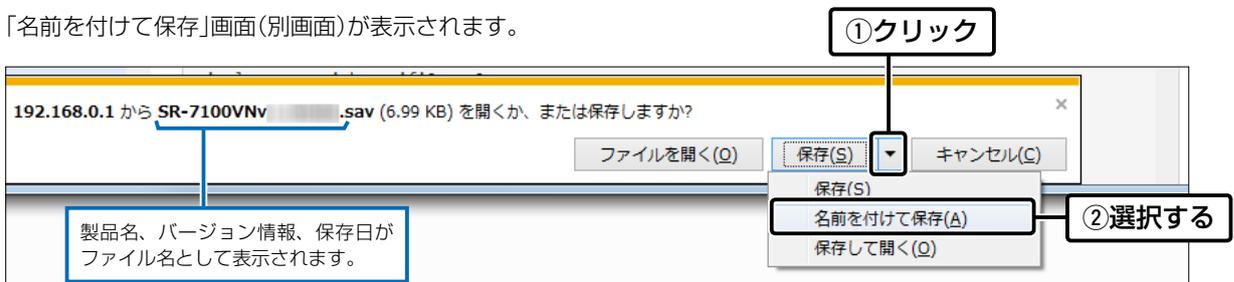
※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.5-11)をご覧ください。

■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順

- 1 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 2 本製品の設定画面にアクセスします。(P.2-19)
- 3 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。
- 4 「設定の保存」欄の「保存」をクリックします。
ファイルの確認画面(別画面)が表示されます。



- 5 「保存(S)」の「▼」をクリックして、「名前を付けて保存(A)」を選択します。
「名前を付けて保存」画面(別画面)が表示されます。



- 6 「名前を付けて保存」(別画面)画面で、設定ファイルの保存先にUSBメモリーのルートディレクトリーを指定し、ファイル名を「savedata.sav」に変更してから、「保存(S)」をクリックします。

※ ファイル名は、必ず「savedata.sav」に変更してください。

「savedata.sav」以外のファイル名では、USBメモリーからの復元に使用できません。



(次ページにつづく)

5 保守について

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

管理 > 設定の保存/復元

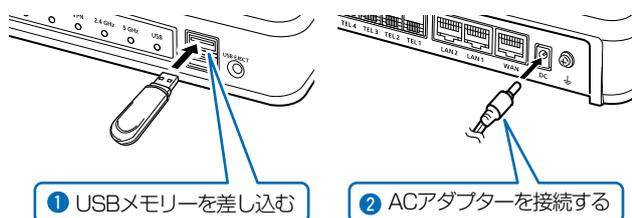
■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順(つづき)

7 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。

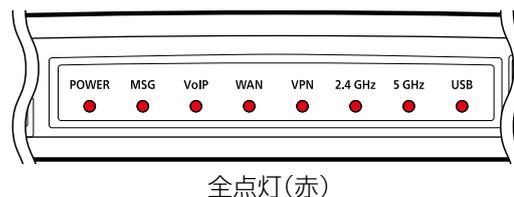
8 設定を復元する本製品を用意します。

9 本製品の電源を切ります。

10 savedata.savが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、本製品の電源を入れます。



11 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。
設定の復元中は、すべてのランプが●赤点灯します。



ご注意

設定復元が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。
途中で、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、設定ファイルの消失や故障の原因になります。
また、設定復元が完了するまで、本製品の設定画面にアクセスしないでください。

(次ページにつづく)

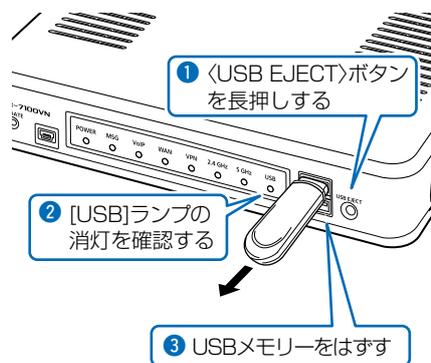
5 保守について

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

管理 > 設定の保存/復元

■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順(つづき)

- 12** すべてのランプが消灯し、本製品が再起動します。
[POWER]ランプが●緑点灯に切り替わったことを確認してから、[USB]ランプが消灯するまで〈USB EJECT〉ボタンを押しつづけます。
[USB]ランプが消灯したら、本製品からUSBメモリーを取りはずします。
※USBメモリーには、復元前の設定内容を保存した設定ファイルが自動でバックアップファイル(bakdata.sav)として保存されています。



ご注意

データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

ご参考

「管理」メニューの「管理ツール」画面で、[USBメモリー]欄(P.4-303)が「有効」(出荷時の設定)に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれた本製品の電源を入れると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。

5 保守について

7. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには

弊社ホームページよりダウンロードした本製品のファームウェアファイル(拡張子:dat)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品のファームウェアをバージョンアップするまでの手順について説明します。

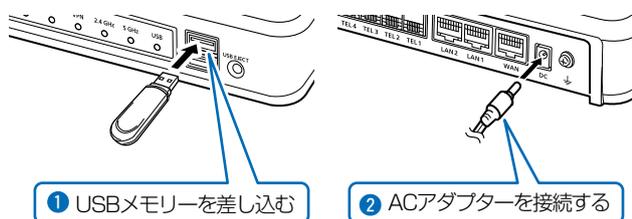
※使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.5-11)をご覧ください。

※バージョンアップの前に、「バージョンアップについてのご注意」(P.4-318)をご覧ください。

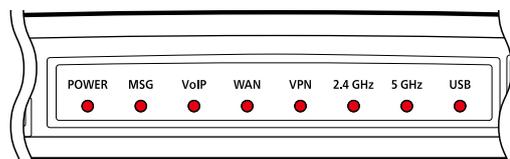
■ バージョンアップするまでの手順

- 1 本製品のファームウェアファイルを弊社ホームページよりダウンロードして、解凍します。
- 2 ファームウェアファイルのファイル名をfirmware.datに変更します。
※ファイル名は、必ず「firmware.dat」に変更してください。
「firmware.dat」以外のファイル名は、USBメモリーからのバージョンアップに使用できません。
- 3 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 4 firmware.datをUSBメモリーのルートディレクトリーに保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 バージョンアップする本製品を用意します。
- 7 本製品の電源を切り、本製品に接続するすべての機器を取りはずします。

- 8 firmware.datが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、本製品の電源を入れます。



- 9 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。
ファームウェアのバージョンアップ中は、すべてのランプが●赤点灯します。



ご注意

ファームウェアのバージョンアップが完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。
バージョンアップ中に、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、故障の原因になります。

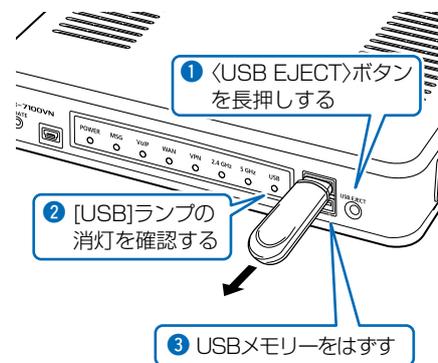
(次ページにつづく)

5 保守について

7. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには

■ バージョンアップするまでの手順

- 10** すべてのランプが消灯し、本製品が再起動します。
[POWER]ランプが●緑点灯に切り替わったことを確認してから、[USB]ランプが消灯するまで〈USB EJECT〉ボタンを押しつづけます。
[USB]ランプが消灯したら、本製品からUSBメモリーを取りはずします。



ご注意

データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

バージョンアップ操作後は、本製品の管理者用設定画面にアクセスして、ファームウェアバージョンを確認してください。
USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが本製品に適用されているものと同じとき、破損や本製品以外のものである場合は、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。

5 保守について

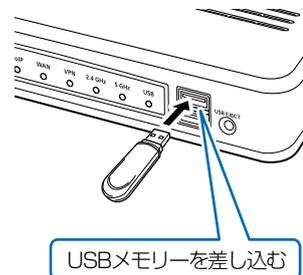
8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには

オーディオファイル(拡張子:wav)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品に読み込むまでの手順について説明します。

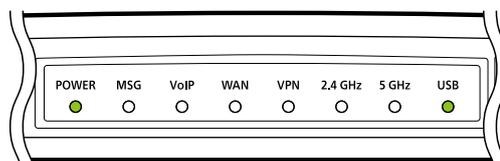
※使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.5-11)をご覧ください。

■ オリジナル保留音の場合

- 1 オリジナル保留音として使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※オーディオファイルの本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
- 2 オーディオファイル名を「music1.wav」～「music3.wav」に変更します。
※ファイル名は、必ず「music1.wav」～「music3.wav」に変更してください。
「music1.wav」～「music3.wav」以外のファイル名は、オリジナル保留音に使用できません。
※オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.5-10)をご覧ください。
- 3 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 4 USBメモリーにmusicフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
- 7 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。



- 8 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。



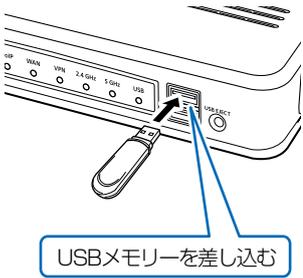
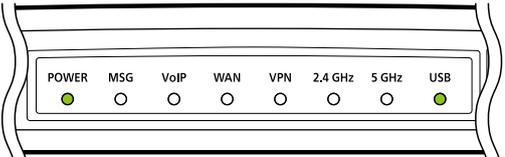
ご注意

- ◎読み込んだオリジナル保留音をご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
- ◎オリジナル保留音機能を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず「USB EJECT」ボタンを押しつづけ、[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしたあとに、本製品を再起動してください。

5 保守について

8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには

■ オリジナルおまたせメッセージの場合

- 1 オリジナルおまたせメッセージとして使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※オーディオファイルを本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
- 2 オーディオファイル名を「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」に変更します。
※ファイル名は、必ず「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」に変更してください。
「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」以外のファイル名は、オリジナル保留音に使用できません。
※オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.5-10)をご覧ください。
- 3 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
- 4 USBメモリーにvoiceフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
- 7 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。
- 8 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。

ご注意

- ◎読み込んだオリジナルおまたせメッセージをご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
- ◎オリジナルおまたせメッセージ機能を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず〈USB EJECT〉ボタンを押しつづけ、[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしたあとに、本製品を再起動してください。

5 保守について

9. USBメモリー用の認証キーを設定するには

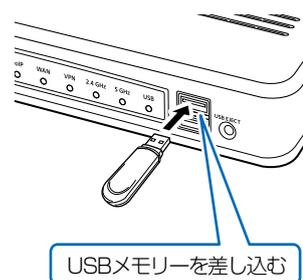
管理 > 管理ツール

本製品にUSB認証キーを設定することで、認証キーが一致するUSBメモリーを使用したときだけ、設定ファイルの自動バックアップ、設定の復元、ファームウェアのバージョンアップができます。

■ 設定のしかた

- 1 USB認証キーの書き込みに使用するUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。

※あらかじめ、USBメモリーに保存されたUSB認証キー(ファイル名: usbkey.dat)を変更する場合も、そのUSBメモリーを差し込みます。



- 2 本製品の設定画面にアクセスします。(P.2-19)

- 3 「管理」メニュー、「管理ツール」の順にクリックします。
「管理ツール」画面を表示します。

- 4 [USB設定]項目の[USB認証キー]欄に、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字64文字以内で入力して、〈登録〉をクリックします。

※USB認証キーを変更する場合は、テキストボックスの内容を削除してから入力してください。

USB設定

USBメモリー: 無効 有効

USBアクセス許可: ファームウェアの更新
 設定の保存/復元
 オリジナル保留音
 オリジナルおまたせメッセージ

USB認証キー:

USB認証キーの書き込み:

SSHポート番号: 22

- 5 〈書き込み〉をクリックします。

USB設定

USBメモリー: 無効 有効

USBアクセス許可: ファームウェアの更新
 設定の保存/復元
 オリジナル保留音
 オリジナルおまたせメッセージ

USB認証キー:

USB認証キーの書き込み:

5 保守について

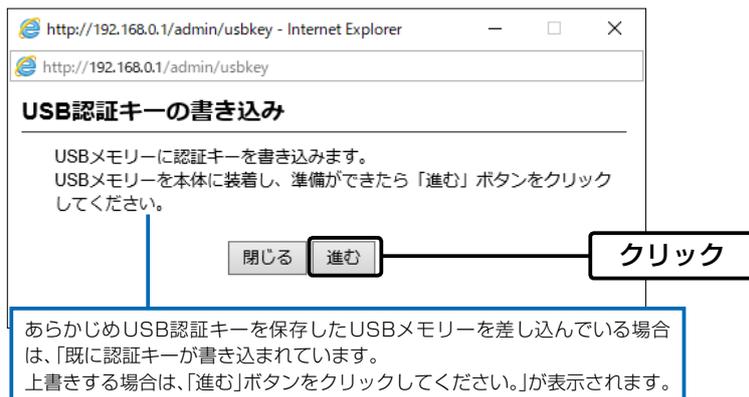
9. USBメモリー用の認証キーを設定するには

管理 > 管理ツール

■ 設定のしかた

6 「USB認証キーの書き込み」(別画面)が表示されたら、〈進む〉をクリックします。

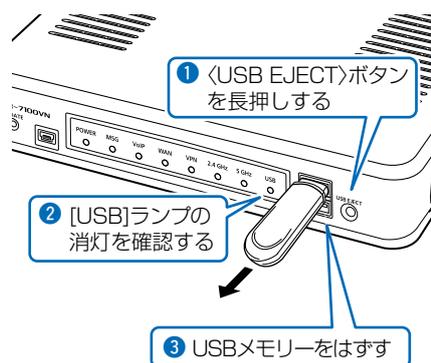
※書き込みを中止する場合は、〈閉じる〉をクリックします。



7 「認証キーの書き込みが完了しました。」が表示されたら、〈閉じる〉をクリックします。



8 本製品からUSBメモリーを取りはずします。



ご注意

データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

この章では、
困ったときの対処法、設定画面の構成、仕様などを説明しています。

1. 困ったときは	6-2
2. Telnetで接続するには	6-5
■ Telnetコマンドについて	6-5
3. 設定画面の構成について	6-6
4. 初期値一覧	6-10
■ ネットワーク設定	6-10
■ ルーター設定	6-11
■ 無線LAN設定	6-12
■ 電話回線設定	6-17
■ Peer to Peer設定	6-17
■ PBX設定	6-18
■ PBX拡張設定	6-23
■ 管理者	6-24
■ 管理	6-25
5. 機能一覧	6-26
■ 電話機能	6-26
■ 無線LAN機能	6-26
■ ルーター機能	6-26
■ その他	6-26
6. 設定項目で使用できる文字列について	6-27
■ ネットワーク設定	6-27
■ 無線LAN設定	6-27
■ 管理	6-27
7. [EXT]ポートについて	6-28
8. 電話機の操作について	6-29
9. 定格について	6-35
■ 一般仕様	6-35
■ 有線部	6-35
■ 無線部	6-35

6 ご参考に

1. 困ったときは

下記のような現象は、故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

[POWER]ランプが点灯しない

- ACアダプターが本製品に接続されていない
→ 本製品のACアダプター、およびDCプラグの接続を確認する
- ACアダプターをパソコンなどの電源と連動したコンセントに接続している
→ 本製品のACアダプターを壁などのコンセントに直接接続する

[LAN]ランプが点灯しない

- LANケーブルが本製品と正しく接続されていない
→ 本製品やパソコンの[LAN]ポート、またはLANケーブルを確認する
- パソコン、またはHUBの電源が入っていない
→ パソコンとHUBの電源が入っていることを確認する

[2.4GHz]ランプ/[5GHz]ランプが点灯しない

- 本製品の無線LAN機能を無効に設定している
→ 本製品の無線LAN機能を有効に設定する

[2.4GHz]ランプ/[5GHz]ランプが緑点灯しない

- パソコンの無線LANが機能していない
→ ご使用のパソコン、または無線LANアダプターに付属の取扱説明書を確認する
- 無線LAN端末と本製品の無線LAN規格が異なっている
→ ご使用になる無線LAN端末が準拠している無線LAN規格を確認する
- 通信終了後、無線通信しない状態が4分以上つづいた
→ 本製品に再度アクセスして点灯することを確認する
- 無線LAN端末の通信モードが「アドホック」になっている
→ 無線通信モードを「インフラストラクチャー」に変更する
- [SSID] (またはESSID) の設定が異なっている
→ 本製品と無線LAN端末の[SSID]を確認する
- 暗号化認証モードが異なるタイプである
→ 無線LAN端末、または本製品の認証モードを同じ設定にする
- MACアドレスフィルタリングで通信できる端末を制限している
→ 通信を許可する無線LAN端末のMACアドレスを本製品に登録する
- 本製品のANY接続拒否機能を有効に設定している
→ 本製品のANY接続拒否機能を無効に設定する

[2.4GHz]ランプ/[5GHz]ランプが緑点灯しているが通信できない

暗号化セキュリティーの設定が異なっている

→ 本製品と接続先の暗号化セキュリティーの設定を確認する

IEEE802.11n規格、またはIEEE802.11ac規格で通信できない

- 無線LAN端末がIEEE802.11n規格、またはIEEE802.11ac規格に準拠していない
→ IEEE802.11n規格、またはIEEE802.11ac規格に準拠した無線LAN端末を使用する
- 「AES」以外の暗号化セキュリティーを使用している
→ IEEE802.11n規格、IEEE802.11ac規格で通信する場合は、暗号化設定を「なし」、または「AES」に設定する

6 ご参考に

1. 困ったときは

本製品の設定画面が正しく表示されない

- WWW ブラウザーの JavaScript 機能、および Cookie を無効に設定している
→ JavaScript機能、およびCookieを有効に設定する
- Microsoft Internet Explorer 10以前を使用している
→ Microsoft Internet Explorer 11以降を使用する

本製品の設定画面にアクセスできない

- パソコンのIPアドレスを設定していない
→ 本製品の出荷時や全設定初期化時は、パソコンのIPアドレスをDHCPサーバーから自動取得できる設定にする
- IPアドレスのネットワーク部が、本製品とパソコンで異なっている
→ パソコンに設定されたIPアドレスのネットワーク部を本製品と同じにする
- 無線LAN設定が、本製品とパソコンで異なっている
→ パソコンに設定されたネットワーク認証や暗号鍵(キー)を本製品と同じにする
- **ご使用のWWWブラウザにプロキシサーバーが設定されている**
→ Internet Explorerの「ツール(T)」メニューから「インターネットオプション(O)」、[接続]タブ、〈LANの設定(L)〉の順に操作して、[設定を自動的に検出する(A)]や[LANにプロキシサーバーを使用する(X)]にチェックマークが入っていないことを確認する

インターネットに接続できない

- 回線接続業者に契約をしたが、工事完了、または使用開始の通知がない
→ 契約、または工事の完了日をご契約の回線接続業者に確認する
- 使用する機器のMACアドレスを登録していない
→ 登録が必要な回線接続業者の場合は、本製品の「WAN MACアドレス」(WAN側接続用ポートのMACアドレス)を登録する(P.vi, P.6-6)
- ブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)をご使用の場合で、ご契約の回線接続業者への接続方法を間違えている
→ 該当する回線種別(DHCPクライアント、固定IP、PPPoE)を、ご契約の回線接続業者に確認する
- ブロードバンドモデム、または回線終端装置(FTTH)が本製品と正しく接続されていない
→ ブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)の場合は、本製品の回線種別の設定をご契約の回線接続業者との契約内容にしたがって変更(DHCPクライアント、固定IP、PPPoE)してから[WAN]ポートと接続する
ルータータイプモデムの場合は、本製品の回線種別を出荷時の設定(使用しない)で、[LAN]ポートと接続する
- WAN(回線接続業者)側からIPアドレスが取得できていない
→ 本製品とブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)の接続を確認する
WAN側から取得したIPアドレスを確認するときは、「ルーター設定」メニューにある「WAN接続先」画面の[回線状態表示]に表示される内容を確認する
- DNSサーバーのIPアドレスが正しく指定されていない
→ 「ネットワーク設定」メニュー、または「ルーター設定」メニューでDNSサーバーの設定を確認する

ルーター機能設定時に[WAN]ポート(WAN側)から本製品にアクセスできない

- 出荷時に登録されているIPフィルターの設定により、WAN側から本製品へのアクセスを遮断しているため
→ △注意 IPフィルターの変更によるセキュリティの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

IP電話できない

- [SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄の設定を間違えている
→ 「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面で設定を確認する
- Peer to Peerの場合、自分および相手のSIP URIが未登録であるか登録内容を間違えている
→ 自分と相手のSIP URIの登録内容を確認する

6 ご参考に

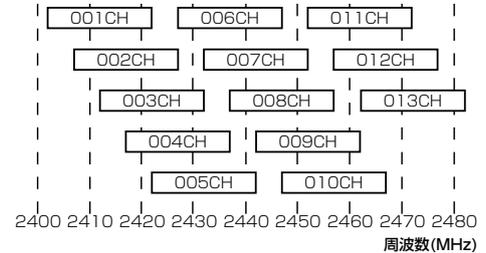
1. 困ったときは

2.4GHz帯使用時に電波干渉が発生した

本製品の近くに2.4GHz帯の無線アクセスポイントやビル間通信機器が存在する

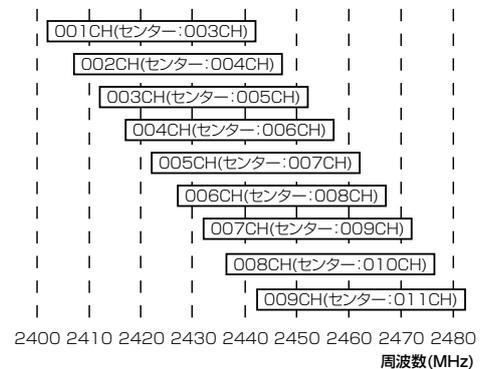
【帯域幅が20MHzの場合】(帯域の一部が重複)

- 本製品の設置場所を変更する
- 無線アクセスポイント側のチャンネルを変更する
 - ※近くに存在する無線LAN機器と4チャンネル以上空けて設定する
 - ※たとえば、お互いの設定を「001CH(2412MHz)」「006CH(2437MHz)」「011CH(2462MHz)」にすると電波干渉しません。



【帯域幅が40MHzの場合】(帯域の一部がすべてのチャンネルで重複)

- 本製品の設置場所を変更する
- 本製品の帯域幅(20MHz)やパワーレベルを変更する
- 無線アクセスポイント側のチャンネルを変更する
 - ※たとえば、お互いの設定を、「001CH(2412MHz)」「009CH(2452MHz)」にすると電波干渉しません。
 - ※通常(20MHz)の2倍の周波数帯域幅を使用するため、設定できるのは「001CH(2412MHz)～009CH(2452MHz)」だけです。



6 ご参考に

2. Telnetで接続するには

Telnetでの接続について説明します。

ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

※本製品のTelnetで採用している文字コードは、UTF-8です。

Windows標準のTelnetクライアントでは対応できない場合がありますので、UTF-8に対応したターミナルソフトウェアをご使用ください。

【ログインについて】

① 下記を入力して、ログインします。

login : admin(固定)

password : admin

※「管理者」画面で設定したパスワードを入力します。(P.4-295)

出荷時や全設定初期化時のpasswordは、adminです。

② ログインに成功すると、プロンプト (config)# が表示されます。

※コマンド階層を移動した場合は、()内が階層名に変わります。

【設定の保存について】

設定変更後、「save」を入力して[Enter]キーを押します。

※コマンド入力で保存をしていない場合、本体再起動後、設定の変更が失われます。

【階層移動、ログアウトについて】

「end」：1つ前の階層に戻ります。

「exit」：最上層(Config)に戻ります。

最上層(Config)で、「end」、または「exit」コマンドを実行すると、ログアウトします。

■ Telnetコマンドについて

使用できるTelnetコマンドの表示方法と、コマンド入力について説明します。

コマンド一覧.....	[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。 コマンド名の入力につづいて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。
コマンドヘルプ.....	コマンドの意味を知りたいときは、ヘルプコマンドにつづいて、コマンド名を入力するとコマンドのヘルプが表示されます。 例) help save (saveコマンドのヘルプを表示する場合) ※Windows標準のTelnetクライアントでは文字化けする場合がありますので、UTF-8に対応したターミナルソフトウェアをご使用ください。
コマンド名の補完.....	コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。 入力した文字につづくコマンドが1つしかないときは、コマンド名を最後まで補完します。 例) i[Tab]→init 複数のコマンドがあるときは、コマンドの候補を表示します。 例) res[Tab]→reset restart

6 ご参考に

3. 設定画面の構成について

本製品の全設定を初期化したとき、WWWブラウザに表示される画面構成です。

設定メニュー	設定画面	設定項目
TOP	TOP	製品情報
		ネットワーク情報
		IP回線情報
情報表示	SYSLOG	SYSLOG
	無線LAN情報 (無線1/無線2/端末情報)	アクセスポイント情報
		仮想AP一覧
	PBX情報	端末情報
		内線代表一覧
	電話通信記録	内線一覧
	内線子機情報	電話通信記録
留守電情報	内線子機情報	
ネットワーク設定	IPアドレス	留守電ボックス情報
		内部メモリー録音メッセージ
		本体名称
	DHCPサーバー	VLAN設定
		IPアドレス設定
		DHCPサーバー設定
	スタティックルーティング	静的DHCPサーバー設定
		静的DHCPサーバー設定一覧
		DHCPリース情報
	ポリシールーティング	IP経路情報
		スタティックルーティング設定
		スタティックルーティング設定一覧
	QoS	送信元ルーティング設定
送信元ルーティング設定一覧		
QoS設定		
ルーター設定	WAN接続先	QoSルール設定
		QoSルール設定一覧
		回線状態表示
	VoIP用WAN	回線種別設定
		回線状態表示
	アドレス変換	回線種別設定
		アドレス変換設定
		DMZホスト設定
		静的マスカレードテーブル設定
	IPフィルター	静的マスカレードテーブル設定一覧
		IPフィルター
	簡易DNS	IPフィルター設定一覧
		DNSサーバーの代理応答
VPN	簡易DNSサーバー設定	
	簡易DNSサーバー設定一覧	
	IPsec設定	
	IPsecトンネル設定	
不正アクセス対策	IPsecトンネル設定一覧	
	ICMPステルス	

6 ご参考に

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目	
無線LAN設定 (無線1/無線2)	無線LAN	無線LAN設定	
		仮想AP設定	
	仮想AP	暗号化設定	
		MACアドレスフィルタリング設定	
		端末MACアドレスリスト	
		MACアドレスフィルタリング設定一覧	
	WMM詳細	WMM詳細設定	
	レート	WMMパワーセーブ設定	
		レート設定	
	ARP代理応答	仮想AP共通設定	
ARP代理応答設定			
ARPキャッシュ情報			
電話回線設定	IP回線	SIPサーバー接続共通設定	
		SIPサーバー設定	
		SIPサーバー設定一覧	
	回線グループ	回線スライド設定	
		回線グループ設定	
		回線グループ設定一覧	
		Peer to Peer共通設定	
Peer to Peer設定	Peer to Peer	Peer to Peer設定	
		Peer to Peer設定一覧	
		VoIP電話帳の保存と書き込み	
	VoIP電話帳	VoIP電話帳への登録	
		VoIP電話帳登録一覧	
PBX設定	基本	基本設定	
	特番	外線発信特番設定	
	内線個別	内線個別設定	
		内線設定一覧	
		内線一括設定	
		TEL設定	
	TEL(1~4)	TEL設定	
	内線代表	内線代表設定	
		内線代表設定一覧	
	着信	着信設定	
	電話機(KX-UTシリーズ/KX-HDVシリーズ)	電話機のメンテナンス	電話機設定
			電話機音設定
			発信音
			話中音
			規制音
			呼出音
			保留アラーム音
			着信音パターン
			着信音パターン割り当て
増設ユニット(KX-HDVシリーズ) (増設ユニット1~5)			電話機のメンテナンス
	機種個別設定(KX-HDVシリーズ)		

6 ご参考に

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
PBX設定	電話機 (IP200H)	電話機のメンテナンス
		電話機詳細設定コピー
		電話機設定
		電話機音設定
		内線発信音
		外線発信音
		第2発信音
		話中音
		規制音
		呼出音
	保留アラーム音	
	通話中着信表示音	
	電話機 (IP200PG)	電話機のメンテナンス
		電話機詳細設定コピー
		電話機設定
電話機音設定		
話中音		
電話帳	設定グループの選択	
	電話帳の保存と書き込み	
	電話帳への登録	
	電話帳登録一覧	
PBX拡張設定	拡張	SIP拡張設定
		VoIP設定
	番号計画	電話番号ルーティング設定
		電話番号ルーティング設定一覧
		番号計画例外ルール
		発信先番号変換ルール設定
		発信先番号変換ルール一覧
		発信規制ルール設定
		発信規制ルール一覧
	外線サービスグループ	外線サービスグループ設定
	昼夜切替	昼夜切替曜日設定
		昼夜切替日付設定
	夜間転送先	夜間転送先
	通話数制限	通話数制限設定(システム全体)
		通話数制限設定
	ゲートウェイ接続	ゲートウェイ接続設定
		ゲートウェイ接続設定一覧
番号表示変換	発信元回線設定	
	番号表示変換ルール設定	
	番号表示変換ルール一覧	

6 ご参考に

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
管理	管理者	管理者パスワードの変更
		ユーザー画面 管理設定
	時計	時計
		自動時計設定
	SYSLOG	SYSLOG
	SNMP	SNMP設定
	管理ツール	USB設定
		HTTP/HTTPS設定
		Telnet/SSH設定
	ネットワークテスト	PINGテスト
		経路テスト
	EXTポート	異常監視
	再起動	再起動
		自動更新
	設定の保存/復元	設定の保存
		設定の復元
		設定内容一覧
	初期化	初期化
	ファームウェアの更新	ファームウェア情報
オンライン更新		
自動更新		
	手動更新	

6 ご参考に

4. 初期値一覧

本製品の全設定を初期化したときに表示される各項目の初期値です。

■ ネットワーク設定

設定画面/項目	初期値
「IPアドレス」画面	
本体名称	本体名称：SR-7100VN ※半角英数字と「-」(31文字以内)
VLAN設定	マネージメントID：0 ※設定設定範囲「0～4094」
IPアドレス設定	IPアドレス：192.168.0.1
	サブネットマスク：255.255.255.0
	デフォルトゲートウェイ：空白(設定なし)
	プライマリーDNSサーバー：空白(設定なし)
	セカンダリーDNSサーバー：空白(設定なし)
「DHCPサーバー」画面	
DHCPサーバー設定	DHCPサーバー：有効
	開始IPアドレス：192.168.0.10
	割り当て個数：128
	リース期間：72
	ドメイン名：空白(設定なし)
	デフォルトゲートウェイ：空白(設定なし)
	プライマリーWINSサーバー：空白(設定なし)
	セカンダリーWINSサーバー：空白(設定なし)
	TFTPサーバーの配布：有効
	TFTPサーバー：空白(設定なし)
「スタティックルーティング」画面	
スタティックルーティング設定	宛先：空白(設定なし) ※最大登録数：256
	サブネットマスク：空白(設定なし)
	ゲートウェイ：空白(設定なし)
スタティックルーティング設定一覧	設定なし
「ポリシールーティング」画面	
送信元ルーティング設定	送信元：空白(設定なし) ※最大登録数：32
	サブネットマスク：空白(設定なし)
	ゲートウェイ：空白(設定なし)
送信元ルーティング設定一覧	設定なし
「QoS」画面	
QoS設定	QoS：有効
	送信帯域制限：30(WAN/LAN)
QoSルール設定一覧	番号1 DSCP値：46 16進表示：B8
	番号2 DSCP値：32 16進表示：80

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ ルーター設定

設定画面/項目	初期値			
「WAN接続先」画面				
回線種別設定	回線種別：使用しない			
「VoIP用WAN」画面				
回線種別設定	回線種別：DHCPクライアント			
「アドレス変換」画面				
アドレス変換設定	アドレス変換：有効			
DMZホスト設定	DMZホストIPアドレス：空白(設定なし)			
静的マスカレードテーブル設定一覧	設定なし最大登録数：32			
「IPフィルター」画面				
IPフィルター設定一覧				
番号	フィルター方法	インターフェース	送信元IPアドレス(送信元ポート番号)	SPI
	フィルター方向	プロトコル	宛先IPアドレス(宛先ポート番号)	フィルター合致時 SYSLOGに出力
59	遮断	すべて	*(135)	無効
	OUT	TCP/UDP	*(*)	検索を継続 無効
60	遮断	すべて	*(*)	無効
	OUT	TCP/UDP	*(135)	検索を継続 無効
61	遮断	すべて	*(445)	無効
	OUT	TCP/UDP	*(*)	検索を継続 無効
62	遮断	すべて	*(*)	無効
	OUT	TCP/UDP	*(445)	検索を継続 無効
63	遮断	すべて	*(*)	無効
	OUT	TCP(フラグ指定なし)	*(137-139)	検索を継続 無効
64	遮断	すべて	*(137-139)	無効
	OUT	UDP	*(137-139)	検索を継続 無効

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ ルーター設定

設定画面/項目	初期値
「簡易DNS」画面	
DNSサーバーの代理応答	DNS代理応答：有効
簡易DNSサーバー設定一覧	設定なし
「VPN」画面	
IPsec設定	IPsec：無効 トンネル間転送：無効
IPsecトンネル設定	トンネルインターフェース：vti0 トンネル：有効 トンネル名：空白(設定なし) インターフェース：eth1 認証鍵(Pre-Shared Key)：空白(設定なし) リモートアドレス：空白(設定なし) リモートID：IPアドレス
IPsecトンネル設定一覧	設定なし
「不正アクセス対策」画面	
ICMPステルス	ICMPステルス：有効 SYSLOGに出力：無効

■ 無線LAN設定

設定画面/項目	初期値
「無線1 無線LAN」画面	
無線LAN設定	無線UNIT：無効 帯域幅：20MHz チャンネル：001CH (2412MHz) パワーレベル：高 DTIM間隔：1 プロテクション：有効
「無線1 仮想AP」画面	
仮想AP設定	インターフェース：ath0 仮想AP：有効(ath0) 無効(ath1～ath7) SSID：WIRELESSLAN-0(ath0) ※半角英数字32文字以内 WIRELESSLAN-1(ath1) WIRELESSLAN-2(ath2) WIRELESSLAN-3(ath3) WIRELESSLAN-4(ath4) WIRELESSLAN-5(ath5) WIRELESSLAN-6(ath6) WIRELESSLAN-7(ath7) VLAN ID：0(ath0～ath7) ANY接続拒否：無効(ath0～ath7) 接続端末制限：63(ath0～ath7) アカウンティング：無効(ath0～ath7)
暗号化設定	ネットワーク認証： オープンシステム/共有キー(ath0～ath7) 暗号化方式：なし(ath0～ath7)

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ 無線LAN設定

設定画面/項目	初期値
「無線1 MACアドレスフィルタリング」画面	
MACアドレスフィルタリング設定	インターフェース：ath0 MACアドレスフィルタリング：無効 フィルタリングポリシー：許可リスト
MACアドレスフィルタリング設定一覧	設定なし
「無線1 WMM詳細」画面	
WMM詳細設定	周波数帯：2.4GHz [To Station]/[From Station] CWin min：AC_BK(15)、AC_BE(15)、 AC_VI(7)、AC_VO(3) [To Station] CWin max：AC_BK(1023)、AC_BE(63)、AC_VI(15)、AC_VO(7) [From Station] CWin max：AC_BK(1023)、AC_BE(1023)、AC_VI(15)、AC_VO(7) [To Station] AIFSN(1-15)：AC_BK(7)、AC_BE(3)、AC_VI(1)、AC_VO(1) ※設定範囲「1～15」 [From Station] AIFSN(2-15)：AC_BK(7)、AC_BE(3)、AC_VI(2)、AC_VO(2) ※設定範囲「2～15」 [To Station]/[From Station] TXOP(0-255)：AC_BK(0)、AC_BE(0)、AC_VI(94)、AC_VO(47) ※設定範囲「0～255」 [To Station] No Ack：AC_BK <input type="checkbox"/> 、AC_BE <input type="checkbox"/> 、AC_VI <input type="checkbox"/> 、AC_VO <input type="checkbox"/> [From Station] ACM：AC_VI <input type="checkbox"/> 、AC_VO <input type="checkbox"/>
WMMパワーセーブ設定	WMMパワーセーブ：有効
「無線1 レート」画面(ath0～ath7)	
レート設定	インターフェース：ath0 プリセット：初期値 レガシー： 1Mbps：ベーシックレート 2Mbps：ベーシックレート 5.5Mbps：ベーシックレート 6Mbps：有効 9Mbps：有効 11Mbps：ベーシックレート 12Mbps：有効 18Mbps：有効 24Mbps：有効 36Mbps：有効 48Mbps：有効 54Mbps：有効

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ 無線LAN設定

設定画面/項目	初期値
「無線1 レート」画面(ath0～ath7)	
レート設定	HT-MCS : MCS 0 : 有効 MCS 1 : 有効 MCS 2 : 有効 MCS 3 : 有効 MCS 4 : 有効 MCS 5 : 有効 MCS 6 : 有効 MCS 7 : 有効 MCS 8 : 有効 MCS 9 : 有効 MCS 10 : 有効 MCS 11 : 有効 MCS 12 : 有効 MCS 13 : 有効 MCS 14 : 有効 MCS 15 : 有効 マルチキャスト送信レート : マルチキャスト : 1Mbps
仮想AP共通設定	キックアウト : 弱
「無線1 ARP代理応答」画面(ath0～ath7)	
ARP代理応答	インターフェース : ath0 ARP代理応答 : 無効 不明なARPの透過 : 有効 ARPエイジング時間 : 0(分) ※設定範囲「0～1440」(分)
ARPキャッシュ情報	設定なし
「無線2 無線LAN」画面	
無線LAN設定	無線UNIT : 無効 帯域幅 : 20MHz チャンネル : 036CH (5180MHz) パワーレベル : 高 DTIM間隔 : 1 ※設定範囲「1～50」 プロテクション機能 : 有効
「無線2 仮想AP」画面(ath8～ath15)	
仮想AP設定	インターフェース : ath8 仮想AP : 有効(ath8) 無効(ath9～ath15) SSID : WIRELESSLAN-0(ath8) ※半角英数字32文字以内 WIRELESSLAN-1(ath9) WIRELESSLAN-2(ath10) WIRELESSLAN-3(ath11) WIRELESSLAN-4(ath12) WIRELESSLAN-5(ath13) WIRELESSLAN-6(ath14) WIRELESSLAN-7(ath15) VLAN ID : 0(ath8～ath15) ANY接続拒否 : 無効(ath8～ath15) 接続端末制限 : 63(ath8～ath15) アカウンティング : 無効

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ 無線LAN設定

設定画面/項目	初期値
「無線2 仮想AP」画面(ath8～ath15)	
暗号化設定	ネットワーク認証： オープンシステム/共有キー(ath8～ath15) 暗号化方式：なし(ath8～ath15)
「無線2 MACアドレスフィルタリング」画面	
MACアドレスフィルタリング設定	インターフェース：ath0 MACアドレスフィルタリング：無効 フィルタリングポリシー：許可リスト
MACアドレスフィルタリング設定一覧	設定なし
「無線2 WMM詳細」画面	
WMM詳細設定	周波数帯：5GHz [To Station]/[From Station] CWin min：AC_BK(15)、AC_BE(15)、 AC_VI(7)、AC_VO(3) [To Station] CWin max：AC_BK(1023)、AC_BE(63)、AC_VI(15)、AC_VO(7) [From Station] CWin max：AC_BK(1023)、AC_BE(1023)、AC_VI(15)、AC_VO(7) [To Station] AIFSN(1-15)：AC_BK(7)、AC_BE(3)、AC_VI(1)、AC_VO(1) ※設定範囲「1～15」 [From Station] AIFSN(2-15)：AC_BK(7)、AC_BE(3)、AC_VI(2)、AC_VO(2) ※設定範囲「2～15」 [To Station]/[From Station] TXOP(0-255)：AC_BK(0)、AC_BE(0)、AC_VI(94)、AC_VO(47) ※設定範囲「0～255」 [To Station] No Ack：AC_BK <input type="checkbox"/> 、AC_BE <input type="checkbox"/> 、AC_VI <input type="checkbox"/> 、AC_VO <input type="checkbox"/> [From Station] ACM：AC_VI <input type="checkbox"/> 、AC_VO <input type="checkbox"/>
WMMパワーセーブ設定	WMMパワーセーブ：有効
「無線2 レート」画面(ath8～ath15)	
レート設定	インターフェース：ath8 プリセット：初期値 レガシー： 6Mbps：ベーシックレート 9Mbps：有効 12Mbps：ベーシックレート 18Mbps：有効 24Mbps：ベーシックレート 36Mbps：有効 48Mbps：有効 54Mbps：有効

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ 無線LAN設定

設定画面/項目	初期値
「無線2 レート」画面(ath8～ath15)	
レート設定	HT-MCS : MCS 0 : 有効 MCS 1 : 有効 MCS 2 : 有効 MCS 3 : 有効 MCS 4 : 有効 MCS 5 : 有効 MCS 6 : 有効 MCS 7 : 有効 MCS 8 : 有効 MCS 9 : 有効 MCS 10 : 有効 MCS 11 : 有効 MCS 12 : 有効 MCS 13 : 有効 MCS 14 : 有効 MCS 15 : 有効 VHT-MCS : 1ストリーム : MCS 0-9 2ストリーム : MCS 0-9 マルチキャスト送信レート : マルチキャスト : 6Mbps
仮想AP共通設定	キックアウト : 弱
「無線2 ARP代理応答」画面(ath8～ath15)	
ARP代理応答	インターフェース : ath8 ARP代理応答 : 無効 不明なARPの透過 : 有効 ARPエイジング時間 : 0(分) ※設定範囲「0～1440」(分)

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ 電話回線設定

設定画面/項目	初期値
「IP回線」画面	
SIPサーバー接続共通設定	接続先の選択：使用しない SIP接続簡易設定：有効 自動設定に使用するサーバー番号：1
SIPサーバー設定	番号：1 IP電話番号：1 番号種別：契約者番号 SIPサーバーアドレス：空白(設定なし) SIPサービスドメイン：空白(設定なし) ユーザーID：空白(設定なし) パスワード：空白(設定なし) 登録時間：3600(ひかり電話(網直収)、ひかり電話(GW配下)) ：600(サーバー接続)
SIPサーバー設定一覧	設定なし
「回線グループ」画面	
回線スライド設定	SIPレスポンス番号：500、503
回線グループ設定	回線グループ番号：1 電話回線の登録：空白(設定なし)
回線グループ設定一覧	設定なし

■ Peer to Peer設定

設定画面/項目	初期値
「Peer to Peer」画面	
Peer to Peer共通設定	WAN側からの着信：拒否
Peer to Peer設定	番号：1 SIP URI：空白(設定なし)
Peer to Peer設定一覧	設定なし
「VoIP電話帳」画面	
VoIP電話帳登録一覧	設定なし

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ PBX設定

設定画面/項目	初期値
「基本」画面	
基本設定	転送切り戻り時間：20 鳴動時間：30 パークリコール時間：180 保留音：保留音1 留守番電話機能：無効 TELポートの通信中転送：無効 留守番電話の保存先：内部メモリー 営業時間外設定機能：無効
「特番」画面	
特番設定	コールピックアップ：*81 グループピックアップ：** 指定ピックアップ：*80 パーク保留：*90 パーク応答：*91 外線キー応答：*92 音声呼出：*83 不在転送：*94 不応答転送：*95 話中転送：*96 外線着信転送の切替：*97 昼夜切替：*98 留守電の開始と停止：*99 留守電の再生：*84 回線閉塞の開始と停止：*87 着信おまたせの開始と停止：*86 システム特番：*82、*93、*85、*88、*89
外線発信特番設定	設定なし
「内線個別」画面	
内線個別設定	機種：自動 番号：1 名前：空白(設定なし) 内線番号：空白(設定なし) パスワード：空白(設定なし) IP回線：捕捉しない Peer to Peer：捕捉しない 留守電ボックス：ボックス1 WAN側からの接続：禁止 MACアドレス：空白(設定なし)
内線設定一覧	設定なし

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ PBX設定

設定画面/項目	初期値
「TEL」(1～4)画面	
TEL設定	ナンバーディスプレイ：無効 FAXの接続：有効 受話音量：0 送話音量：0 電話機のダイヤル方式：全方式に対応 桁間タイマー：5 エコーキャンセラー：有効 エコーサプレッション：有効 エコーサプレッションレベル：-30 CNG：有効 CNGレベル：-55
「内線代表」画面	
内線代表設定	内線代表番号：空白(設定なし) 内線代表名：空白(設定なし) 動作：一斉 1次着信： <input type="checkbox"/> すべて 2次着信 起動開始時間：なし
内線代表設定一覧	設定なし
「着信」画面	
着信設定	着信内線番号：なし 鳴り分け判別：外線音A 着信キューイング：使用しない
「電話機(KX-UTシリーズ/KX-HDVシリーズ)」画面	
電話機設定	設定グループの選択：共通設定 受話音量：0(dB)(KX-UTシリーズ) 送話音量：0(dB)(KX-UTシリーズ) エコーキャンセラー：無効(KX-UTシリーズ)
電話機音設定	
発信音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：OFF 60、ON 250、OFF 190
話中音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：OFF 60、ON 500、OFF 440
規制音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：OFF 60、ON 500、OFF 440

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ PBX設定

設定画面/項目	初期値
「電話機(KX-UTシリーズ/KX-HDVシリーズ)」画面	
呼出音	周波数1：400(Hz) 周波数2：440(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：OFF 60、ON 1000、OFF 1940
保留アラーム音	周波数1：425(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効(KX-UTシリーズ) タイミング：ON 120、OFF 14880(KX-UTシリーズ)
着信音パターン	パターン1：ON 1000、OFF 2000 パターン2：800、400、800、2000 パターン3：ON 400、OFF 200、ON 400、OFF 200、ON 800、OFF 2000 パターン4：ON 300、OFF 200、ON 300、OFF 200、ON 300、OFF 1000 パターン5：ON 250、OFF 250、ON 250、OFF 2250
着信音パターン割り当て	外線A：パターン1 外線B：パターン2 外線C：パターン3 内線A：パターン5 内線B：パターン2 内線C：パターン3 デフォルト内線：パターン5 リコール：パターン4

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ PBX設定

設定画面/項目	初期値
「電話機(IP200H)」画面	
電話機設定	設定グループの選択：共通設定
電話機音設定	
内線発信音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 250、OFF 250
外線発信音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：連続 タイミング：ON 0
第2発信音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 125、OFF 125
話中音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 500、OFF 500
規制音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 500、OFF 500
呼出音	周波数1：400(Hz) 周波数2：440(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 1000、OFF 2000
保留アラーム音	周波数1：600(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 120、OFF 120
通話中着信表示音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 50、OFF 450、ON 50、OFF 3450

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ PBX設定

設定画面/項目	初期値
「電話機(IP200PG)」画面	
電話機設定	設定グループの選択：共通設定
電話機音設定	
話中音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 500、OFF 500
規制音	周波数1：400(Hz) 周波数2：0(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 500、OFF 500
呼出音	周波数1：400(Hz) 周波数2：440(Hz) 音量：0(dB) 繰り返し：有効 タイミング：ON 1000、OFF 2000
「電話帳」画面	
電話帳への登録	番号：1 名前：空白(設定なし) ヨミガナ：空白(設定なし) 電話番号：空白(設定なし) 短縮番号：空白(設定なし) 表示種別：電話番号
電話帳登録一覧	設定なし

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ PBX拡張設定

設定画面/項目	初期値
「拡張」画面	
SIP拡張設定	内線ドメイン：LAN IPアドレス SIP 183対応：無効 SIP レスポンス中継：有効 呼出中転送方式：被転送番号を中継する SIP URI競合時の優先：IP回線 電話番号での英字の使用：禁止
VoIP設定	ジッターバッファ：40(ミリ秒) TOS種別：Diffserv メディア(RTP)：DSCP 46 (16進表示 B8) 呼制御(SIP)：DSCP 46 (16進表示 B8)
「番号計画」画面	
電話番号ルーティング設定一覧	設定なし
番号計画例外ルール	184/186自動判定：有効 例外番号：なし
発信先番号変換ルール設定	種別：変換
発信先番号変換ルール一覧	設定なし
発信規制ルール一覧	設定なし
「外線サービスグループ」画面	
外線サービスグループ設定	外線サービスグループ：外線サービスグループ1 発信規制：無効 番号変換：無効
「昼夜切替」画面	
昼夜切替曜日設定	昼夜切替：無効
昼夜切替日付設定	昼夜切替：無効
「夜間転送先」画面	
夜間転送先	夜間転送先：転送しない
「通話数制限」画面	
通話数制限設定(システム全体)	外線通話本数制限：50 優先回線用の通話確保数：0 同時鳴動数制限：有効
通話数制限設定	通話数制限：制限なし 優先回線割り当て：しない
「ゲートウェイ接続」画面	
ゲートウェイ接続設定	内線番号：空白(設定なし) ゲートウェイ接続：無効 内線番号判定：有効 DisplayName発信者番号を優先：しない ゲートウェイ発信時ドメインを使用：しない ゲートウェイ発信先アドレス：空白(設定なし) ゲートウェイ発信先ドメイン：空白(設定なし)
ゲートウェイ接続設定一覧	設定なし
外線発信特番設定	設定なし

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ PBX拡張設定

設定画面/項目	初期値
「番号表示変換」画面	
発信元回線設定	番号表示変換：無効
番号表示変換ルール設定	番号：1
	種別：変換
	電話番号：空白(設定なし)
	削除桁数：削除しない
	付加番号：空白(設定なし)

■ 管理者

設定画面/項目	初期値
「管理」画面	
管理者パスワードの変更	管理者ID：admin(変更不可)
	現在のパスワード：admin(非表示)
	新しいパスワード：空白(設定なし)英数字/記号 ※半角31文字以内
	新しいパスワード再入力：空白(設定なし)
ユーザー画面 管理設定	共通設定の認証：無効
	管理者ID(ユーザー画面)：空白(設定なし)
	パスワード(ユーザー画面)：空白(設定なし)
「時計」画面	
時計	設定する時刻：パソコンから取得した時刻
自動時計設定	自動時計設定：有効
	NTPサーバー1：210.173.160.27
	NTPサーバー2：210.173.160.57
	アクセス時間間隔：1(日) ※設定範囲「1～99」(日)
「SYSLOG」画面	
SYSLOG	DEBUG：無効
	INFO：有効
	NOTICE：有効
	ホストアドレス：空白(設定なし)
「SNMP」画面	
SNMP設定	SNMP：有効
	コミュニティーID(GET)：public
	場所：空白(設定なし)
	連絡先：空白(設定なし)

6 ご参考に

4. 初期値一覧

■ 管理

設定画面/項目	初期値
「管理ツール」画面	
USB設定	USBメモリー：有効 USBアクセス許可： <input checked="" type="checkbox"/> ファームウェアの更新 <input checked="" type="checkbox"/> 設定の保存/復元 <input checked="" type="checkbox"/> オリジナル保留音 <input checked="" type="checkbox"/> オリジナルおまたせメッセージ USB認証キー：空白(設定なし) ※半角64文字以内
HTTP/HTTPS設定	HTTP：有効 HTTPポート番号：80 HTTPS：無効 HTTPSポート番号：443
Telnet/SSH設定	Telnet：有効 Telnetポート番号：23 SSH：無効 SSHバージョン：自動 SSH認証方式：自動 SSHポート番号：22
「ネットワークテスト」画面	
PINGテスト	ホスト：空白(設定なし) 試行回数：4(回) パケットサイズ：64(バイト) タイムアウト時間：1000(ミリ秒)
経路テスト	ノード：空白(設定なし) 最大ホップ数：16 タイムアウト時間：3(秒) DNS名前解決：有効
「EXTポート」画面	
異常監視	監視動作：無効
「ファームウェアの更新」画面	
自動更新	自動更新：有効

5. 機能一覧

■ 電話機能

- 内線登録(SIP:100+TEL:4)
- 上位SIPサーバー接続(100件)
- IP電話事業者対応★¹
- 内線代表着信
- 外線保留/外線応答
- マルチラインキー
- パーク保留/パーク応答
- 代理応答
- 保留転送
- 不在転送/不応答転送
- 多機能電話機設定対応
- 電話帳設定(共通900件/グループ100件)
KX-UTシリーズ、KX-HDVシリーズ、IP200H用
- エコーキャンセラー
- ナンバーディスプレイ
- Peer to Peer(電話帳2000件)
- 留守番電話
- 非通知着信お断り機能
- ユーザーポータル
- 迷惑電話お断り機能(指定着信機能)
- 昼夜切替設定機能
- ダイヤルイン
- 回線グループ機能
- 電話番号ルーティング機能
- 外線着信転送機能
- 着信おまたせ機能
- 回線閉塞機能
- ゲートウェイ接続
- 番号表示変換
- 発信番号変換
- 発信番号規制
- 外線通話本数制限
- 保留音選択(内蔵5+ユーザー登録3)
- オリジナル保留音
- オリジナルおまたせメッセージ
(着信おまたせ機能で使用する自動応答メッセージ)

■ 無線LAN機能

- IEEE802.11ac規格★²
- IEEE802.11n規格★²
- IEEE802.11a(W52/W53/W56)/g/b規格
- 暗号化セキュリティー(WEP RC4、TKIP、AES)
- ネットワーク認証
(オープンシステム、共有キー、IEEE802.1X、WPA、WPA2、
WPA-PSK、WPA2-PSK)
- SSID(Service Set Identifier)
- アクセスポイント機能
- ローミング機能
- ANY接続拒否機能
- 仮想AP機能
- MACアドレスフィルタリング機能
- プロテクション機能
- パワーレベル調整機能
- 接続端末制限機能
- WMM★³(Wi-Fi Multimedia)機能
- ARP代理応答
- WMMパワーセーブ
- 認証サーバー(RADIUS/アカウンティング)

■ ルーター機能

- PPPoE接続
- IPマスカレード
- 固定IP接続
- 静的マスカレード
- DHCPクライアント接続
- DMZ
- 自動接続
- DHCPサーバー
- 静的DHCPサーバー
- スタティックルーティング
- DNS代理応答
- IPフィルター
- QoS
- VPN

■ その他

- 接続制限機能(管理者ID/パスワード)
- 内部時計設定
- ファームウェアのバージョンアップ
- WWWメンテナンス(HTTP/HTTPS)
- TELNETメンテナンス(TELNET/SSH)

★1 NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する「ひかり電話サービス」、NTTコミュニケーションズが提供する「Arcstar IP Voice」に対応しています。(2021年10月現在)

★2 本製品のIEEE802.11ac規格、IEEE802.11n規格での通信は、暗号化方式を「なし」、または「AES」に設定している場合に有効です。

★3 本製品は、Wi-Fiアライアンスの認定を取得していません。(2021年10月現在)

6 ご参考に

6. 設定項目で使用できる文字列について

下表のように、入力できる文字列が設定項目により異なります。

※設定画面のオンラインヘルプで設定項目を確認するときは、設定項目の上にマウスポインターを移動して、「?」が表示されたら、クリックしてください。

■ ネットワーク設定

設定画面	設定項目	設定欄	入力できる文字列	入力できる文字数
IPアドレス	本体名称	本体名称	半角英数字*1/[_] ※先頭と末尾は半角英数字のみ	31文字以内

■ 無線LAN設定

設定画面	設定項目	設定欄	入力できる文字列	入力できる文字数
仮想AP	暗号化設定	WEPキー	ASCII*2、または16進数	3-4ページ参照
		PSK (Pre-Shared Key)	ASCII*2、または16進数	3-4ページ参照

■ 管理

設定画面	設定項目	設定欄	入力できる文字列	入力できる文字数
管理者	管理者パスワードの変更	パスワード	半角英数字/記号	31文字以内
SNMP	SNMP設定	コミュニティーID(GET)	半角英数字/記号 ※「\」/「*」/「 」を除く	31文字以内
ネットワークテスト	PINGテスト	ホスト	半角英数字*1/[.]/[_] ※先頭と末尾は半角英数字のみ	64文字以内
		ノード	半角英数字*1/[.]/[_] ※先頭と末尾は半角英数字のみ	64文字以内

★1 半角英数字は、半角英字と半角数字です。

★2 ASCIIは、ASCII文字のうち表示できるものです。(半角英数字/記号/半角スペース)
 大文字小文字の区別に注意して入力してください。

6 ご参考に

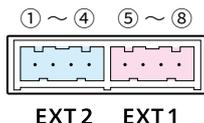
7. [EXT]ポートについて

後面部の [EXT] (1/2) ポートを外部機器の ON/OFF 制御で使用するときは、「管理」メニューの「EXTポート」画面を設定してください。(P.4-313)

※ご使用になるときは、下記を参考に配線した接続ケーブルをご用意いただき、本製品と外部機器を接続してください。

本製品に同梱されているコネクタは、DDK社製 232D-04S1B-DA5-FAです。

※接続ケーブルを抜き差しする前に、接続する各機器の電源が切れていることを確認してください。



[EXT2]ポート(汎用制御入出力端子)※絶縁仕様

ピン番号	仕様	動作		
①	入力	入力電圧：5～15V/15mA以下	EXTポートHigh入力	設定保存時、SYSLOGに状態表示
②		入力ポート：フォトカプラー絶縁仕様	EXTポートLow入力	
③	出力	出力電流：10mA以下	Ping監視応答なし	③④間 導通
④		出力ポート：オープンコレクター絶縁仕様	Ping監視応答あり	③④間 High Z

[EXT1]ポート(汎用制御入出力端子)※非絶縁仕様

ピン番号	仕様	動作			
⑤	入力	+	入力電圧：3.3V	High入力	設定保存時、SYSLOGに状態表示
⑥		-	入力ポート：入力インピーダンス 1MΩ	Low入力	
⑦	出力	+	出力電圧：3.3V	Ping監視応答なし	⑦⑧間 High(3.3V)
⑧		-	出力ポート：プルアップ 1kΩ	Ping監視応答あり	⑦⑧間 Low

6 ご参考に

8. 電話機の操作について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。

操作	アナログ電話機	KX-UT136N	KX-UT123N
発信 ダイヤル 発信 (内線/外線) ★1★2	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる ※電話機によりできない場合があります。	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる
電話帳 発信 (内線/外線) ★1	—	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる
ワンタッチ (内線/外線) ★1	—	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。	—
外線発信 キー/ 外線キー (外線)	—	◎受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする ◎〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる	—
短縮ダイヤル 発信 (内線/外線) ★1	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする
履歴発信 (内線/外線) ★1	※電話機により操作が異なります。	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる

★1 外線時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、捕捉するIP回線を設定してください。

★2 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番を押してください。
(アナログ電話機、KX-UT136N、KX-UT123N使用時)

6 ご参考に

8. 電話機の操作について

操作	KX-HDV230N	KX-HDV130N
発信 ダイヤル発信 (内線/外線) ★1★2	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる
電話帳発信 (内線/外線)★1	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる
ワンタッチ (内線/外線) ★1	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。	ライン1/P1、ライン2/P2に「ワンタッチ」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
外線発信キー/ 外線キー (外線)	◎受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする ◎〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる	ライン1/P1、ライン2/P2に「外線発信キー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
短縮ダイヤル発信 (内線/外線) ★1	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする
履歴発信 (内線/外線)★1	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる

★1 外線時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、捕捉するIP回線を設定してください。

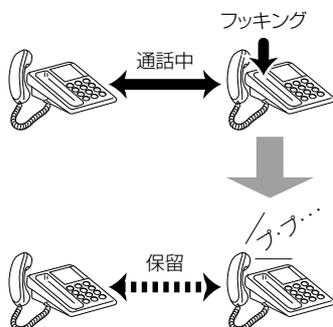
★2 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番を押してください。

6 ご参考に

8. 電話機の操作について

操作	アナログ電話機	KX-UT136N	KX-UT123N	
着信	内線着信に 応答	受話器を上げる	◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(緑■)している<DNキー>を押す	受話器を上げる (画面に表示されている発信元に応答する場合)
	外線着信に 応答	受話器を上げる	◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(緑■)している<外線着信キー>を押す ◎高速点滅(赤■)している<外線状態通知キー>、または高速点滅(緑■)している<DNキー>を押す	受話器を上げる (画面に表示されている発信元に応答する場合)
	着信拒否	—	あらかじめ ^{不在} □を押し、不在設定を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)しません。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時は鳴動しないだけで<外線状態通知キー>は高速点滅(赤■)し、切断しません。	あらかじめ ^{不在} □を押し、不在設定を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)しません。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時、ほかに外線着信を確認できる電話機がある場合は、切断しません。
通話保留 (自己保留)	通話中にフッキングする、またはキャッチボタンを押す* ¹ ※保留中、受話器は上げたままにしてください。 受話器を置くと、鳴り返し状態になります。	通話中に ^{保留} □を押す	通話中に ^{保留} □を押す	
保留解除	保留中にフッキングする、またはキャッチボタンを押す* ¹	保留中に低速点滅(緑■)している<DNキー>を押す	保留中に ^{保留} □を押す ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。	

★1 フッキングは、アナログ電話機の切断ボタンを短く(1秒以内)押す操作のことです。
※電話機によっては、「キャッチ」というボタンがありますので、同様に操作できます。



6 ご参考に

8. 電話機の操作について

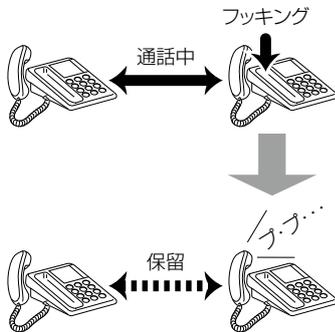
操作		KX-HDV230N	KX-HDV130N
着信	内線着信に応答	<p>◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合)</p> <p>◎高速点滅(青■)している<DNキー>を押す</p>	<p>受話器を上げる (画面に表示されている発信元に応答する場合)</p> <p>※ $\frac{\text{ライン1/P1}}{\square}$、$\frac{\text{ライン2/P2}}{\square}$ に「DNキー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。</p>
	外線着信に応答	<p>◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合)</p> <p>◎高速点滅(青■)している<外線着信キー>を押す</p> <p>◎高速点滅(赤■)している<外線状態通知キー>、または高速点滅(青■)している<DNキー>を押す</p>	<p>受話器を上げる (画面に表示されている発信元に応答する場合)</p> <p>※ $\frac{\text{ライン1/P1}}{\square}$、$\frac{\text{ライン2/P2}}{\square}$ に「外線着信キー」、「外線状態通知キー」、「DNキー」のいずれかを割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。</p>
	着信拒否	<p>あらかじめ不在設定(<決定>キー⇒転送/不在⇒不在設定)を「オン」にしておく</p> <p>※内線着信時、着信拒否(切断)します。 発信元には話中音が聞こえます。</p> <p>※外線着信時は鳴動しないだけで<外線状態通知キー>は高速点滅(赤■)し、切断しません。</p>	<p>あらかじめ不在設定(<決定>キー⇒転送/不在⇒不在設定)を「オン」にしておく</p> <p>※内線着信時、着信拒否(切断)します。 発信元には話中音が聞こえます。</p> <p>※外線着信時、ほかに外線着信を確認できる電話機がある場合は、切断しません。</p>
通話保留(自己保留)	通話中に $\frac{\text{保留}}{\square}$ を押す	通話中に $\frac{\text{保留}}{\square}$ を押す	
保留解除	<p>保留中に低速点滅(青■)している<DNキー>を押す</p> <p>※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。</p>	<p>保留中に $\frac{\text{保留}}{\square}$ を押す</p> <p>※ $\frac{\text{ライン1/P1}}{\square}$、$\frac{\text{ライン2/P2}}{\square}$ に「DNキー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。</p> <p>※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。</p>	

6 ご参考に

8. 電話機の操作について

操作	アナログ電話機	KX-UT136N	KX-UT123N
パーク保留 ^{*2*} (保留特番：*90)	①通話中にフッキングする ^{*1} ②[*90]+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24(例： *9001) ③音声ガイダンスを確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に〈パーク〉を押す ②低速点滅(緑■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に ^{転送} を押す ②[*90]+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24(例： *9001) ③音声ガイダンスを確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
パーク応答 (応答特番：*91)	[*91]+「パーク番号」をダイヤルして発信する(例：*9101)	伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する	[*91]+「パーク番号」をダイヤルして発信する(例：*9101)
呼出転送 ^{*3}	①通話中にフッキングする ^{*1} ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、受話器を置く ※転送操作中に再度フッキングすると、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に ^{転送} を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送操作中に ^{フック} 、 ^{転送} の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に ^{転送} を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送操作中に ^{フック} 、 ^{転送} の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
代理応答 (コールピックアップ特番：*81)	自分以外の電話機が着信中に受話器を上げ、代理応答の特番をダイヤルする	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。 ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておく、同様に代理応答できます。	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる

★1 フッキングは、アナログ電話機の切断ボタンを短く(1秒以内)押す操作のことです。
※電話機によっては、「キャッチ」というボタンがありますので、同様に操作できます。



★2 パーク保留は、通話中に保留した電話を任意の電話機から応答できる機能です。
※転送先には、パーク保留したキー番号を口頭や内線で伝えます。
※パーク番号の1桁「01～09」をダイヤルする場合は、「0」を省略できます。(例：*9001→*901)



★3 アナログ電話機で、パーク保留と呼出転送を操作する場合、あらかじめ本製品側で「TELポートの通信中転送」を「有効」に設定しておいてください。

6 ご参考に

8. 電話機の操作について

操作	KX-HDV230N	KX-HDV130N
パーク保留*1 (保留特番：*90)	①通話中に〈パーク〉を押す ②低速点滅(青■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に ^{転送} を押す ②[*90]+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24(例：*9001) ③音声ガイダンスを確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える ※ ^{ライン1/P1} 、 ^{ライン2/P2} に「パーク」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
パーク応答 (応答特番：*91)	伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する	[*91]+「パーク番号」をダイヤルして発信する(例：*9101) ※ ^{ライン1/P1} 、 ^{ライン2/P2} に「パーク」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
呼出転送	①通話中に ^{転送} を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送先と通話中に ^{キャンセル} を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度 ^{キャンセル} を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に ^{転送} を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送先と通話中に ^{キャンセル} を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度 ^{キャンセル} を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
代理応答 (コールピックアップ特番：*81)	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。 ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておく、同様に代理応答できます。	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる

★1 パーク保留は、通話中に保留した電話を任意の電話機から応答できる機能です。

※転送先には、パーク保留したキー番号を口頭や内線で伝えます。

※パーク番号の1桁「01～09」をダイヤルする場合は、「0」を省略できます。(例：*9001→*901)



9. 定格について

■ 一般仕様

- 電 源** : DC12V±10% [DCプラグ極性 : ⊖—●—⊕]
※ACアダプター(付属品)は、AC100V±10%
最大29W(付属のACアダプター使用時)
- 使 用 環 境** : 温度0～40℃、湿度5～95% (結露状態を除く)
- 外 形 寸 法** : 約232(W)×38(H)×168(D)mm(突起物を除く)
- 重 量** : 約800g(付属品を除く)
- 適 合 規 格** : クラスB情報技術装置(VCCI)
- インターフェース** : ランプ(POWER、MSG、VoIP、WAN、VPN、2.4GHz、5GHz、USB)
ボタン(UPDATE、USB EJECT、MODE)
[USB]ポート : USB Aタイプ(USB3.0)
[CONSOLE]ポート : USB miniBタイプ(USB2.0/1.1)

■ 有線部

- インターフェース** : [WAN]ポート(RJ-45型)×1 (Auto MDI/MDI-X)
●IEEE802.3/10BASE-T準拠
●IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
●IEEE802.3ab/1000BASE-T準拠
[LAN]ポート(RJ-45型)×2 (Auto MDI/MDI-X)
●IEEE802.3/10BASE-T準拠
●IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
●IEEE802.3ab/1000BASE-T準拠
[TEL]ポート(RJ-11型)×4
- 通 信 速 度** : [WAN]部 10/100/1000Mbps(自動切り替え/全二重)
[LAN]部 10/100/1000Mbps(自動切り替え/全二重)
- 透過プロトコル** : IPv4/IPv6

■ 無線部

- 国 際 規 格** : IEEE802.11ac準拠、IEEE802.11n準拠
IEEE802.11a準拠、IEEE802.11g/b準拠
- 国 内 規 格** : ARIB STD-T71/ARIB STD-T66
- 使用周波数範囲** : 5180～5700MHz
2412～2472MHz

定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

